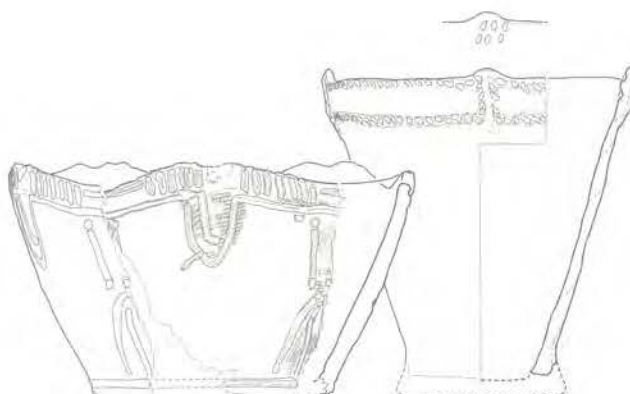


# 熊本大学構内遺跡発掘調査報告14

(2013・2014年度：黒髪南地区1310調査地点)



2019

熊本大学埋蔵文化財調査センター







# 熊本大学構内遺跡発掘調査報告14

(2013・2014年度：黒髪南地区1310調査地点)

2019

熊本大学埋蔵文化財調査センター





1. 黒髪南地区1310調査地点出土縄文土器



2. 黒髪南地区1310調査地点出土石器・土製品



3. 黒髪南地区1310調査地点で検出された御手洗 A 式土器



4. 黒髪南地区1310調査地点で検出された配石墓と人骨



## 序 文

本報告書は、2013年度・2014年度の調査成果の一部である。

2013年度から2014年度にかけて調査した1310調査地点は、立田山と白川に挟まれた熊本大学黒髪南地区の東側にあり、理学部関係の建物に囲まれている。今回の調査では、この地点から縄文時代後期前葉から後期末までの遺物、また縄文時代後期前葉の土坑墓・配石墓と人骨が検出された。これは、灰色硬質砂層以下には遺跡は存在しないという通説的理解を覆す重大な事実である。それゆえ、2014年5月のプレスリリース・記者会見以降、新聞・テレビ等でも大きく報道され、現地見学会や「速報展示」説明会では多くの参加者を得た。

本報告書は、その全容を報告するものであり、山野ケン陽次郎助教が作成・編集を担当した。是非とも読者諸賢に御味読いただきたい。

1310調査地点の調査・分析にあたっては、多くの方々に御教示いただいた。主要な方のみをあげれば、松下孝幸氏（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）と松下真実氏（NPO 法人・人類学研究機構）には人骨調査と指導をいただき、本報告書にもご執筆頂いた。水ノ江和同氏（文化庁文化財部記念物課。現同志社大学文学部教授）には縄文土器と遺跡の評価について指導して頂き、宮縁育夫氏（熊本大学大学院先端科学研究部准教授）には土壌分析をお願いした。調査・分析の意義を理解され、快く御協力くださったすべての方々に、ここに記して謝意を表したい。

2019年3月

国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査センター  
センター長 伊藤正彦

## 例 言

1. 本報告書は、熊本大学再開発計画によって熊本大学敷地内において実施された各種建築工事に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査センター（平成23年10月1日に「熊本大学埋蔵文化財調査室」より改組）が2013年度から2014年度に実施した発掘調査の一部に関するものである。
2. 本書に収録した報告は、2013年度から2014年度に埋蔵文化財調査センターが実施した1件の発掘調査に関する成果である。
3. 上記調査地点について、下記のとおり報告する。  
Ⅱ章：黒髪南地区 1310調査地点
4. 以上の調査を実施した2013年度から2014年度の埋蔵文化財調査センターの組織と調査体制は以下のとおりである。  
センター長：木下尚子（文学部教授）  
調 査 員：松田光太郎（センター准教授）・大坪志子（センター助教）・山野ケン陽次郎（センター助教）・浦辻栄治（技術補佐員）・柴田亮（技術補佐員）  
事務補佐員：大崎喜美子
5. 遺物番号として通し番号を1から付けており、写真図版中の番号はこれに一致する。
6. 本文は、人骨に関する所見、文章について松下真実、松下孝幸両氏が執筆した。それ以外は全て山野が執筆した。
7. 本書に使用した遺構実測図は、山野と株式会社有明測量開発社発掘調査員が作成した。
8. 本書に使用した遺物実測図・拓本は、稲本奈津紀、井上裕美、小山正子、後藤恵、首藤優子、末吉美紀、園田智子、吉留広が作成した。
9. 本書に使用した図版の製図は Adobe 社の「Illustrator」と「Photoshop」を使用して、山野、鬼塚美枝、江口路、首藤、増井弘子がおこなった。
10. 遺構実測及び製図には手描きによる記録とともに、株式会社 CUBIC の遺跡実測支援システム「遺構くん」及び製図システム「トレース3Dくん」を使用した。
11. 本書に使用した現場写真は1310調査地点を山野と株式会社有明測量開発社発掘調査員が撮影した。遺物写真は山野、江口、小山、末吉が撮影した。また、第7項の土壌の構成物観察写真は遠入楓太氏が撮影した。
12. 本書で使用した遺物観察表は、山野、首藤が作成した。
13. 本書に掲載した出土遺物および記録類は、すべて熊本大学埋蔵文化財調査センターで保管している。出土人骨は2019年3月時点では土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムで保管している。
14. 本書で使用した調査地点配置図および遺構図の座標は世界測地系による。
15. 出土した遺物への注記は遺跡略号+調査地点番号+出土遺構・層（位置）の順でおこなった。
16. 土層・遺物の色調観察は「小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社」に基づく。
17. 本書の編集は山野がおこなった。

## 本文目次

I 構内遺跡と調査の概要	
1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要	1
2. 調査に至る経緯	4
3. これまでの調査と本書収録の遺跡	5
II 黒髪南地区の調査	
1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)	
(1) 調査の目的と経過	25
① 調査の目的とこれまでの調査成果	25
② 調査の経過	25
③ 調査の組織	31
(2) 調査区の基本層序	31
(3) 土器の分類	35
(4) 各調査区の出土遺構と出土遺物	39
① I区	39
② II区	46
③ III区	49
④ IV区	64
⑤ V区	78
(5) 動物遺体	90
(6) 放射性炭素年代測定	90
(7) 本調査地点の土壌に関する分析と考察	90
① 上河原緑地帯における白川洪水による堆積砂の調査	92
② 1310調査地点の土壌分析	95
(8) 総括	99
① 調査の成果	99
② 遺跡の範囲と形成過程	104
③ 本遺跡の位置づけ	109
④ 遺跡の保存と活用	109
熊本市黒髪町遺跡群1310調査地点出土の縄文人骨	127

## 挿図目次

図1 黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図(1/25,000)	2	図4 1310調査地点基本土層模式図(1/50)	33
図2 黒髪南地区における調査地点位置図(1/2,000)	26	図5 土器分類図1(1/4)	36
図3 1310調査地点の調査区の位置と名称(1/1,000)	29	図6 土器分類図2(1/4)	37
		図7 137・38区5層遺物出土状況図(1/125)	39

図8	I 37区北壁土層断面 (1/80) ……………	40	図30	Ⅲ 3・4区5 b層遺物出土状況図 (1/100) ……………	62
図9	I 38区東壁土層断面 (1/80) ……………	40	図31	Ⅲ 3区東壁土層断面図 (1/40) ……………	63
図10	I 37・38区5 a層出土土器実測図 (1/4) ……………	42	図32	Ⅲ 4区東壁土層断面図 (1/40) ……………	63
図11	I 37・38区5 b層出土遺物実測図 (1/2・1/4・1/5) ……………	43	図33	Ⅲ区出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4) ……………	64
図12	I 37・38区出土土器・石器実測図 (1/2・1/4) ……………	44	図34	IV14区5 b層遺物出土状況図 (1/80) ……………	65
図13	I区出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4) ……………	45	図35	IV14区東西ベルト北壁土層断面図(1/50) ……………	66
図14	Ⅱ 8-1区北壁土層断面図 (1/40) ……………	46	図36	IV14区7層遺物出土状況図 (1/50) ……………	67
図15	Ⅱ区32東壁土層断面図 (1/40) ……………	46	図37	IV14区10層遺物出土状況図 (1/80) ……………	68
図16	Ⅱ区出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4) ……………	47	図38	IV14区5・7・10層出土遺物垂直分布図 (1/50) ……………	68
図17	Ⅲ 1区5 a層遺物出土状況図 (1/100) ……………	48	図39	IV14区5 b層出土遺物実測図 (1/2・1/4) ……………	69
図18	Ⅲ 1区近世・古代溝東西ベルト北壁土層 断面図 (1/400) ……………	50	図40	IV14区7層出土土器実測図1 (1/4) ……………	70
図19	Ⅲ 1区北壁東側土層断面図 (1/40) ……………	50	図41	IV14区7層出土土器実測図2 (1/4) ……………	71
図20	Ⅲ 1区5 b層遺物出土状況図 (1/100) ……………	51	図42	IV14区7層出土石器実測図1 (1/3・1/4) ……………	73
図21	Ⅲ 1区5 a層出土土器実測図 (1/4) ……………	52	図43	IV14区7層出土石器実測図2 (1/3) ……………	74
図22	Ⅲ 1区5 b層出土土器実測図1 (1/4) ……………	53	図44	IV14区7層出土土製品実測図 (1/2) ……………	75
図23	Ⅲ 1区5 b層出土土器実測図2 (1/4) ……………	54	図45	IV14区10層出土土器実測図 (1/4) ……………	76
図24	Ⅲ 1区5 b層出土土器実測図3 (1/4) ……………	55	図46	IV区出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4) ……………	77
図25	Ⅲ 1区5 b層出土土製品・石器実測図 (1/2・1/3) ……………	56	図47	V11区7層遺物出土状況図 (1/200) ……………	78
図26	Ⅲ 1区出土遺物実測図 (1/2・1/4) ……………	57	図48	V11区拡張区北西壁土層断面図 (1/50) ……………	79
図27	Ⅲ 2区7・9層遺物出土状況図 (1/100) ……………	58	図49	V11区縄文人骨・墓検出状況図 (1/25) ……………	81
図28	Ⅲ 2区東壁土層断面図 (1/80) ……………	59	図50	V11区ST02配石墓実測図 (1/25) ……………	82
図29	Ⅲ 2区7・9層出土遺物実測図 (1/2・1/4) ……………	61			

図51	ST01・ST02人骨実測図 (1/20)	103
図52	V11区7層出土土器実測図 (1/4)	84
図53	V11区7層出土土器・土製品実測図 (1/2・1/4)	85
図54	V13区7層遺物出土状況図および出土遺物実測図 (1/3・1/4・1/100)	87
図55	V13区西側北壁土層断面図 (1/40)	87
図56	V31区北側北東壁土層断面図 (1/40)	88
図57	V区出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	89
図58	1310調査地点出土動物骨	90
図59	放射性炭素年代測定結果	91
図60	熊本平野地形分類図 (1/200,000)	92
図61	現代における白川洪水による堆積砂の調査	93
図62	1310調査地点における白川洪水に係る堆積層とその関連写真	94
図63	1310調査地点各区の土層断面写真	96
図64	1310調査地点および現代の白川洪水砂層の構成物観察写真	97
図65	1310調査地点の主な遺物と遺構1	102
図66	1310調査地点の主な遺物と遺構2	103
図67	黒髪地区における縄文時代遺物出土・採集地分布図 (S=1/4,000)	105
図68	1310調査地点遺跡形成過程概念図1	106
図69	1310調査地点遺跡形成過程概念図2	107
図70	縄文時代後期前葉の黒髪の地の想定図	108
図71	ST02配石墓の三次元計測データ (1/20)	110
図72	調査区遠景	127
図73	遺跡の位置 (1/25,000)	128
図74	ST01人骨出土状況写真	129
図75	ST01人骨実測図 (S=1/20)	130
図76	ST02人骨出土状況写真	130
図77	ST02人骨実測図 (S=1/20)	130
図78	ST01人骨残存部	132
図79	ST02人骨残存部	133
図80	人骨の残存部	141
図81	黒髪1310ST01人骨 (男性・壮年)	142
図82	黒髪1310ST01人骨 (男性・壮年)	143
図83	黒髪1310ST02人骨 (女性・壮年)	144
図84	黒髪1310ST02人骨 (女性・壮年)	145

## 図 版 目 次

図版1	1310調査地点	149	(東より)		
写真1	I37区東側古代遺構完掘状況 (西より)		写真5	I37区5b層遺物出土状況 (西より)	
写真2	I37区東側5a層遺物出土状況 (東より)		写真6	I37区落ち込み内出遺物出土状況 (南より)	
写真3	I37区東側5a層遺物出土状況近影 (西より)		写真7	I37区調査終了状況 (西より)	
写真4	I37区5b層遺物出土状況		写真8	I37区西側深堀後状況 (西より)	
			図版2	1310調査地点	150

- 写真9 I 37区北壁土層断面 (南より)
- 写真10 I 38区古代遺構完掘状況 (南より)
- 写真11 I 38区 5 b 層遺物出土状況 (南より)
- 写真12 I 38区 5 b 層遺物出土状況近影 (北より)
- 写真13 I 38区完掘状況 (南より)
- 写真14 I 38区東壁土層断面 (西より)
- 写真15 II 32区西側東壁土層断面 (西より)
- 写真16 III 1区近世・古代溝土層断面北壁 (北西から)
- 図版3 1310調査地点…………… 151
- 写真17 III 1区古代遺構完掘状況 (南より)
- 写真18 III 1区 5 b 層縄文土器出土状況近影 (西より)
- 写真19 III 1区 5 a 層遺物出土状況 (西より)
- 写真20 III 1区 5 b 層遺物出土状況 (南より)
- 写真21 III 1区完掘状況 (西より)
- 写真22 III 1区北側完掘状況 (北より)
- 写真23 III 1区東側北壁土層断面 (南より)
- 写真24 III 2区北側古代遺構完掘状況 (南より)
- 図版4 1310調査地点…………… 152
- 写真25 III 2区南側古代遺構完掘状況 (北より)
- 写真26 III 2区中央部7層遺物出土状況 (南より)
- 写真27 III 2区南側7層遺物出土状況近影 (南より)
- 写真28 III 2区9層動物骨検出状況近影 (北より)
- 写真29 III 2区南側完掘状況 (北より)
- 写真30 III 2区南側東壁土層断面 (北西より)
- 写真31 III 2区南側東壁土層断面 (西より)
- 写真32 III 3区 5 b 層遺物出土状況 (南より)
- 図版5 1310調査地点…………… 153
- 写真33 III 3区東壁土層断面 (西より)
- 写真34 III 4区 5 b 層遺物出土状況俯瞰 (南より)
- 写真35 III 4区 5 b 層遺物出土状況 (南より)
- 写真36 III 4区東壁土層断面 (西より)
- 写真37 IV 14区北側 5 b 層遺物出土状況 (北より)
- 写真38 IV 14区東西ベルト北壁 5 b 層検出時土層断面 (北より)
- 写真39 IV 14区南側 5 b 層遺物出土状況 (北より)
- 写真40 IV 14区北側 7 層上部遺物出土状況 (東より)
- 図版6 1310調査地点…………… 154
- 写真41 IV 14区北側 7 層遺物出土状況 (東より)
- 写真42 IV 14区 7 層縄文土器出土状況近影 (西より)
- 写真43 IV 14区東西ベルト北壁 7 層検出時土層断面 (北より)
- 写真44 IV 14区南側傾斜部 7 層遺物出土状況 (東より)
- 写真45 IV 14区南西隅傾斜部 7 層遺物出土状況近影 (南より)
- 写真46 IV 14区南側傾斜部 7 層完掘状況 (北東より)
- 写真47 IV 14区先行トレンチ東西ベルト北壁東端 10 層検出時土層断面 (北より)
- 写真48 IV 14区東西ベルト北壁 10 層検出時土層断面 (北西より)
- 図版7 1310調査地点…………… 155
- 写真49 IV 14区 10 層遺物出土状況 (北東より)
- 写真50 IV 14区南側 10 層縄文土器出土状況近影 (北より)
- 写真51 IV 14区完掘状況 (東より)
- 写真52 IV 30-2区古代遺構完掘状況 (南東より)
- 写真53 IV 30-2区 5 a 層遺物出土状況 (西

	より)	写真74	V11区 ST02検出状況 (東より)
写真54	IV30-2区完掘状況 (南東より)	図版11	1310調査地点…………… 159
写真55	IV30-2区南西壁土層断面 (南東より)	写真75	V11区 ST02掘方確認用ベルト南東壁南側土層断面 (南東より)
写真56	V1区完掘状況 (西より)	写真76	V11区 ST02掘方確認用ベルト南東壁北側土層断面 (南東より)
図版8	1310調査地点…………… 156	写真77	V11区 ST02人骨取り上げ後状況 (東より)
写真57	V1区5b層出土縄文土器近影 (北より)	写真78	V11区拡張部調査終了時状況 (南東より)
写真58	V11区古代遺構完掘状況 (西より)	写真79	V11区拡張区 ST03土坑プラン検出状況 (南東より)
写真59	V11区東側先行トレンチ7層遺物出土状況 (西より)	写真80	V11区拡張区ブルーシート養生状況 (南東より)
写真60	V11区東側先行トレンチ7層縄文土器出土状況近影 (北より)	写真81	V11区南西側7層上面硬化面検出状況 (北西より)
写真61	V11区7層 ST01周辺遺物出土状況 (北東より)	写真82	V11区南西側7層遺物出土状況 (南西より)
写真62	V11区 ST02配石検出状況 (南西より)	図版12	1310調査地点…………… 160
写真63	V11区南西側拡張区古代遺構完掘状況 (南東より)	写真83	V11区南東壁土層断面 (北西より)
写真64	V11区拡張区VI層上面検出状況 (北西より)	写真84	V11区南西端傾斜部検出状況近影 (北東より)
図版9	1310調査地点…………… 157	写真85	V11区南西端傾斜部掘削状況 (北東より)
写真65	V11区 ST01土坑掘方確認用ベルト南東壁土層断面 (東より)	写真86	V11区南西端傾斜部直上南東壁土層断面 (西より)
写真66	V11区 ST01人骨検出状況 (東より)	写真87	V13区古代遺構完掘状況 (東より)
写真67	V11区 ST01人骨下顎検出状況近影 (南より)	写真88	V13区7層遺物出土状況 (東より)
写真68	V11区 ST02直上北西壁土層断面 (南東より)	写真89	V13区7層縄文土器出土状況近影 (北より)
写真69	V11区 ST01人骨および ST02配石墓 (南西より)	写真90	V13区北壁土層断面 (南より)
図版10	1310調査地点…………… 158	図版13	1310調査地点…………… 161
写真70	V11区北東側拡張区6層上面検出状況 (北西より)	写真91	V31区北側完掘状況と北東壁土層断面 (南西より)
写真71	V11区 ST02・ST03土坑プラン検出状況 (南東より)	写真92	V11区 ST02三次元計測作業風景 (西より)
写真72	V11区 ST02土層確認用ベルト除去前検出状況 (東より)	写真93	V11区 ST02人骨取り上げ作業風景 (北より)
写真73	V11区 ST02人骨頭蓋骨検出状況近影 (南より)	写真94	水ノ江和同先生縄文土器指導風景
		写真95	現地説明会で縄文人骨を見つめる参

	加者（東より）		
写真96	発掘調査メンバー集合写真1（東より）	図版20	1310調査地点出土遺物7…………… 168
写真97	発掘調査メンバー集合写真2（東より）	図版21	1310調査地点出土遺物8…………… 169
写真98	発掘調査メンバー集合写真3（東より）	図版22	1310調査地点出土遺物9…………… 170
図版14	1310調査地点出土遺物1…………… 162	図版23	1310調査地点出土遺物10…………… 171
図版15	1310調査地点出土遺物2…………… 163	図版24	1310調査地点出土遺物11…………… 172
図版16	1310調査地点出土遺物3…………… 164	図版25	1310調査地点出土遺物12…………… 173
図版17	1310調査地点出土遺物4…………… 165	図版26	1310調査地点出土遺物13…………… 174
図版18	1310調査地点出土遺物5…………… 166	図版27	1310調査地点出土遺物14…………… 175
図版19	1310調査地点出土遺物6…………… 167	図版28	1310調査地点出土遺物15…………… 176
		図版29	1310調査地点出土遺物16…………… 177
		図版30	1310調査地点出土遺物17…………… 178
		図版31	1310調査地点出土遺物18…………… 179
		図版32	1310調査地点出土遺物19…………… 180

## 表 目 次

表1	熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧表…………… 1	表8	上腕骨計測値（女性、右）…………… 137
表2	既往調査地点と本書収録調査地点一覧表…………… 7	表9	大腿骨計測値（男性、右）…………… 137
表3	1310調査地点の各層出土土器…………… 100	表10	大腿骨計測値（女性、右）…………… 138
表4	1310調査地点出土遺物一覧表…………… 113	表11	下顎骨（男性）…………… 139
表5	資料数…………… 129	表12	鎖骨…………… 139
表6	出土人骨一覧…………… 129	表13	上腕骨…………… 139
表7	年齢区分…………… 129	表14	大腿骨（男性）…………… 139
		表15	形態小変異…………… 140



# I 構内遺跡と調査の概要



## 1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要

熊本大学が保有する敷地は、熊本市内の黒髪（北・東・南）地区・宇留毛地区・本荘（北・中・南）地区・大江地区・渡鹿地区・京町地区・城東地区および新南部地区の8地区、市外の益城地区・合津地区の2地区の計10地区に分散しており、それぞれ埋蔵文化財の包蔵地となっている（表1）。本章ではこのうち、本書で報告する黒髪南地区の1310調査地点を含む「黒髪町遺跡群」を主とし、本荘地区に相当する「本庄遺跡」についても詳細を述べる。

熊本大学の法学部・文学部・教育学部・工学部・理学部などが設置されている黒髪地区は、黒髪町遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図No8-88）に含まれている。本遺跡は、熊本市市街地の北東にそびえる立田山（標高151.6m）の南西部の緩斜面に位置しており、西を坪井川の作る中位段丘、南を白川右岸の低位段丘によって囲まれる（図1）。遺跡の範囲は東西約900m、南北約1000mであり、縄文時代から歴史時代に至る遺構・遺物を包蔵している。

遺跡の発見は昭和10年（1935：以後和暦の後の括弧内に西暦を付す）、大学に隣接する熊本県立中学済々黌（現済々黌高等学校）の校庭から弥生時代の甕棺2基などが見つかかり、下林繁夫・小林久雄により調査されたことに始まる（田添夏喜1986）。戦後、昭和40年（1965）には隣接する九州女学院（現ルーテル学院中学・高等学校）敷地内で、弥生時代中期の甕棺や古墳時代の須恵器甕などが発見され、遺跡の重要性が再認識された（笠置1971）。埋蔵文化財調査センター（または埋蔵文化財調査室）による発掘調査でも、黒髪南地区の西に位置する9704調査地点において弥生時代中期後半の須玖式と黒髪式を用いた甕棺墓群が見つかった（小畑・大坪編2008）。その後、0206調査地点でも汲田式の甕棺墓1基が発見され（大坪編2014）、1121調査地点でも黒髪式の甕棺墓が1基検出された（大坪編2013）。これにより熊本大学構内も含めて弥生時代中期の墓域が広範囲にわたり存在することが判明した。このように本遺跡は弥生時代中期の中九州に主として分布する「黒髪式土器」の標識遺跡として著名である。加えて、昭和58年（1983）に実施された済々黌高等学校内における調査によって、

表1 熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧表

No.	地区名(学部名等)	所在地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備考
1	黒髪北地区(法・文・教等)	熊本市中央区黒髪2丁目40-1				
2	黒髪東地区(教育学部附属特別支援学校)	熊本市中央区黒髪5丁目17-1	黒髪町遺跡群	集落址・墓地	縄文・弥生・奈良・平安・近世・近代	
3	黒髪南地区(工・理)	熊本市中央区黒髪2丁目39-1				
4	宇留毛地区(学生寄宿舎・職員宿舎等)	熊本市中央区黒髪7丁目	宇留毛神社周辺遺跡群	散布地	弥生・奈良・平安	
5	本荘北地区(医学部附属病院・医学部等)	熊本市中央区本荘1丁目1-1				
6	本荘中地区(発生病学研究所、エイズ学研究所等)	熊本市中央区本荘2丁目2-1	本庄遺跡(熊大病院敷地遺跡)	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世・近代	
7	本荘南地区(保健学科等)	熊本市中央区九品寺4丁目24-1				周辺遺跡
8	大江地区(薬学部等)	熊本市中央区大江本町5-1		官衙址		周辺遺跡
9	渡鹿地区(課外活動施設)	熊本市中央区渡鹿4丁目1-1	大江遺跡群	集落址	奈良・平安	
10	渡鹿地区(職員宿舎)	熊本市中央区渡鹿1丁目16				
11	京町地区(教育学部附属小・中学校)	熊本市中央区京町本丁5-12	京町台遺跡群	集落址	弥生・近世	
12	城東地区(教育学部附属幼稚園)	熊本市中央区城東町5-9	熊本城址	城館址・熊本城関連遺構	近世	
13	新南部地区(教育学部新南部農場)	熊本市東区新南部6丁目5-8	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
14	益城地区(地域共同ラボラトリー)	上益城郡益城町田原2081-7	上面ノ平遺跡	散布地	縄文・中世	
15	合津地区(沿岸域環境科学教育研究センター)	上天草市松島町合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度調査により貝塚でないと判明

※遺跡の種類、時代は近年の調査成果を反映させた。

1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要

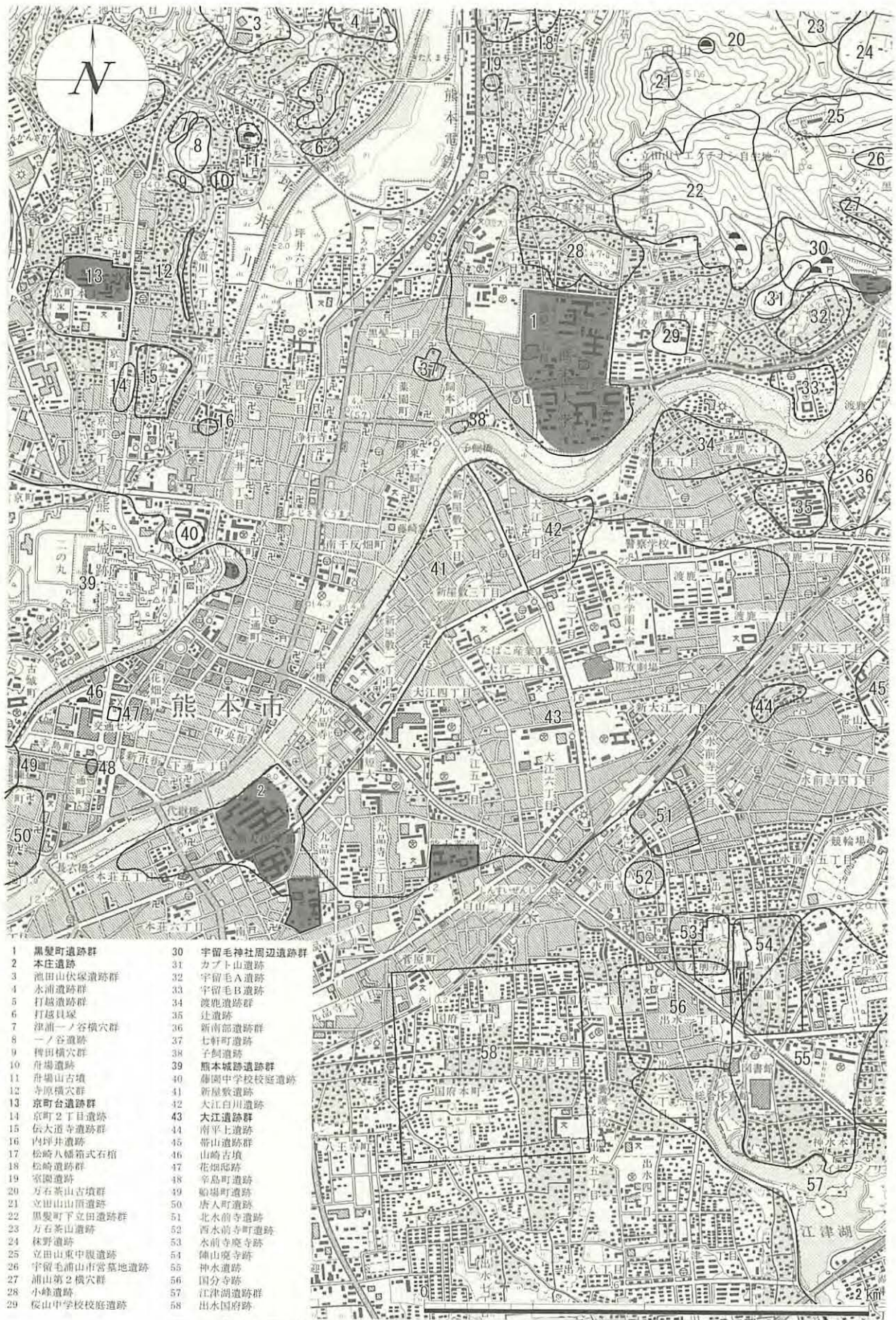


図1 黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図 (1/25,000)

古代の竪穴住居や「寺門」銘の墨書土器が出土するなどし（田添 ibid）、古代飽田郡における拠点的性格を持つ遺跡である可能性が示されるようになった（新熊本市史編纂室編1996）。また、同地域は古代の官道や駅伝制の研究上、『延喜式』に記された西海道上の駅である「養蚕駅」、あるいは旧飽田郡家の推定地としても注目を集めてきた（木下1979・木下1995）。鶴嶋俊彦は肥後国北部の古代官道について分析する中で、本センターによる黒髪南地区9603調査地点における発掘成果を受け、南北方向に走る2本の溝が駅路の側溝であるとの見解を示し、周囲の掘建柱建物との関係性も含め、熊本大学構内に蚕養駅の駅家が存在した可能性に言及した。近年の大学構内の調査では、黒髪北地区や南地区から古代の竪穴住居や掘建柱建物が広い範囲に確認されており、飽田郡家や駅家に関連する集落と考えられる。さらに、済々黌高校から本学黒髪地区周辺が飽田郡司建部公の居所であり、飽田郡家として比定されるなどの積極的な意見が展開されている（鶴嶋1997）。このように、本遺跡群は古代律令制下の駅伝制を考える上で極めて重要である。

また本遺跡では、熊本市教育委員会や当センターにおける調査の蓄積により縄文時代の文化層が広い範囲で確認されている。黒髪北地区9802調査地点（小畑編2009）や黒髪南0302調査地点（小畑・大坪編2011）では縄文時代早期の押型文土器や条痕文土器が当時地山と考えられていた土層中から出土した。その後の黒髪地区の各調査地点では、古代の包含層中や地山と想定していた土層から縄文時代後・晩期の土器が少ないながらも発見されている。このほか、2006年に熊本市教育委員会により実施された黒髪町遺跡群第4次調査では、阿高式土器や南福寺式土器が一定量得られており、遺構の検出こそなかったものの、小規模な集落の端部に位置するものと報告されている（美濃口編2008）。このように縄文時代の資料が増加する中、2013・2014年度には本書で報告する発掘調査が実施された。黒髪南地区の東側、理学部棟周辺のライフライン再生工事に伴う発掘調査が実施され、白川右岸の平野部から出水式・御手洗A式土器など縄文時代後期前葉を主体とする文化層と、配石墓に埋葬された縄文人骨などが発見された（山野編2016、本書）。御手洗A式土器は西北九州から中九州にかけて分布する縄文時代後期前葉の土器だが、出土数が少なく全容が不明瞭であった。調査では器形全体を復元できる資料が出土しており、層位的な調査が実施されたことから、本調査成果が縄文時代後期前葉の土器の変遷と集落や文化様態の解明の一助となると思われる。また、縄文人骨が貝塚や洞穴遺跡などの人骨が残存しやすい立地・条件下ではなく、平野部で発見されたことも重要である。人骨は矮小な調査区から3体（うち1体は未調査）検出されており、調査区周辺が墓域であった可能性が高い（山野2015）。

近年では本地区における近代の調査事例でも重要な成果を得ることができている。熊本大学の黒髪北地区は明治23年（1890）に設立した第五高等中学校・高等学校の敷地を引き継いでおり、その南側に対面する黒髪南地区は明治39年（1906）に設立した熊本高等工業学校の敷地を含む。そのため、大学構内には明治から大正にかけての煉瓦建造物が複数現存している。このうち黒髪北地区に所在する五高記念館、化学実験場、正門と、黒髪南地区に所在する工学部研究資料館はいずれも煉瓦造りで国の重要文化財に指定されている。また、黒髪南地区の本部棟（旧熊本高等工業学校本館）は大正期に建てられた初期の鉄筋コンクリート建築であり、登録有形文化財に登録されている。2015年度にはこの建物周囲の発掘調査を実施しており、周辺から煉瓦の基礎が広い範囲で発見された（山野編2016）。これらは明治41年（1908）に竣工した熊本高等工業学校旧本館の建物基礎であることが判明し、周囲からはこの建物が1923年に全焼した際の溶けたガラスや木片、生活道具などが出土した。この他、黒髪北地区1528調査地点では第五高等学校の寮である「習学寮」の浴室・炊事場の煉瓦基礎が確認され、レンガに「熊本監獄製造印」が押されていることが確認できた（松田・大坪編2017）。これら煉瓦の積み方や刻印、法量などは近代熊本の建築や煉瓦生産の実態について様々な知見を与え

## 2. 調査に至る経緯

てくれる。熊本監獄に関する遺構として黒髪南地区1309調査地点では、明治から大正期にかけての囚人墓地在多数発見されており、近代にかけて大学敷地における利用状況の多様さが明らかになっている（山野・柴田編2017）。

医学部附属病院・医学部が所在する本荘北地区および研究・開発施設が所在する本荘中地区、そして医学部保健学科が所在する本荘南地区は、本庄遺跡（熊本大学病院敷地遺跡：熊本市埋蔵文化財地図No.8-95）を包括する。本遺跡は黒髪町遺跡群と同じく熊本平野を形成する扇状地形を東西に流れる白川の低位河岸段丘上に立地する遺跡であり、標高は12～13mである。附属病院の所在する白川左岸よりの地点は標高が高く、本荘中地区のある南東部へ向かって地形が緩やかに傾斜する。敷地内には白川より分岐した小河川（三の井手）が暗渠となって流れている。1963年頃、本学医学部附属病院の敷地内から須恵器、土師器、布目瓦類が採集されており、遺跡としての認定を受けた。また、敷地東側に隣接する仙崇寺小松原墓地（現在の小松原公園）内においても須恵器片が採集されており、遺跡包蔵地が敷地外に広がることが想定された。しかし、その後学術的発掘調査は実施されず、遺跡の詳細については本学埋蔵文化財調査室による調査が開始されるまで不明であった（以上、松田・大坪編2017を引用・一部改変）。

1995年には、本荘南地区においてR I 総合センター遺伝子実験施設の建築に伴う発掘調査が熊本大学埋蔵文化財調査室により実施され、古代の竪穴建物や須恵器・土師器といった遺物が確認された。これにより遺跡の範囲が南北500m、東西500mを超えるものと推定された（小畑編1995）。1996年からは大学の現地再開発事業に伴う発掘調査が開始され、これまでに本荘北地区を中心として様々な考古学的知見を得ることができた。本荘北地区の各調査地点では縄文時代の土器や石器、弥生時代の溝などが検出されているが、遺跡の主体ではなく散発的なものに留まる。ただし、0411調査地点での調査では縄文時代後期後葉から晩期にかけての縄文土器片がまとまって出土しており、縄文時代の文化層が今後確認される可能性がある（松田・大坪編2017）。本荘北地区の北西側では9901調査地点、0006調査地点、0104調査地点、0119調査地点などで中・大規模工事に伴って発掘調査が実施され、古墳時代前期や古代を中心とした竪穴建物や掘立柱建物、溝などの遺構や遺物が密に分布することが確認されている（大坪編2000・2010）。本荘北地区では古代の溝や水溜状遺構など水路と思わしき遺構も多く確認され、近世の畑や水田床土も広い範囲で検出されることから、白川から水が引かれるなどし、古くから水田として利用されてきたことが想定できる（大坪編2010）。また、本荘北地区の東側にあたる9601調査地点、1104調査地点では明治期以降の近代墓地在400基以上発見されており、これに伴う六道銭や泥面子などの優良な資料が得られている（大坪編2013）。

以上、熊本大学黒髪地区および本荘地区について遺跡の概要と近年の調査成果について触れた。黒髪地区を含む黒髪町遺跡群は縄文時代から近代の遺物・遺構を包含する複合遺跡であり、その内容は多岐にわたっている。本報告においては、黒髪南地区1地点について、縄文時代に関する記録のみを掲載している。古代以降の調査成果については次年度以降の報告書に掲載予定である。

## 2. 調査に至る経緯

熊本大学の熊本市内の校地は先に示したように8地区に分散しており、どの校地も狭隘化してきているため、かねてから校地の移転などが議論されてきた。昭和60年（1985）に当時の熊本県知事から校地移転を検討する旨の申し出があり、その件について学内で議論され、本荘地区の医学部・附属病院を除き他の地区は現地再開発が決定された。本荘地区も平成5年（1993）に現地再開発することが

決定され、全学が現地再開発に取り組むこととなった。その後それぞれの地区での再開発構想が検討され、基本的な計画ができ上がった地区から文教施設費を概算要求し、それらが認められたところから再開発事業が始まった。一方、黒髪地区などにおいては、従来から建設工事などによって古代や先史時代の遺物が発見されていたにもかかわらず、埋蔵文化財包蔵地としては周知されていなかった。

平成5年(1993)10月から、黒髪南地区において総合情報統括センターの建設工事が始まったところ、熊本市文化振興課から工事前に埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨の連絡があり、同課へ出向き確認したところ、平成5年4月1日から熊本市文化財保護審議会において黒髪地区などが埋蔵文化財の包蔵地として追加指定されていることが判明した。そこで大学が計画している建設工事の予定地に係わる試掘調査の届を同課に提出して、調査を依頼した。試掘調査の結果では、ほとんどの建設工事に先立ち発掘調査が必要であるということになった。

今後の発掘調査について同課に相談したところ、以下のような回答があった。

①国の機関(大学等)は考古学研究室などがあって専門のスタッフを擁していることでもあり、熊本大学においてもそのような機関を設け、そこが実施機関として発掘調査を担当願いたい。

②熊本市が平成6年度発掘調査の依頼を受けたとしても、それを実施する場合、既に他の発掘調査予定が半年分はあるので、急いでも9月または10月頃から調査を始めることとなる。

以上のことから、熊本大学の再開発事業には事前の試掘および発掘調査をおこなうことが必須条件であり、そのために大学独自の調査組織を早急に設けることが必要となった。まずは発掘調査組織の中心となってもらうべく、文学部考古学研究室に協力を依頼し、このことについて承諾を得た後、急ぎ委員会などの組織作りをおこない、責任体制を確立するための作業が始められた。本学の状況および他大学に既に設置されている同種組織の内容を勘案しながら検討した結果、熊本大学埋蔵文化財調査委員会(以下「調査委員会」と略する)を設けることとなった。また、この調査委員会の下に熊本大学埋蔵文化財調査室(以下「調査室」と略する)を置き、発掘調査の実務を担当することとした。

平成6年(1994)4月7日をもって熊本大学埋蔵文化財委員会規則が定められ、調査委員会が設置され、委員会内に調査室が置かれ、平成6年5月16日、委員会委員の委嘱、調査室長および調査員・事務補佐員が就任し、正式に調査室業務が始動した。調査室発足後は、文学部考古学研究室の甲元眞之教授をはじめとしたスタッフの多大なる協力のもと平成6年度建設予定地の調査を中心に発掘調査が実施された。

平成23年(2011)10月1日には、熊本大学埋蔵文化財調査室から、熊本大学埋蔵文化財調査センターとして発足した。これを契機とし、埋蔵文化財の発掘調査を主体的業務としながらも、『速報展示』や『地下の文化財散歩』の開催など、これまでの調査成果を用いた活用事業にも尽力している。経緯の詳細については『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』等を参照されたい(以上、山野・柴田編2018を引用・一部改変)。

### 3. これまでの調査と本書収録の遺跡

平成7年(1994)以後、平成29年(2017)3月末日まで、再開発計画に則り行われた事業の事前調査として、表2のような調査が実施されてきた。本書はこの中から平成25・26(2013・2014)年度に実施した黒髪南地区における(黒髪南)ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)のうち縄文時代に関する遺構・遺物について報告する。試掘・立会と小規模な調査などについては年報において既報告であるので、本書からは除外した。

### 引用・参考文献

- 大坪志子編 2000『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』6 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 大坪志子編 2010『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』VI 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第6集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 大坪志子編 2013『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』IX 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第9集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 大坪志子編 2014『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』X 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第10集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 小畑弘己編 1995『熊本大学埋蔵文化財調査室年報』2 熊本大学埋蔵文化財調査室
- 小畑弘己編 2009『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』V 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第5集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 小畑弘己・大坪志子編 2008『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』IV 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第4集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 小畑弘己・大坪志子編 2011『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』VIII 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第8集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 笠置英行 1971「九州女学院遺跡」『熊本市北部地区文化財調査報告書』熊本市教育委員会
- 木下良 1979「第六節 肥後国」『古代日本の交通路』IV pp.99～130 大明堂
- 木下良 1995「肥後国府の変遷について」『古代文化』9-27 pp.1～19 古代学協会
- 新熊本市史編纂室編 1996『新熊本市史料編第1巻考古資料』新熊本市史編纂室
- 田添夏喜 1986『黒髪町遺跡多士会館敷地発掘調査報告 黒髪町遺跡』財団法人多士会館
- 鶴嶋俊彦 1997「肥後国北部の古代官道」『古代交通研究』第7号 pp.39～66 古代交通研究会
- 松田光太郎・大坪志子編 2017『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』XII 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第12集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 美濃口雅朗編 2008『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告書集』平成19年度 熊本市教育委員会
- 山野ケン陽次郎 2015「熊本大学構内遺跡の発掘調査－縄文時代後期を対象に－」『第11回日韓新石器時代研究会発表資料集』pp.106～119 九州縄文研究会・韓国新石器学会
- 山野ケン陽次郎編 2016『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』21 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 山野ケン陽次郎・柴田亮編 2017『熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅷ』熊本大学埋蔵文化財調査報告書第14集 熊本大学埋蔵文化財調査センター



表2 既往調査地点と本書収録調査地点一覧表

1994年度							
94・4・15～17	9401	(黒北) 運動場整備(照明塔建設)工事	発掘調査	128㎡	古代	古代土師器・須恵器	年報1
94・4・21	9402	(黒北・南) 基幹整備(教育学部エレベーター室取設)工事	発掘調査	47.5㎡	現代	ガラス・磁器片	年報1
94・4・25	9403	(黒北・南) 地区基幹整備(工学部エレベーター室取設)工事	発掘調査	48㎡		包含層確認・土器片	年報1
94・5・13～14	9404	(黒北) 福利施設建設予定地の樹木移植	立会調査	30㎡	古代		年報1
94・5・17～6・25	9405	(京町) 附属中学校校舎新築工事	発掘調査	400㎡	弥生・近世	縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・近世陶磁器・砥石・銅銭・瓦・ガラス瓶	本報告1
94・5・20・23・24	9406	(黒北) 武夫原運動場整備(集水拵埋設)工事	発掘調査	100㎡	古代		年報1
94・5・23～7・28	9407	(黒北) 福利施設建設工事	発掘調査	1,290㎡	古代		本報告1
94・8・1～8・10	9408	(渡鹿) グラウンド集水拵整備工事	発掘調査 立会調査	40.4㎡	古代	土師器	本報告1
94・8・11	9409	(黒北) 武夫原器具庫新営工事・外灯基礎工事	立会調査	23.4㎡		包含層に達せず遺構なし・土師器片	年報1
94・8・12	9410	(京町) 附属中学校電気引き込み配線工事	立会調査	13㎡		遺構・遺物なし	年報1
94・8・22	9411	(黒北) 基幹整備(附属図書館スロープ取設)工事	立会調査	25.5㎡		包含層に達せず・遺構・遺物なし	年報1
94・9・12～10・31	9412	(黒南) 工学部実験棟新営工事	発掘調査	743.6㎡	古代	古代堅穴住居址・古代土師器・須恵器・瓦・土製印・鉄器・縄文土器	本報告1
94・11・14～12・22	9413	(渡鹿) グラウンド整備工事	発掘調査	200㎡	縄文・古代	古代堅穴住居址・道路址・古代土師器・須恵器・布目瓦・砥石・鉄器・縄文土器・石器	本報告1
95・1・17～21	9414	(黒北) 福利施設設備工事	立会調査	169㎡		遺構・遺物なし	年報1
95・1・9～11, 1・26～2・1	9415	(黒南) 工学部共同溝工事	立会調査	50㎡		遺構・遺物なし	年報1
95・2・27	9416	(城東) 附属幼稚園排水管敷設工事替工事	立会調査	1,297㎡		遺構・遺物なし	年報1
95・3・15～23	9417	(黒南) 福利施設設備工事					
1995年度							
95・4・25～5・2	9501	(黒南) 工学部研究実験棟新営1期共同溝建設工事	発掘調査	90㎡	古代～近世	古代堅穴住居址・柱穴・溝・縄文後期土器片・古代土師器・須恵器	本報告1
95・5・9～10	9502	(黒南) 工学部附属工学機器センター新営工事	試掘調査	20㎡	古代	包含層確認・古代土師器・須恵器	年報2
95・5・15～16	9503	(黒南) 工学部 R1 研究実験棟建設及び基礎掘削	試掘調査	20㎡	古代	集石・古代土師器・須恵器	年報2
95・5・29/30 6・21	9504	(黒南) 工学部研究実験棟新営電気設備(その2)に伴う高圧ケーブル埋設	立会調査	38㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・8・21	9505	(黒南) 工学部通信設備埋設	立会調査	14㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・8・22	9506	(黒南) 事務局前外灯配線改修	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・9・8～10・12	9507	(合津) 理学部附属臨海実験所実験棟改築工事	発掘調査	298㎡	縄文	縄文早期土器・石器	年報2
95・11・2	9510	(黒南) 工学部研究実験棟新営1期に伴うガス配管	立会調査		古代	古代包含層確認・古代土器片	年報2
95・11・6～8	9511	(本荘南) 医学部 R1 総合センター遺伝子実験施設建設及び外溝切り替え	試掘調査	200㎡	古代	古代包含層確認・堅穴住居址・古代土師器・須恵器	年報2
95・11・13～16	9512	(黒南) 工学部研究実験棟新営1期に伴う排水拵設置	発掘調査	60㎡	古代	古代堅穴住居址・柱穴・包含層・縄文後期土器片・古代土師器・須恵器	本報告1
95・11・17	9513	(黒南) 工学部研究実験棟新営1期に伴う外溝	立会調査			遺構・遺物なし	年報2
95・11・17	9514	(黒南) 工学部研究実験棟新営1期に伴う外溝	立会調査		古代	古代土師器・須恵器片	年報2
95・11・21～22	9503	(黒南) 工学部 R1 研究実験棟建設に伴う基礎掘削	立会調査		古代	古代土師器・須恵器	年報2
95・11・22	9515	(黒南) 工学部研究実験棟新営1期に伴う外溝	立会調査		古代	包含層確認・古代土師器	年報2
95・11・24	9511	(本荘南) 医学部 R1 総合センター遺伝子実験施設建設工事	立会調査			一部包含層確認・遺構・遺物なし	年報2
95・11・28～29	9516	(黒南) 工学部研究実験棟新営1期に伴う外溝	発掘調査	72㎡	縄文～古代	包含層・柱穴・縄文土器片・古代土師器	本報告1
95・12・1	9511	(本荘南) 医学部 R1 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う外溝切替	立会調査			包含層確認・遺構・遺物なし	年報2
95・12・4	9517	(本荘南) 医学部 R1 総合センター遺伝子実験施設に伴う樹木移植	立会調査			遺構・遺物なし	年報2
95・12・5	9518	(黒南) 工学部 R1 研究実験棟建設に伴う外溝工事	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・12・12～14	9519	(黒南) 工学部研究実験棟新営1期に伴うガス配管	立会調査		古代	古代柱穴・溝・古代土師器・須恵器	年報2
95・12・18	9520	(黒北) 教養部前道路改修	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・12・25～ 96・2・22	9511	(本荘南) 医学部 R1 総合センター遺伝子実験施設建設	発掘調査	976.9㎡	縄文・古代	古代堅穴住居址・掘立柱建物・溝・道路・方形堅穴遺構・土塊・縄文土器・石器・古代土師器・須恵器・鉄器	本報告1
96・3・1	9521	(黒南) 工学部校舎新営	試掘調査		弥生	弥生土塊・ビッド・弥生中期土器	年報2
96・3・8	9522	(黒北) 文法学部・第五高等学校記念館庭園植栽工事	立会調査		古代	包含層確認・古代土師器	年報2
96・3・21	9523	(城東) 教育学部附属幼稚園水遊び場兼足洗い場設備寄贈受入	立会調査			遺構・遺物なし	年報2
96・3・25～26	9524	(京町) 教育学部附属小学校給排水管取替工事	立会調査	27.6㎡		遺構・遺物なし	年報2
1996年度							
96・4・19	9601	(本荘北) 医学部校舎建設	試掘調査	33㎡	古代	古代包含層・溝・古代土師器・須恵器	本報告IV
96・5・10	9602	(黒北) 法文学部記念植樹	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報3

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

96-5-10~6-24	9603	(黒南) 工学部校舎建設	発掘調査	1,000㎡	縄文・弥生・古代	縄文後期包含層・古代竪穴住居址・溝・掘立柱建物・土壇・柱穴・縄文後期土器・弥生中期土器・古代土師器・須恵器・鉄器・瓦	本報告Ⅳ	
96-5-13	9604	(黒北) 教育学部 ATM ネットワーク付設工事	立会調査	40㎡	近代	遺構・遺物なし	年報3	
96-5-14	9605	(京町) 教育学部附属小学校 ATM ネットワーク付設工事	立会調査	14㎡		近代磁器	年報3	
96-5-15	9606	(大江) 薬学部 ATM ネットワーク付設工事	立会調査			遺構・遺物なし	年報3	
96-6-17	9607	(黒北) 法文学部外灯設置工事	立会調査	4㎡	古代	一部包含層確認、古代須恵器	年報3	
96-6-19	9608	(黒南) 工学部 RI 実験棟配線工事	立会調査	21㎡		遺構・遺物なし	年報3	
96-8-5	9609	(黒北) 入試保管庫建設工事(試掘)	発掘調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報3	
96-8-6~9	9601	(本荘北) 医学部校舎建設に伴う樹木移植・貯水槽建設工事(1・2・3区)	発掘調査	45.7㎡	古墳・古代	古墳時代前期竪穴住居址・古代竪穴住居址・古墳時代土師器・古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ	
96-8-22~27	9601	(本荘北) 医学部校舎建設に伴う切り替え道路建設(4区)	発掘調査	37.4㎡	古代	竪穴住居址・柱穴・古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ	
96-8-29~30	9601	(本荘北) 医学部校舎建設に伴う切り替え道路建設(5区)	発掘調査	28.2㎡	古代	竪穴住居址・掘立柱建物・土壇	本報告Ⅳ	
96-9-6	9610	(黒北) 教養部夏目漱石像建立	試掘調査	9㎡		遺構・遺物なし	年報3	
96-10-1~9	9601	(本荘北) 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事(6区)	発掘調査	104.3㎡	古代	古代道路・竪穴住居址・古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ	
96-10-11~97-1-17	9601	(本荘北) 医学部校舎本体工事(本調査区)	発掘調査	1,686㎡	縄文・古墳・古代	縄文包含層・古墳土壇・古代道路・竪穴住居址・掘立柱建物・土壇・近代墓地・縄文後期土器・古墳・古代土師器・須恵器・鉄器・石器	本報告Ⅳ	
96-10-21~29	9601	(本荘北) 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事(7・8・9区)	発掘調査	62.5㎡	古代	古代竪穴住居址・竪穴住居址・古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ	
96-11-12~13	9601	(本荘北) 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事(10区)	発掘調査	21.8㎡	古代	古代竪穴住居址・古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ	
96-11-12	9611	(黒南) 工学部外灯付設工事	立会調査	0.4㎡		遺構・遺物なし	年報3	
96-12-18	9612	(黒南) 工学部電線埋設工事	立会調査	74.8㎡		遺構・遺物なし	年報3	
97-3-3~31	9613	(黒南) 工学部研究実験棟Ⅱ新置機械設備工事	立会調査	175㎡		遺構・遺物なし	年報3	
97-3-7	9614	(黒南) 工学部衛生エネルギー実験所火薬庫取設工事	立会調査	109㎡		遺構・遺物なし	年報3	
<b>1997年度</b>								
97-4-8	9701	(本荘南) 医学部情報リテラシー教育施設電気設備その他の改修工事	立会調査	21㎡		一部包含層を確認・遺構なし、古代土器片	年報4	
97-5-7	9702	(黒南) 理学部ヘリウム棟増築・ヘリウム管理設工事	立会調査	126.6㎡		遺構・遺物なし	年報4	
97-5-28	9703	(本荘北) 医学部外来臨床研究棟血液製剤管理室取設工事	試掘調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報4	
97-7-28~11-4	9704	(黒南) 工学部校舎新営工事	発掘調査	1,783.3㎡	弥生・古代・近世	弥生時代竪穴墓・古代竪穴住居址・溝・掘立柱建物・柱穴・近世墓・弥生中期甕棺・土師器・鉄器・古代須恵器・近世陶磁器	年報4	
97-10-29	9705	(京町) 教育学部附属中学校女性立像建立	立会調査	2.6㎡		遺構・遺物なし	年報4	
97-10-22	9706	(黒北) 法文学部龍南健児像建立	立会調査	1.2㎡		遺構・遺物なし	年報4	
97-11-11~98-3-31	9707	(本荘北) 医学部基礎研究棟屋外配線工事	立会調査	370㎡	古代・近代	近代墓地・古代土壇・柱穴・甕・人骨・墓石等・古代土器	年報4	
98-1-30~2-12	9708	(黒北) 法・文・教育学部外灯設備増設工事	立会調査	61.9㎡	古代	溝	年報4	
98-2-3~2-13	9709	(黒南) 管財係黒髪6号宿舍取り壊し工事	立会調査	116㎡	古代	一部包含層を確認・遺構なし、磨耗した古代土器	年報4	
<b>1998年度</b>								
98-4-14	9804	(黒南) 工学部校舎建設に伴う排水管撤去工事	立会調査	10㎡		掘削により遺構なし	年報5	
98-6-26~7-2	9801	(本荘南) 医学部エイズ研究センター・動物資源開発センター新営支障配管替工事	立会調査	2.4㎡	古代	遺構・遺物認められず	年報5	
98-7-6	9801	(本荘南) 同樹木伐採工事	立会調査			遺構・遺物なし	年報5	
98-7-13	9809	(黒南) 工学部3号館電気設営工事	立会調査	3㎡	古代	遺物包含層を確認	年報5	
98-7-28~9-10	9801	(本荘南) 医学部エイズ研究センター・動物資源開発センター新営工事	発掘調査	972㎡	縄文・古代・近世	竪穴住居址・掘立柱建物・溝・土坑	本報告Ⅴ	
98-9-21~22	9803	(黒北) 文化部室取設工事に伴う樹木移植工事	立会調査	9㎡		遺構・遺物なし	年報5	
98-9-25~11-6	9802	(黒北) 文化部室取設その他の工事	発掘調査	575㎡	縄文・弥生・近世	縄文土器・弥生土器・石器等・土壇・溝・縄文・弥生遺物包含層確認	本報告Ⅴ	
98-9-28	9805	(本荘北) 大学病院病棟新営工事	試掘調査	10㎡	古墳・古代	古墳・古代土器	年報5	
98-9-29	9806	(本荘北) 大学病院中央診療棟新営工事	試掘調査	5㎡		河成砂礫層を検出、遺構・遺物なし	年報5	
98-9-30	9807	(本荘北) 大学病院薬剤部注射患者毎ト支給室等取設工事	試掘調査	2㎡	古代	遺物包含層・柱穴検出、古代土器片	年報5	
98-10-6	9808	(黒南) 工学部1-9号館電気設営工事	立会調査	30㎡		遺構面に達せず、遺物なし	年報5	
98-10-28~11-20	9807	(本荘北) 大学病院薬剤部注射患者毎ト支給室等取設工事	発掘調査	175㎡	古代	縄文土器・石器等 古代竪穴住居址・土壇・溝・近代溝	本報告Ⅴ	
98-11-2	9801	医学部エイズ研究センター・動物資源開発研究センター関連図書部解体工事	発掘調査	139㎡		前平のため存在せず	本報告Ⅴ	
98-12-14~18	9810	(黒南) 理学部自然科学等総合実験棟新営支障配管替工事	立会調査	35㎡	古代	遺物包含層・柱穴検出、古代土器片	年報5	
98-12-16	9802	(黒北) 文化部室新営排水管敷設工事	立会調査	35㎡	古代	遺構面確認、遺構・遺物なし	年報5	
98-12-17~99-1-10	9805	(本荘北) 大学病院病棟新営に伴う支障配管替工事	立会調査	333㎡	古代	竪穴住居址、古代土器片	年報5	
99-1-12	9811	(黒南) 工学部実験室新設工事	試掘調査	14㎡	縄文後期	土器	年報5	

I 構内遺跡と調査の概要

99・1・21～3・25	9810	(黒南) 理学部自然科学等総合実験棟新営工事	発掘調査	1,098㎡	縄文・古代・近代	縄文土器・石鏡等、古代聚穴住居址・柱穴・溝・近世溝	本報告V
99・2・2	9802	(黒北) 環境整備事業に伴う文化部室解体	立会調査	260㎡		遺構・遺物なし	年報5
99・2・10	9802	(黒北) 環境整備事業に伴う建築工事	立会調査	40㎡		遺構面には達せず。遺物なし	年報5
99・2・18	9802	(黒北) 環境整備事業に伴う植樹工事	立会調査	123㎡		地表下2mで弥生時代遺物包含層・遺構面を確認。遺構・遺物なし	年報5
99・2・9～3・9	9802	(黒北) 環境整備事業に伴う電気配線工事	立会調査	4㎡		地表下90cmで水田土を検出。遺構・遺物なし	年報5
99・3・11～12	9812	(大江) 渡鹿団地東側ブロック塀改修工事	立会調査	70㎡		包含層・遺構面確認。遺構・遺物なし	年報5
99・3・10～31	9801	(本荘南) 医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営に係る配管切替工事	立会調査	57.5㎡	古代	一部包含層・遺構面確認(ピット)・遺物なし	年報6
<b>1999年度</b>							
99・4・5～8・31	9901	(本荘北) 病棟(軸) 新営工事	発掘調査	2,405㎡	縄文・古墳・古代・近代	縄文時代石器・玉・古墳時代住居址・溝・土師器・古代住居址・柱穴溝・土壘墓・土師器・須恵器・鉄器・服衣壺・土鏡・近代溝	本報告X
99・6・14～7・14	9902	(本荘南) 医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営電設工事立会	立会調査	40㎡	古代	古代柱穴・溝。遺物を少量検出	年報6
99・6・17	9903	(黒南) 工学部研究実験棟Ⅱ-22新営工事に伴う植樹立会	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報6
99・7・19/26	9904	(本荘南) 医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営基礎工事立会	立会調査	2㎡	古代	遺構・遺物なし	年報6
99・7・29～7・30	9905	(黒南) 自然科学研究科・理学部総合研究実験棟新営ガス設営工事	立会調査	50㎡		遺物・遺構なし	年報6
99・7・2～8・7	9906	(黒南) 自然科学研究科・理学部総合研究実験棟新営電気設営工事立会	立会調査	200㎡	古代	古代溝6条・柱穴2個。古代土器片少量を検出	年報6
99・9・22～10・5	9907	(黒南) 工学部実験用プレハブ新築工事	発掘調査	136.5㎡	縄文前期～晩期	ピット群。縄文土器片出土	本報告VI
99・11・24～25	9908	(黒東) 附属養護学校給食室増改築工事	試掘調査	42㎡	近世以降	トレンチ2本設定して調査したが、遺構なし。近世磁器片	年報6
00・2・14～3・24	9909	(黒南) 工学部衝撃・極限環境研究センター・サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー棟新営工事	試掘調査	1,853㎡	近世・近代	畑址・墓地。近世陶磁器、煙管、銅・鉄銭	本報告VI
00・1・25	9910	(本荘北) 血液照射管理室増改築試掘	試掘調査	2㎡		攪乱著しく。遺構・遺物ともに確認できず	年報6
00・3・6～14	9911	(黒南) 水生動物飼育舎建築工事	発掘調査	70.9㎡		縄文土器・古代土師器・須恵器	本報告X
00・3・14	9912	(黒南・東) 外灯取設工事立会	立会調査	3㎡		遺物・遺構ともに確認できず	年報6
00・3・2	9913	医学部液化酸素供給設備新設工事立会	立会調査	7.84㎡		遺構・遺物なし	年報6
00・3・16～17	9914	(本荘南) さく井設備工事立会	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし	年報6
<b>2000年度</b>							
00・4・7	0001	(黒南) 水生動物飼育舎新営給水管設営工事	立会調査	6.1㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・4・11	0002	(黒南) 水生動物飼育舎新営電気設営工事	立会調査	4.1㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・4・17	0003	(本荘北) 附属病院格納庫移設工事	試掘調査	5.8㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・10・23	0004	(黒南) 工学部衝撃・極限環境研究センター・サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー棟新営電気設営工事	立会調査	18㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・10・30	0005	(黒南) 工学部植栽工事	立会調査	63㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・11・6～22	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備第3井戸入水槽設営工事(Ⅰ区)	発掘調査	119.4㎡	縄文・古墳・古代	縄文時代石器・古墳時代柱穴・住居址・土師器・須恵器	本報告VI
00・11・22	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備第1井戸入水槽設営工事	試掘調査	4㎡	近・現代墓地	近・現代墓石・壘墓・遺骨	年報7
00・11・27～29	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備給水管配管工事	立会調査	85.5㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・12・4～13	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備排水配管工事(Ⅱ区)	発掘調査 立会調査	32㎡	縄文・古代	土壘状遺構。縄文時代石器・土師器・ガラス玉・鉄器・須恵器	本報告VI
00・12・8～01・1・10	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備電気設営工事(Ⅳ区)	立会調査	31.5㎡	古代	遺構なし。土師器数点	年報7
00・12・19～20	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備排水配管工事(Ⅲ区)	発掘調査 立会調査	20.4㎡	古代	住居址・土師器	本報告VI
00・12・26～28	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備給水管配管工事	立会調査	100.7㎡	近・現代墓地	近代墓壘・墓石・遺骨	年報7
01・1・29	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備排水配管工事(Ⅴ区)	立会調査	7㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・1・22～30	0007	(京町) 附属中学校体育器具庫新営工事	発掘調査	119.4㎡	弥生・古代	弥生・古代土師器・鉄器・土製紡錘車	年報7
01・2・5	0008	(黒北) 生涯学習地域研究センタースロープ取設工事	立会調査	28㎡		攪乱のため遺物・遺構なし	年報7
01・2・6～9	0009	(黒南) 理学部1・2号館身体障害者用設備整備工事	立会調査	70㎡	古代	包含層を確認。古代土師器・須恵器	年報7
01・2・16～19	0010	(黒北) 体育系部室解体・新営工事	立会調査	372㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・2・22	0011	(大江) 旧食堂解体撤去工事・旧ボイラー室解体撤去工事	立会調査	132㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・3・5～6	0012	(黒北) 外灯取付工事	立会調査	3㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・3・6	0013	(大江) 屋内運動場[高武館]取り壊し工事	立会調査	500㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・3・22	0014	(黒北) 旧生活協同組合事務所解体撤去工事	立会調査	66㎡		遺物・遺構なし	年報7
<b>2001年度</b>							
01・4・9～7・3	0101	(本荘北) 附属病院医学部総合研究棟新営工事	発掘調査	1,733.75㎡	古墳・古代・近世・近代	住居址・溝・畑址・墓鉄鏡・土師器・須恵器	本報告VI
01・5・14	0102	(黒南) 基幹・環境整備	試掘調査	4.8㎡			本報告VI
01・5・14	0103	京町田地高圧ケーブル改修工事	立会調査	59.5㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・7・9～26	0102	(黒南) 基幹・環境整備	発掘調査	418.5㎡	縄文	縄文土器・寛永通宝・風倒木痕・防空壕	年報8

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

01-7-4~10-29	0104	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備(共同溝設置)	発掘調査	1,023.8㎡	縄文・弥生・古墳・古代	住居址・溝・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器・鉄器・青銅器	本報告VI
01-7-13	0105	(京町) 正門取設工事	立会調査	7.12㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-7-30~11-14	0106	(黒北) 大学教育研究センター等改修工事	立会調査	3,907㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-7-31	0107	(大江) 薬学部共同実験棟改修工事	立会調査	97.84㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-8-1/13	0108	(京町) キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-8-2/21	0109	(黒北) キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	58㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-8-27	0110	(大江) 薬学部キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	20㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-9-4	0111	(本荘南) 医学部キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	2.78㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-8-22/9-4	0112	(黒北) 食堂南側テラス整備工事	立会調査	662㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-9-14 10-1	0113	(本荘南) 医療技術短期大学キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	105㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-9-17	0114	(本荘北) 附属病院キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	38㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-10-19	0115	(黒南) 理学部2号館南側排水工事	立会調査	8.4㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-10-22~ 02-2-19	0116	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備(A~D地区・ボイラー設備更新等)	立会調査	426.4㎡		遺構・遺物なし	年報8
01-12-8~02-2-9	0117	(本荘北) 医学部総合研究棟新築機械設備工事	立会調査	133.1㎡	古 代	住居址・柱基礎土師器・須恵器	年報8
01-12-12~02-2-4	0118	(黒南) 基幹・環境整備(特高変電設備等・植栽その他)	立会調査	111.7㎡		遺構・遺物なし	年報8
02-2-25~ 3-20	0119	(本荘北) 医療用ガス供給設備取設工事	発掘調査	205.8㎡	縄文・古墳・古代	住居址・溝・掘立柱建物址・縄文土器・土師器・須恵器・鉄器	本報告VI
02-3-18	0120	(本荘北) 総合研究棟周辺環境整備工事	立会調査	1,492.7㎡		遺構・遺物なし	年報8
02-3-18	0121	(本荘北) 附属病院西病棟(仕上II) 新築工事	立会調査	1,076.4㎡		溝?・遺物なし	年報8
02-3-22	0122	(本荘北) 附属病院西病棟電気設備工事(仕上II)	立会調査	54㎡		遺構・遺物なし	年報8
<b>2002年度</b>							
02-4-3~4	0201	(黒北) 大学教育研究センターC棟空調機取設工事給排水及び室外機基礎工事	立会調査	29.3㎡		遺構・遺物なし	年報9
02-4-15~16	0202	(黒北) 外灯設備工事	立会調査	199㎡		遺構・遺物なし	年報9
02-4-17	0203	(黒南) インキューベーション施設新築工事	試掘調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報9
02-4-17	0204	(黒南) 総合研究棟新築工事	試掘調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報9
02-4-24	0205	(黒南) 食堂裏エコクリーンツイル工事	立会調査	0.73㎡		遺構・遺物なし	年報9
02-5-20~29	0206	(黒南) 総合研究棟新築に伴う樹木移植工事	発掘調査	28㎡		墓棺	本報告X
02-5-30~8-2	0203	(黒南) インキューベーション施設新築工事	発掘調査	810㎡	近 世	畑址	年報9
02-6-3	0207	(黒南) 総合研究棟新築一次掘削に伴う電気工事	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし	年報9
02-6-12~8-14	0204	(黒南) 総合研究棟新築工事	発掘調査	2,803㎡	縄文・古墳・古代	住居址・溝・火葬墓・縄文土器・土師器・須恵器	本報告X
02-7-2	0208	(黒北) 図書館南側学生部駐車場拡張工事	立会調査	24㎡		遺構・遺物なし	年報9
02-8-29	0209	(京町) 附属小学校スロープ取設工事	立会調査	13㎡		遺構・遺物なし	年報9
02-10-1~ 10-3,11,18	0210	(黒南) 工学部樹木移植工事	発掘調査	61.19㎡		包含層・縄文土器・石獣	本報告X
02-10-7	0211	(本荘北) 医学部総合研究棟新築工事(渡り廊下部分)	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし	年報9
02-12-3/5/11	0212	(黒南) 通用門拡張工事	立会調査	480㎡		遺構・遺物なし	年報9
	0213	(本荘北) 総合研究棟新築電気設備工事	立会調査	216㎡		遺構・遺物なし	年報9
03-2-7	0214	(本荘北) 基幹環境整備外灯工事	立会調査	216㎡		遺構・遺物なし	年報9
03-2-18	0215	(大江) 薬学部実験動物慰霊碑建立工事	立会調査	3.4㎡		遺構・遺物なし	年報9
03-2-21	0216	(黒北) 外灯設備工事	立会調査	18.5㎡		遺構・遺物なし	年報9
03-3-7	0217	(本荘南) 体育部室(プレハブ) 新設工事	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報9
03-3-10	0218	(黒北) 外灯設備工事	立会調査	27㎡	古 代	住居址・土師器・須恵器・砥石	年報9
03-3-11	0219	(本荘南) 塀新設工事	立会調査	36㎡		遺構・遺物なし	年報9
03-3-26	0220	(新南) 教育学部新南農園竹藪・畑地境界掘り	立会調査	40㎡	古 代	住居址・柱穴・溝・古代土師器・須恵器	年報9
<b>2003年度</b>							
03-4-10	0301	(黒南) 工学部薬品庫新設工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-4-10	0302	(黒南) 総合研究棟共同溝設備工事	試掘調査	9.6㎡		土師器	年報10
03-5-20	0303	(黒南) 事務局排水管修理工事	立会調査	16.8㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-6-2~7-2	0304	(本荘北) 基幹・環境整備工事	発掘調査	333.5㎡	縄文・弥生・古墳・古代	住居址・溝・縄文石器・土師器・須恵器・近代陶磁器	本報告IX
03-7-18	0302	(黒南) 総合研究棟共同溝設備工事	立会調査	296㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-8-19	0305	(京町) 附属小・中学校フェンス取設工事	立会調査	44.3㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-8-6~9-12	0302	(黒南) 総合研究棟共同溝設備工事(1区)	発掘調査	168.2㎡	縄文・古代	溝・ピット・土坑・遺物包含層・縄文土器	本報告VII
03-9-4~9-8	0306	(本荘南) 医療技術短期大学部北側駐車場環境整備工事	立会調査	539.2㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-9-5	0307	(薬) 大江総合研究棟給排水管および電気工事	立会調査	7.54㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-9-29	0308	(宇留毛) 小須宿倉1棟揚水管漏水修理工事	立会調査	3.64㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-10-2	0309	(本荘南) 動物慰霊碑新設工事	立会調査	4.02㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-10-1~10-10	0302	(黒南) 総合研究棟共同溝設備工事	発掘調査	253.5㎡	縄文・古代	溝・ピット・陶磁器・土師器・須恵器・縄文土器・石器	本報告VII
03-10-27		(黒北) 教室新築工事	試掘調査	13.75㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-11-6		(薬) 記念館建設工事	試掘調査	7.4㎡	古 代	土師器	年報10
03-11-17~28	0310	(本荘南) 発生医学研究センター施設整備事業	立会調査	557㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-11-26	0302	(黒南) 総合研究棟共同溝設備工事(ガス管)	立会調査	3.6㎡		遺構・遺物なし	年報10
03-12-9		(本荘南) 発生医学研究センター整備事業本体工事	試掘調査	26.58㎡			年報10

03-12-10	0311	〔本荘北〕中央診療棟（軸）設営工事	立会調査	4m		遺構・遺物なし	年報10
04-1-13	0312	薬草園取設工事	立会調査	11.2m		遺構・遺物なし	年報10
04-1-14	0307	〔薬〕大江総合研究棟給排水管及び電気工事	立会調査	45.5m		遺構・遺物なし	年報10
04-1-15～19	0313	〔黒北〕教室新築工事	立会調査	388.8m		遺構・遺物なし	年報10
04-1-23～27	0314	〔本荘南〕医学部B棟・E棟・R1・旧動物舎取壊工事	発掘調査	1,000m	古代	溝・ピット・土師器	本報告Ⅷ
04-1-30	0315	〔本荘北〕東側駐車場整備工事	立会調査	30.7m		遺構・遺物なし	年報10
04-2-9 04-2-16	0316	〔黒南〕理学部4号館周辺プレハブ等設置工事	立会調査	83m			年報10
04-2-23	0317	〔本荘北〕借樹の木移植	立会調査	16m			年報10
04-3-4	0318	〔黒北〕附属養護学校横市道水道修理工事	立会調査	2m		遺構・遺物なし	
04-3-5～9	0314	〔本荘南〕医学部B棟・E棟・R1・旧動物舎取壊工事	発掘調査	1,000m	中世・古代	溝・ピット・陶磁器・土師器	本報告Ⅷ
04-3-9	0319	〔黒北〕井戸改修工事	立会調査	2.3m		遺構・遺物なし	
04-3-9	0320	〔黒北〕福祉施設空調設備取設工事	立会調査	13.19m		遺構・遺物なし	
04-3-10	0321	〔黒南〕外灯設備工事	立会調査	3.4m		遺構・遺物なし	
04-3-10	0322	〔黒南〕総合研究棟外灯設備工事	立会調査	4m		遺構・遺物なし	
04-3-10	0313	〔黒北〕教室新築工事	立会調査	10m		遺構・遺物なし	
04-3-10	0323	〔黒北〕教室新築工事（空調機取設）	立会調査	4.4m		遺構・遺物なし	
04-3-11	0324	〔本荘南〕外灯設備工事	立会調査	4m		遺構・遺物なし	
04-3-11	0325	〔本荘南〕外灯設備工事	立会調査	11.2m		遺構・遺物なし	
04-3-15	0326	〔黒北〕外灯設備工事	立会調査	3.54m		縄文土器片	
04-3-16	0327	〔薬〕外灯設備工事	立会調査	11.8m		遺構・遺物なし	
04-3-17	0323	〔黒北〕教室新築工事（植栽）	立会調査	8.92m	古代	土師器・須恵器片	
04-3-22	0328	〔京町〕教育学部附属小中学校街路灯設備工事	立会調査	7m		遺構・遺物なし	
04-3-19	0329	〔黒北〕消火栓応急処置	立会調査	1.08m		遺構・遺物なし	
<b>2004年度</b>							
04-4-7	0401	黒髪団地北地区教室新築工事（渡廊下設置）	立会調査	33.8m		遺構・遺物なし	年報11
04-4-9		本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事	試掘調査	10.44m	古代	溝？・土師器	年報11
04-4-13～5・31	0402	本荘団地南地区発生医学研究センター建設工事	発掘調査	1,241.8m	古代	土師器・須恵器・縄文土器	年報11
04-5-26		黒髪団地北地区熊本大学大学院社会文化科学研究科研究室新築工事	試掘調査	7.76m	古代	ピット・土師器	年報11
04-5-14 04-10-14	0403	本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事	立会調査	150m	古代	土師器	年報11
04-5-21	0404	薬学部地区植物園支柱ほか設置工事	立会調査	3.3m		遺構・遺物なし	年報11
04-6-25,28	0405	薬学部地区宮本記念館新営機械設備及びその他工事 本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備工事	立会調査 試掘調査	68.48m 10m	古代・縄文	遺構・遺物なし 土師器・縄文土器・土塊	年報11 年報11
04-5-24,26 6-4 10-26～28 11-12,29	0406	薬学部地区宮本記念館（仮称）建設工事（旧建物撤去・樹木撤去・電気配線・給水管配管・ガス配管・樹木移植）	立会調査	1,332.4m		遺構・遺物なし	年報11
04-7-26	0408	宇留毛団地小磯宿舎排水管漏水配管改修工事	立会調査	26.2m		遺構・遺物なし	年報11
04-7-29 04-8-6 04-8-20	0409	黒髪団地北地区記念碑設置工事	立会調査	72m		遺構・遺物なし	年報11
04-8-23		黒髪団地南地区理学部駐輪場取設工事	試掘調査	11m	古代	柱穴・須恵器・土師器	年報11
04-8-9 8-10～11 11-5,11	0410	黒髪団地北地区熊本大学大学院社会文化科学研究科研究室新築工事	立会調査	370m		遺構・遺物なし	年報11
04-8-17～19,23 9-3 9-14～22 05-1-27～	0411	本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備（ポンプ室・R1実験棟取壊・ガス切替・水道プラグ止・周辺設備関連）工事	立会調査 発掘調査	420m		土師器・須恵器・縄文土器・竪穴住居址・溝・ピット	本報告Ⅷ
04-9-16	0412	本荘団地北地区附属病院都市ガス漏配管修理工事	立会調査	5.7m		遺構・遺物なし	年報11
04-9-16	0413	京町地区附属中学校台風被害による倒木起し	立会調査	8m		遺構・遺物なし	年報11
04-9-16	0414	黒髪団地南地区工学部台風被害による倒木起し	立会調査	4m		遺構・遺物なし	年報11
04-9-21	0415	薬学部地区宮本記念館新営機械設備及びその他工事	立会調査	10m		遺構・遺物なし	年報11
04-9-21	0416-1	本荘団地北地区附属病院台風被害による倒木起し	立会調査	8m		遺構・遺物なし	年報11
04-9-21	0416-2	本荘団地南地区医学部台風被害による倒木起し	立会調査	1.5m		遺構・遺物なし	年報11
04-10-12	0417	黒髪団地北地区重要文化財案内板設置工事	立会調査	0.5m		遺構・遺物なし	年報11
04-10-19	0418	黒髪団地北地区夏目漱石記念碑標柱設置工事	立会調査	0.3m		遺構・遺物なし	年報11
04-10-22	0419	本荘団地北地区附属病院福利厚生施設引込配線工事	立会調査	2.23m		遺構・遺物なし	年報11
04-11-1～28	0411	本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備	発掘調査	551m	縄文・古墳・古代	竪穴住居址・掘立柱建物址・溝・土師器・須恵器・縄文土器・鉄器・勾玉・石器	本報告Ⅷ
04-11-26	0420	薬学部地区テニスコート整備工事	立会調査	695m		遺構・遺物なし	年報11
04-11-29	0421	黒髪団地南地区さく井設備工事	立会調査	43m		遺構・遺物なし	年報11
04-12-6	0422	本荘団地北地区中央診療棟（軸）工事	立会調査	66.39m		遺構・遺物なし	年報11
04-12-15		黒髪北地区情報ネットワーク館関連工事	試掘調査	18m	古代	住居址・柱穴・須恵器・土師器	年報11
04-12-24	0423	黒髪団地北地区記念館（木造）取壊工事	立会調査	75.4m		遺構・遺物なし	年報11
05-1-11	0424	本荘団地北地区ポンプ車取設工事	立会調査	14.5m		遺構・遺物なし	年報11
05-2-1～2・7～9	0425	黒髪北地区情報ネットワーク館前工事（配管工事）	立会調査	160.08m	古代	土師器・須恵器	本報告Ⅲ
05-2-21～3・30 5-9～6-10	0425	黒髪北地区情報ネットワーク館建設工事	発掘調査	1,170.4m	古代	土師器・須恵器	本報告Ⅲ
05-2-4,8～9	0426	本荘団地北地区防火水槽取設工事	試掘・発掘調査	84m	近世	溝・土師器・須恵器・馬骨・銅銭	本報告Ⅷ
05-2-4	0427	黒髪団地北地区資料館前水道管漏水修理工事	立会調査	1.5m		遺構・遺物なし	年報11

### 3. これまでの調査と本書収録の遺跡

05-2-21~22	0428	黒髪団地南地区樹木移植工事	立会調査	19㎡			遺構・遺物なし	年報11	
05-2-21	0429	薬学部地区雨水設備工事	立会調査	4.25㎡			遺構・遺物なし	年報11	
05-2-28,3-14,4-1	0430	本荘団地南地区駐車場環境整備工事	立会調査	1,846㎡					
05-3-1	0431	黒髪南地区事務局倉庫新築工事	立会調査	1.2㎡			遺構・遺物なし		
05-3-1	0432	教育学部附属中学校卒業記念植栽等工事	立会調査	0.945㎡			遺構・遺物なし		
05-3-1	0433	教育学部附属幼稚園掲示板設置工事	立会調査	0.81㎡			遺構・遺物なし		
05-3-2	0434	黒髪南地区工学部危険薬品庫改修工事（仮称）	立会調査	192.5㎡			遺構・遺物なし		
05-3-9	0435	黒髪南地区きく井設備工事（追加分）	立会調査	5.6㎡			遺構なし・土師器		
05-3-10,15,16,18	0436	黒髪南地区事務局倉庫改修工事	立会調査	62.14㎡			遺構なし		
05-3-14-16	0437	大江地区薬学部外灯設備工事	立会調査	8.1㎡			遺構・遺物なし		
05-3-22	0438	教育学部附属幼稚園遊具取設工事	立会調査	4.14㎡			遺構・遺物なし		
05-3-23	0439	黒髪南地区樹木植栽工事	立会調査	6㎡			遺構・遺物なし		
05-3-24	0440	教育学部附属中学校洗濯機置き場新設工事	立会調査				遺構・遺物なし		
05-3-24	0441	教育学部附属小学校遊具取設工事	立会調査	2㎡			遺構・遺物なし		
05-3-24	0442	（本荘北）附属病院福利厚生ガス管工事	立会調査	9.18㎡			遺構・遺物なし		
05-3-24	0443	（本荘北）中央診療棟連絡棟Ⅱ管工事	立会調査	0.8㎡			遺構・遺物なし		
05-3-25	0444	黒髪東地区教育学部附属養護学校給水管漏水改修工事	立会調査	1.74㎡			遺構・遺物なし		
05-3-28	0445	黒髪南地区事務局前樹木移植工事	立会調査	3.355㎡			遺構・遺物なし		
<b>2005年度</b>									
05-4-19~20	0501	本荘団地南地区駐車場環境整備工事（追加）	立会調査	28㎡	古 代	土師器・須恵器		年報12	
05-4-27	0502	医学部附属病院排水貯留槽ポンプアップ排水管補修	立会調査	4㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-2-4~6-10	0425	（黒髪）情報ネットワーク館本体工事	発掘調査	1,065.2㎡	縄文・古代	堅穴住居址、掘立柱建物・縄文土器・土師器・須恵器、黒色土器		本報告Ⅲ	
05-5-30, 6-4,5,14	0503	（本荘）発生医学研究センター施設整備事業（外構）	立会調査	2,337.2㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-6-7,10	0504	小碓宿合理設ガス配管漏れ補修・新設工事	立会調査	7㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-6-9,10,12	0505	（医病）基幹・環境整備（設備・曳き家前）	立会調査	55.96㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-6-20	0506	（大江）薬学部テニスコートフェンス取設	立会調査	2.28㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-6-21	0507	（本荘中）敷地境界ブロック改修工事	立会調査	10.5㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-7-8	0508	（黒髪）情報ネットワーク館仮設進入路工事	立会調査	40.9㎡	古 代	土師器・須恵器		年報12	
05-7-13,14 7-19~9-30	0509	（医病）基幹・環境整備（曳き家・移動先）	発掘調査	114.7㎡	縄文・弥生 古墳・古代	住居址・溝・土師器・須恵器		本報告Ⅳ	
05-7-19	0511	本荘団地北地区雨水配管補修	立会調査	7.6㎡	古 代	包含層・土師器・須恵器		年報12	
05-8-1	0512	教育学部附属幼稚園物置設置	立会調査	0.96㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-2~3	0513工①	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	9.7㎡	古 代	土師器・須恵器		年報12	
05-8-2~25	0513理②	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	198.75㎡	古 代	土師器・須恵器		年報12	
05-8-5	0514	医学部南地区テニスコート内給水設備工事	立会調査	19.94㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-5~10	0513工⑤	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	17.8㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-8~18	0513工①	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	発掘調査	80.88㎡	古 代	住居址・土師器・須恵器		年報12	
05-8-18	0515	本荘団地（南地区）駐車場環境整備工事（その2）,追加変更	立会調査	235.98㎡	古 代	住居址・土師器・須恵器		年報12	
05-8-18~23	0515工⑥	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	14.7㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-19~29	0513工③	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-4	立会調査	25.9㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-24	0516	本荘団地中地区外灯設備工事	立会調査	11.4㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-23~29	0513工②	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	17.2㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-25	0513工⑦	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	14.7㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-25	0513工⑧	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	86.1㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-25	0513理③	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	65㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-25	0513理④	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	120.25㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-29~30	0513工④	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	24.6㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-8-30~9-1	0513工⑩	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	20.4㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-9-1~13	0513理①	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-1	発掘調査	67.6㎡	縄文・古代	堅穴住居址、縄文土器・土師器・須恵器		年報12	
05-9-1,20	0517	（医病）基幹・環境整備（曳き家・現在地）	立会調査	133.7㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-9-4,5	0513理⑤	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	48.75㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-9-12~27	0513工⑨	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	43.9㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-9-13	0518	附属病院都市ガス設備改修工事	立会調査	29㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-9-14	0519	（黒髪北）学務部倉庫取設工事	立会調査	157.76㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-9-15	0513工⑩	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-5	立会調査	0.79㎡			包含層・ビット	年報12	
05-9-15	0513工⑤	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	40.5㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-9-15	0520	本荘団地北地区入退院棟前スロープ取設工事	立会調査	17.18㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-9-15	0521	本荘団地（北地区）台風倒木引起し	立会調査	2,355㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-9-16~10-2	0513工⑫	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	97.342㎡	古 代	土師器・須恵器		年報12	
05-9-16	0522	医学部附属病院管理棟屋外給水バルブ取替工事	立会調査	2.25㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-9-27	0523	（医病）中央診療棟（住上）	立会調査	57.6㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-10-11~11-7	0513工⑬	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2, 3	立会調査	150㎡	古 代	住居址・溝・土師器・須恵器		年報12	
05-10-11	0524	本荘団地（北地区）駐車ゲート整備工事	立会調査	261.33㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-10-13,14 17,18	0525	（黒髪）情報ネットワーク設備工事	立会調査	73.6㎡	古 代	柱穴・土師器・須恵器		年報12	
05-10-14	0526	理文調査室内部改修機械設備工事	立会調査	20㎡			遺構・遺物なし	年報12	
05-10-19,20	0527	（黒髪北）文法学部本館スロープ整備工事	立会調査	44㎡			遺構・遺物なし	年報12	

05-10-21	0528	工学部ものづくり実習室新営工事	立会調査	810㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-10-25	0529	(医病) 外来臨床研究棟玄関前環境整備工事	立会調査	381.12㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-10-26	0530	薬学部温床室(苗床温室) 補修工事	立会調査	5.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-11-4	0531	旧情報処理センター屋外階段取設工事	立会調査	9㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-11-7	0532	教育学部附属養護学校給水引き込み漏水補修	立会調査	3.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-11-7	0533	(黒北) ボイラー室給水管補修工事	立会調査	1.1㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-11-16.21	0534	黒髪南地区囲障改修工事	立会調査	124.3㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-11-29 12-15	0513理⑥	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	48㎡	古 代	住居址・柱穴	年報12
05-11-29~ 12-5	0513理⑥	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	発掘調査	24㎡	古 代	住居址・溝・ピット・土師器・須恵器	年報12
05-12-4	0513工④	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	117.4㎡	古 代	土師器	年報12
05-12-7	0513工⑤	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	87㎡	古 代	ピット・土師器・須恵器	年報12
05-12-9	0513工⑨	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	25㎡	古 代	包含層・土師器・須恵器	年報12
05-12-12	0513工⑩	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2, 5	立会調査	㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-12-12	0535	教育学部新南都農場竹藪抜根	立会調査	455.7㎡		柱穴	年報12
05-12-13	0513工21	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	0.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-12-13	0513工22	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-12-13	0513工23	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	87.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-12-13	0513工24	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	18㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-12-14	0513理⑦	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	86.6㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-12-14	0536	医学部弓道場設備工事	立会調査	82.73㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-12-15	0513理⑧	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-1, 2	立会調査	286.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-12-16	0537	理学部プレハブ倉庫新営工事	立会調査	167㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-12-19.21.26 06-1-6~11 2-27-3-2	0538	(黒髪) 情報ネットワーク館設備工事(追加)	立会調査	70.235㎡	古 代	土師器・須恵器	年報12
05-12-22	0539	本荘団地(中地区)ゴミ置場取設	立会調査	48.51㎡		遺構・遺物なし	年報12
05-12-26	0513理⑨	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-1-4~19	0513理⑩	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	発掘調査	89㎡	古 代	住居址・土師器・須恵器	年報12
06-1-5	0513理⑪	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	70㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-1-10.25	0540	本荘団地(南地区)埋設ガスパイプ改修工事	立会調査	61.8㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-1-17	0513工25	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-7	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-1-20	0513工26	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-7	立会調査	708㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-1-26 2-2.10.27	0541	(黒髪南) 理学部駐輪場整備工事(追加・再追加含む)	立会調査	1,110.6㎡	古 代	土師器・須恵器	年報12
06-1-23	0513工27	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-7	立会調査	45.4㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-1-24	0513工28	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	12㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-1-26	0513工29	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	40㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-1-27	0542	(医病) 基幹・環境整備(曳き家・移動経路)	立会調査	146.4㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-1-30	0513工30	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-3	立会調査	656.1㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-2-13	0543	附属病院職員厚生施設園庭整備	立会調査	338.9㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-2-16.3-13	0544	(医病) 基幹・環境整備(設備・曳き家後)	立会調査	39㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-2-17	0545	教育学部附属幼稚園ブランコ用ゴムマット布設	立会調査	12㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-2-24.3-7 3-8.13.16.17	0546	(黒髪) 情報ネットワーク館新営工事に伴う外構工事	立会調査	1837㎡	古 代	住居址・土師器・須恵器	年報12
06-3-10	0547	(黒髪) 北地区学生会館西側バイク置場設置工事	立会調査	48㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-3-13	0548	本荘団地(中地区)渡り廊下設置	立会調査	5.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-3-24	0549	(医病) 外来化学療法センター屋外汚水配管工事	立会調査	1.92㎡		遺構・遺物なし	年報12
06-3-30	0550	芝木補修工事	立会調査	0.91㎡		遺構・遺物なし	年報12
<b>2006年度</b>							
06-4-11	0601	教育学部附属中学校テニスコート移設	立会調査	5.94㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-4-11	0602	(黒髪北) 接地工事	立会調査	6㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-4-11	0603	(黒髪北) 資料館改修工事	発掘調査	32.1㎡	古 代	溝状遺構・ピット 土師器・須恵器	本報告IX
06-4-11~ 4-12	0604	(黒髪北) 資料館改修工事(屋外排水)	発掘調査	25.12㎡	古 代	住居址?・溝状遺構・ピット 土師器・須恵器	本報告IX
06-4-12	0606	工学部研究実験用車庫取設工事	立会調査	490.5㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-4-13	0605	放送大学案内板取設工事	立会調査	1.5㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-4-18.19	0607	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-9	立会調査	5.2㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-4-21	0608	(黒髪北) 前面歩道配管補修工事	立会調査	1.3㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-4-24	0609	理学部駐輪場ガス洩れ補修	立会調査	1.7㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-5-2	0610	教育学部附属小学校遊具新設	立会調査	0.98㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-5-11	0611①	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-5-22.25	0611②	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	129㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-5-22	0612①	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	発掘調査	1.1㎡	古 代	柱穴・土師器	年報13
06-5-22~24	0612②	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-6	発掘調査	24㎡	古 代	柱穴・土師器・須恵器	年報13
06-6-12	0614	(黒髪) 環境安全センター給水配管補修	立会調査	0.57㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-6-19	0613	附属病院中央診療棟新営電気設備工事	立会調査	72.4㎡		遺構・遺物なし	年報13
06-6-22.28 7-3	0615	附属病院中央診療棟新営機械設備(衛生)工事	立会調査	153㎡	古 代	土師器・須恵器	年報13
06-6-27.7-7	0612③	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	21.98㎡	古 代	土師器・須恵器	年報13

### 3. これまでの調査と本書収録の遺跡

06-8-7	0616	教育学部附属中学校給水管補修工事	立会調査	1.7㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-8-11	0617	(黒髪) プール附属家等環境配慮改修(アスベスト処理)工事	立会調査	0.59㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-8-11	0618	医学部附属病院駐車場側溝修理	立会調査	8.75㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-8-21	0619	教育学部附属養護学校屋外人工芝張替その他工事	立会調査	420.51㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-8-24-25	0611③	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-3	立会調査	20.7㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-8-31~9-1	0611④	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	64.1㎡	古 代		溝・土師器	年報13	
06-9-7	0620	教育学部附属小学校プール系統給水漏水補修工事	立会調査	2.8㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-9-11	0611⑤	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-10	立会調査	49.64㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-9-12	0611⑥	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-10	立会調査	140㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-9-14.15	0611⑦	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-10	立会調査	32.96㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-9-20.21	0611⑧	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-10	立会調査	55.1㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-10-2	0611⑨	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	10.5㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-10-2	0621	(黒髪) プール附属家等環境配慮改修(アスベスト処理)工事その2	立会調査	44㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-10-2.16 27.30 11-13	0622	(医病) 環境整備(西側駐車場等)工事	発掘調査	8,077.5㎡ (50.68㎡)	古 代		土師器・須恵器・縄文土器	本報告Ⅶ	
06-10-10.12	0623	黒髪団地外灯取設その他工事	立会調査	26.79㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-10-13	0624	附属病院設備管理棟アキュムレータードレン管漏れ修理	立会調査	2.16㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-10-16	0625	(医病) 基幹・環境整備(外灯)工事	立会調査	296.4㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-10-19	0626	(医病) 基幹整備(ボイラー設備他更新)工事	立会調査	106.7㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-10-25	0627	(大江地区) 雨水設備工事	立会調査	0.24㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-11-2	0628	医学部附属病院管理棟北側外灯撤去工事	立会調査	2.8㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-11-17.27 12-4	0629	(本荘) 医学部保健学科校舎改修電気設備工事	立会調査	239.4㎡	古 代		土師器	年報13	
06-11-20	0630	黒髪南地区工学部通用門周辺植栽	立会調査	15㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-11-30	0631	渡鹿団地防火用水撤去工事	立会調査	56.93㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-12-1	0632	事務局正門樹木植替え	立会調査	3.36㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-12-15.18~ 25.27.28 07-1-4~9	0612④	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-6	発掘調査	162.7㎡	古 代		土師器・須恵器・動物骨	年報13	
06-12-19	0633	本荘北地区南側駐車場歩道環境整備工事	立会調査	2,943.79㎡			遺構・遺物なし	年報13	
06-12-25 07-4-2	0634	(本荘) 医学部保健学科校舎改修機械設備工事	立会調査	113.36㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-1-10.11.19	0635	附属養護学校ガス漏れ緊急立会	立会調査	13.45㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-1-18.22.23	0636	理学部4号館昇降路取設工事	発掘調査	30.35㎡	古 代		土師器・須恵器・礎	年報13	
07-1-30	0637	(本荘) 医学部保健学科校舎改修工事	立会調査	341.2㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-2-1	0638	(宇留毛) コミ置き場取設工事	立会調査	35㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-2-20	0639	(本荘) 医学部保健学科校舎CT用接地工事	立会調査	4.35㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-2-26	0640	黒髪団地北地区知命堂ガス漏れ調査	立会調査	1.52㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-3-1	0641	(本荘中) 医学部門衛所取り壊し工事	立会調査	52.42㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-3-6	0642	宇留毛団地災害復旧工事	立会調査	134.82㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-3-8	0643	(黒髪南) 理学部温室取り壊し工事	立会調査	101.7㎡	古 代		土師器	年報13	
07-3-8	0644	(南地区) 西側田圃改修工事	立会調査	55.28㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-3-12	0645	本荘南地区テニスコート埋設給水管漏水工事	立会調査	7.63㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-3-20	0646	(医病) 環境整備(救急棟改修)機械設備工事	立会調査	5.77㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-3-22	0647	(教) 附属幼稚園田圃改修工事	立会調査	25.7㎡			遺構・遺物なし	年報13	
07-3-26	0648	(医病) 環境整備(山崎記念館外部改修)工事	立会調査	1.15㎡			遺構・遺物なし	年報13	
<b>2007年度</b>									
07-4-10	0701	(教) 附属養護学校東門等改修工事	立会調査	2㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-4-12		(本荘) 医学部図書講義棟新営工事	試掘調査		古 代		溝・柱穴・土器	年報14	
07-4-13	0702	教育学部附属幼稚園保育小屋取設工事	立会調査	18.21㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-4-16.20	0703①	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-6	立会調査	61㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-5-7.8	0704	(黒髪南) 新営工事に伴う樹木移植工事	立会調査	446㎡	古 代		土師器・須恵器	年報14	
07-6-7		(医病) 東病棟新営工事	試掘調査					年報14	
07-6-13	0705	(医病) 東病棟新営に伴う支障配線替工事(電気設備)	立会調査	7㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-6-19.21.27	0703②	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-13	立会調査	469.2㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-6-20	0706	本荘南地区保健学科通用門整備	立会調査	17.4㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-6-20		黒髪北地区総合研究棟新営工事	試掘調査				柱穴・土器	年報14	
07-6-25	0703③	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-13	立会調査	31.4㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-6-26.29 7-10.18.19	0707	(本荘) 医学部図書講義棟新営工事	立会調査	1,590㎡			障害物撤去・一次掘削	年報14	
07-6-28	0708	(黒髪北) 大教センター南側雨水管つまり修理	立会調査	1.5㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-6-29	0709	(本荘北) 仮設渡り廊下取設工事	立会調査	43.5㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-7-3	0703④	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-6.14	立会調査	36㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-7-4	0710	(京町) 教育学部附属小中学校仮設校舎取設工事(変更)	立会調査	40㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-7-9.10	0703⑤	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-6	立会調査	58.75㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-7-17	0711	(医病) 基幹・環境整備(旧中央診療棟取り壊しに伴う電気設備)工事	立会調査	8.34㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-7-17	0703⑥-1	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-13	立会調査	1,576.6㎡			遺構・遺物なし	年報14	
07-7-19	0703⑥-2	(黒髪南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-13	立会調査	300.08㎡			遺構・遺物なし	年報14	



I 構内遺跡と調査の概要

07・7・30-9・3	0707	(本荘) 医学部図書講義棟新営工事	発掘調査	1590㎡	縄文・古代	堅穴住居址、水田遺構・ピット 縄文時代石器・縄文土器・土師器・須恵器・鉄器	本報告Ⅴ
07・8・7	0712	(医病) 東病棟新営工事	立会調査	24㎡		一次掘削	本報告Ⅴ
07・8・10	0713	薬学部屋外給水管漏水修理工事	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・8・22	0714	(黒髮南) 理学部12号館掲示板取設工事	立会調査	15.7㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・8・23	0715	(黒髮南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-19	立会調査	2.09㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・8・27-10・25	0712	(医病) 東病棟新営工事	発掘調査	589.29㎡	縄文・古墳 ・古代・近世	縄文土器・土師器・須恵器・石器・古代鉄器・銅製袴帯・馬骨・宋銭	本報告Ⅴ
07・9・3	0716	本荘南地区駐車場出入口整備	立会調査	294.8㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・9・14-10・3	0717	(医病) 基幹・環境整備(旧中央診療棟取り壊しに伴う機械設備)工事	立会調査	49.4㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・9・25-27-10・2	0703㉔	(黒髮南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-6.16	発掘調査	275.5㎡	古 代	住居土・ピット・土師器・須恵器	年報14
07・9・27-10・1.2	0718	(大江) 薬学部本館耐震改修工事	発掘調査	264.32㎡	古 代	溝・土師器	年報14
07・10・4.15-16.22.25	0719	(京町) 教育学部附属小中学校校舎等改修工事	立会調査	308.68㎡	弥生・古代	ピット・弥生土器 土師器	本報告Ⅴ
08・1・30.31-2・13							
07・10・19	0720	事務局南側等屋外給水管補修工事	立会調査	2.5㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・10・26-11・28	0719	(京町) 教育学部附属小中学校校舎等改修工事	発掘調査	230.3㎡	弥生・古代	堅穴住居・ピット・溝・弥生土器・土師器・須恵器・打製石器	本報告Ⅴ 本報告Ⅵ
07・12・3-12・4.6.7	0721	(京町附属小中) 校舎等機械設備改修	立会調査	1,309.05㎡	弥生・古代 ・近世・近代	堅穴住居・ピット・弥生土器・土師器・須恵器・近世・近代陶磁器	本報告Ⅴ
08・1・18							
07・12・5	0722	(黒髮) 工学部8号館内部改修その他工事	立会調査	97㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・12・5.11	0723	(黒髮) 工学部8号館内部改修電気設備工事	立会調査	14.1㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・12・7.10.12	0724	(本荘中) 工学部基礎研究棟(C棟取り壊し)工事	立会調査	1,000㎡	古 代	土坑・ピット・土師器	年報14
07・12・7	0725	(京町) 教育学部附属小、中学校校舎等改修電気設備工事	立会調査	90㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・12・10.17.18-08・1・16.17	0703㉕-1	(黒髮南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-6.18	立会調査	148.75㎡	古 代?	ピット	年報14
07・12・14-12・27	0721	(京町附属小中) 校舎等機械設備改修	発掘調査	112.65㎡	弥生・古代 ・近世・近代	堅穴住居・ピット・近代土坑・弥生土器・土師器・須恵器・近世・近代陶磁器	本報告Ⅴ
07・12・19	0726	医学部基礎研究棟北側喫煙所	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・1・16.17	0703㉖	(黒髮南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-20	立会調査	94.5㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・1・22	0727	(黒髮) 工学部8号館耐震改修機械設備工事	立会調査	12㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・1・22	0728	(黒髮) 工学部8号館内部改修機械設備工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・1・23	0703㉗-2	(黒髮南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-6.18	立会調査	89㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・1・25	0703㉘	(黒髮南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-10	立会調査	2.04㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・1・29.30	0703㉙-3	(黒髮南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-6.18	立会調査	96.7㎡	古 代	土師器	年報14
08・2・1.4	0703㉚-4	(黒髮南) 工学部他校舎改修施設整備等事業-6.18	立会調査	53.02㎡	古 代	土師器	年報14
08・2・14	0729	(黒髮南) ボイラー等撤去工事	立会調査	38.8㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・2・25	0730	(黒髮東) 教育学部附属特別支援学校防火用水槽撤去工事	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・2・27	0731	(黒髮南) 旧情報処理センター改修	立会調査	11.25㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・2・29	0732	(本荘) 特別高圧受電棟増築工事	立会調査	12㎡		土師器	年報14
08・3・11.26	0733	(医病) 旧中央診療棟取り壊し工事	立会調査	84㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・3・17	0734	(黒髮北) 排水路開口部フェンス設置工事	立会調査	50.3㎡			年報14
08・3・21	0735	医学部保健学科ボイラー用地下重油タンク撤去工事	立会調査	40㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・3・21	0736	(大江北) 薬学部消防用水槽撤去工事	立会調査	73.3㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・3・25	0737	(黒髮南) ボイラー煙突撤去工事	立会調査	208㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・3・27	0738	(本荘南) 医学部保健学科記念碑取設工事	立会調査	1.8㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・3・31	0739	(黒髮北) 出庫注意灯取設工事	立会調査	10.135㎡		遺構・遺物なし	年報14
<b>2008年度</b>							
08・4・2	0801	(医病) 旧中央診療棟とりこわし工事(追加)	立会調査	20㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・5・7	0802	附属中学校散水復旧工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・5・20	0803	薬学部薬草園管理舎ガス管改修工事	立会調査	1.8㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・5・26	0804	(本荘北) 駐輪場取壊し工事	立会調査	11.1㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・6・5	0805	(黒髮南) ボイラー室南側給水管漏水修理	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・6・6.19.23.26-7・4.10.18.28-8・25-12・1.8	0806	(黒髮) 南地区福祉施設支障配管替工事	立会調査	306.46㎡	古 代	土師器	年報15
08・6・20.25-7・1-7・28-30-12・4.18.19	0806	(黒髮) 南地区福祉施設支障配管替工事	発掘調査	125.2㎡	古 代	溝・ピット・土師器・須恵器・近代陶磁器・石器	本報告Ⅵ
08・6・9.10	0807	(本荘) 医学部図書講義棟新営機械設備工事	立会調査	29.7㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・6・18	0808	(黒髮北) 有機系廃液処理施設東側給水管漏水修理	立会調査	0.3㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・6・23-7・1.3.4-7・15-7・16	0809	(黒髮南) 福祉施設樹木移植工事(追加)	立会調査/ 発掘調査	23.5㎡	古 代	溝・住居址・土師器・石器	本報告Ⅵ
08・7・10	0810	宇留毛団地給水管補修工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報15

### 3. これまでの調査と本書収録の遺跡

08・7・11	0811	(黒髪南) 共用棟Ⅱ4階改修電気設備工事	立会調査	3.6㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・7・14	0812	(黒髪南) 掲示板移設工事	立会調査	41.1㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・7・15	0813	(本荘中) 医学部基礎構内都市ガス配管漏れ修理	立会調査	2.42㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・8・18	0814	(医病) 東病棟新営工事	立会調査	8㎡	弥生	溝発見	年報15
08・8・20～ 8・22	0814	(医病) 東病棟新営工事	発掘調査	212㎡	弥生・近世	弥生時代溝・近世溝 弥生土器・石器・近世陶磁器	本報告Ⅷ
08・8・21	0815	(本荘南) こぼと保育園支障基礎等撤去工事	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・8・21	0816	(本荘中) 医学部基礎構内水道配管漏れ修理	立会調査	1.77㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・8・29	0817	宇留毛団地油タンク警報線補修工事	立会調査	0.96㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・9・1	0818	(黒髪北) ポンプ室西側給水管漏水修理	立会調査	2.1㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・9・9.10	0820	(黒髪北) 文法学部本館改修南側支障物撤去工事	立会調査	80.2㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・9・9	0821	(本荘団地(北地区) 看護師宿舎理設ガス管修理	立会調査	7.4㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・10・6	0822	本荘南地区保健学科東側開閉整備	立会調査	30㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・10・9.10～ 11・28	0819	(渡鹿) 体育館耐震改修その他工事	一次掘削/ 発掘調査	694.95㎡	縄文・古墳 ・古代	縄文土器・石器・古墳時代玉・土 師器・石器・人骨	本報告Ⅸ
08・10・10	0823	教育学部附属特別支援学校漏水調査補修工事	立会調査	4.8㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・10・15	0824	(本荘南) 医学部保健学科喫煙所取設工事	立会調査	0.8㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・10・28	0825	(医病) 電力工事負担金	立会調査	120.5㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・10・29	0826	(黒髪南) 共用棟黒髪3樹木伐採・移植工事	立会調査	44.55㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・11・4	0827	五高開校120周年記念植樹	立会調査	0.25㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・11・6	0828	(本荘) こぼと保育園改築電気設備工事	立会調査	10.7㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・11・10	0829	(黒髪北) 学務部プレハブ倉庫改修機械設備工事	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・11・18.19 21.25	0830	(本荘) こぼと保育園新営機械設備工事(変更2)	一次掘削/ 発掘調査 /立会調査	20㎡	近 代	溝	本報告Ⅷ
08・11・18.20 12・24	0831	(渡鹿) 体育館耐震改修機械設備工事	発掘調査	113.3㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・12・1	0832	文法学部講義室北側給水管漏水調査	立会調査	1.04㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・12・3	0833	(黒髪北) 教育学部本館東側汚水枡補修工事	立会調査	1.4㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・12・10	0834	(本荘中) 共用研究棟新営工事(変更)	立会調査	14.13㎡		黒曜石	年報15
08・12・11.15 ～19	0835	(医病) 東病棟新営機械設備(衛生)工事(変更)	一次掘削/ 発掘調査	580㎡		ビット・住居址・土師器・須恵 器・弥生土器・縄文土器・石器・ 鉄器	本報告Ⅹ
09・1・13～2・19							
08・12・22 12・24.25	0836	(黒髪北) 教育学部本館・文法学部本館改修機械設備工事 (変更その1,その2)	一次掘削/ 発掘調査	456.54㎡	古 代	溝・住居址・ビット・土師器・須 恵器・石器	本報告Ⅹ
09・1・5～2・27 3・10							
08・12・24	0837	五高開校120周年記念植樹(追加)	立会調査	0.3㎡		遺構・遺物なし	年報15
08・12・26	0838	(黒髪北) 教育学部本館改修南側耐震補強工事	立会調査	60㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・1・20	0839	(黒髪南) 備蓄倉庫取設工事	立会調査	43.5㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・1・22	0840	(黒髪南) 南地区ボイラー室改修工事	立会調査	5㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・2	0841	(黒髪南) ものづくり実習室Ⅱ新営に伴う支障樹木伐採・移 植工事	立会調査	8㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・4	0842	(本荘) 医学部図書講義棟増築機械設備工事	立会調査	7.2㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・5	0843	(黒髪北) ボイラー煙突撤去工事	立会調査	5㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・12	0844	(黒髪北) 教育学部本館・文法学部本館改修電気設備工事 (変更)	立会調査	9.6㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・12	0845	(黒髪南) 福祉施設新築工事	立会調査	1.6㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・13	0846	(城東町) 附属幼稚園北門改修工事	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・13 2・19	0847-1 ～2	(黒髪北) 教育学部本館改修(変更)	立会調査	130.8㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・23～24 2・27 3・4～ 3・5 3・13	0848-1 ～5	(黒髪北) 文法学部本館改修(変更,変更その2)	立会調査	138.17㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・16	0849	黒髪団地(北地区) 外灯増設その他工事	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・16	0850	(渡鹿) 体育館耐震改修機械設備工事(追加)	発掘調査 (立会調査)	13.32㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・17	0851	(医病) 水路蓋改修工事	立会調査	8㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・18	0852	(黒髪南) 排水ポンプ電源工事	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・18	0853	(黒髪南) ものづくり実習室Ⅱ新営電気設備工事	立会調査	0.5㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・23	0847-3	(黒髪北) 教育学部本館改修(変更その2)	立会調査	244.6㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・24	0854	(黒髪北) 北地区ボイラー室改修工事	立会調査	12㎡		土師器・須恵器	年報15
09・2・26～ 3・12	0854	(黒髪北) 北地区ボイラー室改修工事	発掘調査	106㎡	古 代	ビット・堅穴住居址・遺杖遺構・ 土塚墓・土師器・須恵器・石製紡 錘車	本報告Ⅷ
09・2・26	0855	(黒髪南) 旧情報処理センター改修電気設備工事	立会調査	20.85㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・2・27	0856	(黒髪南) ものづくり実習室Ⅱ新営工事	立会調査	60.99㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・3・3	0857	(黒髪南) 旧情報処理センタースロープ取設工事	立会調査	33.114㎡ (内1.12㎡)		遺構・遺物なし	年報15
09・3・4～6.11	0858	(黒髪北) 教育学部本館改修東側植栽工事	立会調査	117㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・3・6	0859	(黒髪南) 共用棟黒髪3耐震改修機械設備工事	立会調査	3.6㎡ (0.32㎡)		遺構・遺物なし	年報15

I 構内遺跡と調査の概要

09・3・6,13	0860	(黒髪南) ものづくり実習室Ⅱ新営機械設備工事	立会調査	115.54㎡ (17.74㎡)		遺構・遺物なし	年報15
09・3・9～11,17	0861	(黒髪北) 文法学部本館改修東側植栽工事	立会調査	336㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・3・9	0862	(黒髪南) 共用棟黒髪3耐震改修電気設備工事	立会調査	21㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・3・10～11	0863	(黒髪南) ボイラー室他改修機械設備工事	立会調査	98.5㎡ (4.86㎡)		遺構・遺物なし	年報15
09・3・16,23	0864	(黒髪北) 環境整備(排水等)工事	立会調査	119.99㎡		住居址・ピット・土師器	年報15
09・3・17	0865	(黒髪南) 南地区ボイラー室周辺外構工事	立会調査	393.78㎡ (1.12㎡)		遺構・遺物なし	年報15
09・3・23	0866	(黒髪北) 学生会館北側排水等工事	立会調査	18㎡		遺構・遺物なし	年報15
09・3・27	0867	(黒髪北) 北地区ボイラー室周辺外構工事	立会調査	37.24㎡ (16.1㎡)		遺構・遺物なし	年報15
09・3・31	0868	(医病) カーブミラー取設工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報15
<b>2009年度</b>							
09・4・15,17	0901	(黒髪南) 西門改修植栽移植工事	立会調査	18㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・4・20,22, 24,27,30 5・1,25,27,28	0902	(黒髪南) 西門改修工事	立会調査	422㎡		内扉・塀新設に際し黒褐色の住居 址らしき遺構検出 それ以外遺構・遺物なし	年報16
09・4・23	0903	(本荘中) 中地区構内カーブミラー取設工事	立会調査	1.19㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・5・8	0904	(宇留毛) 学生寄宿舎駐輪場新営工事	立会調査	16㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・5・8	0905	(黒髪南) 屋外雨水管改修工事	立会調査	5.8㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・5・27	0906	(大江) 薬学部育英フロンティアセンター新営その他工事	立会調査	0.8㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・5・28	0907	(医病) 基幹整備(電話交換設備更新)工事その1(変更)	立会調査	11.48㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・6・5	0908	(医病) 基幹整備(電話交換設備更新)工事その2	立会調査	1.6㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・6・4	0909	(大江) 薬学部樹木伐採・移植工事	立会調査	10.48㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・6・11	0910	(黒髪北) ガス配管修理	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・7・3 7・22	0911	(大江) 薬学部育英フロンティアセンター新営その他電気設備工事	立会調査	3.24㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・7・6	0912	熊本大学黒髪団地(東地区)インフラ整備	立会調査	1.2㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・7・8	0913	(黒髪北) 非常動講師宿泊施設屋外給水管漏水修理	立会調査	0.6㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・7・8	0913	(黒髪北) 特別支援学校屋外給水管漏水修理	立会調査	0.8㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・7・13	0914	(黒髪北) 文法学部本館耐震ブレース基礎まわり工事	立会調査	3.5㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・7・28	0915	(宇留毛) 留学生宿舎新営電気設備工事(追加その5)	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・8・7	0916	(本荘中) 動物資源開発研究施設棟南側屋外配管漏水修理	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・8・10	0917	(本荘中) 構内通路屋根取設工事	立会調査	0.44㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・9・4	0918	(黒髪北) 教育学部本館文法学部本館Ⅱ期改修機械設備工事	立会調査	50.37㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・9・4	0919	(黒髪北) 文法学部本館Ⅱ期改修外構工事(変更)	立会調査	464.8㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・9・4 10・2・24	0920	(黒髪北) 文法学部本館Ⅱ期改修東側外構工事	立会調査	3.56㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・9・29	0921	(黒髪北) 教育学部本館・文法学部本館Ⅱ期改修電気設備工事	立会調査	8.26㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・10・6	0922	(黒髪南) 工学部研究実験棟準備室A種接地工事	立会調査	3.6㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・10・13 10・27～ 10・30 11・12 11・13	0923	(医病) 東病棟新営機械設備(衛生)工事(変更)	立会調査/ 発掘調査	工区⑩0㎡ ⑨15.9㎡ (0.925含) ⑤⑥一區50㎡ ①5.3㎡	古 代	遺構・遺物なし ピット・住居 土師器環・須恵器蓋	本報告XI
09・10・19 10・23 10・27～30	0924	(医病) 東病棟新営機械設備(衛生)工事 追加その2	立会調査/ 発掘調査	工区⑬39㎡ ④5.4㎡ ⑦25.5㎡ ⑨15.9㎡ (0.923・ 0.925含)	古 代	ピット	本報告XI
09・10・27～30 11・12,13,19 24～26 12・1～3	0925	(医病) 東病棟新営機械設備(衛生)工事 追加その1	立会調査/ 発掘調査	工区⑨15.9 ㎡(0.923 含)⑥7.2㎡ ⑧7.2㎡ ⑩23.7㎡	古 代	ピット・住居址・溝 土師器・高坏 土師器・須恵器	本報告XI
09・10・13,28	0926	(医病) 基幹整備(自家発電設備更新)工事	立会調査	64㎡		土師器	年報16
09・10・20	0927	(黒髪南) ゴミ集積場取設工事	立会調査	9.19㎡		土師器	年報16
09・10・21	0928	(黒髪北) 教育学部本館・文法学部本館Ⅱ期改修機械設備工事	立会調査	3.3㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・10・29	0929	(医病) 第6病棟スロープ取設工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・11・4	0930	(本荘北) 基礎研究棟北側プレハブ小屋改修工事	立会調査	0.9㎡		磁器	年報16
09・11・10 11・18	0931	(医病) 東病棟北側排水管等取設工事	立会調査	14㎡		A・C遺構・遺物なし B住居址・縄文後期土師器・古代土師器・須恵器	年報16
09・11・10 11・30～ 12・3 12・14	0932	(黒髪南) 旧図書館工学部部分室改修工事	立会調査/ 発掘調査	地中築試掘 ピット試掘 0.98㎡ 外溝工事 230.7㎡	古 代	溝 古代土師器・須恵器	本報告Ⅻ
09・12・9	0933	(京町) 附属小学校プール他改修機械設備工事	立会調査	1.8㎡		遺構・遺物なし	年報16
09・12・9	0934	(黒髪南) 旧図書館工学部部分室他改修電気設備工事	立会調査	14.64㎡		遺構・遺物なし	年報16
10・1・7,12,19,28 2・2	0935	(黒髪北) 体育館改修電気設備工事	立会調査/ 発掘調査	423.21㎡	古 代・近 代	ピット 土師器・須恵器・磁器	本報告Ⅻ

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

10・1・12	0936	(医病) 旧こぼと保育園駐車場整備	立会調査	12m		埋莖		年報16	
10・1・13・23	0937	(黒髮南) 旧図書館工學部分室他改修機械設備工事	立会調査	56m		遺構・遺物なし		年報16	
10・1・14 2・17~19	0938	(黒髮南) エコロジーシステム実験室接地工事	立会調査/ 発掘調査	10m	緋文	溝・包含層 縄文土器・弥生土器		本報告VII	
10・1・15	0939	(黒髮北) 教育学部本館Ⅱ期改修西側外構工事	立会調査	12m		遺構・遺物なし		年報16	
10・1・26	0940	(黒髮南) 生物生息環境音響解析室新営工事	立会調査	1m		遺構・遺物なし		年報16	
10・1・29	0941	(黒髮北) 体育館屋外階段改修工事	立会調査	1m		遺構・遺物なし		年報16	
10・1・29	0942	(黒髮北) 体育館屋外配水管改修	立会調査	1m		遺構・遺物なし		年報16	
10・2・2	0943	(黒髮南) 旧図書館工學部分室外構工事	立会調査	7m		V字型遺構(溝?)		年報16	
10・2・8	0944	(黒髮北) 教育学部本館Ⅱ期改修東側外構工事	立会調査	1m		遺構・遺物なし		年報16	
10・2・8	0945	(黒髮北) 教育学部本館・文法学部本館改修機械設備工事(Ⅱ期)	立会調査	3m		遺構・遺物なし		年報16	
10・2・8	0946	(黒髮北) 教育学部本館・文法学部本館改修機械設備工事(Ⅱ期)追加	立会調査	7.2m		遺構・遺物なし		年報16	
10・2・12	0947	(大江) 薬学部講義棟前外灯工事	立会調査	2m		遺構・遺物なし		年報16	
10・2・15	0948	(黒髮南) 教育学部東教室既設駐輪場撤去・新設他工事	立会調査	45m		遺構・遺物なし		年報16	
10・2・15	0949	(黒髮北) 教育学部東教室外構工事	立会調査	0.5m		遺構・遺物なし		年報16	
10・2・15	0950	(黒髮北) 教育学部東教室耐震改修機械設備工事	立会調査	4m		遺構・遺物なし		年報16	
10・2・15	0951	(黒髮北) 教育学部東教室耐震改修電気設備工事	立会調査	0.5m		遺構・遺物なし		年報16	
10・2・22	0952	(黒髮南) 生物生息環境音響解析室新営機械設備工事	立会調査	1.5m		遺構・遺物なし		年報16	
10・2・22	0953	(黒髮南) 生物生息環境音響解析室新営電気設備工事	立会調査	1m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・1	0954	(黒髮南) 環境整備(駐輪場等)工事	立会調査	2m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・1	0955	(黒髮南) 環境整備駐輪場外灯設備工事	立会調査	2m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・2	0956	(本荘中) ボイラー室変電設備改修その他工事	立会調査	2m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・3	0957	(大江北) 薬学部屋外通路屋根取設工事	立会調査	3m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・4	0958	(黒髮東) 教育学部附属特別支援学校小学部遊具設置工事	立会調査	2m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・4	0959	(黒髮北) 教育学部本館B棟配水管・連結送水管工事	立会調査	2m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・5	0960	(本荘北) 医学部駐輪場取設工事	立会調査	17m		遺構覆土検出、計画変更により保存・遺物なし		年報16	
10・3・8	0961	(黒髮南) 備蓄倉庫2取設工事	立会調査	0.83m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・8	0962	(黒髮南) 大学院自然科学研究科実験棟地圏探査工學実験室改修電気設備工事	立会調査	0.7m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・10	0963	(京町) 附属中学校校舎南側雨水管改修工事	立会調査	0.63m	弥生	ビット・浅い窪み 弥生時代瓦棺口縁部		年報16	
10・3・11	0964	(黒髮北) 体育館改修電気設備工事(電柱撤去)	立会調査	12m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・11	0965	(黒髮北) 文法学部本館駐輪場撤去工事	立会調査	0.48m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・12	0966	(黒髮北) 保健センター前屋外消火栓取替工事	立会調査	0.8m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・15	0967	(黒髮南) 事務局来客用駐車場取設工事	立会調査	2.34m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・16	0968	(黒髮北) 共用棟黒髪6揚水設備撤去他給水設備改修工事	立会調査	3.76m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・19	0969	(黒髮東) ソフトテニスコート給水工事	立会調査	0.24m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・23	0970	(京町) 附属中学校教育学部同窓会弔魂碑案内標柱設置工事	立会調査	0.12m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・23	0971	(黒髮北) 文法学部古紙倉庫設置工事	立会調査	1.8m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・26	0972	(本荘南) 保健学科E棟給水配管工事	立会調査	8.7m		遺構・遺物なし		年報16	
10・3・26	0973	(大江北) 薬学部蓄灌館屋外給水配管工事	立会調査	0.34m		遺構・遺物なし		年報16	
<b>2010年度</b>									
10・4・6	1001	(本荘中) ガスメーター付近ガス埋設管漏洩調査	立会調査	3.9m		遺構・遺物なし		年報17	
10・6・25 9・1	1002	(黒髮北) 文法学部本館耐震ブレース設置他工事	立会調査	22m 0.18m		遺構・遺物なし		年報17	
10・6・30	1003	(黒髮南) 生物生息環境音響解析室看板設置工事	立会調査	0.18m		遺構・遺物なし		年報17	
10・8・4	1004	(黒髮北) 守衛室シャワー室改修工事	立会調査	11.04m		遺構・遺物なし		年報17	
10・8・9	1005	(京町) 附属小学校給排水設備工事	立会調査	17m		遺構・遺物なし		年報17	
10・8・10 9・36~10 11・3・4	1006	(黒髮北) 文法学部本館Ⅲ期改修外構工事	立会調査/ 発掘調査	1,211.68m	古代	ビット・住居址・竈粘土 土師器・須恵器		本報告XI	
10・8・10・9・3	1007	(黒髮北) 教育学部本館・文法学部本館Ⅲ期改修機械設備工事	立会調査	48.2m		遺構・遺物なし		年報17	
10・8・11	1008	(黒髮北) 高圧配電線等改修工事	立会調査	13m		遺構・遺物なし		年報17	
10・9・1 9・3	1009	(黒髮北) 教育学部本館・文法学部本館Ⅲ期改修電気設備工事	立会調査/ 発掘調査	1.6m	古代	ビット・遺物なし		年報17	
10・9・15	1010	(城東) 附属幼稚園運動場ガス漏れ修理	立会調査	2m		遺構・遺物なし		年報17	
10・9・24	1011	(黒髮南) 理学部1・2号館中庭植栽	立会調査	2.3m		遺構・遺物なし		年報17	
10・10・4.5.7	1012	(黒髮北) 教育学部本館・文法学部本館Ⅲ期改修機械設備工事(追加)	立会調査	67.7m		遺構なし 土師器片		年報17	
10・10・4.5.7	1013	(黒髮北) 教育学部本館周辺移植等工事	立会調査	82m		遺構・遺物なし		年報17	
10・11・10.11	1014	(黒髮北) 教育学部本館耐震壁設置等工事	立会調査	91.63m		遺構・遺物なし		年報17	
10・10・26 11・2・1.10, 15.22.25 3・23	1015	(黒髮北) 教育学部本館Ⅲ期改修外構工事	立会調査	2,101.01m		遺構・遺物なし		年報17	
10・10・7	1016	(黒髮北) 教育学部浄化槽等撤去工事	立会調査	98.46m		遺構・遺物なし		年報17	
10・12・6	1017	(本荘南) テニスコート整備工事	立会調査	0.25m		遺構・遺物なし		年報17	
10・12・20	1018	(黒髮北) 五高記念館樹木移植工事	立会調査	4m		遺構なし 須恵器・土師器片		年報17	
10・12・20	1019	(黒髮北) 五高記念館便所新営工事	立会調査	5m		遺構・遺物なし		年報17	

10・12・27	1020	(本荘南) テニスコート整備工事 (追加)	立会調査	0.5㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・1・17	1021	(黒髪北) 五高記念館便所新管電気設備工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・1・17	1022	(黒髪北) 五高記念館便所新管機械設備工事	立会調査	20.2㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・1・17	1023	(黒髪南) 西障改修工事	立会調査	6.95㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・2・4	1024	(本荘北) カーブミラー取設工事	立会調査	0.25㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・2・24.25	1025	(本荘中) 医学部基礎研究棟とりこわし支障配管替工事	立会調査	175.5㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・3・2	1026	(黒髪北) 教育学部本館北側排水設備修理工事	立会調査	10.3㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・3・9	1027	(黒髪北) 北地区門衛所太陽光発電設備設置工事	立会調査	9.6㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・3・10	1028	(黒髪北) 教育学部本館正面入口前消火管修理	立会調査	2.7㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・3・16	1029	(本荘北) 学生部室とりこわし工事	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・3・22				0.75㎡			
11・3・17	1030	(黒髪南) 環境整備 (駐輪場等) 工事	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報17
11・3・23	1031	(黒髪北) 教育学部本館西側・文法学部本館北側排水設備改修工事	立会調査	205.7㎡		遺構・遺物なし	年報17
<b>2011年度</b>							
11・4・18.19	1101	(黒髪南) 車庫給水引込管改修工事	立会調査	12㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・5・30	1102	(本荘中) 医学部基礎研究棟 A 棟とりこわし支障配管替工事	立会調査	62㎡ (8.2㎡)		遺構・遺物なし	年報18
11・6・17	1103	(黒髪南) 倒木抜根緊急工事	立会調査	6.6㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・4・6 6・21~ 9・22	1104	(本荘北) 臨床医学教育研究センター (仮称) 整備事業	立会調査/ 発掘調査	試掘31.2㎡ 発掘503.9㎡	古代・近代	住居址・墓塚・ピット 土師器・須恵器・人骨・銭貨・泥 面子・炭棺	本報告IX
11・6・22	1105	(黒髪南) 埋蔵文化財調査室排水取設工事	立会調査	3.5㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・6・24 10・17~19 11・14.10 21.24~25 11・28 12・9.12~14	1106	(本荘中) 医学部基礎研究棟 (A 棟) とりこわし工事	立会調査/ 発掘調査	1.566.04㎡	古墳・古 代・近世	溝・ピット 土師器片・須恵器	本報告IX
11・7・5	1107	(医病) 中庭掘削工事	立会調査	8.9㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・7・11	1108	(黒髪北) 障害者雇用施設改修工事	立会調査	71.3㎡ (3㎡)		遺構・遺物なし	年報18
11・7・11 8・15	1109	(黒髪北) 障害者雇用施設改修機械設備工事	立会調査	50.7㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・7・26	1110	(黒髪北) 五高記念館前樹木シロアリ被害支柱緊急取替え工事	立会調査	3.53㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・8・18	1111	(黒髪南他) 自然科学研究科研究棟・理学部研究棟前通路陥没等補修工事	立会調査	0.46㎡ 15.2㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・9・21.22 26~29 10・4.11 26~28 31	1112	(医病) 基幹・環境整備 (第6病棟等支障配線・配管替え) 機械設備工事	立会調査/ 発掘調査	500㎡	古墳・古 代・近世	竪穴住居址・溝状遺構・ピット 土師器・須恵器	本報告IX
11・9・21	1113	(医病) 基幹・環境整備 (第6病棟等支障配線・配管替え) 工事	立会調査/ 発掘調査	264.83㎡		1112調査地点と同様	本報告IX
11・10・11~13 17.18.11・1.11	1114	(医病) 基幹・環境整備 (第6病棟等支障配線・配管替え) 機械設備工事その2	立会調査/ 発掘調査	184.81㎡	古代・近世	住居址?・溝・ピット 遺物なし	本報告IX
11・9・20	1115	(黒髪北) ラグビー場横給水管補修工事	立会調査	2.3㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・10・24~ 10・27	1116	(黒髪北) 文法学部講義棟便所増築等改修工事	立会調査/ 発掘調査	20㎡	古 代	竪穴住居址?・ピット 古代土師器・須恵器	本報告IX
11・10・24.25 12・12 12・1・27	1117	(本荘中) 医学部基礎研究棟とりこわしに伴う中庭整備	立会調査	491.7㎡		遺構なし 土師器片	年報18
11・11・15	1118	(大江) 電柱支線撤去及び支柱新設	立会調査	0.42㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・11・22 12・14 12・1・17.18	1119	(医病) 基幹・環境整備 (旧中央診療棟等とりこわしに伴う支障樹木移植等) 工事	立会調査	407㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・11・24.25	1120	(医病) 基幹・環境整備 (第6病棟北側平屋部とりこわし) 工事	立会調査	728㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・11・28~ 12・6・4	1121	(黒髪南) 基幹・環境整備 (屋外排水設備等) 工事	立会調査/ 発掘調査	7.748.6㎡	縄文・弥生 中期・古 代・中世 期・近現代	住居址?・土坑・溝・溝状遺構・ ピット・土坑状遺構・細址 (畝) 炭棺・縄文土器片・土師器片・須 恵器片・円礫・黒曜石チップ・黒 曜石片・礫塊石器 (鼓石?)	本報告IX
11・12・5	1122	(医病) 基幹・環境整備 (血液照射管理室とりこわし) 工事	立会調査	165.5㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・12・5 12・2・3	1123	(医病) 基幹・環境整備 (中庭支障樹木撤去) 工事	立会調査	21.6㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・12・9	1124	(黒髪北) 北地区食堂屋外給水管工事	立会調査	1.54㎡		遺構・遺物なし	年報18
11・12・19.20	1125	(大江北) 北門周辺環境整備 (植栽・外灯) 工事	立会調査/ 発掘調査	8.37㎡	古 代	溝 土師器片・敲石・瓦片	本報告IX
11・12・19	1126	(大江北) 北門周辺環境整備 (道路等) 工事	立会調査	4.77㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・1・12	1127	(医病) 設備管理棟ボイラー室ドレン配管他改修工事	立会調査	8.1㎡		遺構なし・土師器片	年報18
12・1・16	1128	(黒髪北) 北地区食堂・保健センター西側ガス配管修理	立会調査	5.22㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・1・17.18.20 2・3.6~7 16.17.20.21.27	1129	(医病) 基幹・環境整備 (旧中央診療棟とりこわし) 工事	立会調査/ 発掘調査	716.0㎡	古墳・古代	溝・土坑・ピット 古代土師器・須恵器・石製品	本報告IX

### 3. これまでの調査と本書収録の遺跡

11・12・9.13.14 12・1・24.26~27 2・8.15	1130	(本荘中) 医学部基礎研究棟 (B・D棟) とりこわし工事	立会調査/ 発掘調査	1,169.6㎡	中世以降	溝・土坑・ピット 土師器片・動物骨	本報告IX
12・1・25	1131	(京町団地) 環境整備 (法面保護) 工事	立会調査	4.3㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・1・31 2・1.6	1132	(医病) 基幹・環境整備 (遊り廊下Cとりこわし) 工事	立会調査	14.6㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・2・8	1133	(本荘中) 医学部旧ボイラー室改修機械設備工事	立会調査	46.5㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・2・16.17 21	1134	(黒髪南) 理学部開場整備その他工事 (その1)	立会調査	747㎡		住居址もしくは溝と思われる遺構 プラン・遺物なし	年報18
12・2・16	1135	(黒髪南) 理学部開場整備その他工事 (その2)	立会調査	1㎡ (1,248㎡)		遺構・遺物なし	年報18
12・2・16.20.21	1136	(黒髪南) 理学部開場整備その他工事 (その3)	立会調査	60.8㎡		住居址か溝? 土師器片・須恵器片	年報18
12・2・20	1137	(黒髪南) 理学部3号館スロープ取設工事	立会調査	115.60㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・2・27	1138	(宇宿毛) 建物名表示看板設置	立会調査	0.49㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・2・27	1139	(黒髪北他) 施設名称サイン設置工事	立会調査	0.63㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・2・28	1140	(京町) 環境整備 (法面整備等) 工事	立会調査	1.8㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・2・28	1141	(京町) 環境整備 (南側開墾) 工事	立会調査	2.0㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・3・7	1142	(大江) 薬草用植物園屋外掲示板設置工事	立会調査	1.6㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・3・12	1143	(本荘中) ガス供給施設取替	立会調査	24.8㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・3・14	1144	(本荘中) エイズ学研究センター・生命資源研究・支援センター・動物資源開発研究施設新館・実験排水槽配管盛り替え工事	立会調査	7.5㎡		遺構・遺物なし	年報18
12・3・26~3・27 4・2.4 8・21~23	1145	(医病) 基幹・環境整備 (第6病棟とりこわし) 工事	立会調査/ 発掘調査	427.30㎡	古代・中世 以降	溝・土坑・ピット 土師器片・瓶の取手・須恵器片	本報告IX
<b>2012年度</b>							
12・4・10	1201	(黒髪南) 事務局南側寄附樹木植栽工事	立会調査	0.9㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・6・13	1202	(京町) 附属小学校給食センター耐震二次診断調査業務	立会調査	7.1㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・6・14.15 6・18 7・9.10 10・15.16	1203	(本荘北) 本荘北地区駐車場配管工事 (新設)	立会調査	159.7㎡		磁器	年報19
12・6・20.29 7・3.26 7・31 8・6.17	1204	(本荘北) 樹木移植等工事	立会調査	1360㎡		磁器	年報19
12・6・19~7・19	1205	(本荘中) 医学部基礎研究棟 (B棟東側) とりこわし工事	立会調査/ 発掘調査	756㎡	古代・近世	溝・ピット・土師器・須恵器・陶 磁器・獣骨	本報告IX
12・6・25	1206	(黒髪北) 五高記念館南側屋外給水管補修他工事	立会調査	1.8㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・6・29 7・3~5	1207	(本荘北) 水銀指定基準超過区域土壌掘削除去に伴う立会調査・発掘調査	立会調査/ 発掘調査	100㎡	古代・近代	堅穴住居址・墓・溝 (保存)・ ピット2・土師器・須恵器	年報19
12・7・9.10	1208	(本荘北) 立体駐車場支障線撤替工事	立会調査	73.7㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・7・6.9.13	1209	(本荘中) 医学部基礎研究棟B棟漏水処置に伴う立会調査	立会調査	9.7㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・7・17	1210	(京町) 附属小学校給水管補修工事	立会調査	3.3㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・7・23.24	1211	(京町) 教育学部附属中学校西側フェンス改修工事	立会調査	3.2㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・7・31	1212	(医病) 西病棟西側道路陥没復旧工事	立会調査	6.9㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・8・17.20	1213	(本荘北) 本荘北地区駐車場既設配管工事	立会調査	468㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・8・16.17.20 9・5	1214	(本荘北) 立体駐車場新営その他工事	立会調査	224.3㎡		磁器・土師器	年報19
12・8・21	1215	(城東) 教育学部附属幼稚園屋外埋設ガス配管改修工事	立会調査	35㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・8・28	1216	(京町) 附属小学校体育館系統排水改修工事	立会調査	395㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・8・30	1217	(医病) 駐車場整備員控室改修機械設備工事	立会調査	4.1㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・9・3.4	1218	(黒髪北) 防災管理システム取設工事	立会調査	100.3㎡		ピット・土器・陶磁器	年報19
12・9・12.13	1219	(大江) 屋外給水管修理	立会調査	39.9㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・9・14	1220	(黒髪北) プール機械室冠水対策工事	立会調査	1.2㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・9・19	1221	(京町) フロック扉改修工事	立会調査	171㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・9・20.21	1222	(医病) 外来診療棟新営機械設備工事	立会調査	40㎡		遺構?	年報19
12・9・26~28 10・1~	1223	(本荘中) 国際先端医学研究拠点施設新営工事	立会調査/ 発掘調査	1059㎡	古代・近世	溝・堅穴住居址・掘立柱建物址・ 土坑・ピット・石製品・土師器・ 須恵器・陶磁器・土製品・鉄製 品・獣骨	本報告IX
12・10・15.23.24	1224	(黒髪南) 理学部温室Aとりこわし工事	立会調査	14.6㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・11・9	1225	(医病) 西病棟西側地盤改良工事	立会調査	31.6㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・11・13	1226	(本荘北) 外来診療棟新営電気設備工事	立会調査/ 発掘調査	2.2㎡		遺構?	年報19
12・11・19.20.21	1227	(本荘北) 立体駐車場新営その他工事 (追加)	立会調査	27.6㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・11・26.27 12・20	1228	(黒髪南) 理学部開場倉庫新営工事	立会調査	27.6㎡	古 代	溝又は住居址?	年報19
12・12・10	1229	(黒髪北) 教育学部本館植栽替工事	立会調査	2.5㎡		遺構・遺物なし	年報19
12・12・18.19	1230	(黒髪北) 教育学部北側調理室改修工事	立会調査	5.2㎡	古 代	ピット・土師器・須恵器	年報19
13・1・28.29	1231	(大江) 薬学部A棟南側池系統屋外給水管改修工事	立会調査	36.3㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・1・30	1232	(大江) 大江地区R I施設屋外給水弁取替工事	立会調査	1.2㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・2・7.8 12.13	1233	(本荘中) 医学部旧ボイラー室煙突撤去工事	立会調査/ 発掘調査	9.3㎡	古 代	ピット・土師器	本報告IX

13・2・21,22	1234	(本荘北) 医学部駐輪場取設工事	立会調査 / 発掘調査	241㎡	古代・近世以降	土坑・土師器・須恵器・磁器	年報19
13・2・21	1235	(医病) 構内ガス管緊急補修工事	立会調査	1.1㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・2・27	1236	(黒髪北) 教育学部喫煙所設置工事	立会調査	0.6㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・2・27	1237	(黒髪南) 理学部3号館南側実験廃棄物置場工事	立会調査	9.0㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・2・28	1238	(黒髪南) 電気自動車車庫新営工事	立会調査	11.2㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・3・5	1239	(医病) 構内ガス管緊急補修工事	立会調査	8.0㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・3・6	1240	(黒髪南) 工学部駐輪場工事	立会調査	2.7㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・3・7	1241	(京町) 教育学部附属小学校校舎AB棟空調設備取設工事	立会調査	27.2㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・3・11,14	1242	(本荘中) 動物資源研究開発研究施設本館重油地下タンク撤去に伴う立会調査	立会調査	29.8㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・3・21,25	1243	(本荘南) 保健学科E棟東側中埋設物撤去工事	立会調査	29㎡		遺構・遺物なし	年報19
13・3・26	1244	(本荘北) 看護師宿舎1階院内保育園改修機械設備工事	立会調査	1.8㎡		遺構・遺物なし	年報19
<b>2013年度</b>							
13・5・21～7・27	1301	(黒髪北) 附属図書館中央館樹木伐採工事	立会調査	298.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・5・21～7・10	1302	(黒髪北) 附属図書館中央館改修機械設備工事	立会調査 / 発掘調査	395.00㎡	古代	住居・柱穴・土師器・須恵器	年報20
13・5・21～6・12	1303	(黒髪北) 附属図書館中央館改修電気設備工事	立会調査	97.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・5・25,31	1304	(黒髪北) 五高記念館前圃水補修工事	立会調査	0.45㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・6・17,21,25	1305	(黒髪南) 国際革新技術研究拠点施設新営に伴う支障樹木移植等工事	立会調査	127.60㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・6・18～7・12	1306	(黒髪北) 附属図書館中央館外構工事	立会調査 / 発掘調査	1,368.00㎡	古代	溝	年報20
13・7・19	1307	(黒髪南) 事務局本館西側側溝補修工事	立会調査	4.10㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・7・19	1308	(大江北) 薬学部倉庫1と1こわし工事	立会調査	47.03㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・8・8～10・4	1309	(黒髪南) 国際革新技術研究拠点施設新営その他工事	立会調査 / 発掘調査	632.00㎡	近現代	畑址・土坑墓・炭骨器・陶磁器・ガラス製品・面子・鉄製品	本報告Ⅲ
13・8・5～15・3・20	1310	(黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事	立会調査 / 発掘調査	5,251.70㎡	縄文・古代近世・近代	住居・柱穴・溝・陶磁器・土師器・須恵器・鉄器・縄文土器・石器・土製品	本書
13・9・24～10・4	1311	(黒髪南) 国際革新技術研究拠点施設新営に伴う支障配管替工事	立会調査	101.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・10・11	1312	(黒髪北) 知命堂給水管漏水補修工事	立会調査	0.815㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・9・13	1313	(黒髪北) テニスコート改修工事	立会調査	6.48㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・9・2	1314	(黒髪北) 知命堂改修工事	立会調査	41.45㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・9・12～14・3・14	1315	(黒髪北・黒髪南) 都市計画事業 中部及び東部処理区雨水吐貯留管(C-3・E-4)築造工事	立会調査	5.60㎡	近世・近代	陶磁器	年報20
13・10・28	1316	(医病) 中央診療棟東側汚水排水取設工事	立会調査	0.50㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・11・1～12・18	1317	(本荘中) 基幹整備(自家発電設備)工事(地下タンク)	立会調査 / 発掘調査	100.10㎡	古代	住居・溝・柱穴・土師器・須恵器	年報20
13・11・1～12・18	1318	(本荘中) 基幹整備(自家発電設備)工事(発電機設備)	立会調査 / 発掘調査	236.40㎡	古代	住居・溝・柱穴・土師器・須恵器	年報20
13・11・1～12・18	1319	(本荘中) 基幹整備(自家発電設備)工事(埋設配管)	立会調査 / 発掘調査	155.90㎡	古代	住居・溝・柱穴・土師器・須恵器	年報20
13・11・20	1320	(医病) 環境整備(東側駐車場等)工事(舗装・構造物関係)	立会調査	3,309.80㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・11・15～14・12・9	1321	(医病) 環境整備(東側駐車場等)工事(入孔・雨水関係)	立会調査 / 発掘調査	989.50㎡	古代	住居・溝・柱穴・土坑	年報20
13・11・15～14・12・2	1322	(医病) 環境整備(東側駐車場等)工事(樹木関係)	立会調査	73.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・11・23	1323	(医病) 作業室改修機械設備工事	立会調査	3.75㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・11・19	1324	(医病) 設備管理棟ボイラー設備等工事(配管工事)	立会調査	17.70㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・11・20～11・13	1325	(医病) 基幹整備(電気設備)工事	立会調査 / 発掘調査	468.10㎡	古代	柱穴・土師器	年報20
13・11・21,22	1326	(医病) 旧電話交換室改修機械設備工事	立会調査	13.78㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・11・21,22	1327	(医病) 旧電話交換室改修工事	立会調査	36.40㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・11・25,26	1328	(医病) 看護師宿舎屋外ガス配管改修工事	立会調査	30.50㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・11・29	1329	(本荘北) 駐車場ゲートインターホン移設工事	立会調査	22.60㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・11・28～14・2・7	1330	(城東町) 教育学部附属幼稚園管理棟等改修その他工事	立会調査	208.49㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・12・9～14・1・14	1331	(本荘中) 国際先端医学研究拠点新営電気設備工事	立会調査	83.51㎡		遺構・遺物なし	年報20
13・12・9,14・2・25	1332	(本荘中) 国際先端医学研究拠点新営電気設備工事	立会調査	75.26㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・1・17～2・12	1333	(医病) 設備管理棟ボイラー設置等工事(重油地下タンク更新・汚染土填除去)	立会調査 / 発掘調査	101.56㎡	古代	柱穴・土師器・須恵器	年報20
14・1・21	1334	(黒髪北・黒髪南) 交通安全施設更新工事	立会調査	1.28㎡	近現代	陶磁器	年報20
14・1・31	1335	(大江北) PHS更改工事	立会調査	0.64㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・5	1336	(城東) 教育学部附属幼稚園管理棟等改修その他工事(機械設備工事)	立会調査	529.10㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・10	1337	(医病) 外来診療棟新営機械設備工事	立会調査	10.62㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・17	1338	(黒髪北) 全学教育棟(C棟)スロープ取設工事	立会調査	57.68㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・17～26	1339	(黒髪北・南) 屋外サイン設置工事	立会調査	196.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・28	1340	(黒髪北) 黒髪北倉庫A(旧外国人宿舎)改修工事	立会調査	39.30㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・21	1341	(京町) 教育学部附属中学校門扉改修工事	立会調査	20.00㎡		遺構・遺物なし	年報20

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

14・2・25 3・13~17	1342	(京町) 教育学部附属小学校体育館改修その他工事	立会調査	48.70㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・12~25	1343	(京町) 教育学部附属小学校体育館改修その他工事(機械設備工事)	立会調査	588.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・24~3・13	1344	(京町) 教育学部附属小学校体育館改修その他工事	立会調査	702.90㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・23~3・12	1345	(本荘中他) 基盤整備(給水設備等)工事(本荘中地区分)	立会調査	909.00㎡	近世	陶磁器・古銭	年報20
14・3・6~3・17	1346	(黒髮南) 総合研究棟(工学系)改修工事	立会調査	29.45㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・6	1347	(黒髮南) 総合研究棟(工学系)改修工事	立会調査	132.90㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・27	1348	(黒髮南) 総合研究棟(工学系)改修電気設備工事	立会調査	48.76㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・27~3・17	1349	(黒髮南) 総合研究棟(工学系)改修機械設備工事	立会調査	365.00㎡	近世・近代	陶磁器・瓦・泥面子	年報20
14・2・28	1350	(京町) 支障樹木撤去	立会調査	57.40㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・10	1351	(京町) 備蓄倉庫新設	立会調査	141.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・2・28	1352	(城東町) 教育学部附属幼稚園ブロック塀改修工事	立会調査	272.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・6	1354	(黒髮北) 黒髮北倉庫A改修機械設備工事	立会調査	0.60㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・6	1355	(黒髮北) 備蓄倉庫新設	立会調査	52.50㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・7	1356	(大江北) 薬学部北門入口胸壁設置工事	立会調査	4.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・7	1357	(大江北) 備蓄倉庫新設	立会調査	24.50㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・7	1358	(大江北) 支障樹木撤去	立会調査	18.80㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・22	1359	(黒髮北) 仮設駐車場取設工事	立会調査	427.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・19	1360	(黒髮北) 重要文化財五高記念館耐震診断業務	立会調査	20.40㎡	近代	陶磁器・瓦	年報20
14・3・19.20	1361	(黒髮南) 重要文化財工学部研究資料館耐震診断業務	立会調査	4.00㎡	近代	陶磁器	年報20
14・3・27	1362	(京町) 教育学部附属中学校卒業記念時計台設置工事	立会調査	4.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
14・3・28	1363	(黒髮南他) 都市ガスメーター取替工事	立会調査	22.00㎡		遺構・遺物なし	年報20
<b>2014年度</b>							
14・4・3	1401	(黒髮北) 附属図書館中央館雨水排水ポンプ増設工事	立会調査	4.41㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・4・11	1402	(大江北) 体育館改修その他工事	立会調査	60.80㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・4・14~16	1403	(大江北) 体育館改修その他工事(機械設備工事)	立会調査	414.00㎡	古代	土師器	年報21
14・4・14	1404	(大江北) 体育館改修電気設備工事	立会調査	44.29㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・4・17	1405	(京町) 教育学部附属中学校卒業記念樹再植樹	立会調査	4.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・4・18.5-19	1406	(本荘中) 国際先端医学研究拠点新営その他工事(外構工事)	立会調査	1,672.70㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・5・30	1407	(京町) 教育学部附属小学校給食センターとりこわしに伴う支障配管撤去工事	立会調査	3.50㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・6・9	1408	(黒髮南) 本部(旧事務局本館)基礎調査	立会調査	21.00㎡	近代	赤煉瓦基礎	年報21
14・6・24	1409	附属幼稚園プール遮光ネット取付	立会調査	1.80㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・6・20	1410	(黒髮北) 附属図書館中央館看板補修工事	立会調査	0.50㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・6・19.26	1411	(京町) 教育学部附属小学校給食センターとりこわし工事(機械設備)	立会調査	16.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・6・19.26	1412	(京町) 教育学部附属小学校給食センターとりこわし工事	立会調査	396.70㎡		土師器	年報21
14・7・8.14	1413	(医病) 中央診療棟東側環境整備工事	立会調査	225.40㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・7・8.14	1414	(医病) 中央診療棟東側環境整備(機械設備)工事	立会調査	21.60㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・7・25	1415	(黒髮北) 体育館改修電気設備工事(仮設電源)	立会調査	2.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・9・4~ 15・4・15	1416	(黒髮北) 武道場等改修機械設備工事	立会調査	1,087.30㎡	古代・近世	ビット、須恵器、土師器・陶磁器・鉄器	年報21
14・9・11~ 15・6・10	1417	(京町) 教育学部附属小学校校舎新営その他工事(建築工事)	立会調査/ 発掘調査	747.90㎡	弥生・古代・近世・近代	住居・溝・ビット・建物基礎、弥生土器・土師器・陶磁器	本報告XI
14・9・16~11・20	1418	(黒髮南) 国際革新技術研究拠点施設新営機械設備工事	立会調査	532.00㎡	近現代	土坑墓・墓石・骨壺、陶磁器	年報21
14・10・10.14	1419	(黒髮南) 国際革新技術研究拠点施設新営電気設備工事	立会調査	49,388㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・10・14	1420	(本荘南) 体育館改修機械設備工事	立会調査	26.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・10・14.15	1421	(本荘南) 体育館改修工事	立会調査	320.02㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・10・14	1422	(本荘南) 体育館改修電気設備工事	立会調査	6.48㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・10・16~ 15・9・2	1423	66kV 銀座橋熊大医学部線給電 OF ケーブル改修工事	立会調査/ 発掘調査	148.26㎡	古代	溝、土師器・須恵器	年報21
14・10・29~11・26	1424	(医病) 枯木徐根伐採業務	立会調査	21.16㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・11・21~ 15・7・29	1425	(本荘北) 臨床研究棟新営その他工事(地下躯体撤去・擁壁設置)	立会調査	1,655.00㎡	古代・近世・近代	住居・溝・ビット・建物基礎、土師器・須恵器	本報告XI
14・11・17.12.24~ 15・11・2	1426	(本荘北) 臨床研究棟新営その他工事(本体工事)	立会調査/ 発掘調査	2,141.00㎡	古代・近世・近代	住居・溝・ビット・建物基礎、土師器・須恵器	本報告XI
14・11・18	1427	(黒髮北) 体育館改修工事	立会調査	811.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・11・19	1428	(京町他) 教育学部附属教育実践総合センター等外部改修工事	立会調査	7.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・12・12~ 15・7・24	1429	(黒髮南) 本部樹木等撤去その他工事	立会調査/ 発掘調査	282.40㎡	古代・近世・近代	住居又は溝・ビット・赤煉瓦基礎、土師器・須恵器・陶磁器	年報21
14・12・12~ 15・7・24	1430	(黒髮南) 本部屋外スロープ取設工事	立会調査/ 発掘調査	195.77㎡	古代・近世・近代	赤煉瓦基礎、土師器・須恵器・陶磁器	年報21
14・12・15・16	1431	(京町) 教育学部附属小学校校舎新営その他電気設備工事	立会調査	12.50㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・12・18~ 15・6・24	1432	(医病) 管理棟改修その他工事(撤去)	立会調査	279.70㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・12・19	1433	(医病) 案内板設置業務	立会調査	2.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・12・22	1434	(黒髮南) 黒髮南 S1 等太陽光発電システム基礎設置その他工事	立会調査	77.90㎡	近代	土器片、建物基礎	年報21
14・12・22 15・1・16	1435	(黒髮南) 黒髮南 S1 等太陽光発電システム基礎設置その他工事(電気設備)	立会調査	46.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
15・1・7~6・2	1436	(黒髮南) 本部エレベーター棟増築工事	立会調査/ 発掘調査	60.30㎡	古代・近世・近代	赤煉瓦基礎、土師器・須恵器・陶磁器	年報21



I 構内遺跡と調査の概要

15・1・14～9・7	1437	(黒髮南) 本部改修その他機械設備工事	立会調査/発掘調査	102.0㎡	古代・近世・近代	赤煉瓦基礎、土師器・須恵器・陶磁器	年報21
15・2・9	1438	(黒髮北) 総合研究棟(教育学系)改修その他工事	立会調査	159.10㎡		遺構・遺物なし	年報21
15・2・9～27	1439	(黒髮北) 総合研究棟(教育学系)改修機械設備工事	立会調査	73.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
15・2・10・3・4	1440	(黒髮北) 体育館改修電気設備工事	立会調査	85.80㎡		遺構・遺物なし	年報21
15・2・12	1441	(本荘北) 臨床研究棟新営機械設備工事	立会調査	40.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
15・2・25～7・3	1442	(医病) 管理棟改修その他工事	立会調査	563.40㎡		遺構・遺物なし	本報告Ⅻ
15・2・26～4・16	1443	(京町) 教育学部附属小学校新営その他機械設備工事(その2)	立会調査	241.80㎡	弥生	溝・ピット、弥生土器	本報告Ⅻ
15・2・27	1444	(黒髮北) 法学部サークル棟新営その他工事	立会調査	64.80㎡		遺構・遺物なし	年報21
15・3・2～3・6	1445	(黒髮北) 環境整備(駐車場等)に伴う樹木等移植業務	立会調査	86.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
15・3・18～23	1446	(黒髮北) 環境整備(駐輪場等)工事	立会調査	194.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
15・3・3	1447	(黒髮他) 屋外サイン設置工事(大江)	立会調査	32.60㎡		土師器	年報21
15・3・4	1448	(黒髮他) 屋外サイン設置工事(黒髮)	立会調査	57.80㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・12・24	1449	(黒髮北) 全学教育棟屋外ガス漏洩補修工事	立会調査	3.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
15・3・16	1450	(渡鹿2) 渡鹿宿舎駐車場増設工事	立会調査	213.60㎡		遺構・遺物なし	年報21
14・5・2	1451	(本荘南) ポンプ室設置及び給水設備取替工事	立会調査	180.00㎡		遺構・遺物なし	年報21
<b>2015年度</b>							
15・5・11	1501	(黒髮北) 五高記念館前庭植栽除根業務	立会調査	30.00㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・5・18,19 16・11・4	1502	(本荘北) 臨床研究棟新営電気設備工事	立会調査	77.87㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・5・20,21	1503	(本荘北) 臨床研究棟新営機械設備工事(その2)	立会調査	19.00㎡	古代	土師器・瓦	年報22
15・5・18～7・28	1504	(本荘北) 臨床研究棟新営機械設備工事(その3)	立会調査	485.00㎡	古代・近代	住居・溝・土坑・ピット・建物基礎、土師器・須恵器	本報告Ⅻ
15・6・12～7・29	1505	(医病) 管理棟改修機械設備工事	立会調査	349.00㎡	古代・近世	土師器・陶磁器	年報22
15・6・29	1506	(黒髮南) 黒髮南C7 6階実験室電源その他工事	立会調査	40.80㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・7・30	1507	(黒髮北) 北地区学生会館A棟前舗装補修工事	立会調査	150.00㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・8・7,12・18	1508	(黒髮北) 校舎(旧北地区食堂)改修工事	立会調査	36.70㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・8・20	1509	(大江北) A棟北側屋外給水管修理工事	立会調査	28.00㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・9・11	1510	(黒髮南他) 台風15号に伴う樹木復旧作業(黒髮)	立会調査	42.30㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・9・14	1511	人文社会科学奨励所設置工事	立会調査	12.06㎡	古代	土師器・須恵器	年報22
15・9・15	1512	(黒髮南他) 台風15号に伴う樹木復旧作業(大江)	立会調査	14.00㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・9・28	1513	(本荘北) 臨床研究棟新営仮設電柱建柱工事	立会調査	9.00㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・10・26～29・3・1	1514	(黒髮北) 校舎(旧北地区食堂)改修機械設備工事	立会調査	78.90㎡	古代	住居・溝・ピット、土師器・須恵器	本報告Ⅻ
15・11・26	1515	(黒髮北) 北地区学生会館中庭インターロッキングブロック復旧工事	立会調査	19.60㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・11・26	1516	(黒髮北) 黒髮北E1(全学教育棟)西側インターロッキングブロック復旧工事	立会調査	27.30㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・11・30	1517	(宇留毛) 寄宿舎共通棟男子浴室等改修機械設備工事	立会調査	9.2㎡		遺構・遺物なし	年報22
15・12・8	1518	(本荘北) 屋外サイン設置工事	立会調査	32.5㎡	古代	土師器・須恵器	年報22
15・12・7,9,16	1519	(本荘中他) 屋外サイン設置工事	立会調査	54.4㎡		遺構・遺物なし	年報22
16・1・4,6,12	1520	(黒髮北他) 電力デマンド等計測システム(電気・ガス・水道)取設工事(黒髮)	立会調査	172.50㎡		遺構・遺物なし	年報22
16・1・14	1521	(黒髮北) 武夫原廻り(五高記念館側)フェンス復旧工事	立会調査	5.88㎡	近代	遺構・遺物なし	年報22
16・1・18,19	1522	(黒髮北他) 電力デマンド等計測システム(電気水・ガス)取設工事(大江)	立会調査	40.3㎡		遺構・遺物なし	年報22
16・3・11	1523	(黒髮南) 黒髮南W7排水設備改修工事	立会調査	10.60㎡		遺構・遺物なし	年報22
16・1・5～2・29	1524	(黒髮北) 校舎(旧北地区食堂)改修工事(外構工事)	立会調査	412.30㎡	古代	住居・溝・ピット、土師器・須恵器	本報告Ⅻ
16・1・25,2・12	1525	(黒髮北他) 電力デマンド等計測システム(電気・水・ガス)取設工事(本荘中他)	立会調査	93.50㎡		遺構・遺物なし	年報22
16・1・28	1526	(京町) 教育学部附属教育実践総合センター東側プレハブ倉庫復旧工事	立会調査	119.1㎡	弥生	弥生土器	年報22
16・2・4	1527	(黒髮北他) 電力デマンド等計測システム(電気・水・ガス)取設工事(本荘北)	立会調査	12.00㎡		遺構・遺物なし	年報22
16・2・12～22	1528	(黒髮北) 総合研究棟(黒髮北N9)改修工事	立会調査	311.00㎡	近代	赤煉瓦基礎	本報告Ⅻ
16・2・12	1529	(黒髮北) 総合研究棟(黒髮北N9)改修電気設備工事	立会調査	35.20㎡		遺構・遺物なし	年報22
16・2・12,19	1530	(黒髮北) 総合研究棟(黒髮北N9)改修機械設備工事	立会調査	22.00㎡		遺構・遺物なし	年報22
16・2・3	1531	(大江北) 審議館東側埋設ガス管漏洩修理工事	立会調査	2.00㎡		不明遺構・	年報22
16・3・7,8	1532	(本荘南) 駐車場拡張工事	立会調査	80.00㎡		遺構・遺物なし	年報22
<b>2016年度</b>							
16・8・8	1601	(黒髮南) E9取り壊しに伴う支障配管撤去工事	立会調査	1.53㎡		遺構・遺物なし	年報23
16・9・12	1602	(宇留毛) 国際交流会館A・B棟北側中庭陥没補修工事	立会調査	44.73㎡		遺構・遺物なし	年報23
16・11・4	1502	(本荘北) 臨床研究棟新営電気設備工事	立会調査	12.54㎡		土師器	年報23
16・11・9	1603	(黒髮) 台風15号に伴う斜木の木起こし業務	立会調査	42.16㎡		遺構・遺物なし	年報23
16・11・10	1604	(黒髮北) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	86.25㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・1・16～17	1605	(黒髮南) 黒髮南C2改築に伴う仮設駐車場整備工事	立会調査	123.22㎡		遺構・遺物なし	年報23
16・12・1	1606	(黒髮南) 黒髮南C2改築に伴う仮設校舎取設工事(電気その1)	立会調査	11.87㎡		遺構・遺物なし	年報23
16・12・5	1607	(黒髮南) 黒髮南C2改築に伴う仮設駐車場整備工事(その1)	立会調査	0.48㎡		遺構・遺物なし	年報23
16・12・5	1608	(黒髮南) 黒髮南C2改築に伴う仮設駐車場整備工事(その2)	立会調査	2,465.00㎡		遺構・遺物なし	年報23

### 3. これまでの調査と本書収録の遺跡

16・12・6	1609	(黒髮南) 黒髮南 C2仮設校舎取設工事(機械その1)	立会調査	335.00㎡		遺構・遺物なし	年報23
16・12・16, 27, 17・2・1	1610	(京町) 教育学部附属小学校仮設校舎取設工事	立会調査	416.10㎡		弥生土器	年報23
16・12・20~28	1611	(黒髮南) 黒髮南 C2改築に伴う仮設駐車場整備工事(その4)	立会調査	11.35㎡	古代・近代	住居?・土師器・須恵器・石器・磁器	年報23
17・1・16	1612	(黒髮北) 屋外市水管逆止弁取付工事	立会調査	5.37㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・1・18	1613	(黒髮南) 黒髮南 C2仮設校舎取設工事(機械その2)	立会調査	623.00㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・1・18	1614	(黒髮南) 黒髮南 C2改築に伴う仮設校舎取設工事(電気その2)	立会調査	45.80㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・1・18	1615	(大江) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	96.25㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・1・19	1616	(新南郡) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	32.50㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・1・23	1617	(宇留毛) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	106.50㎡		弥生土器	年報23
17・1・23	1618	(本荘北) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	19.50㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・1・23	1619	(本荘中・南) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	8.50㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・1・26	1620	(京町) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	10.25㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・1・30	1621	(黒髮南) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	41.75㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・1・30	1622	(渡鹿) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	15.25㎡		遺構・遺物なし	年報23
13・2・1	1623	(京町) 教育学部附属小学校仮設校舎取設に伴う支障配管替え工事	立会調査	62.3㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・2・6	1624	(医病基幹・環境整備(旧管理棟等支障配管替)工事	立会調査	220.50㎡	近世?	土師器・須恵器・陶器	年報23
17・2・7~8	1625	(黒髮南) 理学部開場樹木切り株撤去工事	立会調査	56.00㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・2・10	1626	(医病) 枯木樹木伐根業務	立会調査	7.10㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・2・14・22~ 24	1627	(宇留毛) 環境整備(擁壁)災害復旧工事	立会調査	157.15㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・2・15	1628	(本荘南) 本荘南1等給水管設備改修工事	立会調査	1,015.80㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・2・28	1629	(大江南) 薬草園給水管修理工事	立会調査	1.00㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・3・1, 17	1630	(渡鹿) 渡鹿住宅2号棟屋外ガス管補修工事	立会調査	20.1㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・3・2	1631	(医病) 木工室他給水管盛替工事	立会調査	7.00㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・3・6, 9	1632	(黒髮北) 給水ポンプ室東側フェンス設置工事	立会調査	3.04㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・3・13	1633	(本荘中) 本荘中5災害復旧工事	立会調査	271.00㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・3・14	1634	(黒髮南) コンプレッサー保管庫設置	立会調査	12.28㎡		遺構・遺物なし	年報23
17・3・22	1635	(大江北) 薬用植物園北側樹木移植業務	立会調査	15.25㎡		遺構・遺物なし	年報23

## II 黒髪南地区の調査



# 1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

## (1) 調査の目的と経過

### ① 調査の目的とこれまでの調査成果

本調査は熊本大学(黒髪南)ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査である。その工事内容は、給排水・ガス管の埋設、排水設備としてのU字側溝や浸透井戸、検水槽の設置、換気口やごみ置き場設置、アスファルトやインターロッキング舗装など様々である。調査地点のある黒髪地区は、熊本市街地の北東に位置する立田山と阿蘇に水源を持つ白川にはさまれ、この白川により運ばれた土砂が扇状地形に堆積した砂礫層を基盤としており、河川の両岸に堆積した「自然堤防」上に立地する(図1)。本調査地点は黒髪南地区の東側で、調査範囲の多くは理学部校舎間の道路・駐車場部分に相当する(図2)。

黒髪地区は黒髪町遺跡群(熊本市埋蔵文化財包蔵地図No.8-88)に含まれ、縄文時代早期～晩期の土器・石器出土、弥生時代中期の甕棺墓や奈良・平安時代の集落址が存在している。また、本敷地は明治39年(1906)に第五高等学校の工学部が独立して新設された熊本高等工業学校の敷地を含んでおり、近年では本部周辺の改修工事の事前調査である1429他調査地点において明治期の赤煉瓦基礎が発見されたほか、1309調査地点において熊本監獄・刑務所の囚人墓が確認されるなど、近代の遺跡についても注目を浴びてきている(山野編2016、山野・柴田編2018)。

従前の調査では、本調査地点の北側にあたる9810調査地点(現自然科学研究科・理学部総合研究実験棟)において7世紀後半から～9世紀にかけての20基以上の竪穴建物や柱穴、古代や近世の溝が検出された(小畑編2009)。竪穴建物は少なくとも3時期にわたって形成されていたことが判明している。また、本調査地点の西側にあたる9412調査地点(現工学部研究棟)でも、古代の竪穴建物が複数基見つかる等している(小畑他編2003)。このように従前の調査によって、調査区周辺には奈良・平安時代の集落があったことが判明したほか、近世の溝などの遺構が存在することが明らかとなっている。また、本調査地点の東側にあたる9911調査地点では古代の遺構の検出面である地山と認定されていた褐色砂層中から縄文時代後期の土器が出土した(大坪編2014)。9412調査地点や9810調査地点でも縄文時代後期前半～晩期初頭の土器や、石鏃、石斧などが古代の包含層あるいは遺構中から出土している。この様相は黒髪地区の複数の調査地点で確認でき、明確な縄文時代遺物を含む文化層または遺構が確認できないながらも、褐色砂層中より少量の遺物が散発的に出土するという傾向は調査以前に把握されていた。しかし、一定の深度まで掘り下げると褐色砂層の下からは、砂が硬質化したブロック(砂質ブロック)や硬質砂層が検出されるため、当センターや熊本県下でもこれらを地山とみなしており、この土層から下位の発掘調査が実施されることはほぼなかった。

### ② 調査の経過

従前の調査成果を鑑みて熊本市教育委員会より工事立会での回答があった。当センターの大坪志子が発掘担当者となり、2013年8月5日より調査を開始した。1310調査地点の調査範囲は現状、理学部棟周辺の道路や駐車場あるいは緑地として利用されていた。調査範囲は南北約270m、東西約180mと広域であるため、調査区をI～VI区の6つの地区に大きく分けて、必要に応じて枝番号を付すこととした(図2・3)。調査開始直後のI区の掘削で古代の遺構が検出されたことから、熊本市教育委員会文化課に連絡し、埋蔵文化財保護法第92条を提出、8月8日に発掘調査に切り替えた。調査範囲が

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

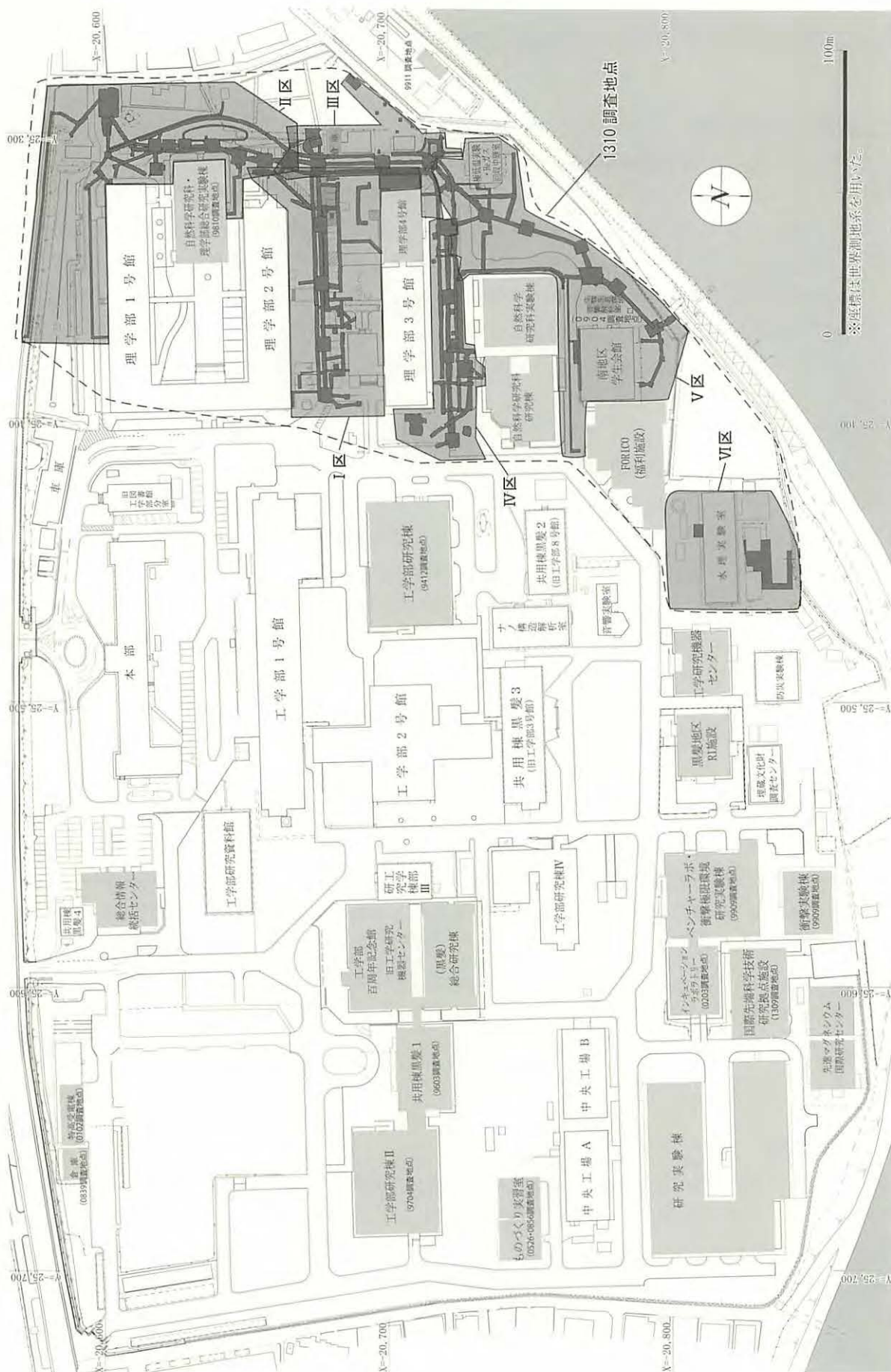


図2 黒髪南地区における調査地点位置図 (S= 1/2,000)

広く、遺構の密度が高かったため、調査を迅速化するために8月19日から株式会社九州文化財研究所に委託し、発掘調査員を補充した。2013年10月16日からは大坪に代わり山野ケン陽次郎が発掘調査担当者となり、新たに株式会社有明測量開発社に委託し、発掘調査員を補充した上で調査を継続した。

本調査地点では、重機による一次掘削で近代の攪乱埋土を除去し、古代の遺物包含層から調査を実施した。まれに近世・近代の重要と思われる遺構や遺物を検出した際は、これらの調査も簡易的におこなった。本発掘調査では施工工程、車両や人の動線の確保、廃土置場の都合上、広い範囲を一度に調査することはできなかった。その上、熊本高等工業学校時代からの配管や基礎などが土中に多く埋もれており、とくに支障配管の対処には苦悩した。工事の進捗状況によっては発掘調査を停止せざるを得ない事態も生じ、発掘調査、工事ともに大変な手間と時間を要した。さらに施工予定深度によっては、掘削が現代埋土内におさまる調査区もあれば、奈良・平安時代あるいは縄文時代の文化層まで調査が必要な調査区もあった。上記の理由により、調査の早い段階で当初予定していた工期内に発掘調査を終えることが困難であることが想定された。そこで大学の施設部と連携をとり、発掘調査および工事の工程を定期的に組み直し、常時、発掘調査員の補充をおこなうことで、複数の調査区を同時に調査しながら、センター発掘担当者が全体を統括した。

発掘調査では従前の調査結果から、古代と近世の調査が主体になると考えられていた。実際、浅い場所では地表下20～30cm程で古代の遺物包含層が検出でき、堅穴建物やピットなど遺構の密度も高かった。しかし、Ⅲ1区において近世および古代の溝の調査中、縄文時代の土器が出土したことで状況が一変した。従来は地山と考えられていた褐色砂層中に縄文土器が含まれることが明確となった。この褐色砂層を掘り下げたところ、出水式や御手洗A式など縄文時代後期前葉を主体とする土器が大量に出土した。従前の調査では明確に把握できていなかった縄文時代後期の遺物包含層を褐色砂層中に認識できたのである。この調査成果を契機に、以後褐色砂層まで施工深度がおよぶ調査区については、本層を人力で掘削し、遺物の取り上げを実施した。こうした事情から、縄文時代の遺物包含層を認識した2014年2月18日以前に調査した施工深度の深い調査区（Ⅰ1～7区、Ⅱ1～4区、Ⅲ5区、Ⅳ2～8区、Ⅴ10区など）については、古代の遺構の調査は実施できたが、縄文時代の遺物包含層を一部破壊してしまった可能性があることを明記しておく。

また、2014年4月にはⅤ11区において新たに重要な成果が上がった。褐色砂層のさらに下位、地表下2.1m程（標高約17.00m）より縄文時代の人骨が発見されたのである。加えて、同レベルで遺物包含層も確認できた。褐色砂層の下位には砂が硬質化した砂質ブロックが一面に広がっており、従前の熊本市内の調査ではこの下位から文化層が確認された事例はほぼなかった。縄文人骨はこの硬質砂層で覆われ、土坑墓や配石墓に埋葬されていた。発掘調査や工事の進捗に遅れがあったものの、貝塚や洞穴遺跡ではなく、人骨が残りづらい平野部での縄文時代人骨の発見ということもあり、本遺跡は学術的に価値が高く、入念な調査が必要であると考えた。そのため2014年4月28日、調査担当者は本学施設部工事担当者との話し合い後、熊本大学学長、施設ユニット長、広報ユニット長との面談を実施した。この際、遺跡の重要性について本学学長の理解を得て、特別に学長裁量経費を取得し、本遺跡の調査・研究体制を整えた。工事の進捗に影響のないよう、熊本大学文学部歴史学科考古学研究室の院生・学部生を臨時で雇用し、調査に参加してもらった。また、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏とNPO法人・人類学研究機構の松下真実氏に依頼し、縄文人骨について取り上げと調査を実施した。5月27日にはテレビ放送局、新聞社に対してプレスリリースをおこない、5月29日に熊本大学本部で記者会見を開いた。5月31日には現地説明会を実施し、300名を超える見学者が大学内外から訪れた。

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

調査はその後も継続し、2015年3月20日で終了した。本発掘調査では縄文時代、奈良・平安時代、近世、近代の遺構・遺物が確認されている。予算や時間の都合から本報告ではこのうち縄文時代に関わる調査成果のみを掲載している。奈良・平安時代以降の調査成果については次年度以降の報告書に掲載する予定である。以下、縄文時代に関連する調査経過の概要を記す。

- 2013年8月5日 大坪が発掘担当者となり調査開始。Ⅰ区の重機による表土掘削の立会開始。
- 2013年8月8日 埋蔵文化財保護法第92条を熊本県、熊本市へ提出。発掘調査に切り替わる。
- 2013年8月19日 石橋和久氏・中村幸史郎氏 (株式会社九州文化財研究所) が調査に参加開始。
- 2013年9月6日 西谷彰氏 (株式会社九州文化財研究所) が調査に参加開始。
- 2013年9月11日 Ⅱ区の調査開始。
- 2013年10月16日 大坪に代わり山野が発掘担当者となる。
- 2013年10月23日 宮崎敬氏 (株式会社有明測量開発社) が調査に参加開始。
- 2013年11月7日 Ⅴ区の調査開始。
- 2013年11月19日 Ⅳ区の調査開始。
- 2013年12月2日 浦辻栄治 (当センター発掘調査員) が調査に参加開始。発掘作業員を増加。
- 2013年12月16日 Ⅴ5区においてヒューム管理土中より「焼夷弾」が出土。
- 2013年12月17日 Ⅴ5区の焼夷弾の処理のため熊本県北警察署に連絡、対応。
- 2013年12月28日～2014年1月5日 冬期休業。
- 2014年1月6日 調査再開。Ⅲ区の調査開始。
- 2014年2月19日 Ⅲ1区の古代の溝の掘削中に、掘方壁面より縄文土器片を数点検出。
- 2014年2月24日 Ⅲ4区の褐色砂層中より縄文土器出土。
- 2014年2月25日 大学入試前期試験のため調査停止。
- 2014年3月31日 宮縁育夫先生 (熊本大学教育学部) 来訪。褐色砂層の由来について地質学的意見を頂く。
- 2014年4月1日 水ノ江和同氏 (文化庁文化財部記念物課) 来訪。遺跡出土縄文土器と遺跡の評価について指導を頂く。  
島浦健生氏 (株式会社有明測量開発社) が調査に参加開始。
- 2014年4月7日 Ⅴ11区より灰色硬質砂層の直下から縄文土器出土。
- 2014年4月9日 Ⅴ11区より配石 (後のST02) を検出。
- 2014年4月11日 Ⅴ11区より哺乳類の四肢骨 (後のST01) を検出。後に人骨と判明。
- 2014年4月15日 人骨全体の調査のためⅤ11区人骨検出付近に拡張区を設ける。木下尚子センター長 (熊本大学文学部) 来訪。宮縁育夫先生 (熊本大学教育学部) 来訪。西谷氏・石橋氏 (株式会社九州文化財研究所) 来訪。
- 2014年4月16日 小畑弘己先生 (熊本大学文学部)、杉井健先生 (熊本大学文学部)、熊本大学文学部の学生十数名が現場見学。
- 2014年4月18日 山本耕三先生 (熊本大学教育学部) と熊本大学学生約40名が現場見学。
- 2014年4月24日 松下孝幸氏 (土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム)、松下真実氏 (NPO法人・人類学研究機構) が人骨調査と指導のため来訪。Ⅴ11区の人骨検出開始。熊本大学文学部考古学研究室学生6名が来訪。
- 2014年4月25日 Ⅴ11区のST01人骨の取り上げ。杉井健先生 (熊本大学文学部) と熊本大学法学



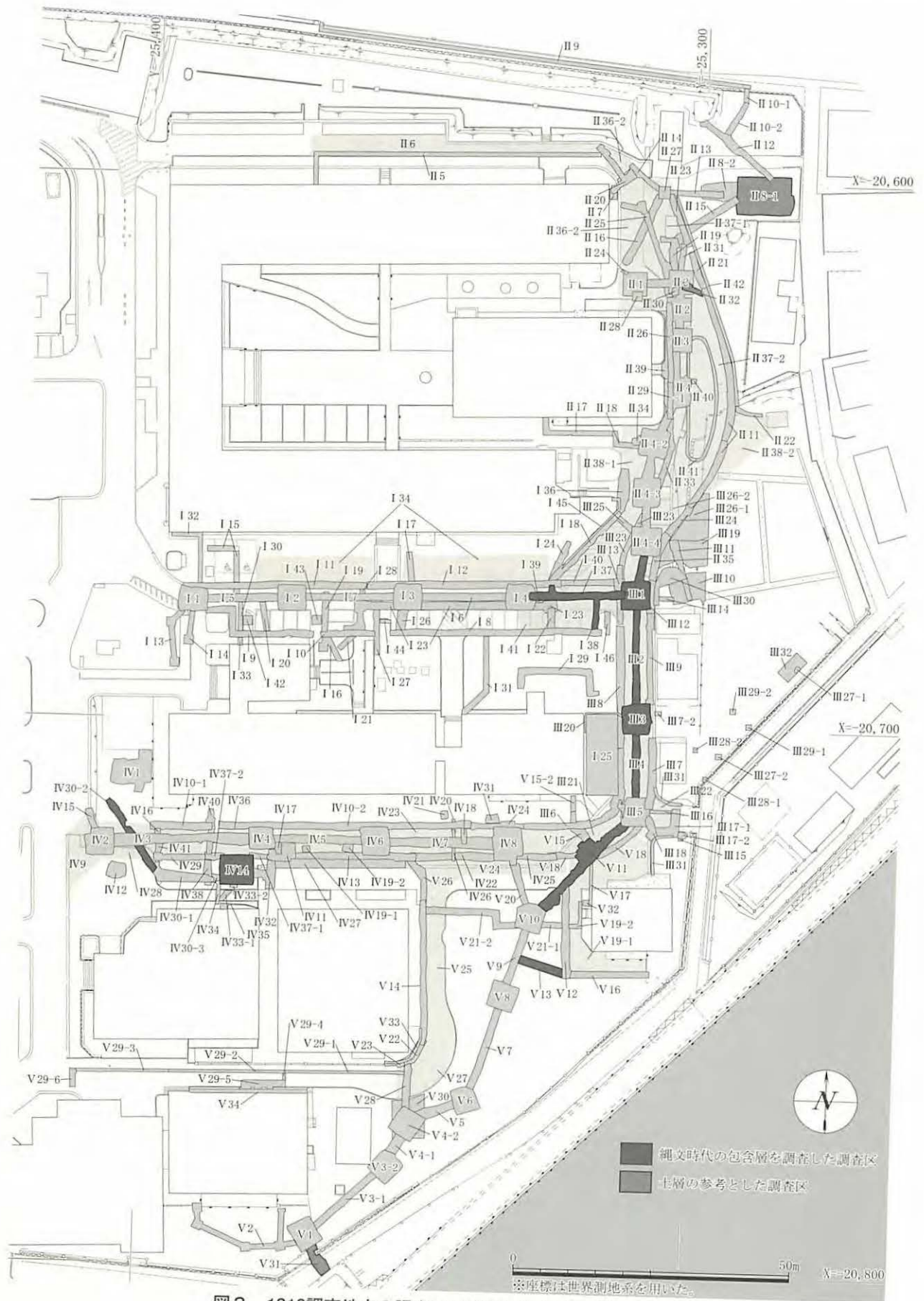


図3 1310調査地点の調査区の位置と名称 (S=1/1,000)

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

- 部・文学部・教育学部の学生が現場見学。宮縁育夫先生 (熊本大学文学部) と熊本大学教育学部学生5名が来訪、現地見学。
- 2014年4月28日 縄文人骨の調査、研究、広報について谷口功熊本大学学長との面談。
- 2014年4月30日 岡本真也氏 (熊本県教育庁文化課) 来訪、熊本市内の土層に関する知見を頂く。
- 2014年5月2日 熊本大学学長との面談。学長裁量経費の獲得。
- 2014年5月8日 山田文彦先生・鳥井真之先生 (熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター) が調査現場に来訪。
- 2014年5月12日 熊本大学文学部歴史学科学生5名が調査に参加。
- 2014年5月13日 松田博貴先生・鳥井真之先生 (熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター) が調査現場に来訪。土壌の分析について話し合いを実施。
- 2014年5月14日 本学学長との面談。調査・分析成果について説明。
- 2014年5月24日 水ノ江和同氏 (文化庁文化財部記念物課) 来訪。縄文土器の指導と現地視察。
- 2014年5月27日 村崎孝宏氏・宮崎敬士氏 (熊本県教育庁文化課)、西住欣一郎氏・網田龍生氏 (熊本市文化振興課)、熊本大学施設部担当で人骨の保存と設計変更に関する話し合いを実施。縄文土器と人骨発見に関するプレスリリースを提出。
- 2014年5月28日 松下孝幸氏 (土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム) との松下真実氏 (NPO法人・人類学研究機構) が来訪、人骨調査と指導。
- 2014年5月29日 記者会見開催。ST02人骨検出。
- 2014年5月30日 凸版印刷株式会社による配石墓と人骨の三次元計測を実施。
- 2014年5月31日 現地説明会を開催。甲元真之先生 (熊本大学文学部名誉教授) が来訪。ST02人骨取り上げ。
- 2014年6月4日 三好栄太郎氏 (熊本市文化振興課) が来訪、現地見学。土層に関する知見を頂く。
- 2014年6月5日 山崎純男氏 (高麗大学校考古環境研究所)、杉村彰一氏 (肥後考古学会)、松本博幸氏 (天草氏教育委員会)、長谷義隆氏 (元熊本大学理学部教授) が来訪、縄文土器実見と現地見学。山崎純男氏より遺跡の堆積過程と縄文土器に関する知見を頂く。
- 2014年6月23日 前日の大雨により調査区一部冠水。復旧作業。
- 2014年6月6日 I 37区の縄文時代遺物包含層掘削開始。
- 2014年6月30日 横田光智 (株式会社有明測量開発社) が調査に参加開始。
- 2014年7月16日 V 11区の調査終了。ST02配石墓およびST03の養生。
- 2014年8月12日 IV 14区の縄文時代遺物包含層掘削開始。IV 14区の褐色砂層から縄文時代遺物が検出された。
- 2014年8月29日 IV 14区の黒褐色砂層から縄文時代遺物が検出された。
- 2014年10月15日 IV 14区の黒褐色砂層より下位、地表下約3mのオリーブ黒色粘質砂層から縄文時代の遺物が検出。
- 2014年10月27日 IV 14区の調査終了。
- 2013年12月26日～2014年1月4日 冬期休業。
- 2014年1月7日 調査再開。以後、別調査地点と並行して本調査地点の調査を継続。
- 2015年3月20日 全調査終了。

## ③ 調査の組織

調査員：山野ケン陽次郎・大坪志子・浦辻栄治・柴田亮（熊本大学埋蔵文化財調査センター）

：石橋和久・中村幸史郎・西谷彰（株式会社九州文化財研究所）

：宮崎拓、島浦健生、横田光智、米村大、種浦加代子（株式会社有明測量開発社）

事務担当：大崎喜美子（2013・2014年度発掘調査時）・濱田春美（2017～2019年度整理作業時）

発掘作業員：石倉武夫、石村義則、今村明美、押方富江、岡本敬裕、片桐徹、川元恵子、栗崎強、栗崎信行、後藤まや、椎葉仁美、柴田道子、白石美枝子、白石美智子、園田輝夫、高瀬正志、西村和幸、野田昇、早田咲百合、番山明子、藤本龍三、堀川民夫、堀部和憲、松井昭子、松下義章、松永一代、松本晋治、三島多恵子、水本美恵子、宮田義則、村上親敏、森清、森川征子、森川護、森本紀代子、森本清子、吉永孝夫、米光司朗

：入江由真、岡田有矢、黄沢民、津田裕美、秦翔平、宮崎大和、與嶺友紀也（以上7名は熊本大学文学部歴史学科考古学研究室）

整理作業員：稲本奈津紀・井上裕美・江口路・鬼塚美枝・小山正子・後藤恵・首藤優子・末吉美紀・園田智子・増井弘子

## (2) 調査区の基本層序

本調査地点では、南北270m、東西180mの広い範囲に幅の狭い調査区が密集しており、舗装も含めた掘削の総面積は約5251.7㎡である。このうち縄文時代の遺物包含層を掘削した調査区はI37・38区、III1～4区、IV14区、IV30-2区、V11・13区で、総面積は約198㎡である。現在、調査地周辺には理学部に関連する建物が立っており、調査区はこの建物間の道路や駐車場、緑地として利用されていたため、過去に大型構造物が建設されておらず、遺構の残りは良好であった。ただし、部分的には既設管や共同溝により破壊を受けている状況が見られた。また、白川右岸により近いV区の多くは近代の瓦やガラスを含む現代盛土が1m以上厚く堆積している状況が確認されている。縄文時代の遺物包含層の調査成果に加え、より陸側にあたるII32区と、白川右岸に近いV31区の土層等とも比較を実施したところ、図4の通り基本層序を把握することができた。土層の由来や比較については、現地における土層の比較だけでなく、遺物の内容や、遺跡現地や現代の白川洪水砂をサンプリングし、その土壌をデジタルマイクロスコープで観察した結果も反映させている（本書 pp.90～99）。発掘調査では各調査区で取り上げ層名を付していたが、整理作業中にこれを精査し、以下の1～13層の基本土層を設定した（図4）。報告書中の土層断面実測図では上位から下位に向けて通し番号を付したが、その他の文章、図面、表、写真図版の層名は基本土層に対応している。

調査指導・協力者：岡本真也（熊本県教育庁文化課、2019年3月現在：歴史公園鞠智城・温故創生館）、小畑弘己（熊本大学文学部）、甲元眞之（熊本大学名誉教授）、芝康次郎（奈良文化財研究所）、遠入楓太（熊本大学教育学部）、鳥井真之（熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター）、松下孝幸（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）、松下真実（NPO法人・人類学研究機構）、松田博貴（熊本大学理学部）、水ノ江和同（文化庁文化財部記念物課、2019年3月現在：同志社大学文学部）、宮縁育夫（熊本大学教育学部、2019年3月現在：熊本大学大学院先端科学研究部）、三好栄太郎（熊本市教育委員会）、山崎純男（高麗大学校考古環境研究所）（敬称略、五十音順）

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

1層 表土、現代盛土、碎石、アスファルト。

2層 (灰白色砂層)

昭和28年6月28日の白川大水害によって堆積した砂層。砂質細かく、しまり弱く、粘り気はない。細かい平行葉理が認められる。遺物はほとんど含まないが、まれにガラスや陶磁器が出土する。調査地点の南側、白川により近い範囲でのみ検出される。本発掘調査では重機によって掘削した。

3層 (暗褐色土層)

近世・近代の遺物包含層。しまりやや強く、粘り気は少ない。暗褐色土を主体とし、炭化物小片や土器由来の褐色粒子、1～5cm程の小礫が含まれる。近代の遺物は少量で、近世の遺物が多く出土する傾向がある。調査地点のほぼ全域に堆積しているが、近代に削平されている箇所もあり、本層が堆積しない調査区も認められる。本発掘調査では、しまりが強いより上位の土を重機掘削し、しまりの弱い下位の土については一部を人力で掘削し、遺物を取り上げた。

4層 (黒褐色土層)

古代の遺物包含層。しまりは3層に比べて弱く、粘り気はややある。黒褐色土を主体とし、炭化物小片や土器由来の褐色粒子、1～5cm程の小礫を少量含む。調査地点のほぼ全域に堆積するが、より南側では近代に削平されて堆積が薄いか、堆積しない調査区もある。本発掘調査では本層の下位からは全て人力掘削によって遺物の取り上げをおこなった。本層上面で近世あるいは近代の溝、敷石、煉瓦基礎などの遺構を検出している。

5層 (褐色砂層)

縄文時代後期の遺物を含む。調査によって縄文時代後期前葉以降に堆積した、いわゆる白川の「自然堤防」の上層に相当することが分かった。褐色砂を主体とし、最上位には黒褐色土が植物根由来の貫入を見せる。しまりはよく、粘り気はほぼない。混ざり気は少なく、小礫や炭化物小片などはほぼ認められない。本層上面では古代の遺構を検出することができる。従前の調査では本層上面で縄文時代後期の土器が見つかることがあったが、基本的には地山として捉えられており、本発掘調査でもⅢ1区において縄文時代の遺物が本層に含まれることが判明するまでは掘削しておらず、調査を実施できていない。褐色砂層は下位に向かって漸移的に色調が変化しており、やや赤みが強い上層 (5 a層：赤褐色砂層) と、やや緑がかかるかオリーブ色に近い色調の下層 (5 b層：緑褐色砂層) に分層できる。Ⅲ2区やV11区では、両層の境目に砂質ブロックが部分的に入り込むか、あるいは水平かつ面的に堆積することがあった。ただし、次の6層の堆積状況と比べると薄く、貫入も多い。またこれら砂質ブロックに6層のように明瞭な平行葉理はほぼ認められなかった。褐色砂層は調査地点の南側 (Ⅰ区東側、Ⅲ～Ⅴ区) には厚く堆積しているが、Ⅱ区の北側には堆積しない状況が確認された。本発掘調査ではⅢ1区での発掘調査以後、施工深度が深い調査区について調査対象としている。縄文時代後期土器を主体とし、石器や土製品が出土している。

6層 (灰色硬質砂層)

無遺物層である。調査によって縄文時代後期前葉に堆積した白川の自然堤防の一部にあたと分かった。灰色砂を主体とし、断面には平行葉理が見られ、灰黒砂粒子と黄褐色砂粒子とで細かい単位の互層を形成することが多い。しまりは非常に強く、粘りはない。砂が硬質化し一つの層を形成しており、厚い場所では70～80cm程の堆積が認められるが、部分的に植物根あるいは水性由来と思われる貫入が認められる。Ⅲ2区南側より白川側にのみ堆積しており、V11・13・31区では明確に層として確認できたが、最も深い調査区であるⅣ14区では薄く堆積するのみであった。河岸段丘の凹部に白川の水が冠水し、一度に砂が堆積したと考えられる (本書：pp.92～95)。本層直下で縄文

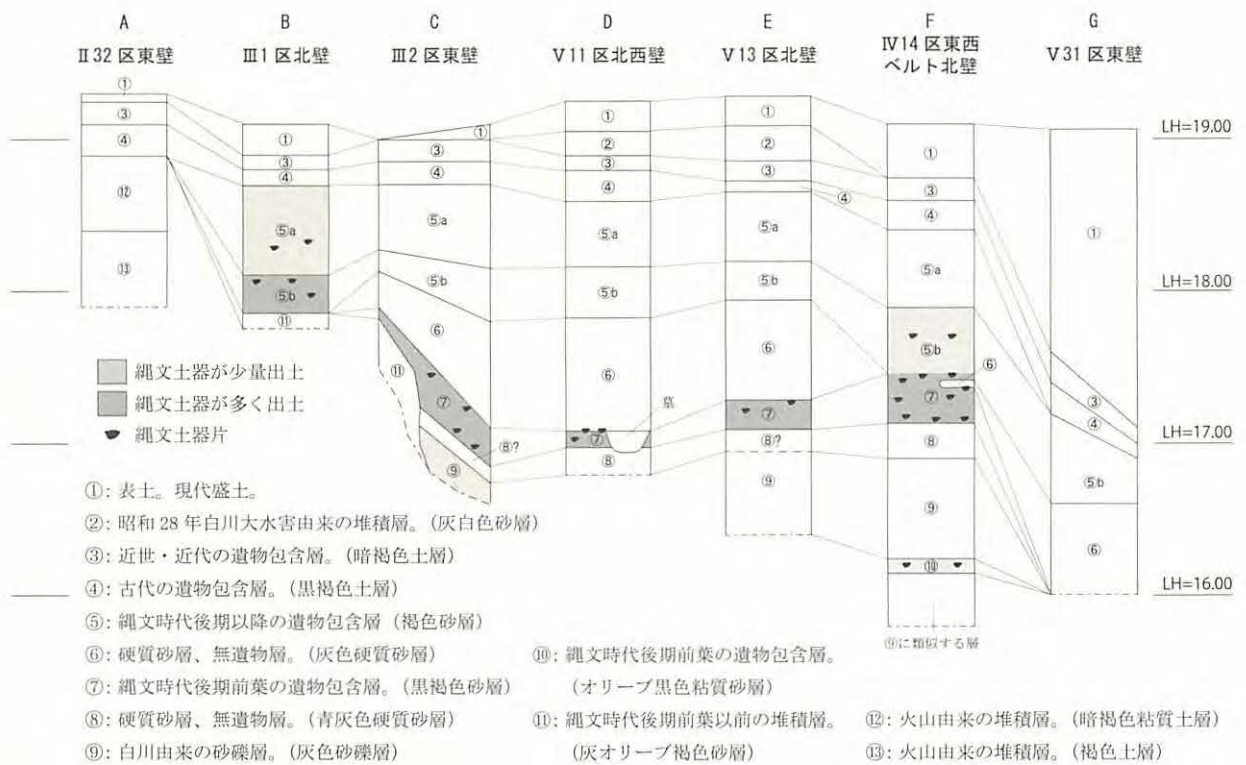
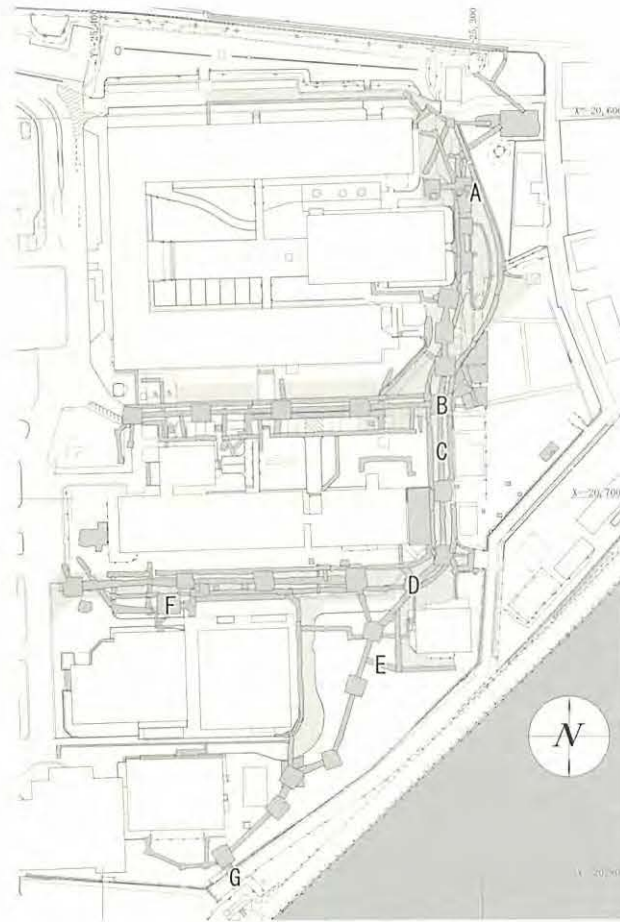


図4 1310調査地点基本土層模式図 (S=1/50)  
 (①~⑬は1~13層に対応、地区によって間層を挟む)

時代後期前葉の土器が出土する7層と、縄文時代の墓と人骨が検出された。

#### 7層(黒褐色砂層)

縄文時代後期前葉の遺物包含層である。しまりはやや強く、粘性は弱い全くの砂質ではない。黒褐色砂を主体とし、1cm程の白粒、炭化物小片を含み、部分的に砂質ブロックが混じる。V11区では本層上面を掘りこむ形で土坑墓や配石墓が検出された。検出深度が地表下2m程(標高約17m)と深く、本調査地点ではⅢ2、Ⅳ14区、V11区、V13区で確認、調査されている。V11区7層で検出した炭化物の放射性炭素年代測定結果は $3690 \pm 30$  B Pであった(本書: pp.90~91)。

#### 8層(青灰色硬質砂層)

7層直下に堆積する無遺物層である。全体的にしまりは強いが、最下部は風化しており、しまりが弱い。粘性はほぼない。青灰色砂とオリーブ色砂の互層が平行葉理を形成することがある。Ⅳ14区とV11区において7層の下に堆積していた。

#### 9層(灰色砂礫層)

ほぼ無遺物層だが、まれに縄文時代後期前葉の遺物が出土する。しまりは弱く、乾燥すると表面がサラサラと崩れる。灰色砂と橙色の5cm程以下の軽石や円礫によって構成され、砂粒の大きさや、礫の密度によって細かい分層が可能である。Ⅳ14区では本層下位にあたる10層から縄文時代後期前葉らしき土器が出土していることや、10cmに満たない円礫が砂に混じることから、縄文時代後期前葉頃の白川の洪水に由来するか、あるいは一次的に本流や支流の川底となり堆積した砂礫層の可能性が高い(本書: pp.92~99)。類似する層をⅣ14区で10層の下位に検出している。

#### 10層(オリーブ黒色粘質砂層)

縄文時代後期前葉の遺物が少量含まれる。オリーブ黒色の砂を主体とし褐色の粘質砂が沈着するように混じる。しまりはやや弱く、やや粘性を持つ。検出面の深度が地表下約3m(標高15.7m~16.4m)と深く、本発掘調査ではⅣ14区でのみ掘り下げと遺物の取り上げを実施した。

#### 11層(灰オリーブ褐色砂層)

無遺物層。しまり強く、粘性は弱い。灰オリーブと褐色の堅い砂質土が縞状に積み重なって堆積した層である。色調や砂質ブロックの割合で分層が可能で、確認できていないだけで12層との間にいくつもの間層があると思われる。Ⅲ2区では白川の洪水由来と考えられる9層によって本層が削られていることが確認でき、縄文時代後期以前に白川右岸の河岸段丘の一面を形成していた自然堤防だが、白川右岸に近い場所では川の増水などで削平されたと考えられる。I37区で一部深く掘り下げたが、本調査地点では本層より下位から遺物は検出されなかった。

#### 12層(暗褐色粘質土)

無遺物層。火山灰由来と考えられる堆積層である。しまりは並で、粘性はやや強い。暗褐色土を基本とし、上位は4層の黒褐色土の貫入がみられ、下位では13層の褐色土と混じる。Ⅱ区の北側では古代の遺物包含層である4層の直下に本層が堆積しており、本層上面で古代の遺構が検出できる。従前の構内の調査では本層と5層(褐色砂層)とが地山として認知され、別の堆積層として認識されてこなかった。本調査と報告書中の分析により5層とは構成物が大きく異なり、バブルウォール型火山ガラスを多く含むことから、より下位の堆積層であることが判明した(本書: pp.95~99)。Ⅱ区の北東端にあたるⅡ8-1区で本層を広い範囲で掘り下げたが、遺物は出土しなかった。

#### 13層(褐色土)

無遺物層。火山灰由来と考えられる堆積層。しまりが強く、粘性はややあり、削るとザクザクとした感触がある。褐色土を主とし、赤褐色粒や軽石が混じる。Ⅱ区北側では地表下80cm程で検出され

る。砂粒の観察によりバブルウォール型火山ガラスを多量に含むことが分かった（本書：pp.95～99）。熊本大学構内遺跡ではこの層より下位に遺物が出土した例はない。本調査でも掘削は実施していない。

### (3) 土器の分類 (図5)

本報告書では縄文時代の遺構、遺物に関する報告をおこなった。遺物は大きく土器、石器、土製品に分けられる。発掘調査では土器について2cmに満たない小破片を除き、可能な限り測量機器による点上げを実施し、出土位置情報を記録した。小破片や位置が大きく動いた遺物については各層位一括で取り上げた。また調査終了後、各調査区の遺物を精査し、攪乱や古代包含層（4層）や古代遺構埋土中から縄文土器と石器を抽出した。さらに土器片の接合に十分な時間を費やし、可能な限り口縁部から胴部にかけての復元をおこなった。報告書では土器の口縁部が残存している資料の中で文様が施された資料を優先して掲載し、次に無文の口縁部や底部破片を報告している。ただし土器の胴部片については有文の資料を除き、10cmを超える大型の破片も掲載はしなかった。また、実測図化しなかった文様を持つ小破片については図版の最後にまとめて写真を掲載しているので参考にされたい。

出土遺物の中で土器の数量が最も多く、各層に様々な器種、器形や文様、調整を施した土器が認められる。出土土器を整理するにあたり、本報告書中での分類を試みた。分類にあたり文様を主とし、口縁部形態、壁面調整、器種などの属性を用いた。例に上げた土器型式は、『西日本の縄文土器－後期－』（千葉編2010）や『総覧縄文土器』（小林久雄編2008）などを参照とした。土器分類について以下に内容をまとめる。

#### I 類

波状口縁や平口縁の深鉢を主体とし、口縁はやや外反しながら立ち上がるか、文様施文部がわずかに厚みを持って緩く外反する。頸部にくびれを持つものが多い。口縁部付近の施文によってI a類とI b類の2種類に細分した。I a類は口縁部から胴部上半にかけての横位、縦位、斜位の沈線による文様を主体とする。加えて口唇部に刻目や刺突文を施すものも若干存在する。I b類は口縁部付近への連続刺突文あるいは刻目突帯文を指標とする。I a類と異なり沈線文がほぼ認められない特徴がある。両者とも口縁部から底部までの接合資料は存在しないが、出土状況や胎土から推測するに底部形態はくびれた平底が主体とみられる。II b類には、まれに浅鉢あるいは皿のごとき器種も存在する。一般的に縄文時代後期前葉の出水式土器と呼ばれる土器群に相当する。

#### II 類

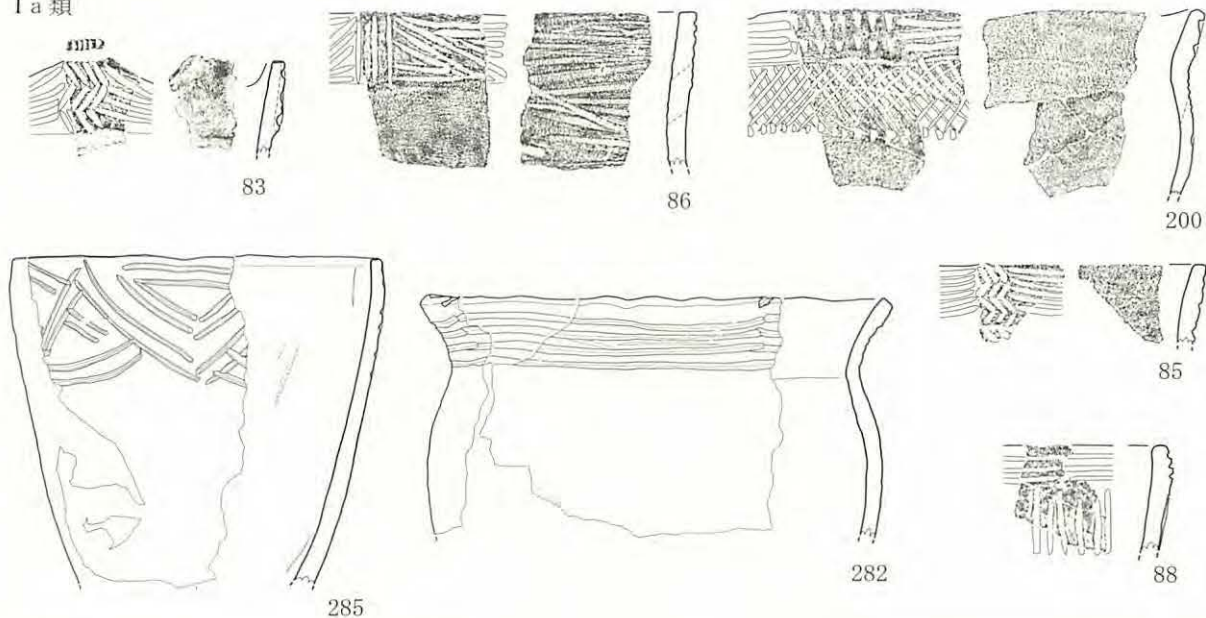
波状口縁の深鉢を主体とし、口縁部はバケツ状に広がるか、やや内湾ぎみに立ち上がる。口縁部の上位に連続刺突文あるいは横位の沈線文、やや間をあけて下位に刻目突帯文を施し、波頂部では両文様を繋ぐように縦位または斜位に刻目突帯文あるいは沈線文が伸びる。I類との大きな違いは波頂部の内面にも連続刺突文が施される点にある。また、波頂部の口唇部へ刻目や刺突文を施す資料も散見される。出土状況や胎土の共通性から底部はくびれた平底と想定される。一般的に御手洗A式古段階と呼ばれる土器群の深鉢に相当する。

#### III 類

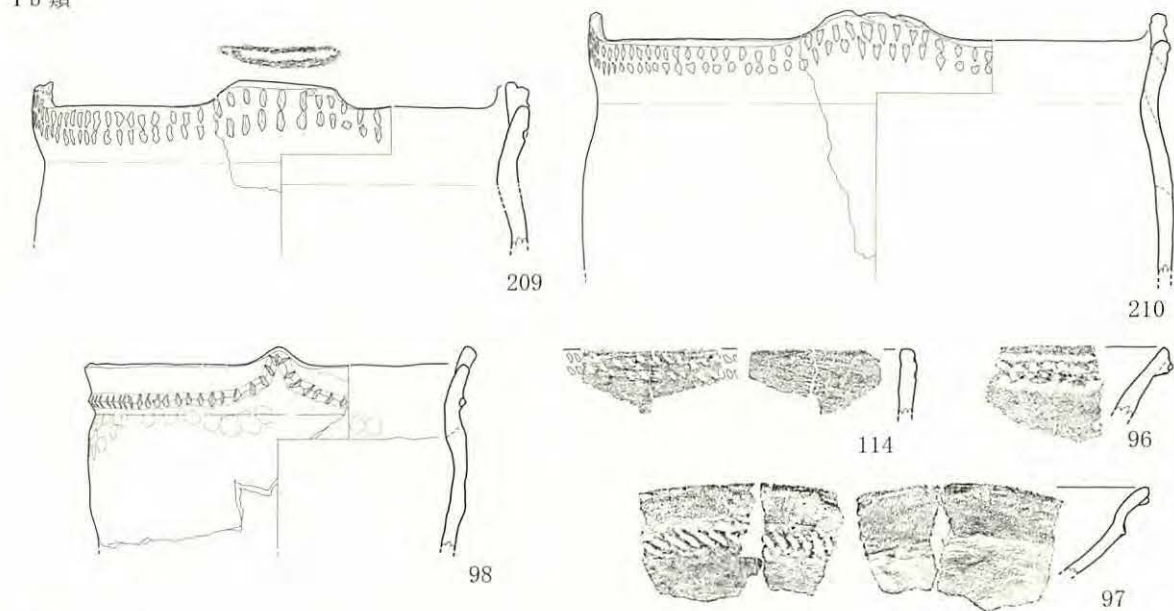
波状口縁の鉢を主体とする。頸部にくびれを持ち、文様施文部である口縁が厚みを以て外反する例と、くびれを持たず口縁部に向けて広く立ち上がる器種形態がある。口縁部では、波頂部に深く施した円文あるいは焼成前穿孔を中心として対向弧文と沈線文が両側へ展開しており、その周囲に縄文が施される。胴部から底部にかけては沈線による鉤手入組文で区画され、その内外に縄文を充填

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

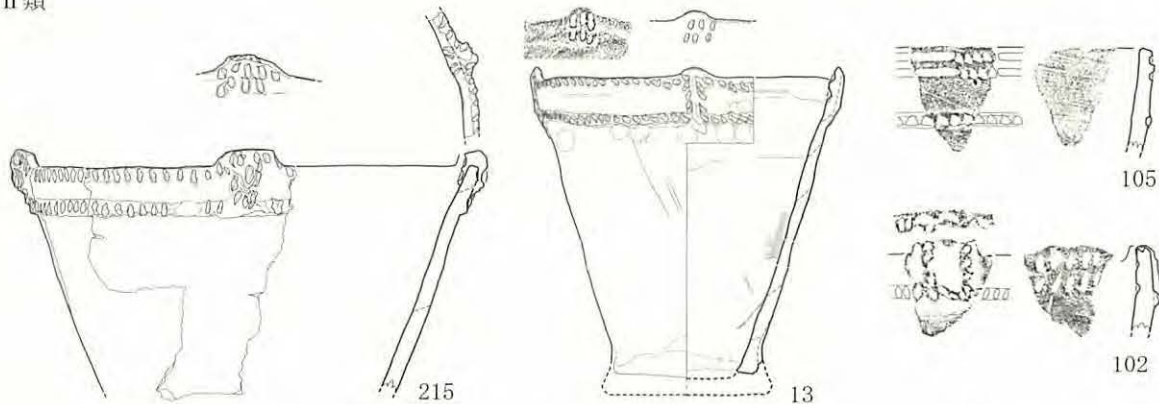
I a 類



I b 類



II 類



0 10cm

図5 土器分類図1 (S=1/4)  
(※数字は報告書の遺物番号を示す)



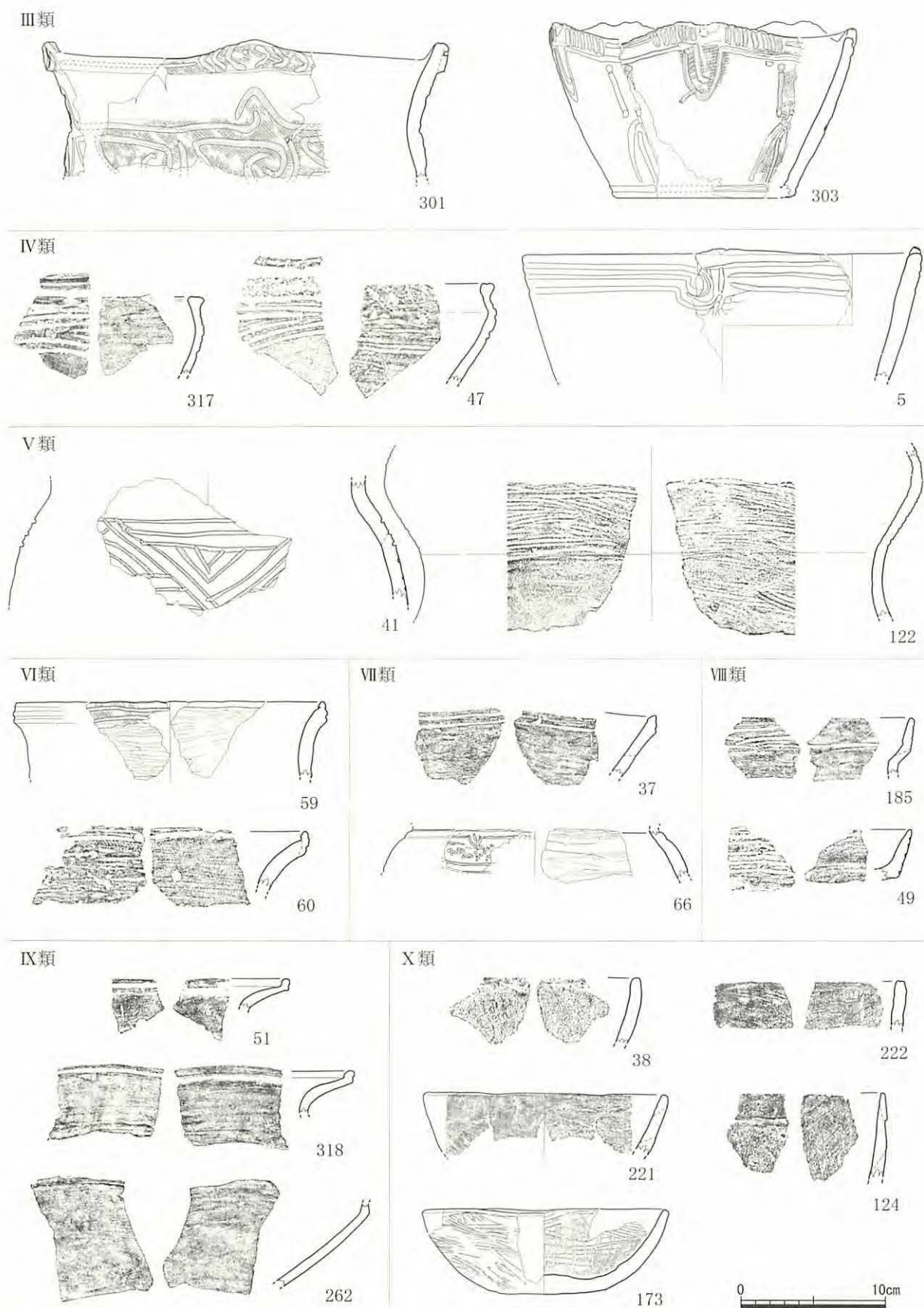


図6 土器分類図2 (S=1/4)  
 (※数字は報告書の遺物番号を示す)

## 1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

している。底部は平底か、やや丸みをおびた平底と思われる。器壁調整として丁寧な磨きが施されるものや、文様区画内に赤色顔料が付着するものも散見できる。一般的に御手洗A式古段階の鉢、あるいは小池原下層式などと呼ばれる土器群に相当する。

### IV類

平口縁、あるいはやや弱い波頂部を有する鉢または深鉢を主体とする。口縁部が厚みをもってL字状に屈曲し、頸部にくびれを持つものと持たないものがある。頸部より下位は沈線によって渦巻文や鉤手状文が施文され、縄文を持つ例は少ない。口唇部上面には沈線文が1、2条走るか、刻目文と組み合わせるものがある。底部形態は判然としない。一般的に鐘崎式、中九州では御手洗B式と呼ばれる土器群に相当する。

### V類

深鉢を主体とする。頸部に大きなくびれを持ち、口縁部に向かって内湾しながら立ち上がる。口縁部あるいは胴部外面に沈線による文様か、貝殻条痕による粗い調整が施される。一般的に北久根山第二型式と呼ばれる土器群の深鉢に相当する。

### VI類

出土資料が少なく、全体形は不明だが、頸部から口縁部に向けて朝顔の花状に強く外反することを特徴とする。Ⅶ類と異なり、口唇部がやや内側に屈曲する。口縁部には縄文と横位2条の沈線が巡り、凹点文が施される例がある。器壁は基本的には磨きによって調整されている。一般的に辛川Ⅱ式と呼ばれる土器群か。

### Ⅶ類

出土資料が少なく、全体形は不明だが、口縁部が広く外反することを特徴とする。Ⅵ類とは口縁部が直線的に広がる点と、口縁部に沈線文が2条施されるのみである点で異なる。本遺跡での接合資料はないが、接合すると思われる胴部は丸みを帯び、沈線文によって区画され、内側に散雑な刺突文が施されることがある。一般的に太郎迫式と呼ばれる土器群に相当すると思われる。

### Ⅷ類

出土資料が少なく、全体形は不明だが、口縁部は「く」の字状に強く立ち上がる。口縁部には横位沈線文が3～5条程施される。古閑Ⅰ式と呼ばれる一群の深鉢に相当すると思われる。

### Ⅸ類

頸部から口縁部にかけて強く外反する鉢である。垂直に立ち上がる口縁部外面に1条の沈線が施される。器壁が他の土器と比べて薄く、胎土も精緻である。器面は磨きによって丁寧に調整されている。天城式あるいは古閑Ⅰ式と呼ばれる一群の浅鉢と思われる。

### X類

文様を施さない無文の一群について分類した。器種は深鉢や浅鉢、皿があり、口縁部形態は外反するもの、直立するもの、やや内湾するもの、肥厚するものなど様々である。

また、発掘調査では検出した石材を可能な限り現地で座標データを記録し、その後、整理作業において石器か否かの同定をおこなっている。石器として、黒曜石や安山岩を用いた石鏃や石鏃未成品、黒曜石製の搔器や石鋸、安山岩を主体とした敲石、磨石、打製石斧、石匙、搔器、石皿、台石や安山岩、蛇紋岩を用いた磨製石斧、砂岩製の砥石がある。調査では黒曜石剥片も少量ながら得られたため、接合作業を実施したが接合しなかった。また、土製品として土器片転用錘が出土している。

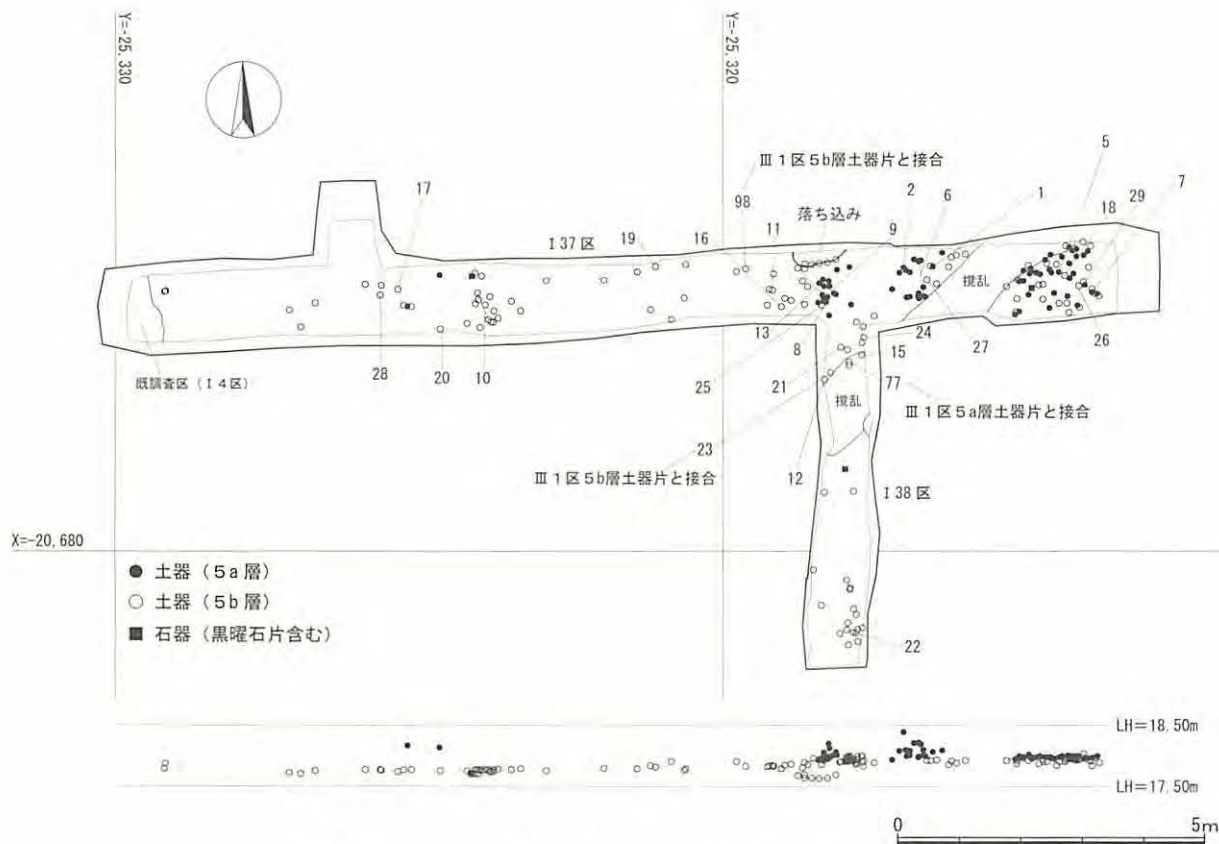


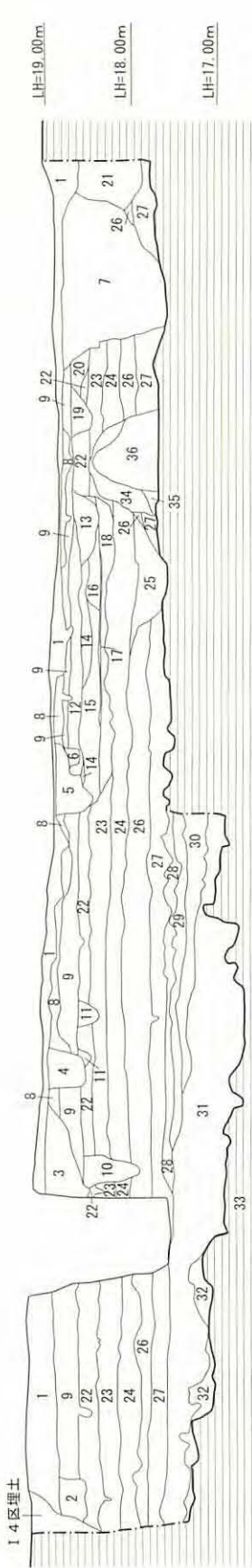
図7 I 37・38区5層遺物出土状況図 (S=1/125)

#### (4) 各調査区の出土遺構と出土遺物

I～V区の調査区のうち、縄文時代の遺物包含層である5層（褐色砂層）以下を掘削し、縄文時代遺物を取り上げた各調査区（I 37区、I 38区、III 1～4区、IV 14区、IV 30-2区、V 11区、V 13区）について、遺物出土状況、土層、遺構、出土遺物を説明する。このうち明確な出土遺構が検出されたのはV 11区の土坑墓と配石墓のみである。また、必要に応じて各区の堆積状況や出土遺物について提示する。なお、VI区の調査に関する説明は近代盛土内に全ておさまっているため割愛する。

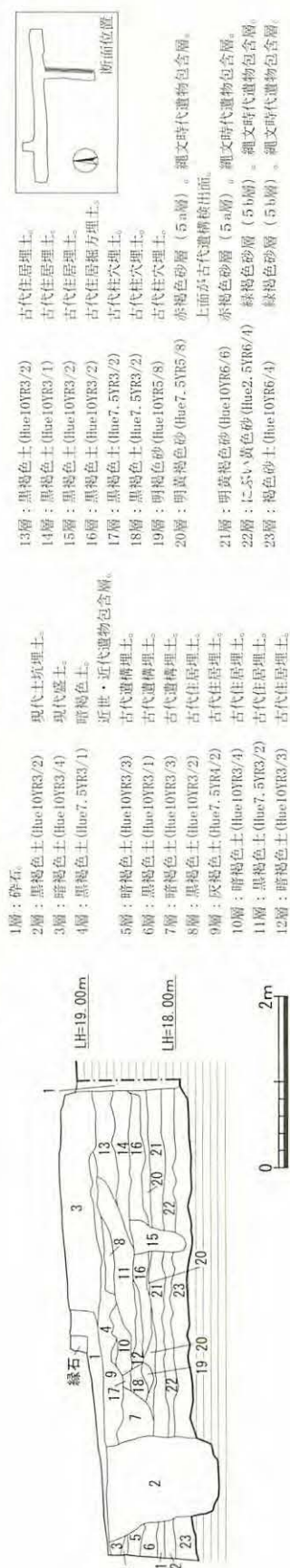
##### ① I 区

I 区は、理学部2号館と理学部3・4号館の間の道路部分、南北約68m、東西約84mの範囲に相当する。多くは幅1～1.5mの狭く長い調査区で、水道・ガス配管施工に関連するもので、計46カ所の調査区に分かれる（図3）。調査によって各区から奈良・平安時代を主とする竪穴建物やピット、溝等の遺構や当該時期の遺物が出土している。このうち縄文時代に関連する調査を実施できたのは、I 37区、I 38区の2カ所である。I 1～7区の浸透井戸とこれらを接続する排水管に係る調査区は施工深度が深く、縄文時代の遺物包含層に達する可能性が高かった。これらの調査区については、III 1区の縄文時代の遺物包含層発見以前に古代の遺構の調査を終了しており、すでに工事側へ受け渡していたため、縄文時代の文化層の一部が破壊された可能性があることを明記しておく。



- 1層：砕石。
- 2層：黒褐色土 (hue10YR3/2) 古代土坑埋土。
- 3層：黒褐色土 (hue10YR3/1) 古代遺構埋土。
- 4層：暗褐色土 (hue10YR4/2) 古代遺構埋土。
- 5層：暗褐色土 (hue10YR4/2) 現代埋土。
- 6層：暗褐色土 (hue10YR4/2) 現代埋土。
- 7層：暗褐色土 (hue10YR4/3) 現代埋土。
- 8層：暗褐色土 (hue7.5YR3/1) 暗褐色土 (3層)。近世・近代遺物包含層。
- 9層：黒褐色土 (hue10YR3/1) 黒褐色土 (4層)。古代遺構埋土。
- 10層：黒褐色土 (hue10YR3/2) 古代遺構埋土。
- 11層：黒褐色土 (hue10YR3/2) 古代遺構埋土。
- 12層：暗褐色土 (hue10YR3/2) 古代遺構埋土。
- 13層：暗褐色土 (hue10YR3/3) 古代住居埋土。
- 14層：暗褐色土 (hue10YR3/3) 古代住居埋土。
- 15層：暗褐色土 (hue10YR3/2) 古代住居埋土。
- 16層：黒褐色土 (hue10YR3/2) 古代住居埋土。
- 17層：黒褐色土 (hue10YR3/2) 古代住居埋土。
- 18層：黒褐色土 (hue10YR3/1) 古代住居埋土。
- 19層：黒褐色土 (hue10YR3/2) 現代土坑埋土。
- 20層：暗褐色土 (hue10YR3/1) 現代埋土。
- 21層：暗褐色土 (hue10YR3/1) 暗褐色土。
- 22層：暗褐色土 (hue7.5YR3/1) 近世・近代遺物包含層。
- 23層：暗褐色土 (hue10YR3/3) 古代遺構埋土。
- 24層：暗褐色土 (hue10YR3/3) 古代遺構埋土。
- 25層：暗褐色土 (hue10YR3/2) 古代住居埋土。
- 26層：暗褐色土 (hue7.5YR4/2) 古代住居埋土。
- 27層：暗褐色土 (hue7.5YR4/2) 暗褐色土 (11層)。1~3cmの明黄褐色のブロック少量混入。無遺物層。
- 28層：暗褐色土 (hue7.5YR4/2) 暗褐色土 (11層)。0.5~1cmの砂質ブロックが多量に混入。無遺物層。
- 29層：暗褐色土 (hue10YR5/4) 灰オリーブ褐色砂層 (11層)。しまり強く、オリーブ灰色砂と砂質ブロックで形成される。無遺物層。
- 30層：暗褐色土 (hue2.5Y6/1) 灰オリーブ褐色砂層 (11層)。しまり強く、オリーブ灰色砂と砂質ブロックで形成される。無遺物層。
- 31層：暗褐色土 (hue7.5YR4/4) 灰オリーブ褐色砂層 (11層)。微細なガラス状粒子を少量含む。下面に明黄褐色のブロック少量混入。無遺物層。
- 32層：暗褐色土 (hue10YR4/3) 灰オリーブ褐色砂層 (11層)。1~3cmの明黄褐色のブロック少量混入。無遺物層。
- 33層：暗褐色土 (hue2.5Y6/6) 灰オリーブ褐色砂層 (11層)。しまり強く、砂質ブロックが多量に混入。無遺物層。
- 34層：暗褐色土 (hue10YR5/4) 土質は24層に類似するが、やや粘質が強い。倒木痕。
- 35層：暗褐色土 (hue10YR5/3) 土質は27層に類似し、砂質ブロックを多量に混入。倒木痕。
- 36層：暗褐色土 (hue10YR4/4) 土質は27~29層が混在している。砂質ブロックが多量に混入。倒木痕。

図8 I 37区北壁土層断面 (S=1/80)



- 1層：砕石。
- 2層：黒褐色土 (hue10YR3/2) 現代土坑埋土。
- 3層：暗褐色土 (hue10YR3/4) 現代埋土。
- 4層：暗褐色土 (hue7.5YR3/1) 暗褐色土。
- 5層：暗褐色土 (hue10YR3/3) 近世・近代遺物包含層。
- 6層：暗褐色土 (hue10YR3/1) 古代遺構埋土。
- 7層：暗褐色土 (hue10YR3/3) 古代遺構埋土。
- 8層：暗褐色土 (hue10YR3/2) 古代住居埋土。
- 9層：暗褐色土 (hue7.5YR4/2) 古代住居埋土。
- 10層：暗褐色土 (hue10YR3/4) 古代住居埋土。
- 11層：暗褐色土 (hue7.5YR3/2) 古代住居埋土。
- 12層：暗褐色土 (hue10YR3/3) 古代住居埋土。
- 13層：黒褐色土 (hue10YR3/2) 古代住居埋土。
- 14層：黒褐色土 (hue10YR3/1) 古代住居埋土。
- 15層：黒褐色土 (hue10YR3/2) 古代住居埋土。
- 16層：黒褐色土 (hue10YR3/2) 古代住居埋土。
- 17層：黒褐色土 (hue7.5YR3/2) 古代住居埋土。
- 18層：暗褐色土 (hue7.5YR3/2) 古代住居埋土。
- 19層：明褐色土 (hue10YR5/8) 古代住居埋土。
- 20層：明褐色土 (hue7.5YR5/8) 赤褐色砂層 (5a層)。細文時代遺物包含層。上面が古代遺構検出面。
- 21層：明褐色土 (hue10YR6/6) 赤褐色砂層 (5a層)。細文時代遺物包含層。
- 22層：明褐色土 (hue2.5YR6/4) 緑褐色砂層 (5b層)。細文時代遺物包含層。
- 23層：褐色土 (hue10YR6/4) 緑褐色砂層 (5b層)。細文時代遺物包含層。

図9 I 38区東壁土層断面 (S=1/80)

## I 37・38区の遺物出土状況 (図7～9)

I 37区は東西17.5m、南北1.5mの幅狭い調査区を主体とし、調査区西端から3.5mの位置で北側に1.1×1.2mの調査区が付随する。I 38区はI 37区西端から4.6mの東の位置で南へ伸びる東西0.8m、南北5.6mの調査区である。土層は上から、表土、近世近代の遺物包含層である3層(暗褐色土層)、古代の遺物包含層である4層(黒褐色土層)の順に堆積しており、4層の下に漸移層をはさんで5層(褐色砂層)が堆積していた。古代の竪穴建物、ピットなどの遺構は4・5層の漸移層上面で検出している(図8-22)。両調査区は西に隣接するI 4区、東に隣接するⅢ1区の浸透井戸および南北のU字排水溝を接続する工事に伴う。そのため施工深度が深く、一部5層について掘り下げる必要があり、古代の遺構の調査終了後、5層の掘削を実施した。

I 37区では5層を赤みの強い5 a層と緑がかかった5 b層とに分層し、掘削と遺物の取り上げを実施した。5 a層では標高18.0～18.4mでⅢ1区により近い調査区東側、東西4.5mの範囲に土器が集中して出土しており、西側では分布が希薄であった。一方、5 b層では東側に分布が集中するものの、西側でも散発的に出土している。垂直分布をみると、標高17.7～18.0mの高さで東から西に向かってやや傾斜する堆積状況が確認できた。また、I 37区東端から約5mの位置では、北壁にかかるように幅1m程の落ち込みが確認できた(図7、図8-25層)。本落ち込みから出土した土器は調査区全体の垂直分布からするとややレベルが下がっている。調査区にわずかにかかる程度であったため、その性格を明確にすることができなかつたが、竪穴建物の端部である可能性も考慮する必要があるだろう。

I 38区では古代の竪穴建物によって5 a層がほぼ削平されており、5 b層の掘削が主体となった。I 38区と接する北側と、南端に一部土器の集中が認められたが、中央部では土器の分布が希薄である。両区の土器片の接合状況を確認したところ、6(以下報告書番号)や10、13など直径1m程の範囲内で同一層の土器が接合するほか、23や77など5m以上離れた隣の調査区とも接合する例があった。5 b層のさらに下位には11層(灰オリーブ黒色粘質砂層)が堆積しており、色調と砂質ブロックの割合で分層が可能だった(図8-28～33層)。I 37区では5 b層の掘削後、確認のため調査区西側を地表下2.4m(標高約16.7m)まで深掘りし、縄文時代遺物の有無を確かめたが、遺物は1点も出土しなかった。よって、I 37区東側は5 b層を完掘したところで調査を終了している。

## I 37・38区の出土遺物 (図10～12)

1～9は5 a層の出土土器である。1はⅡ類の波頂部で、口唇部と波頂部内面に刺突文が施されており、口縁部のやや下には刻目突帯文が張り巡らされる。波頂部では刻目突帯文が逆三角形に展開している。2・3はI b類またはⅡ類の口縁部片で、口縁部上端に刺突文が横位に1、2条走る。4はⅣ類の胴部片で、胴部外面に沈線によって文様が施される。器面は磨きによって調整されている。5はⅣ類の粗製の鉢である。口縁の一部がわずかに突出した波状口縁で、波頂部口唇部には刻目文が入る。口縁部上半には3条の沈線が巡り、波頂部直下では鉤手文となる。6～9は縄文土器の底部片で、いずれも底部がくびれている。8・9は6・7に比べてやや器壁がやや薄く、6・8は底部に木葉痕がある。7は8～15mmの細かい単位の楕円状の凹みが見られ、鯨椎骨の圧痕かと思われる。

10～32は5 b層の出土遺物である。10はI 37区の西側でまとまって出土したI a類の深鉢口縁部である。器壁がひどく風化しているものの、口縁部全体の約1/3が残存しており、復元したところ口径が24.7cm程であった。二股に分かれた波頂部を持ち、口唇部には刻目文が施される。また、断続的な横位3条の沈線が口縁部文様帯に巡る。施文部である口縁部帯はやや肥厚している。11はI b類の深鉢口縁部片で、口縁部外面に刻目突帯文が横位に1条巡る。文様や胎土、口縁部形態からⅢ1区5 b層出土の98と同一個体と考えられる(図22-98)。12はⅡ類の深鉢胴部片で、口縁部に向かってバ

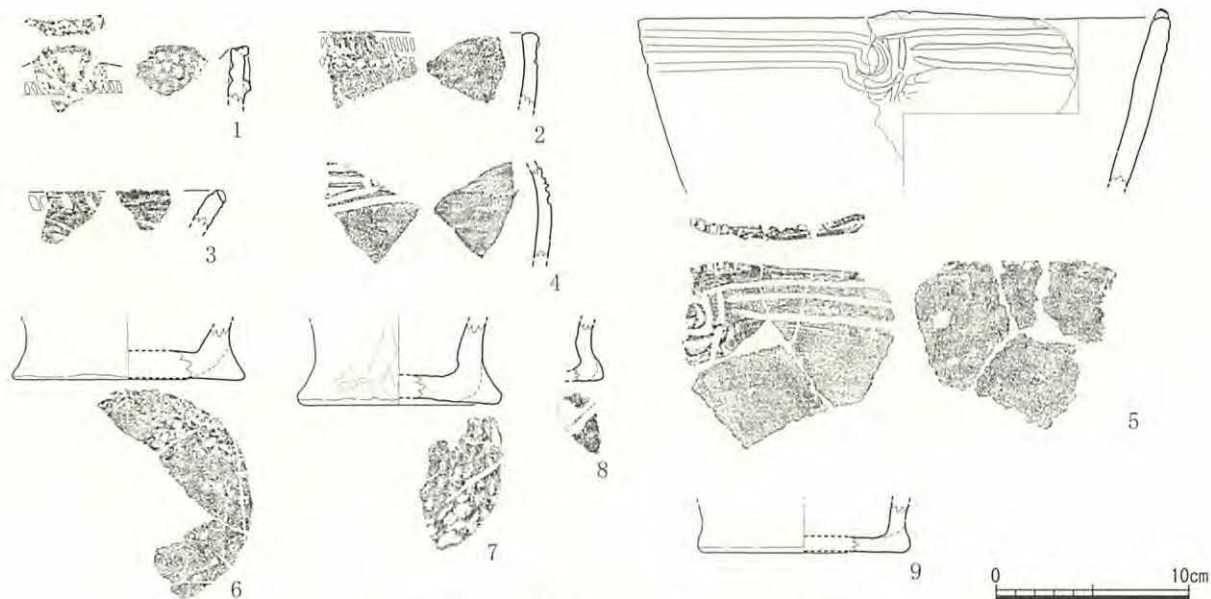


図10 I 37・38区 5a 層出土土器実測図 (S=1/4)

ケツ状に広がる。胴部上半には刻目突帯文が横位に1条走る。13は本調査地点で最も良く全体形を復元できたⅡ類の深鉢で、I 37区の5 b 層と落ち込み部から出土した土器片の接合資料である。土器全体の約半分が接合するため、波頂部が4単位分あることが分かる。全形はバケツ状で口縁部は傾斜を持ちながら直線的に広がる。口縁部の上端に刺突文が横位に1条巡り、やや間をあけてこれと並行する刻目突帯文が下位に1条施される。波頂部では刻目突帯文が縦位に1条伸びるが、横位の刻目と異なり、突帯の両端部を押さえつけるように刻目が施される。また波頂部の内面にはⅡ類の特徴の一つである刺突文が施される。条痕で器壁を整えた痕に指ナデで調整しているが、横位の刻目突帯文の上下には指オサエの痕跡が残る。底部内面には指オサエの痕跡が、外側には削りによる器壁調整の痕が認められる。底部の最下部が欠落していたが、器壁下部がやや広がることから、くびれた平底であると推定できる。14~16はI b 類あるいはⅡ類の口縁部片である。口縁部端へ横位に1、2条の刺突文が走る。17~21はX類の口縁部片である。いずれも無文だが、17・18は口縁部がやや外側に広がるのに対し、21はやや内傾する。19は口縁部の広がり方から浅鉢の可能性はある。22~29は縄文土器の底部片である。22~27・29はくびれた平底で、底部に木葉痕または細かい単位の凹みが認められる。28は中空の脚台で、周縁に2条の凹点文が並ぶ。凹点文の凹みには白色泥らしきものが充填されていた。類似例が京都大学が1920年に調査した出水貝塚に認められる。30は土器の破片を再利用した土器片転用錘である。土器片を厚さ7mm程の扁平な直方体に研磨整形し、両短辺に1条の抉りを施している。後述するIV14区では数点が一定の範囲に集中して出土しており、抉りに紐を緊縛し、錘として使用したと考えられる。31は安山岩製の小型の石匙である。細かい剥離調整により刃部を設け、把手部との境では剥離によって深い抉りを作る。32は安山岩製の石皿である。表面中心部が窪み、周辺には敲打痕が認められる。側面部には直径約3cmの顕著な磨痕が確認できている。

33~40はI 37・38区の攪乱、4層、古代遺構埋土からの出土遺物である。33はⅡ類の深鉢胴部片である。刻目突帯文が横位に1条走る。34はⅡ類の深鉢口縁部片である。口縁部上端に細かい爪形状の刺突文が横位に1条巡り、その下位に刻目突帯文が横位に1条巡る。35はI b 類あるいはⅡ類で、口縁部上端に刺突文が横位に1条巡る。36はⅣ類の鉢口縁部片である。口唇部に2条の沈線と、口縁

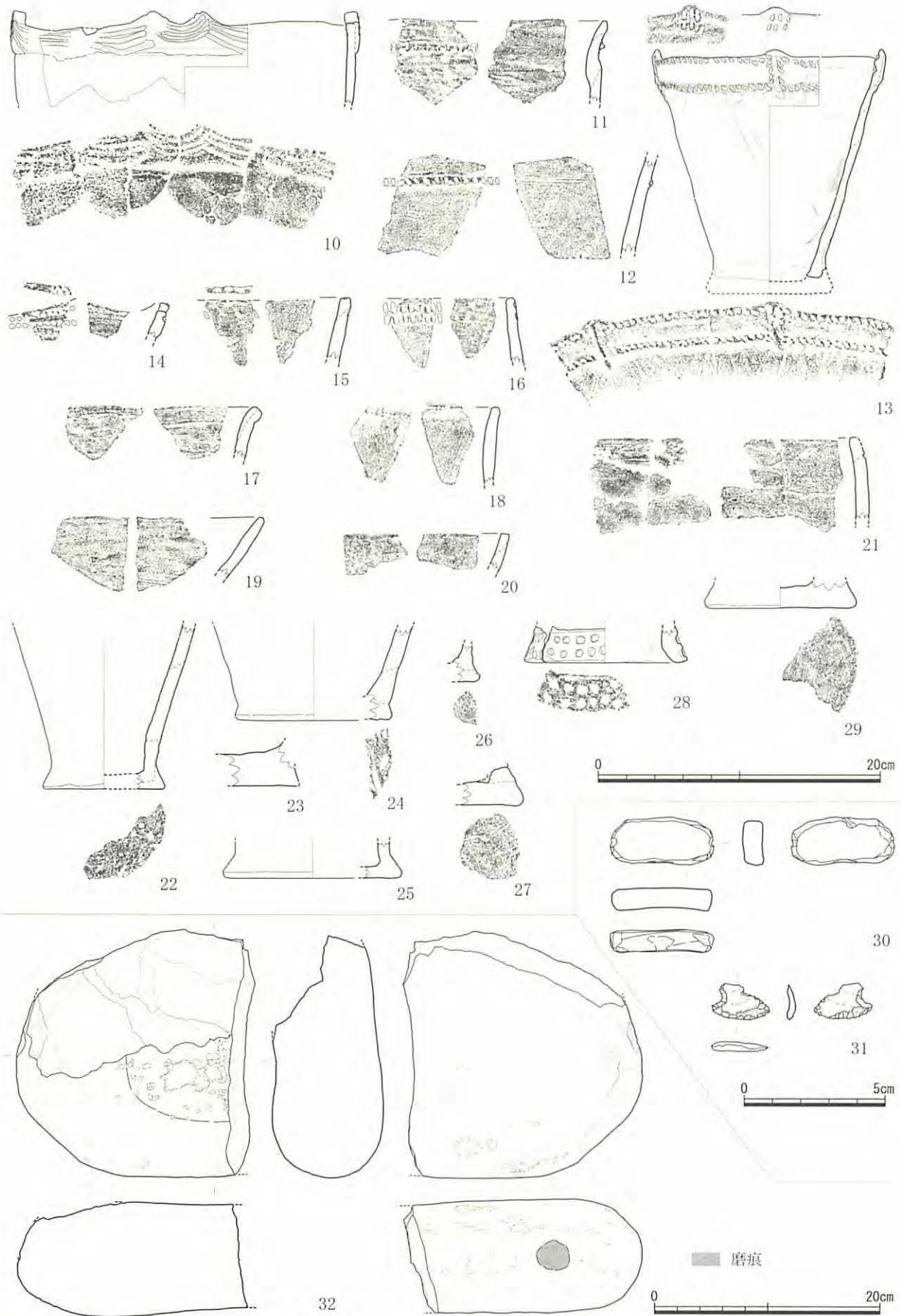


図11 I 37・38区 5 b層出土遺物実測図 (S=1/2・1/4・1/5)

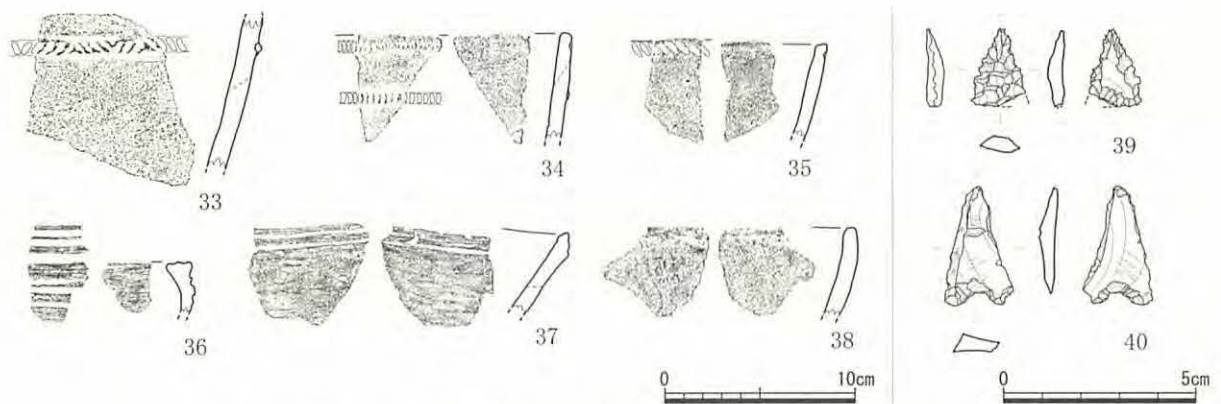


図12 I 37・38区出土土器・石器実測図 (S=1/2・1/4)

(I 37区攪乱: 35 I 37区4層: 37 I 37区古代遺構埋土: 35・38・39 I 38区攪乱: 33・36・40)

部に横位3条の沈線が並行に走り、凸面には刻目が入る。表面は黒色で磨かれている。37はⅦ類の波状口縁の口縁部片である。口縁部外面に横位に2条の沈線が施され、器面全体が磨かれている。38はⅩ類の口縁部片である。39は黒曜石製の石鋸である。全体形は略二等辺三角形で、縁辺部を鋸歯状に剥離調整している。40は黒曜石製の石鏃未製品である。基部には剥離による深い挟りが入るが、縁辺部には剥離調整の痕跡が認められない。

### I 区の出土遺物 (図13)

I 区では I 37・38区以外の5層 (褐色砂層) 以下の遺物包含層の掘削は実施できなかった。41~58はI 区の各調査区の攪乱、3・4層、古代遺構埋土中から出土した縄文土器、石器である。41~43はI 23区の4層から出土したⅤ類の土器片で、出土した位置も近く、胎土や文様から同一個体と考えられる。頸部径が22cm程の大型の深鉢で、頸部で強くくびれ、口縁部と胴部で球形状に膨らむ。口縁部から胴部に対して横位と斜位の沈線を組み合わせた幾何学的文様が施されている。44はI a類の口縁部片で、横位に5~6条の細かい沈線が走る。45は口縁部から頸部片と思われ、沈線によって曲線的な文様が施される。やや土器胎土の色調が明褐色と明るく、他の土器片と異なる。46はI a類の波頂部片である。2~4条の沈線が波頂部に沿って並行に伸びている。47はⅣ類の口縁部片である。口唇部に沈線文が1条走り、頸部屈曲部から胴部にかけて沈線による鉤手文が施される。口縁部内外面は摩滅しているが、頸部より下位は磨きで調整されている。48は口径の復元径が19.6cmのⅩ類の鉢口縁部片である。頸部にくびれを持ち、最大径は胴部上半にある。全体に横位の貝殻条痕の痕跡が明瞭に残る。49・50はⅧ類の口縁部片である。口縁部下位が「く」の字に屈曲しており、口縁部には3~5条の横位の沈線が走る。50は表面が磨きにより調整されている。51はⅨ類の浅鉢の口縁部片である。わずかに直立した口縁部外面に1条の沈線文が施される。器面は磨きによって調整されている。52~53はⅩ類の口縁部片である。52は口縁部が朝顔形に開き、内外面が磨かれている。53は条痕の痕跡が内外面に残る。54は磨製石斧の刃部片である。小破片だが刃部は蛤刃状であったと推測できる。全面に顕著な線状の研磨痕跡が認められる。55は安山岩製の搔器である。全体形は半円形の端部につまみ状の突起が付随する。表面は自然面、裏面は全体が剥離面で、転石の剥片を剥離整形していることが分かる。両面からの細かい打割による剥離調整によって刃部を形成している。56は安山岩製の敲石である。やや扁平の球形を呈し、端部に散発的な敲打痕が認められる。57は黒曜石製の搔器である。端部へ片面からの細かい剥離によって刃部を成形している。58は黒曜石製の小型の搔器として取り上げたが、刃部の加工は明確でない。単なる剥片である可能性もある。



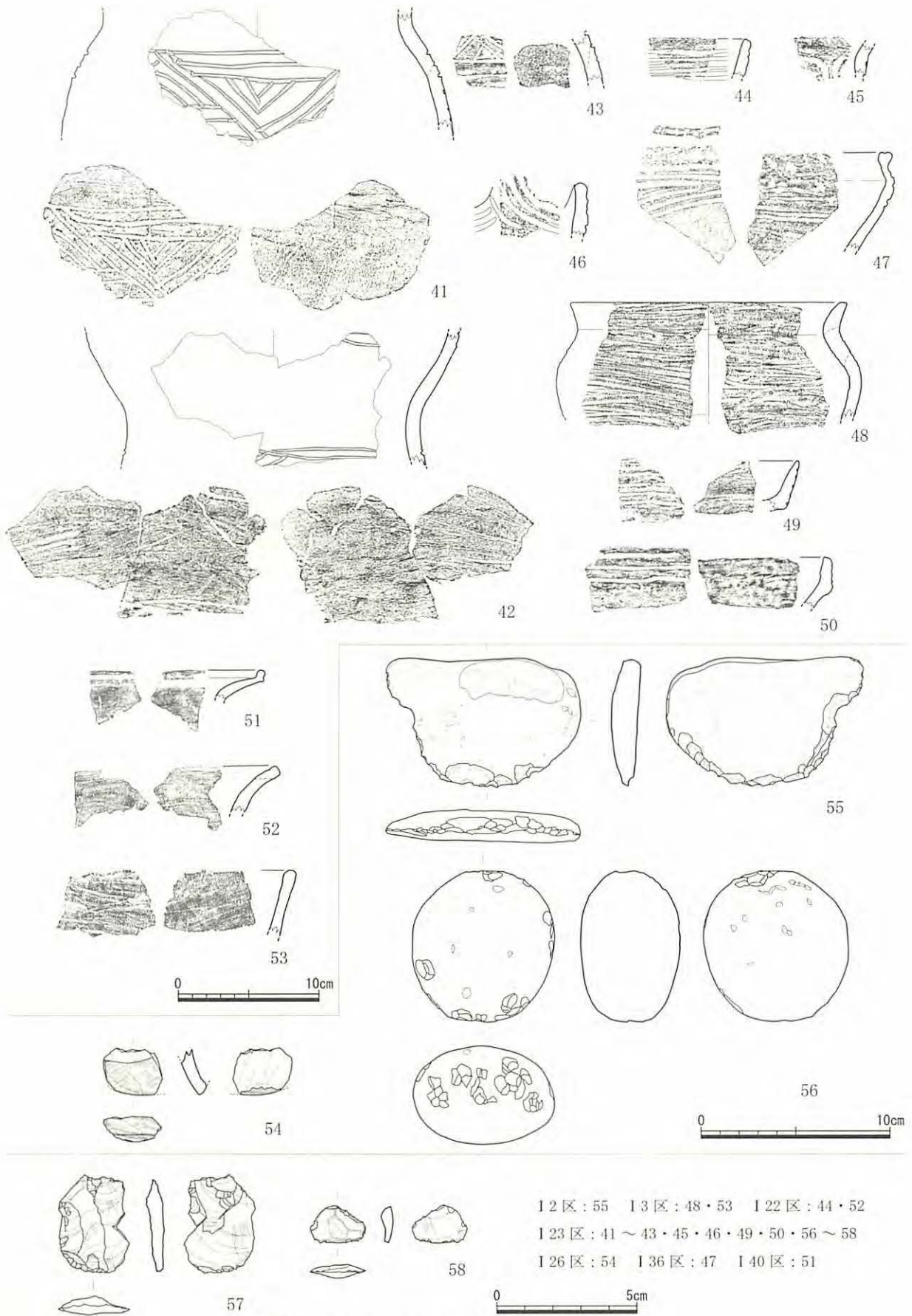


図13 I区出土遺物実測図 (S=1/2・1/3・1/4)

I 2 区 : 55 I 3 区 : 48・53 I 22 区 : 44・52  
 I 23 区 : 41 ~ 43・45・46・49・50・56 ~ 58  
 I 26 区 : 54 I 36 区 : 47 I 40 区 : 51

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

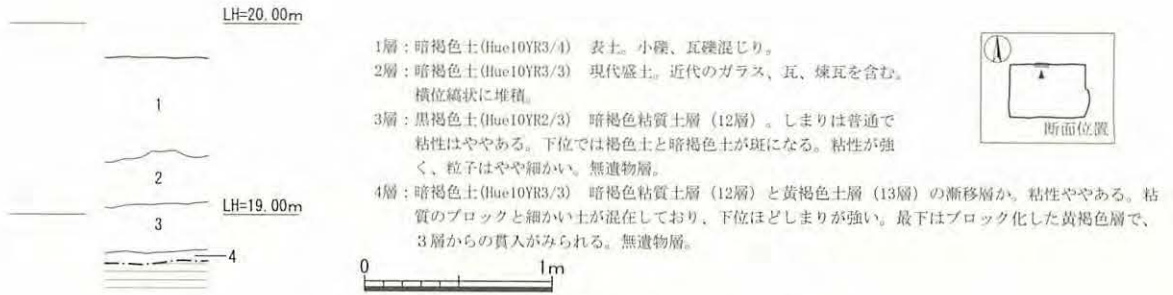


図14 II 8-1区北壁土層断面図 (S=1/40)

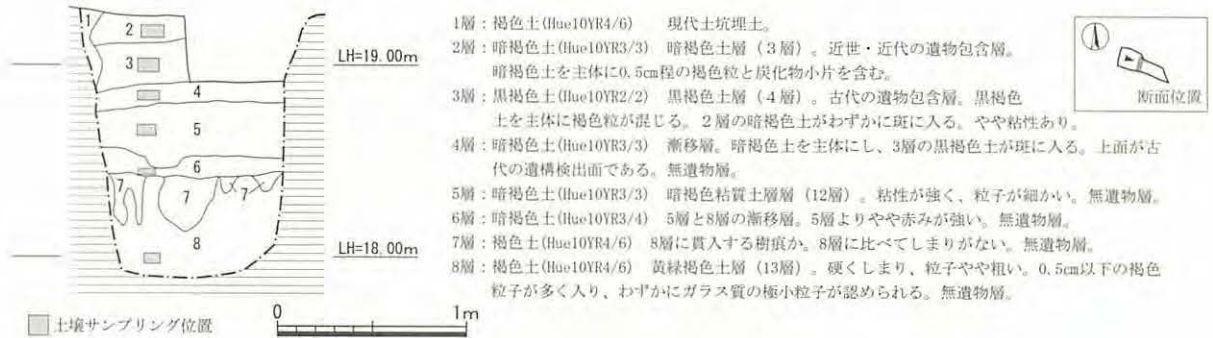


図15 II区32東壁土層断面図 (S=1/40)

② II区

II区は理学部1・2号館、自然科学研究科・理学部総合研究実験棟の東、北側に位置し、南北約102m、東西約87mの範囲に相当する。多くが幅約1~1.5mの狭い水道・ガス配管施工に関連するもので、他にU字側溝、浸透井戸、検水槽などの施工に係るものなど計51区ある (図3)。本調査区は1310調査地点の中で最も白川から離れた位置にあり、調査地点の北にそびえる立田山により近い。そのため、地表面も標高19.3~19.8m程と他の調査区に比べると数十cm高くなっている。

II区の土層堆積状況 (図14・15)

II区の北東端に位置するII 8-1区とII 32区の東壁で土層断面を確認し、I・III区と比較することで基本土層を確認した (図14・15)。基本土層として1層 (表土) の下に部分的あるいは全面に近世近代の遺物包含層である3層 (暗褐色土層) が、その下に古代の遺物包含層である4層 (黒褐色土層) が堆積している。しかし、4層以下の堆積状況はI・III~V区の調査区と大きく異なる。I・III区では古代の遺物包含層である4層を掘り下げると遺構面である5層 (褐色砂層) が一面に検出されたが、II区北半では5層が認められず、代わりに12層 (暗褐色粘質土層) が4層の直下に堆積している状況が確認できた。古代の遺構の検出もII区北半ではこの12層の上面でおこなった。II 8-1区では12層を人力で全面掘削したが、縄文時代の遺物は出土しなかった。また、12層の下に堆積する13層は本調査地点で掘削はおこなわなかったが、土層壁面に遺物も確認されておらず、従前の調査でも遺物の出土事例がない。このことから今回の調査結果では12・13層は無遺物層であると結論付けた。後の分析で12層と13層は火山灰に由来するパブルウォール型火山ガラスが構成物の大半を占めており、これがほとんど認められない5層 (褐色砂層) とは全くことなる土層であることが判明した (本書: pp.95~99)。ただし、II 4-2区付近では5層 (褐色砂層) が確認できているため、理学部2号館の東あたりから南方向の白川右岸にかけては5層が広く堆積していると考えられる。

浸透井戸に関連する施工深度の深いII 1~4区については、III 1区における縄文時代の遺物包含層

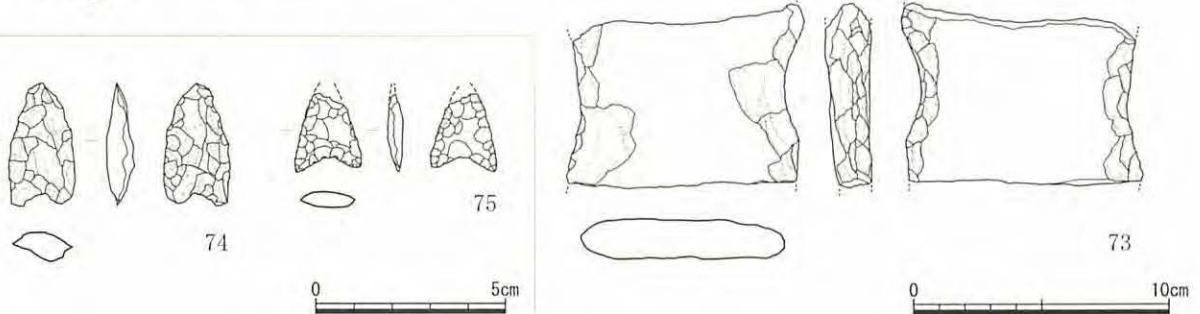
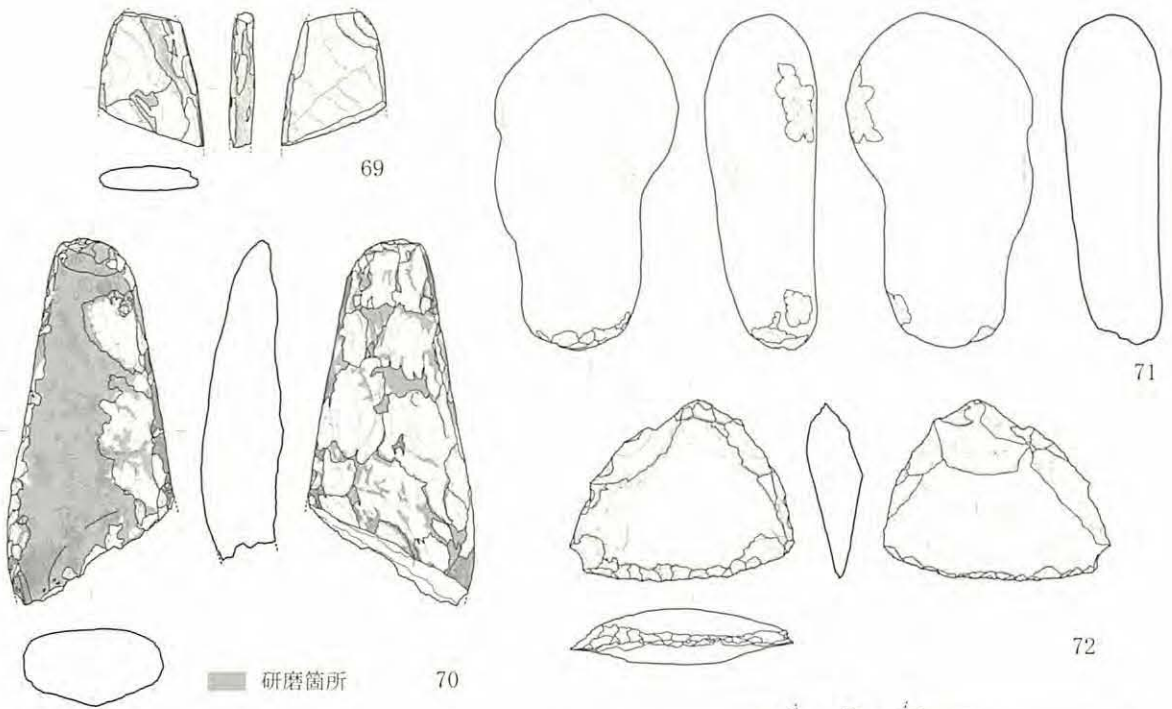
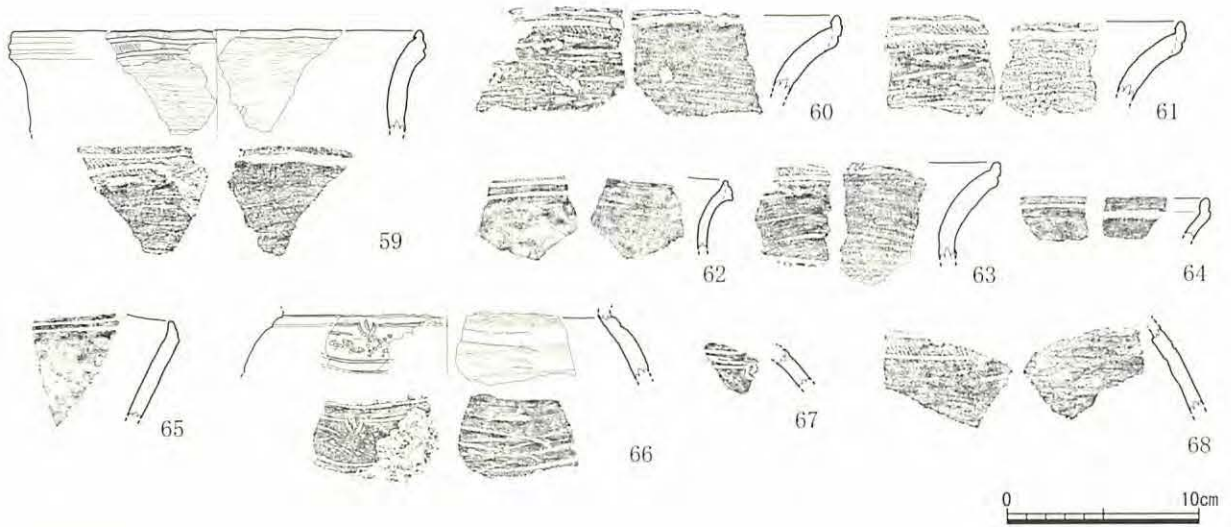


図16 II区出土遺物実測図 (S=1/2・1/3・1/4)

II 1区4層: 73 II 2区4層: 59・60・67 II 2区古代遺構埋土: 70 II 3区4層: 71 II 4-2区古代遺構埋土: 64  
 II 4-4区古代遺構埋土: 72 II 11区4層: 61・62・68・69 II 15区4層: 65 II 21区4層: 66 II 37-2区4層: 63

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

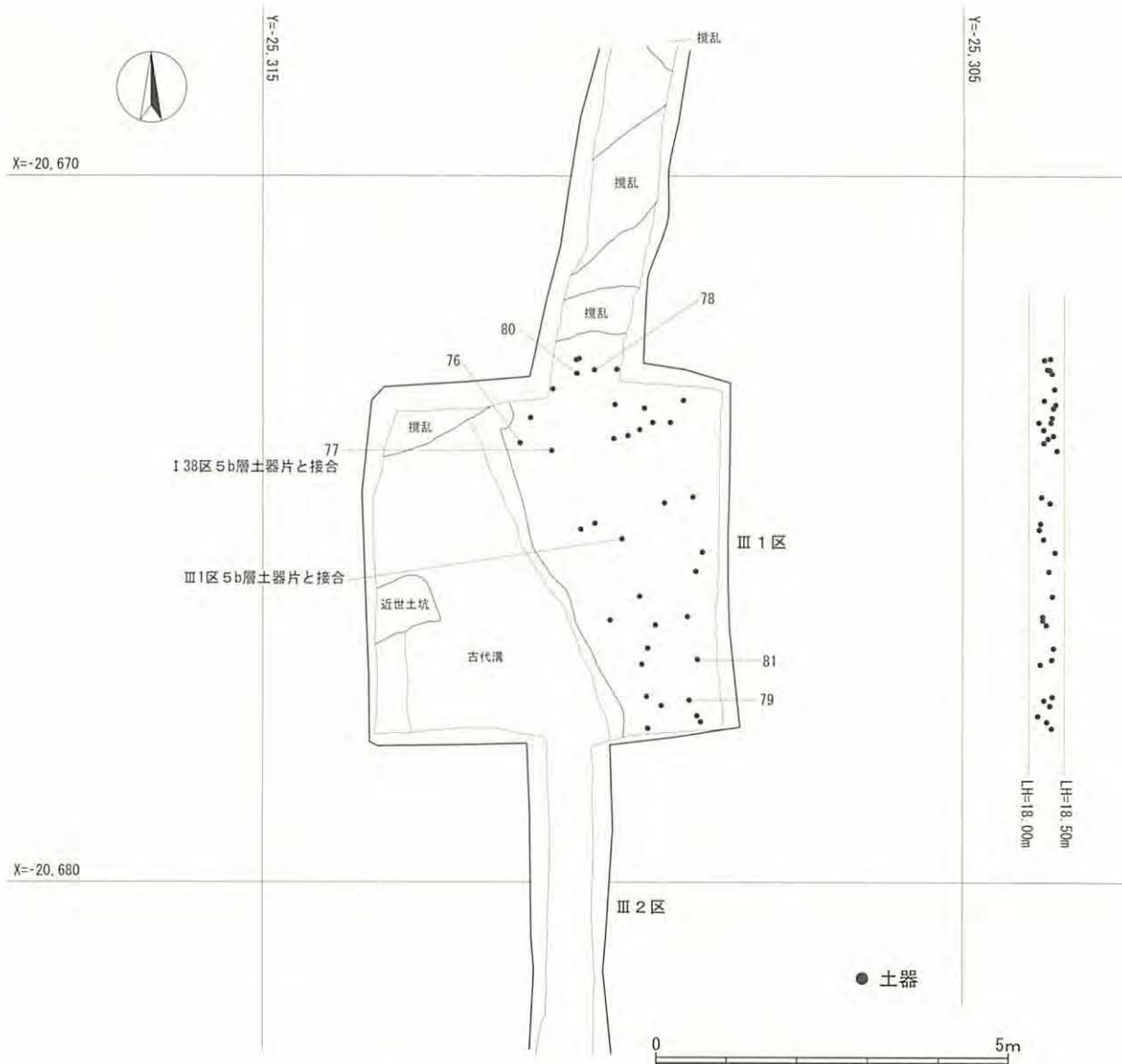


図17 III 1区 5a層遺物出土状況図 (S=1/100)

発見以前に調査が終了しており、工事側に受け渡している。よってII区南半の5層中 (褐色砂層) に縄文時代の遺物包含層があった可能性も捨てきれない。実際、II区の4層や古代遺構埋土中からは後述するように縄文時代の遺物が出土している。また、II区に隣接する黒髪南地区9810調査地点でも、4層や古代遺構埋土中から縄文時代後期～晩期初頭の土器の出土報告がある。注目すべきはII区の出土物の多くが、本調査の他の調査区で数多く出土したI、II類土器をほぼ含まない点である。ある時期の縄文時代集落の範囲を示している可能性もあり、その理由の解明は課題の一つである。

II区の出土遺物 (図16)

59～75はII区の4層や古代遺構埋土からの出土遺物である。59～63はVI類の口縁部片である。いずれも口縁部文様帯に横位に2条の沈線と縄文が施されている。このうち60は口縁部に凹点文が刻まれている。64はIX類の口縁部片である。口縁部外面に沈線が横位に1条走る。65はVII類の口縁部片である。口縁部外面に横位2条の沈線が施される。66・67はVII類の胴部片である。胴部上半が沈線によって区画され、区画内が刺突文によって充填される。68はVI類と思われる胴部片である。胴部外面に横

位に2条の沈線が施され、内側に縄文が施されている。破片上部端には凹点文の痕跡がある。

69は4層から出土した安山岩製の磨製石斧の基部である。打割によって扁平に整形した後に粗く研磨が施されている。70は古代遺構埋土中から出土した蛇紋岩製の磨製石斧である。使用によって刃部が大きく欠けている。全体を打割によって粗く整形した後、研磨によって入念に仕上げているが、表面に比べて裏面は剥離面の凹部のため研磨が充分に行き届いていない。71は安山岩製の敲石である。川原石を利用しており、短辺と長辺側の弱い突出部に敲打の痕跡が認められる。72は安山岩製の搔器である。平面形態は二等辺三角形を呈し、この長辺の一辺に細かい剥離調整によって刃部が設けられている。73は安山岩製の打製石斧の半欠品である。両面は摩耗した自然面であり、扁平な自然石の縁辺部を打割し、両辺中央には抉りを設けている。74は・75は安山岩製の石鏃である。いずれも凹基式で、刃部には細かい剥離調整が認められる。

### ③ III区

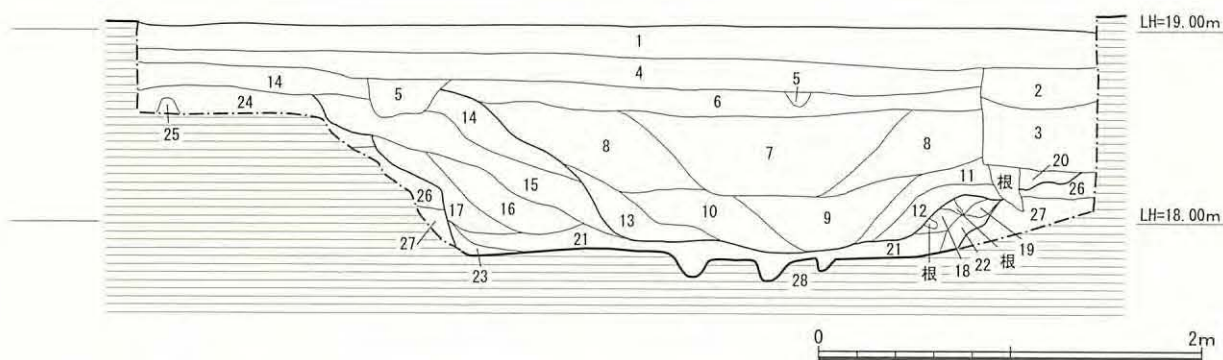
III区は、理学部2号館の南東から理学部4号館の東側の緑地や道路部分、南北約71m、東西約51mの範囲に相当する。調査区は幅1～1.5mの水道・ガス配管に関連する施工の他に、ゴミ置き場設置、低木植栽、電柱、U字側溝、浸透井戸、アスファルト舗装などの施工に係る計41区である(図3)。このうちIII1～4区は、浸透井戸とこれを繋ぐ雨水管の施工に係る調査区であり、施工深度が深いことから縄文時代の遺跡の発見の契機となった。しかし、施工深度の深いIII1～5区のうち、縄文時代遺物の発見以前にすでに調査を終えていたIII5区は古代の遺構の調査に留まった。また、III3・4区は、III2区で7層の検出以前に工事側に受け渡してしまったため、5b層までで調査を終えている。

#### III1区の遺物出土状況(図17～20)

III1区は東西約5.3m、南北約5.2mの方形の調査区で、北方向へ南北約4.5m、幅1.3mの調査区が付随する(図17)。基本土層として表土、近世・近代の遺物包含層である3層(暗褐色土層)、古代の遺物包含層である4層(黒褐色土層)が堆積しており、その下に5層(褐色砂層)が堆積する。III1区には調査区西側に4層上面で近世の溝が検出できた(図18)。溝は古代の遺構面でも検出でき、近世の溝は古代の溝を一部切る形で設けられていたことが分かった。この古代の溝埋土の掘削中、溝の掘方にあたる5層(褐色砂層)中に縄文土器が食い込んだ状態で出土した(図18-26・27層)。熊本大学構内遺跡黒髪南地区の従前の調査では、本層は基本的に遺物の出土しない地山として捉えられてきた。ただし、これまで白川右岸の9911調査地点と0938調査地点において褐色砂層中から縄文土器が得られた例があった(小畑・大坪編2011、大坪編2014)。その調査成果を鑑みて、担当者はIII1区の5層について全体を掘り下げることとした。すると5層の中でもやや赤みがかかった5a層(赤褐色砂層)から少量の縄文土器が出土した(図17、図19-8・9)。またその下に堆積するやや緑がかかった5b層(緑褐色砂層)からは大量の縄文土器と少量の石器や土製品が全面に出土したのである(図19-10・11、図20)。この調査区の成果を契機として以降は、施工深度の深い調査区のうち5層の掘削が必要な調査区については全て掘削を実施し、縄文時代の遺物を取り上げている。

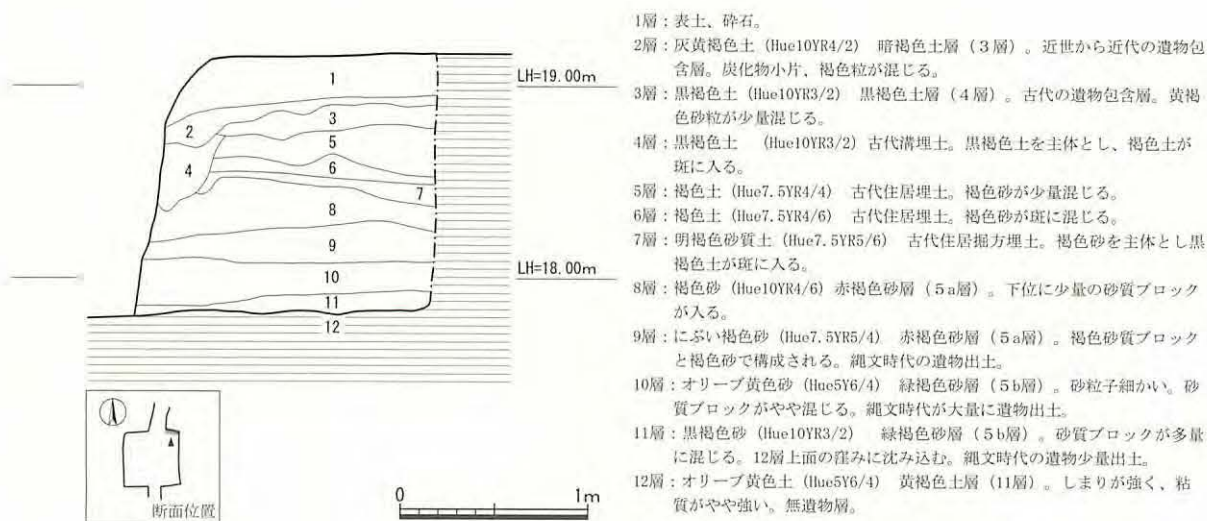
III1区の5a層では小コンテナ1箱分ほどの縄文土器が出土した。調査区全体に散発的な分布を示しており、出土レベルは標高18.1～18.4mの中にほぼおさまる(図17)。一方、5b層では大コンテナ3箱分ほどの縄文土器と石器、土製品が出土した。遺物を上下2回に分けて取り上げており、5b層上位では調査区の中央から南より出土していたが、5b層下位では北側にも広く分布し、特に調査区中央部やや北側に集中を見せた(図20)。出土レベルは標高約17.8～18.2mで、標高18.0mに最も土器が集中しており、5b層の下に堆積する11層(灰オリーブ褐色砂層)に近づくにつれて遺物が減少

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)



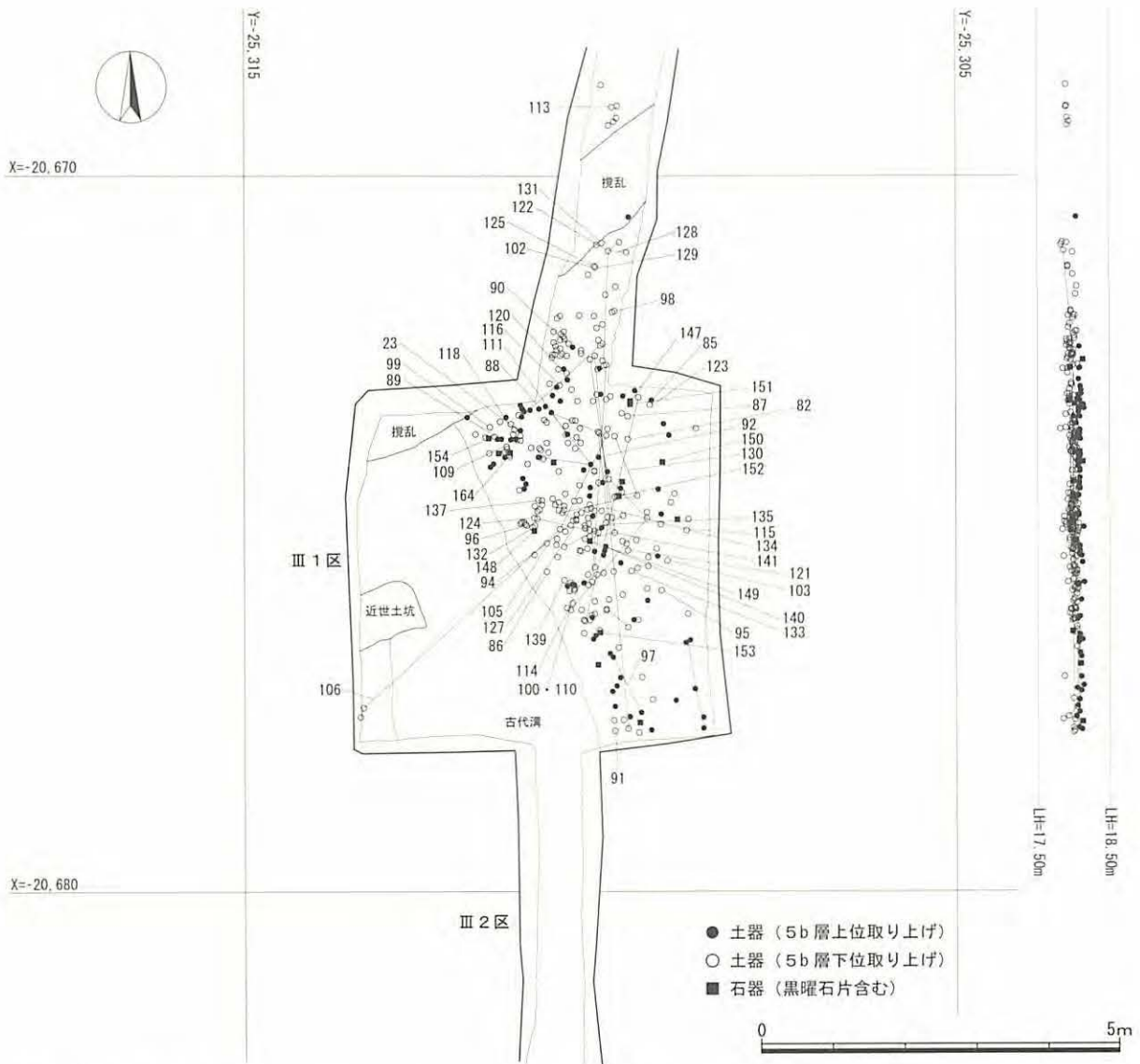
- 1層: 表土、砕石。
- 2・3層: 現代配管埋土。
- 4層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 暗褐色土層 (3層)。近世・近代の遺物包含層。
- 5層: 暗褐色土 (Hue10YR3/4) 近世以降の土坑埋土。4層より色調やや明るい。
- 6層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。炭小片、褐色粒子が混じる。
- 7層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。炭小片、褐色粒が混じる。
- 8層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。褐色ブロック小片混じる。
- 9層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。炭小片、褐色粒が多量に混じる。
- 10層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。炭小片、褐色粒がごく少量混じる。
- 11層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。炭小片、褐色粒が少量混じる。
- 12層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。暗褐色土を主体に褐色粒が混じる。陶磁器や鉄釘が出土。
- 13層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。暗褐色土を主体に褐色粒と赤褐色粒が混じる。
- 14層: 黒褐色土 (Hue10YR2/2) 黒褐色土層 (4層)。古代の遺物包含層。黒褐色土主体に暗褐色土が斑に入る。
- 15層: 黒褐色土 (Hue10YR2/2) 古代溝埋土。赤褐色粒や炭小片が混じる。
- 16層: 黒褐色土 (Hue10YR2/2) 古代溝埋土。下に褐色粒が混じる。
- 17層: 黒褐色土 (Hue10YR2/3) 古代溝埋土。黒褐色土主体に褐色土が斑に入る。
- 18層: 暗褐色土 (Hue10YR3/4) 古代溝埋土。暗褐色土を主体に褐色ブロックが入る。
- 19層: 暗褐色土 (Hue10YR3/4) 古代溝埋土。褐色ブロックが主体である。
- 20層: 暗褐色土 (Hue10YR3/4) 古代溝埋土。褐色と黒褐色土が斑に混じる。
- 21層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 古代溝埋土。須恵器片出土。少量の炭片混じる。
- 22層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 古代溝埋土。褐色粒多く混じる。27層由来のブロック少量入る。
- 23層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 古代溝埋土。褐色、黒褐色の粒が混じる。
- 24層: 黒褐色土 (Hue10YR2/2) 古代住居埋土。褐色土と黒褐色土が斑に混じる。
- 25層: 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 古代住居カマド粘土。白く、粘質強い。
- 26層: 褐色砂 (Hue10YR4/6) 赤褐色砂層 (5a層)。わずかに黒褐色土が斑に入る。縄文時代の遺物包含層。
- 27層: にぶい黄褐色砂 (Hue10YR4/3) 緑褐色砂層 (5b層)。26層よりやや緑がかかった色調。混じりが少ない。縄文時代の遺物包含層。
- 28層: 褐色土 (Hue10YR4/4) 灰オリブ褐色砂層 (11層)。上面は上層からの貫入により凹凸が著しい。無遺物層。

図18 III 1区近世・古代溝東西ベルト北壁土層断面図 (S=1/400)



- 1層: 表土、砕石。
- 2層: 灰黄褐色土 (Hue10YR4/2) 暗褐色土層 (3層)。近世から近代の遺物包含層。炭化物小片、褐色粒が混じる。
- 3層: 黒褐色土 (Hue10YR3/2) 黒褐色土層 (4層)。古代の遺物包含層。黄褐色砂粒が少量混じる。
- 4層: 黒褐色土 (Hue10YR3/2) 古代溝埋土。黒褐色土を主体とし、褐色土が斑に入る。
- 5層: 褐色土 (Hue7.5YR4/4) 古代住居埋土。褐色砂が少量混じる。
- 6層: 褐色土 (Hue7.5YR4/6) 古代住居埋土。褐色砂が斑に混じる。
- 7層: 明褐色砂質土 (Hue7.5YR5/6) 古代住居掘方埋土。褐色砂を主体とし黒褐色土が斑に入る。
- 8層: 褐色砂 (Hue10YR4/6) 赤褐色砂層 (5a層)。下に少量の砂質ブロックが入る。
- 9層: にぶい褐色砂 (Hue7.5YR5/4) 赤褐色砂層 (5a層)。褐色砂質ブロックと褐色砂で構成される。縄文時代の遺物出土。
- 10層: オリブ黄色砂 (Hue5Y6/4) 緑褐色砂層 (5b層)。砂粒子細かい。砂質ブロックがやや混じる。縄文時代が大量に遺物出土。
- 11層: 黒褐色土 (Hue10YR3/2) 緑褐色砂層 (5b層)。砂質ブロックが多量に混じる。12層上面の窪みに沈み込む。縄文時代の遺物少量出土。
- 12層: オリブ黄色土 (Hue5Y6/4) 黄褐色土層 (11層)。しまりが強く、粘質がやや強い。無遺物層。

図19 III 1区北壁東側土層断面図 (S=1/40)



土器の接合状況のみ



図20 III 1区 5b層遺物出土状況図 (S=1/100)



図21 III 1区5a層出土土器実測図 (S=1/4)

していく傾向があった。これはI 37区の出土状況ともよく似ている。土器の接合状況を見ると、調査区内のごく狭い範囲で接合する資料もあるが、5 m以上離れたI 37・38区の5 b層と接合する資料もある。遠い位置ではIII 2区7層出土土器と接合する例もあった。ただし、土器はいずれも摩耗がほとんど認められず、10 cmを超えるような大型土器片も多いことから、水の影

響で流されて集積したのではなく、使用後の道具を人為的に廃棄した状況であると想定できる。また本調査区では土器、石器、土製品が出土したが、骨などの動物遺体は検出されなかった。

### III 1区の出土遺物 (図21~26)

76~81は、5 a層から出土した土器の口縁部および胴部である (図21)。76、77はI a類の波状口縁の口縁部片である。口縁部上端に沿うように横位に3条の沈線が走り、その下に斜位の沈線が連続して施されている。77は口縁部上端がやや肥厚し、そこに横位沈線文が巡る。78はI a類の口縁部片である。肥厚した口縁部に縦位の短沈線文を連続的に施している。接合はしなかったが、5 b層の84と同一個体と思われる。79はII類の胴部片である。胴部に刻目突帯文が1条巡る大型の深鉢である。80はIII類の口縁部片である。やや肥厚した口縁部上端へ縄文を施し、波頂部に向けて横位1条の沈線文と連続した弧文が並ぶ。頸部には縦位の沈線の端部が見受けられる。口縁上端施文部には赤色顔料が付着している。81はIV類の頸部片である。頸部外面に沈線によって鉤手文が施される。

82~98は、5 b層から出土したI類の土器である (図22)。82~94はI a類の深鉢または鉢の口縁部片である。82~84は口縁部の一部が突出した波状口縁である。82は口唇部に刻目文を施し、口縁部上位に斜位の沈線を、下位に横位2条の沈線を施し文様を構成する。83は波頂部口唇部に刻目文を入れ、中央では斜位の短沈線により綾杉文が施される。その両端に口縁部と平行するよう横位の沈線文が複数走る。84は肥厚した口縁部に縦位の短沈線文が施されている。85~93は平口縁である。85は短沈線により綾杉文が施され、その端に横位の沈線文が巡っており、文様構成が83と類似する。86はやや厚みを帯びた口縁部に縦位と斜位の沈線による文様が施されている。内面には明瞭に貝殻条痕が残る。87も86と類似した構成の沈線文を持つ。88は口縁部上端に横位の沈線文、下に縦位の沈線文が施されている。89~91は口縁部に横位の沈線が数条巡る。92、93は口縁部に斜位の沈線が連続して施されている。94は口縁下部から頸部にかけての破片で斜位の沈線が連続して施されている。95は口縁部に横位の1条の沈線が走る。96~98はI b類の口縁部片である。96・97は口縁部が広く開いており、鉢あるいは浅鉢と推測される。96は口縁部上端やや下に1条の刻目突帯文が走る。97は口縁部と胴部の境に刻目突帯文が走る。また口縁部の一部が注口のように広がる部分があるが明確でない。98は1あるいは2単位の波状口縁を持つ深鉢である。口縁部は広がっており、頸部がややくびれ、内面には稜線を持つ。口縁部から波頂部に沿って横位1条の刻目突帯文が走る。刻目突帯文の下位にあたる頸





図22 III 1区5 b層出土土器実測図1 (S=1/4)

部付近には指オサエの痕跡が明瞭に残る。99～109は5 b層から出土したII類の口縁部である(図23)。99～103は口縁部の一部が突出する波状口縁である。波頂部の口唇部と口縁部内面に刺突文が施されることを大きな特徴とする。また、口縁部上端には刺突文が施され、やや空白をはさみ刻目突帯文が1条施されている。波頂部ではこの刻目突帯文が縦位あるいは斜位に上方へ向かって2条ないし1条伸びている。波頂部の形状は様々で101や103のように三角形のもの、99や102のように台形状に立ち上がるもの、100のように二股に分かれるもの等がある。103は胴部に回転穿孔によって孔が設けられている。104～109は平口縁の破片である。いずれの土器も口縁部に刺突文、その下に刻目突帯文を有する。104は刺突文を斜位に2条施してV字状の文様を持つ。105は口縁部上端に刺突文と横位2条の沈線文とを組み合わせている。106はII類の大型の深鉢である。口縁部の残りが少なかったが、胴部で口径復元を試みたところ、直径37.2cmの大型品であったことが分かった。本資料は口縁部上端に平行して2条の沈線が走り、その下にやや間をおいて刻目突帯文が施されている。105の例などから、口縁部上端には刺突文が施されることがあった可能性もある。109はII類の波状口縁の一部と思われる。口縁部上端への刺突文と刻目突帯文とが並ぶ。110～114はI b類あるいはII類の口縁部と思われる。115～118はIII類の口縁部あるいは胴部片である。115は口縁部から口唇部にかけて縄文を施した後、対向弧文と円文、沈線文を施している。また、対向弧文の中央には回転穿孔が設けられ、文様の展開が口唇部と対応している。116は胴部片で、向きは不明確だったが図化した。縄文と沈線文

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

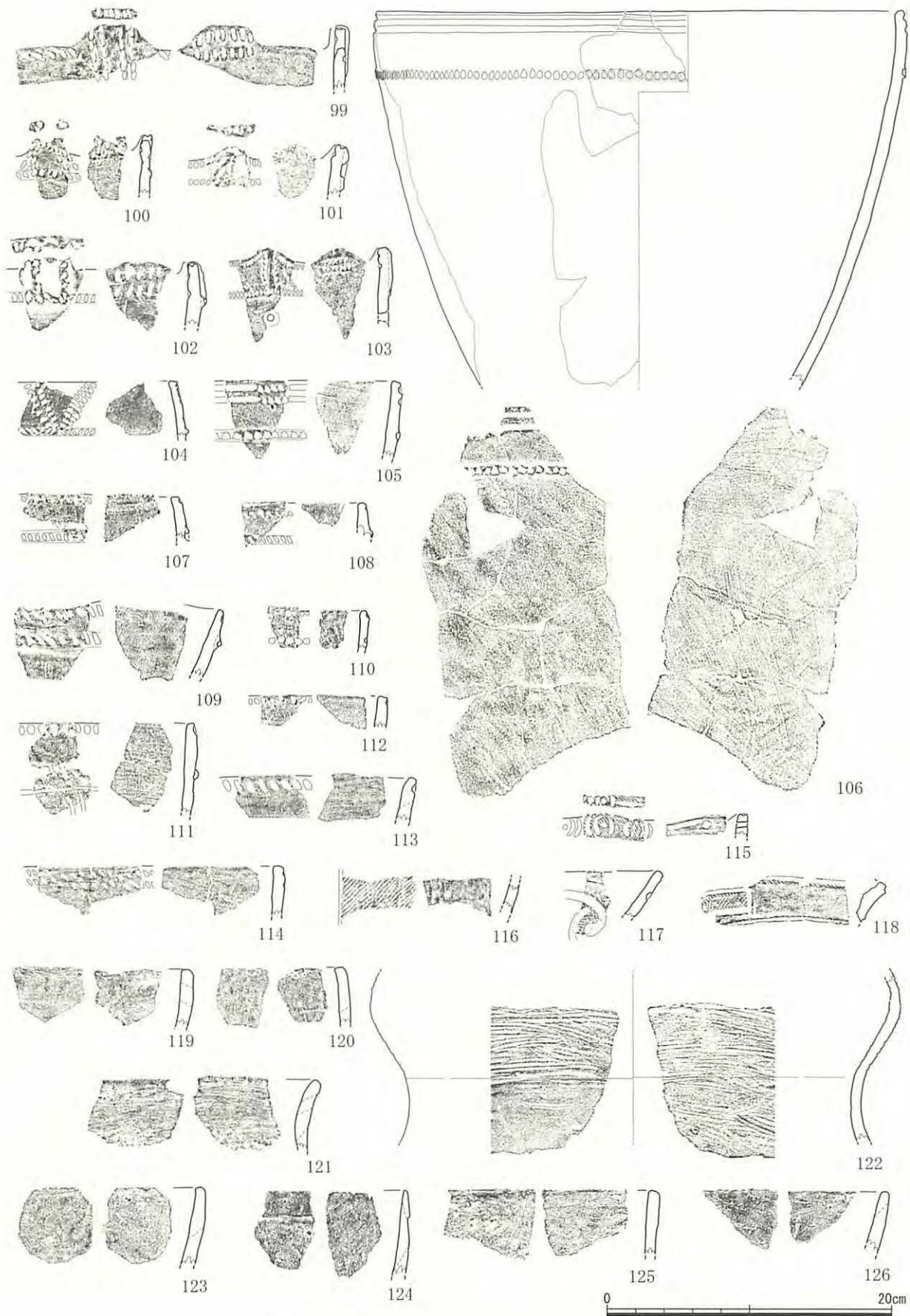


図23 Ⅲ1区5b層出土土器実測図2 (S=1/4)

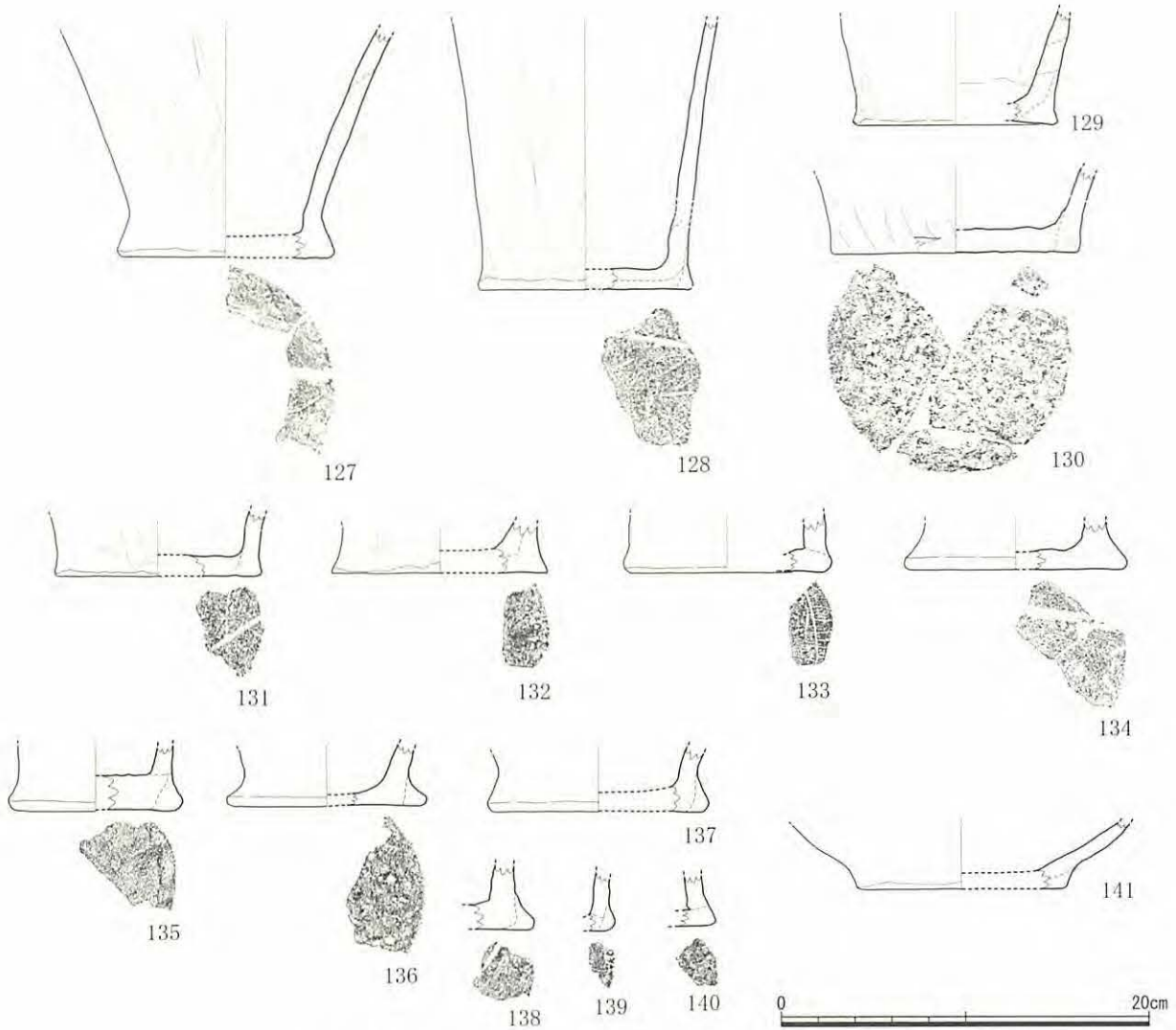


図24 III 1区5b層出土土器実測図3 (S=1/4)

が施されている。117・118も沈線文によって文様区画され、その内側に縄文が施されている。119～121、123～126はX類の口縁部片である。122はV類の口縁部～胴部片である。口縁部と思われる上部と内面全体に貝殻条痕が明瞭に残る。194～141は縄文土器の底部破片である(図24)。そのほとんどがくびれた平底で、底部外面には木葉痕や鯨椎骨の圧痕らしきものが見受けられる。141は鉢あるいは浅鉢の底部で、全体が磨かれている。

142～146は土器片転用錘である(図25)。土器の破片を長方形あるいは隅丸方形に粗く研磨整形し、その各短辺に線刻状の抉りを設けている。この抉りを用いて紐などで緊縛し、漁網錘など錘として使用したと考えられる。147～149は安山岩製の敲石である。いずれも河原で採れるような摩耗した自然石を使用しており、小口部分に敲打痕が残る。150は安山岩製の石錘である。扁平な隅丸台形の自然石の小口部分を打割して抉りを設けている。151は砂岩製の砥石である。全体形は不明だが、剥離した部分も含めて多面的に使用しており、一部自然の凹凸面が残る。152は黒曜石の剥片である。153・154は黒曜石の搔器である。いずれも良質な黒曜石を使用し、扁平な形状に整え、縁辺部に連続的な剥離調整によって刃部を設けている。164は蛇紋岩製の磨製石斧の刃部である(図26-164)。線状痕

1. (黒髪南) ライフライン再生（給水設備等）工事に伴う発掘調査（1310調査地点）

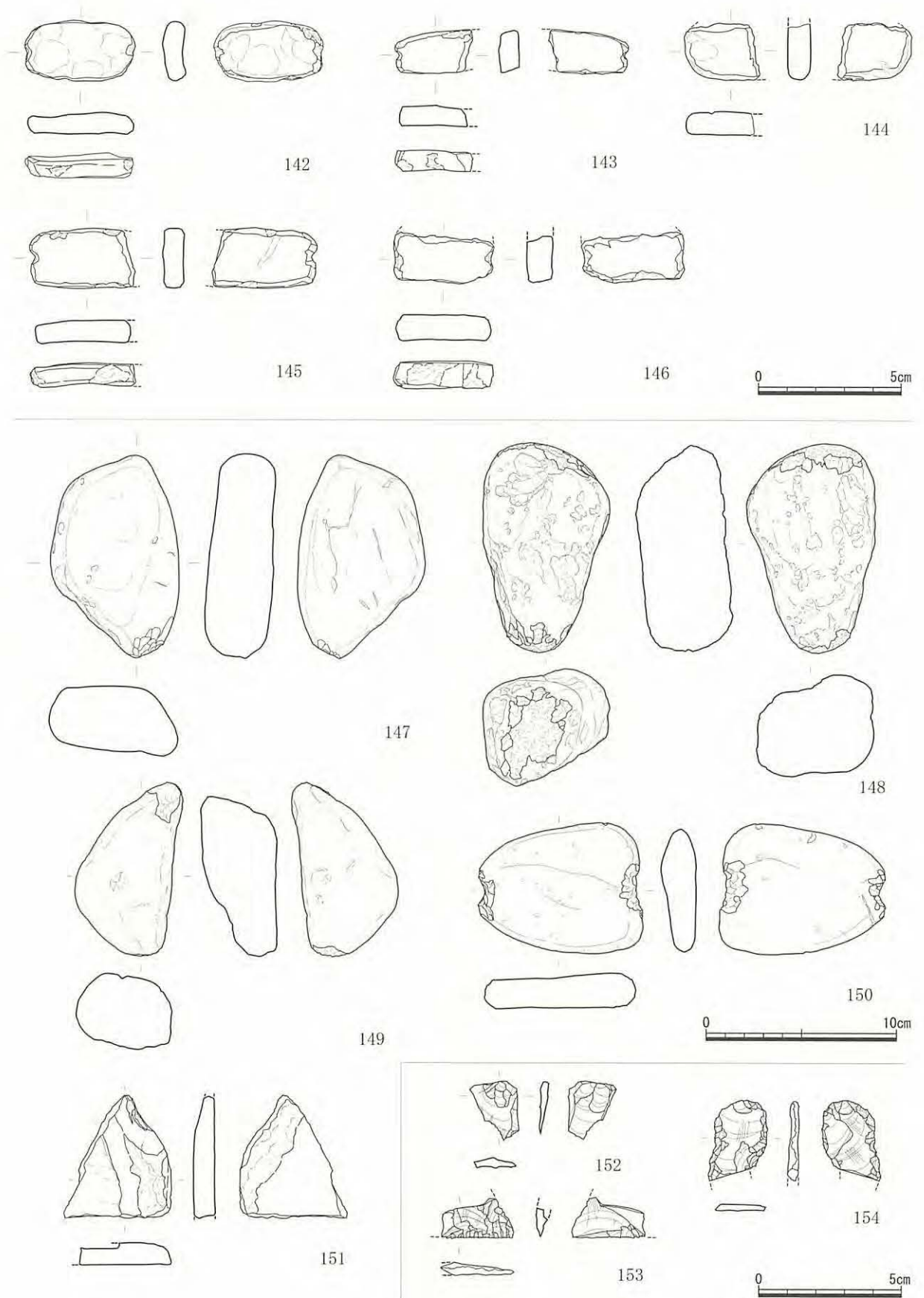


図25 Ⅲ1区5b層出土土製品・石器実測図 (S=1/2・1/3)

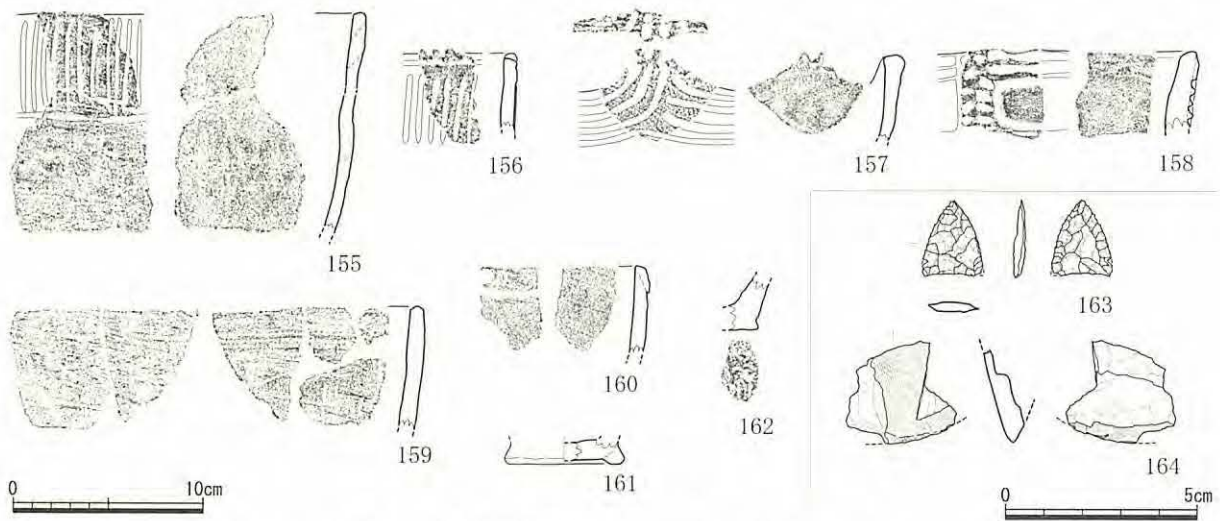


図26 III 1区出土遺物実測図 (S=1/2・S=1/4)

攪乱：158・163 先行トレンチ：161 古代遺構埋土：155～157・159・160・162 5b層：164

が明瞭に残り、刃部形態は蛤刃状を呈するとみられるが、破片のため詳細は不明である。

155～163はIII 1区の攪乱、古代遺構埋土などから出土した土器と石器である(図26)。このうち155～160は口縁部片である。155はI a類の口縁部で、縦位の短沈線を連続的に施し、その下に横位1条の沈線文が施される。156は口唇部に刻目文が入り、口縁部上端に横位1条の沈線、その下に縦位の短沈線文がほどこされる。157は波状口縁で、頂部口唇部に刺突文が入り、口縁部辺に沿って数条の沈線文が施されている。158はI類の口縁部で、口縁部上端に2条の沈線文と、縦位の刻目突帯文が施される。159・160はX類の口縁部片、161・162は底部片である。163は安山岩製の石鏃である。長さ2cmの小形品でややレンズ状に内湾する平基式である。

### III 2区の遺物出土状況(図27・28)

III 2区はIII 1区とIII 3区の浸透井戸を接続するための排水管を設置するための工事に係る調査区である(図27)。幅1.2～1.4m、長さ約17.5mの東西に長い調査区で、施工深度は地表面から約2.2mと深かった。調査区の北側にはIII 1区に続く近世溝が走っており、掘方は12層(灰オリーブ褐色砂層)まで達していたため、縄文時代の遺物包含層である5層(褐色砂層)はほぼ残っていなかった。一方、中央から南側では一部古代遺構埋土に切られていたものの5層が良好な状態で堆積していた。III 1区において5層より縄文時代遺物が出土することがすでに判明していたため、本調査区南半についても古代遺構の調査終了後、5層の掘削を開始した(図28-19～22)。すると予想に反し、本調査区では本層からの縄文時代遺物が一点も出土しなかった。そして、5b層の直下にはスコップが刺さらない程非常に硬い灰色砂層(6層)が一面に検出された(図28-23)。この層は熊本県内の埋蔵文化財行政において地山とされてきた層で、本土層より下位に文化層は存在しないとされており、大学構内遺跡でも調査事例がなかった。

調査担当者は、本調査区の土層の堆積状況が、III 1区で5b層の直下に灰オリーブ褐色砂層(11層)が堆積する状況と異なっていたことを理由に、土層の把握のため、この6層を調査区東側半分のみ深掘りすることにした。すると、この硬質砂層の直下の7層(黒褐色砂層)から縄文時代後期前葉の土器と石器が出土したのである。硬質砂層の上面は標高約18.0mでほぼ水平であったが、7層とその漸移層は調査区の北端で標高約18.0m、南端では標高約17.0mと下がり、白川方向に向けてゆるや

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

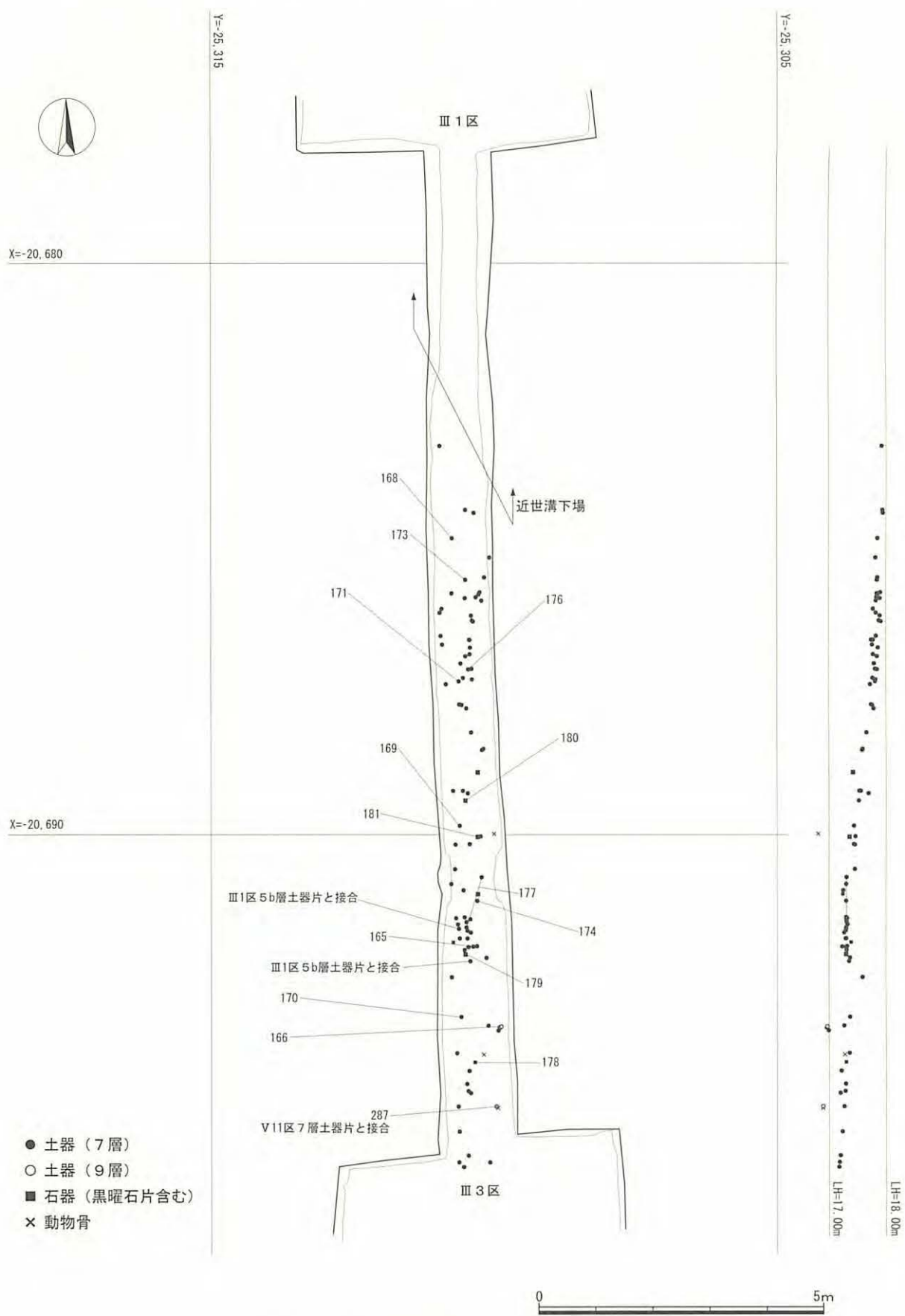
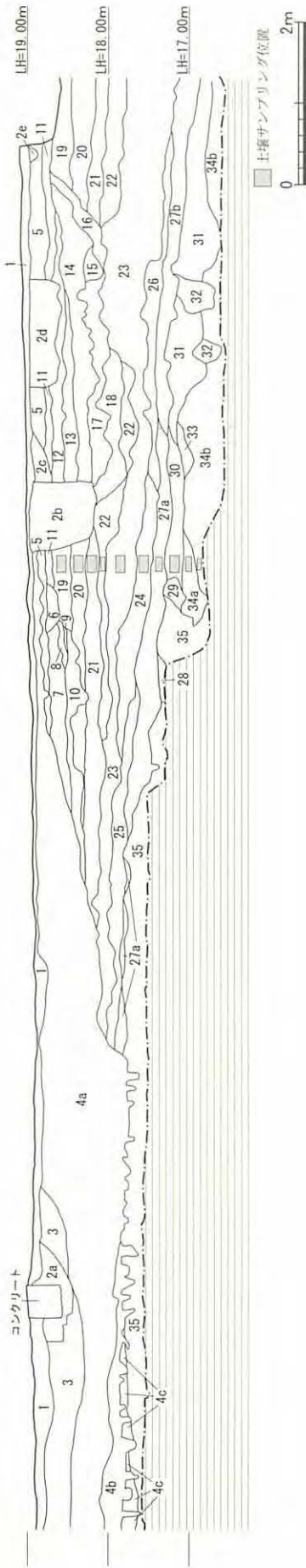
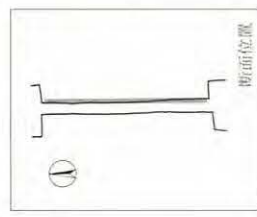


図27 III 2区 7・9層遺物出土状況図 (S=1/100)



- 1層：表土。クラッシュヤーン。  
 2層：2a～2eは現代土坑埋土。  
 3層：暗褐色土(Hue10YR3/3) 近世溝埋土上層。炭化物小片が多く含まれる。  
 4層：暗褐色土(Hue10YR3/3) 近世溝埋土下層。4b、4cと下位に向かうほど褐色粒が多く含まれる。  
 5層：黒褐色土(Hue10YR2/2) 黒褐色土層(4層)。古代遺物の包含層。  
 6層：黒褐色土(Hue10YR2/2) 古代土坑埋土。  
 7層：暗褐色土(Hue10YR3/3) 古代遺構埋土。  
 8層：暗褐色土(Hue10YR3/4) 古代遺構埋土。  
 9層：暗褐色土(Hue10YR3/4) 古代遺構埋土。8層よりややしまり強い。  
 10層：黒褐色土(Hue10YR3/2) 古代遺構埋土床形成土。焼土ブロック混じる。  
 11層：黒褐色土(Hue10YR3/2) 黒褐色土と黒褐色色の漸移層。  
 12層：明黄褐色土(Hue2.5Y6/8) 倒木痕。混入物ほとんどない。  
 13層：褐色土(Hue7.5YR6/8) 倒木痕。  
 14層：明黄褐色土(Hue10YR6/6) 倒木痕。一部ブロック混じる。マンガン沈着する。無遺物層。  
 15層：明黄褐色土(Hue2.5YR6/6) 倒木痕。ややマンガンが沈着する。無遺物層。  
 16層：黄褐色土(Hue2.5YR5/6) 倒木痕。ブロック少量混じる。マンガン沈着する。無遺物層。  
 17層：暗褐色土(Hue10YR3/3) 倒木痕。ブロック混じる。マンガン著しく沈着する。無遺物層。  
 18層：オリブ黒褐色土(Hue10YR/) 倒木痕。一部腐質化する。マンガン著しく沈着する。無遺物層。  
 19層：黄褐色土(Hue10YR5/8) 褐色砂層(5a層)。下部にややブロック混じる。上面で古代の遺構検出。遺物出土せず。  
 20層：明黄褐色土(Hue10YR5/6) 褐色砂層(5a層)。明黄褐色色のブロック混じる。隣接する調査区では縄文時代遺物出土。  
 21層：にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4) 緑褐色砂層(5b層)。下部がややブロック化する。隣接する調査区では縄文時代遺物出土。  
 22層：黄褐色土(Hue2.5Y5/6) 緑褐色砂層(5b層)。同色のブロックやや混じる。隣接する調査区では縄文時代遺物出土。  
 23層：オリブ黒褐色土(Hue5Y5/4) 灰色硬質砂層(6層)。全体的に砂質ブロック化し、しまり強い。砂質ブロック状には並行ラミナが認められる。無遺物層。  
 24層：オリブ褐色土(Hue5Y3/3) 灰色硬質砂層(6層)と黒褐色砂層(7層)の漸移層。ごく少量の遺物出土。  
 25層：黄褐色土(Hue2.5Y5/4) 灰色硬質砂層(6層)と黒褐色砂層(7層)の漸移層。上部に1～3cmのブロック混じる。少量遺物出土。  
 26層：暗オリブ褐色土(Hue2.5Y3/3) 灰色硬質砂層(6層)と黒褐色砂層(7層)の漸移層。砂質が細かい。縄文時代の遺物出土。  
 27a層：オリブ黒褐色土(Hue5Y2/2) 黒褐色砂層(7層)。縄文時代の遺物包含層。27b層よりしまり強く、やや粒子が粗い。  
 27b層：暗オリブ褐色土(Hue2.5Y3/3) 黒褐色砂層(7層)。縄文時代の遺物包含層。ブロックがほぼ入らない。他の層と比較して、やや粘質土混じる。  
 28層：オリブ褐色土(Hue5Y4/2) しまりの強い砂質土。色調が褐色が混じり、本来は35層と同じ土か。  
 29層：暗オリブ褐色土(Hue5Y4/2) 35層由来の土。やや粘質の土砂が混じる。  
 30層：黒オリブ褐色土(Hue5Y2/2) 青灰色硬質砂層(8層)。しまり強い砂質土が部分的に入る。褐色粒を少量含む。  
 31層：黒色土(Hue2.5GY2/1) 青灰色硬質砂層(8層)と灰色砂層(9層)の混じる層。灰オリブ色と褐色の珪に混じる硬い砂質土を主体とし、割れ目にオリブ黒色の砂が入り込む。この上面は細文土器出土。  
 32層：オリブ黒褐色土(Hue5Y2/2) 根の入り込みによるものか。混じり毛なく、粒子が細かい。  
 33層：オリブ黒褐色土(Hue5Y2/2) 30層と類似するが、ややしまりが強い砂質土の割合多い。細文土器出土。  
 34a層：黒褐色土(Hue7.5Y2/2) 灰色砂層(9層)。非常にしまりの強い砂層。  
 34b層：黒褐色土(Hue7.5Y2/1) 灰色砂層(9層)。非常にしまりの強い砂層を主体とし、1～5cmの間隙が多く混じる。細文土器と獣骨を少量検出。  
 35層：暗オリブ褐色土(Hue5Y4/2) 灰オリブ褐色砂層(11層)。しまり強く、他の層に比べてやや粘質あり。無遺物層。

図28 Ⅱ2区東壁土層断面図 (S=1/80)



かに傾斜しながら堆積していた (図28-24~27)。7層の遺物包含層を全て掘削した後、調査区南半でⅢ1区の最下層にあたる灰オリーブ褐色砂層 (11層) の堆積の続きを確認するため、土層確認面である調査区東半を掘削した。結果、11層は調査区南端から6.3mの位置で7層の下に堆積する9層 (灰色砂礫層) によって大きく削られていることが確認できた (図28-35)。9層は非常にしまりの弱いサラサラの砂礫層で、川底の砂のような質感である。1、2点の土器片や獣骨片が混じるが、その土質からも遺物包含層とは考えにくく、遺物は上下からの混ざり込みと考えられる。土器の接合状況を見ると、本調査区7層出土土器とⅢ1区5b層の出土土器の接合例が認められた。両土層の上下関係を鑑みるに、Ⅲ1区の5b層は7層の堆積時期とほぼ同時期か、あるいはやや先行すると考えるべきである。本書の総括で土層の堆積と遺跡の形成過程に関する見解を示している (本書: pp.90~95)。本調査区の調査によって、従来は地山と考えられてきた硬質砂層の下にも遺物包含層が存在することが明らかとなった。また、本調査区からⅣ14区にかけて9層 (灰色砂礫層) が堆積することから、白川により近い位置では洪水や冠水により土や砂の堆積や削平が活発であったことが明確となり、本調査区周辺は、白川の川幅が洪水により拡幅し、一時期川の底に沈んでいたか、あるいは支流が流れていたと推測された。

### Ⅲ2区の出土遺物 (図29)

165~181はⅢ2区の7層および9層の出土遺物である (図29)。165はI a類の口縁部である。口縁部は頸部から弱く外反しており、その部分に施文される。口縁部には刺突文に近い短沈線で綾杉文が施され、その両端には沈線文が数条巡っている。166はⅡ類の口縁部片である。胴部から口縁部にかけてやや強く外反しており、口唇部は平坦面を形成する。口縁部上端に細かい連続刺突文が施され、やや間をおいて刻目突帯文が横位に巡る。167はⅡ類らしき口縁部片である。口唇部に刺突文と口縁部外面に刺突文が施されている。168~172はX類の深鉢あるいは鉢の口縁部である。173はX類の粗製の浅鉢である。7層より破片がまとまって出土しており、復元すると全体形が復元できる資料となった。内外面に横方向の条痕が走り、内面ではこれと直行するように縦位の磨きが、外面では横位と斜位の磨きが施されている。174~177は縄文土器の底部片である。174~176はくびれた平底で底部外面に木葉痕や鯨椎骨痕らしき圧痕が確認できる。177は粗製土器の底部で、底部に高台がつき底面が持ち上がる。内外面とも脚部から底部にかけて粗い磨きが施されている。この他、V11区7層と接合した資料として9層から出土したⅡ類の土器口縁部片があるが、V11区で所見を述べる (図52-287)。178は玄武岩の剥片である。長辺を連続的に剥離させ調整しているが、未成品で器種は不明である。179は安山岩製の石鏃未成品である。180は楕円形の凹石の半欠品で、中央部に顕著な凹部が認められた。181は不定形の自然石の一端に研磨面のある石器で、磨石の一種と考えられる。

### Ⅲ3・4区の遺物出土状況 (図30~32)

Ⅲ3区は浸透井戸の設置に伴う5×5.5m程の方形の調査区である。Ⅲ4区は浸透井戸同士を接続する排水管の設置に伴う、幅1.2~1.5m、長さ11.5mの南北に長い調査区である (図30)。両調査区はⅢ1区にやや先行して調査しており、近代や古代の遺構が検出された。古代遺構の調査終了後、褐色砂層の縄文時代遺物包含層について調査を実施した。いずれの調査区でも5b層 (緑褐色砂層) 中から数点の縄文土器が散発的に出土するのみで、Ⅲ1区ほどの土器の集中はなかった (図31・32)。施工深度が2.2m程と深いため、本来ならば硬質砂層の下に堆積する縄文時代後期前葉の遺物包含層である7層 (黒褐色砂層) まで掘削するべきだったが、Ⅲ2区で7層を認識する以前に工事へ受け渡してしまったため、本調査区については一部縄文時代の遺物包含層が破壊されてしまった可能性がある。また、Ⅲ4区の南に隣接するⅢ5区でもⅢ1区における縄文時代遺物の発見以前に調査を終了してい



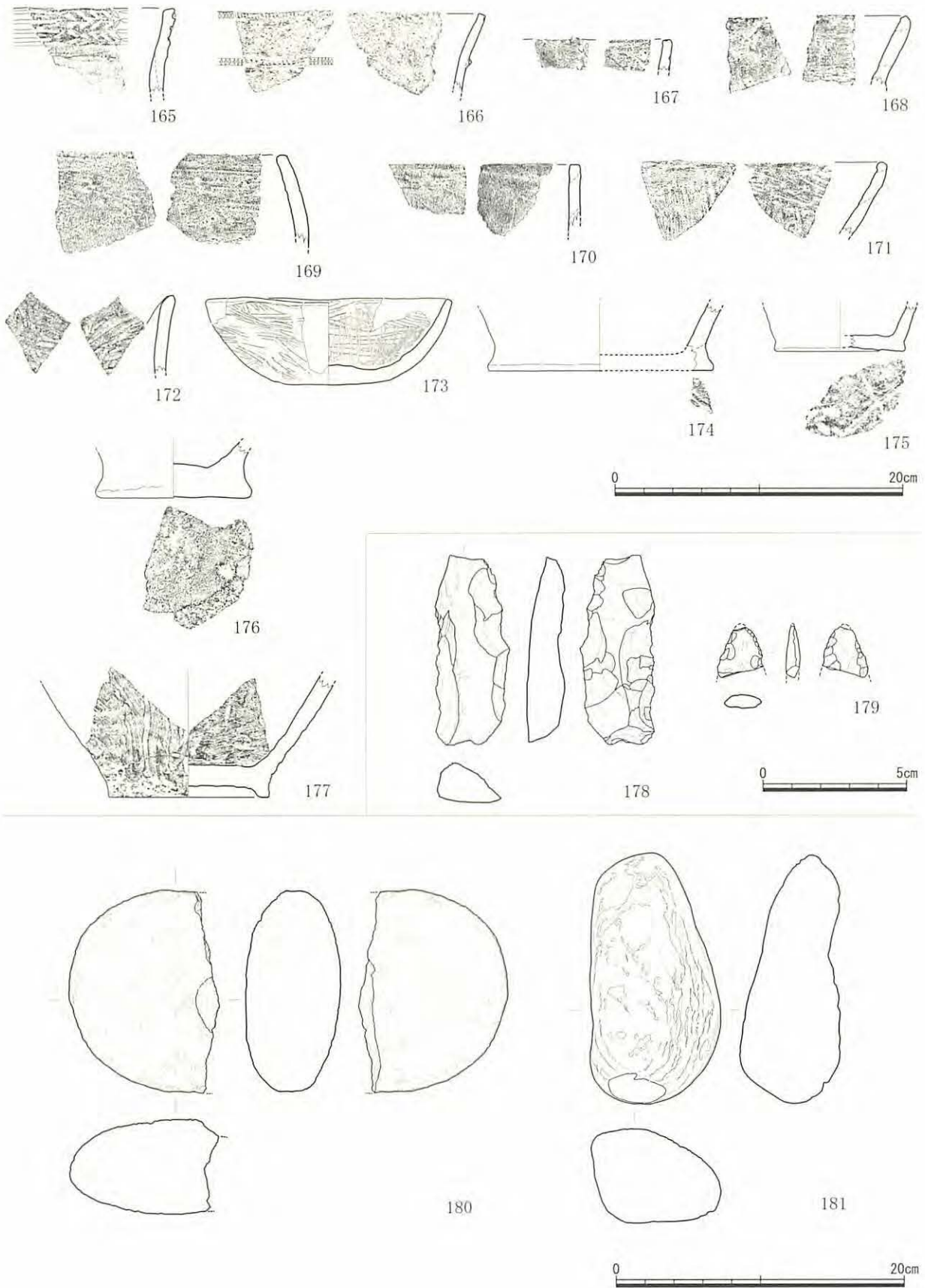


図29 III 2区7・9層出土遺物実測図 (S=1/2・1/4)

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

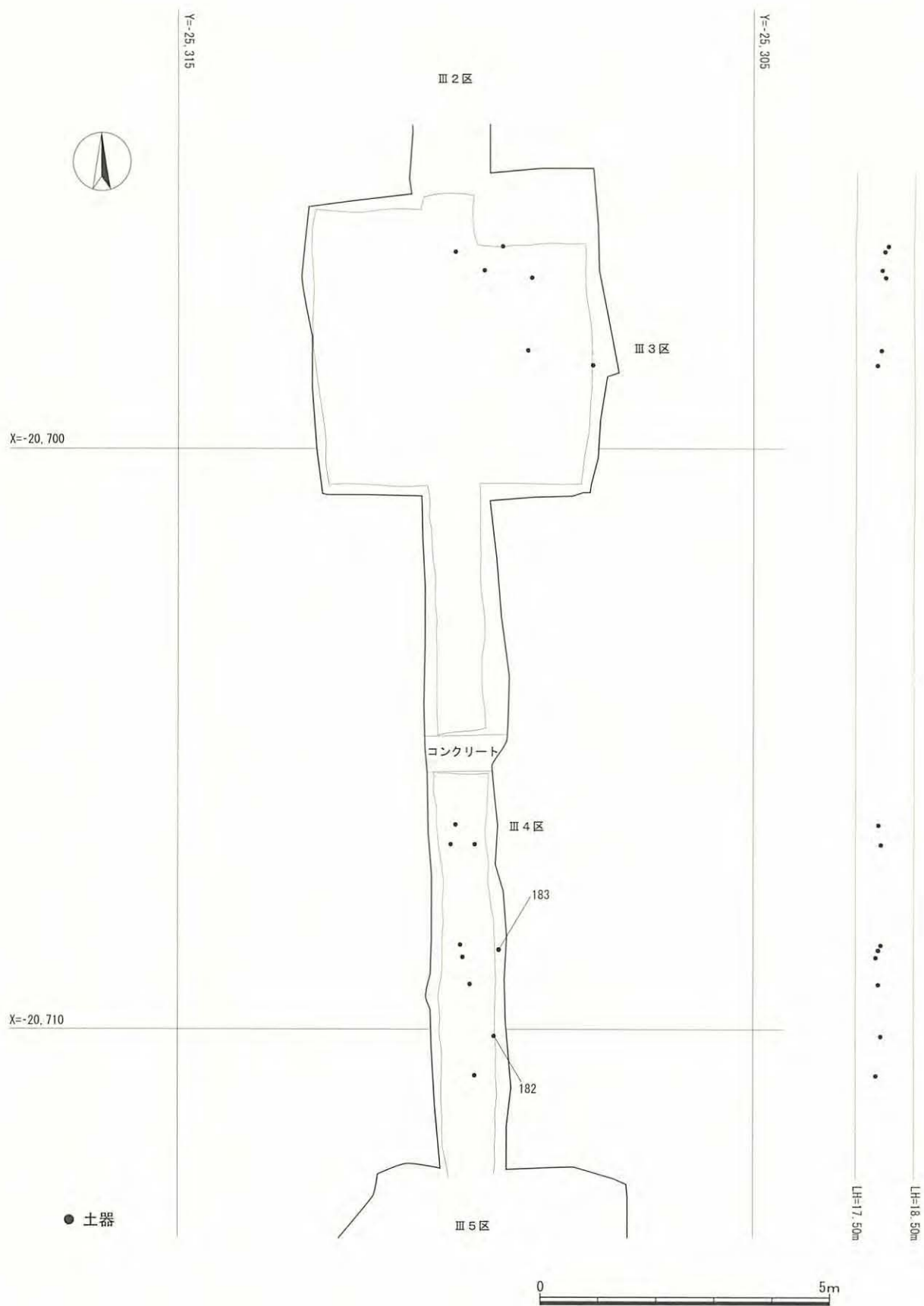


図30 III 3・4区5b層遺物出土状況図 (S=1/100)

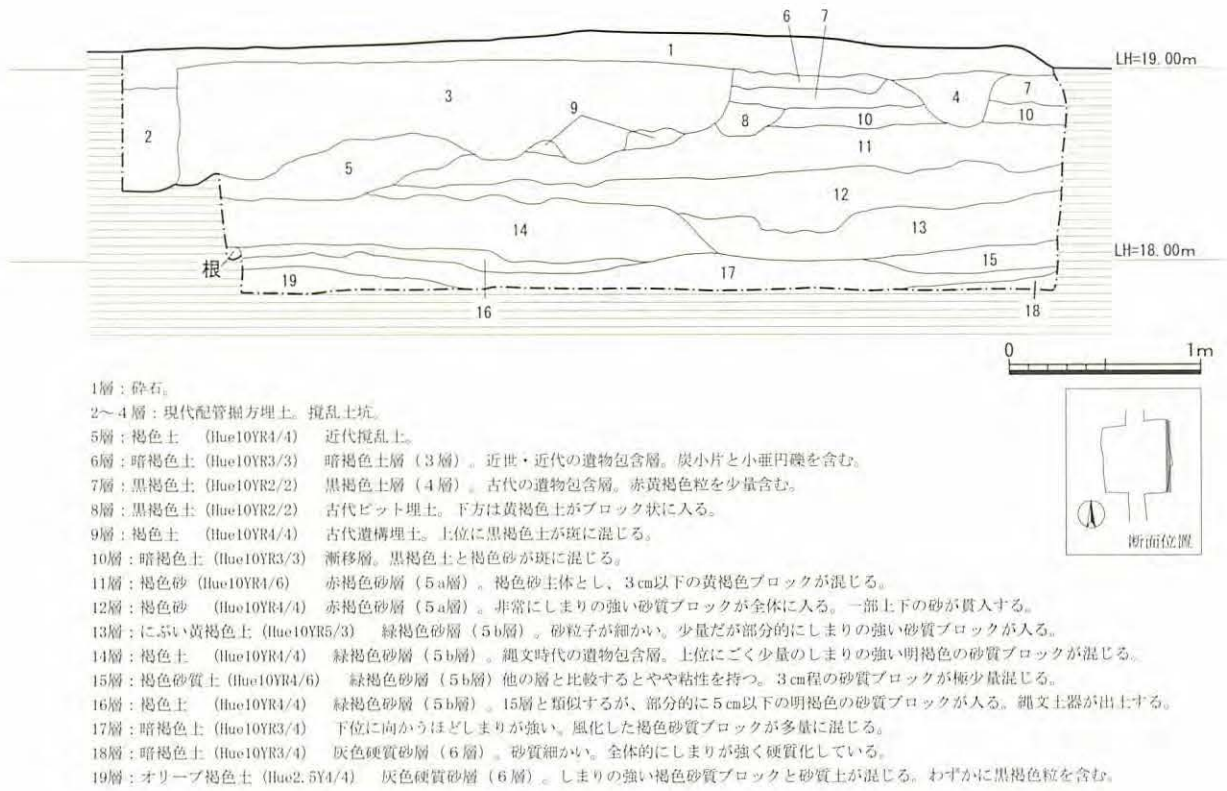


図31 Ⅲ3区東壁土層断面図 (S=1/40)

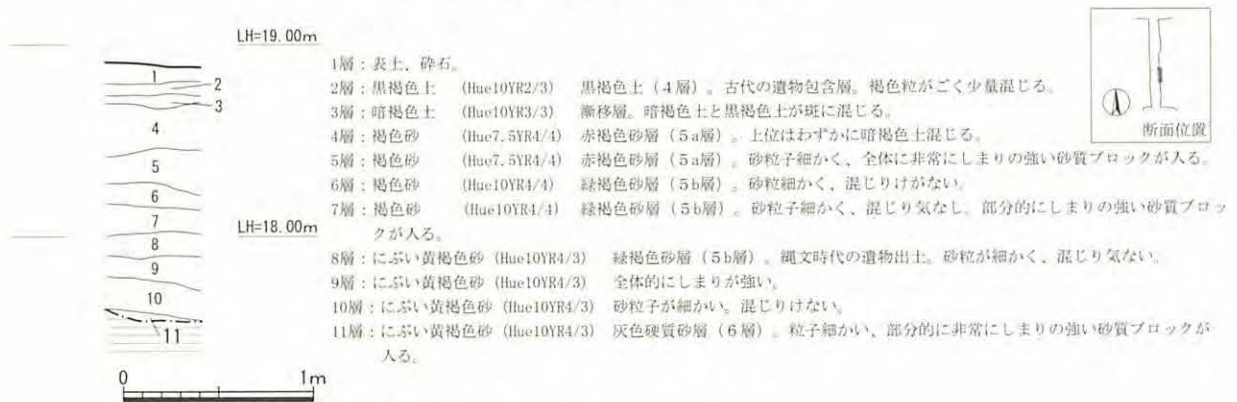


図32 Ⅲ4区東壁土層断面図 (S=1/40)

たため、褐色砂層以下の調査は実施できていない。

### Ⅲ3・4区およびⅢ区の出土遺物 (図33)

182~194はⅢ区で取り上げた縄文時代の遺物である (図33)。このうち182~184はⅢ3・4区の5b層から出土した土器片である。182はⅣ類の口縁部である。口唇部と口縁部外面にそれぞれ横位の沈線文が施される。183は粗製深鉢の口縁部片で、口唇部に半管状の押引き文が認められる。184はⅨ類の浅鉢の口縁部から胴部にかけての破片である。185~194は、3・4層、近世や古代の遺構埋土中から出土した縄文時代の土器、石器である。185~188はⅦ・Ⅷ・Ⅹ類の土器口縁部片と頸部から胴部片である。189~191は土器の底部である。189と190はくびれた平底で底部外面に木葉痕が認められる。192は安山岩製の石鉢で基部は剥離調整によって大きく抉られている。193は安山岩製の凹石の破片で

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

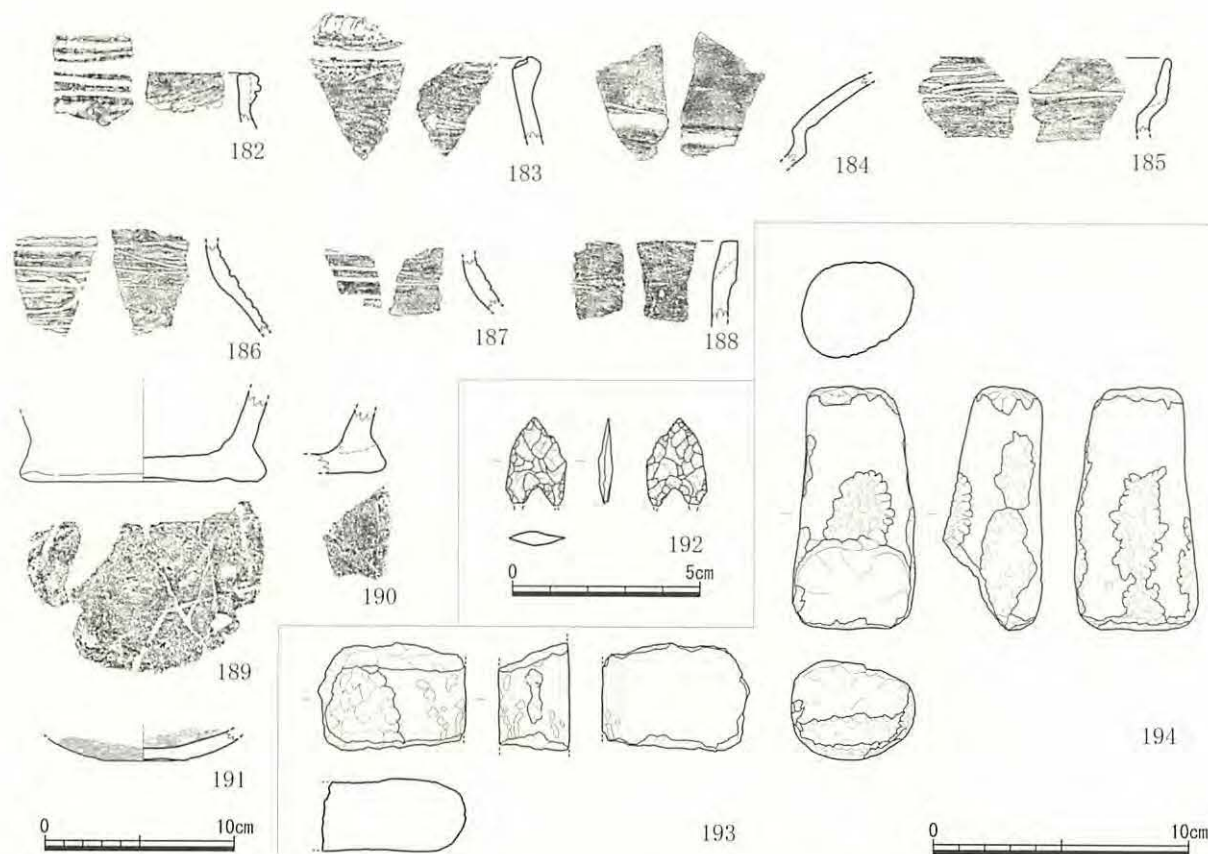


図33 III区出土遺物実測図 (S=1/2・1/3・1/4)

III 1区近世遺構埋土：188 III 3区5 b層：184 III 4区5 b層：182・183 III 6区古代遺構埋土：185 III 8区4層：186・187  
 III 9区古代遺構埋土：194 III 13区古代遺構埋土：189・190 III 23区3層：192 III 25区4層：193 III 25区古代遺構埋土：194

ある。194は安山岩製の敲石で、平面が台形、断面形態が歪んだ楕円形を呈する。全面に明瞭な敲打痕が残っており、端部の大きな剥離のため最終的に廃棄されたと考えられる。

④ IV区

IV区は、理学部3・4号館の道路および緑地部分、南北30m、東西90mの範囲に相当する。調査区は幅1~1.5mの水道・ガス配管に関連する施工の他に、点検口、検水槽、U字側溝、浸透井戸、アスファルト舗装、インターロッキング舗装などの施工に関連するもので、計41の調査区に分かれる (図3)。このうち縄文の調査を実施したのはIV14区とIV30-2区の2カ所である。IV2~8区の浸透井戸とこれを接続する排水管に係る調査区は施工深度が深く縄文時代の遺物包含層に達する可能性が高かった。しかし、III1区の縄文時代の遺物包含層発見以前に古代の遺構の調査を終了しており、すでに工事業者へ受け渡していたため、これらの調査区については縄文時代の文化層の一部が破壊された可能性が高い。ここでは重要な成果があったIV14区の出土状況と遺物について記す。

IV14区の遺物出土状況 (図34~38)

IV14区は検水槽を設置するための事前調査を目的としており、掘削範囲は東西6m、南北5.5mと本調査地点でも広く、施工深度は3.3mと最も深かった。そのため当初から調査区周囲に矢板を打ち、調査と工事の安全を確保した。本調査区の開始時点でIII1区およびV11区の調査が終了していたため、

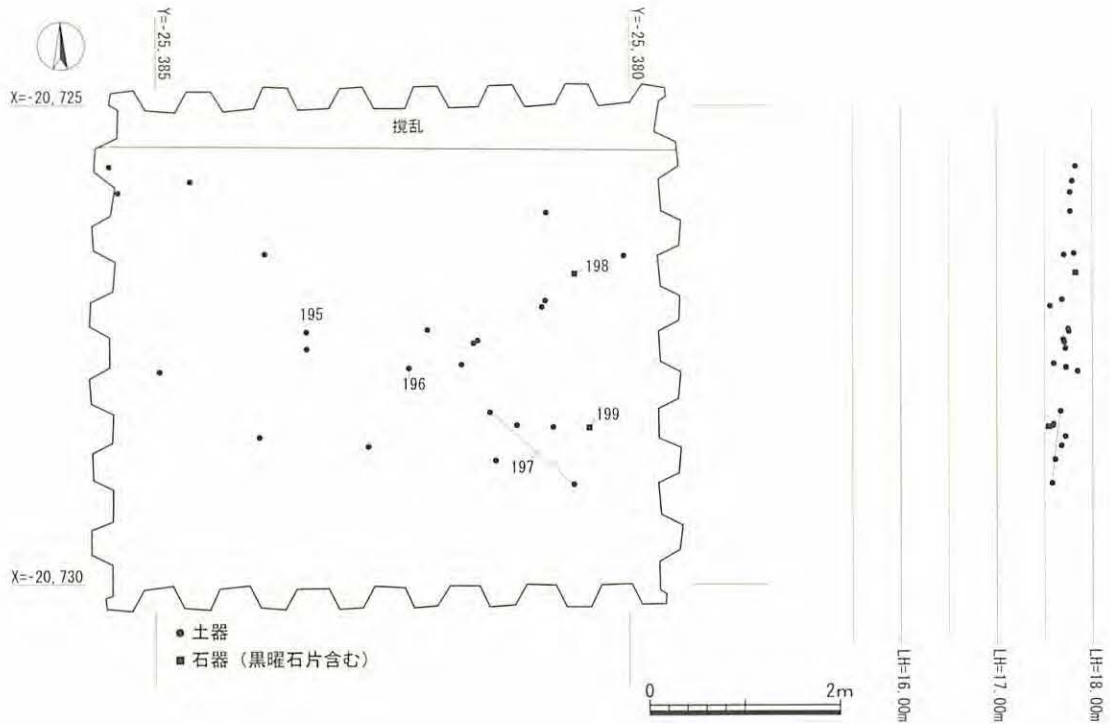
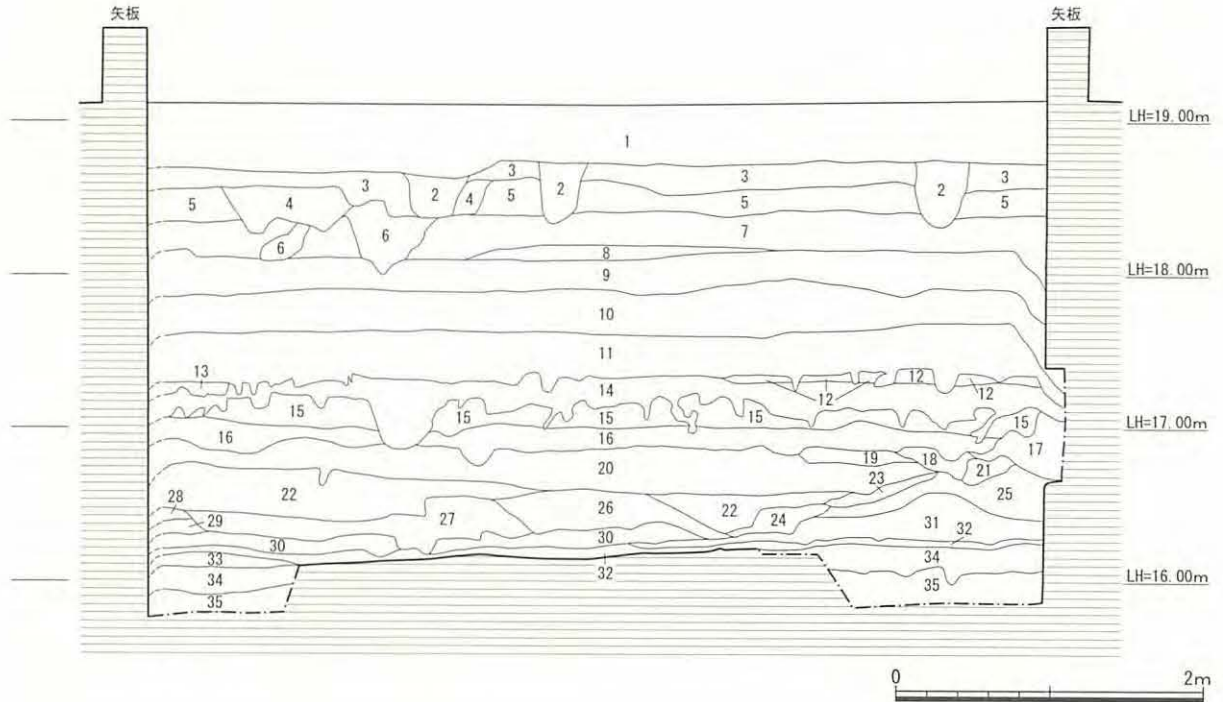


図34 IV14区5b層遺物出土状況図 (S=1/80)

古代遺構の掘削終了後、少なくとも褐色砂層（5層）と黒褐色砂層（7層）の調査が必要と想定されていた。調査では周囲が矢板で囲われているため、調査区中央に東西ベルトを設け、土層を記録、確認しながら掘削を実施した。また、本調査区の北側には共同溝が走っており、その掘方により施工深度である地表下3.3mまで攪乱していた。この掘方の南壁を利用して土層を把握しながら掘削することができた。

本調査区では古代の遺構を5a層（赤褐色砂層）の上面で検出した（図35-7層）。古代の遺構の調査の後、5a層を掘り下げたところ、標高約17.8mから緑がかった5b層（緑褐色砂層）へと変化し、本層から少量ながら土器や石器が出土した（図35-10層）。Ⅲ1区では5b層から縄文土器が大量に出土したが、本調査区ではⅢ3・4区と同様に少量の遺物が散発的に出土するのみであった。また、5b層の遺物出土レベルは調査区北側から南側、つまり白川の方に向かってやや傾斜していることが分かる（図34右）。さらに5b層（図35-11層）を掘り下げていくと部分的に硬質の砂層（図35-12・13層）が堆積する一方、調査区北側の土色のみが徐々に暗くなり、縄文時代後期前葉の土器が面的に出土した。当初、この北と南の土色の違いが竪穴建物などの遺構の存在を示している可能性があったため慎重に調査を進めたが、後に南北方向へ先行トレンチ入れて確認したところ、遺構でなく南側に向かう傾斜によるものと判明した。結果として、本調査区では5b層の下位に6層（灰色硬質砂層、図35-12層）が薄く部分的に堆積しており、5b層の下に連続的に7層（黒褐色砂層、図35-14層）が堆積している状況が明らかとなった。調査では、5b層と7層の漸移層である土（図35-11層）の中位から土器が出土し始めたが、現地では両層を明確に区別しながら遺物を取り上げることができなかった。本報告では両層の出土遺物を7層の出土遺物として報告する。本調査区では7層から5b層までの堆積時期が連続的であったことが示されており、本遺跡における5b層の堆積時期と形成過程について考える上で重要なデータとなった。

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)



- 1層: 表土
- 2層: 暗褐色土 (Hue10YR3/1)
- 3層: 暗褐色土 (Hue10YR3/1)
- 4層: 黒褐色土 (Hue10YR3/2)
- 5層: 黒褐色土 (Hue10YR2/2)
- 6層: 黒褐色土 (Hue10YR3/2)
- 7層: 褐色砂 (Hue10YR4/6)
- 8層: 黄褐色砂 (Hue10YR5/6)
- 9層: 明黄褐色砂 (Hue10YR6/6)
- 10層: にぶい黄色褐色砂 (Hue10YR5/4)
- 11層: オリーブ褐色砂 (Hue2.5Y4/2)
- 12層: 暗オリーブ褐色砂 (Hue2.5Y3/3)
- 13層: 暗オリーブ褐色砂 (Hue2.5Y3/3)
- 14層: 暗オリーブ褐色砂 (Hue2.5Y3/3)
- 15層: 暗オリーブ褐色砂 (Hue2.5Y3/3)
- 16層: 暗オリーブ褐色砂 (Hue2.5Y3/3)
- 17層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/2)
- 18層: 暗オリーブ褐色砂 (Hue2.5Y3/3)
- 19層: オリーブ黒色砂 (Hue7.5Y3/1)
- 20層: オリーブ黒色砂 (Hue7.5Y3/1)
- 21層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/2)
- 22層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/1)
- 23層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/2)
- 24層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y2/1)
- 25層: 黄灰色砂 (Hue2.5Y4/1)
- 26層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/2)
- 27層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/2)
- 28層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/1)
- 29層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/2)
- 30層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/2)
- 31層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/2)
- 32層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/2)
- 33層: オリーブ黒色砂 (Hue5Y3/2)
- 34層: 暗オリーブ黒色砂 (Hue2.5Y3/3)
- 35層: 暗オリーブ黒色砂 (Hue2.5Y3/3)

- 現代盛土・クラッシャー。
- 近代の土坑あるいは溝埋土。
- 暗褐色土層 (3層)。近世・近代の遺物包含層。
- 近世・近代土坑埋土。
- 黒褐色土層 (4層)。古代の遺物包含層。
- 樹痕。
- 褐色砂層 (5a層)。上面が古代の遺構検出面。遺物出土せず。
- 褐色砂層 (5a層)。7層と類似。砂質ブロック混じり。遺物出土せず。
- 褐色砂層 (5a層)。混じり気少ない。遺物出土せず。
- 緑褐色砂層 (5b層)。縄文時代遺物出土層。
- 緑褐色砂層 (5b層)と黒褐色土層 (7層)の漸移層。縄文時代遺物出土層。
- 灰色硬質砂層 (6層)か。砂質ブロックで構成される。部分的に堆積する。11と14の間層。
- 黒褐色砂層 (7層)。5mm程の白粒と炭化物片混じる。縄文時代遺物大量出土層。
- 青灰色硬質砂層 (8層)。無遺物層。
- 青灰色硬質砂層 (8層)。無遺物層。上面にやや大きめの砂粒堆積。
- 青灰色硬質砂層 (8層)。無遺物層。
- 砂質ブロック混じる。無遺物層。
- 19~31まで灰色砂礫層 (9層)。しまりの弱いサラサラの砂層。無遺物層。
- しまりの弱いサラサラの砂層。無遺物層。
- 砂質ブロック混じる。無遺物層。
- しまりの弱いサラサラ砂層。0.5~5cm程の玉砂利混じる。無遺物層。
- 砂質ブロック混じる。無遺物層。
- 22層に類似。より玉砂利を多く含む。無遺物層。
- サラサラの砂層。玉砂利を少量含む。無遺物層。
- サラサラの砂層。下位に粘土が沈殿する。無遺物層。
- サラサラの砂層。30より砂礫多く混じる。無遺物層。
- サラサラの砂層。軽石少量含む。無遺物層。
- サラサラの砂層。砂質ブロック混じる。無遺物層。
- サラサラの砂層。31よりやや砂礫多く混じる。無遺物層。
- サラサラの砂層。無遺物層。
- オリーブ黒色粘質砂層 (10層)。縄文時代遺物出土層。
- オリーブ黒色粘質砂層 (10層)。縄文時代遺物出土層。
- サラサラの砂層。褐色砂斑に入る。無遺物層。
- サラサラの砂層。無遺物層。

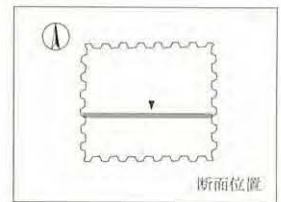


図35 IV14区東西ベルト北壁土層断面図 (S=1/50)

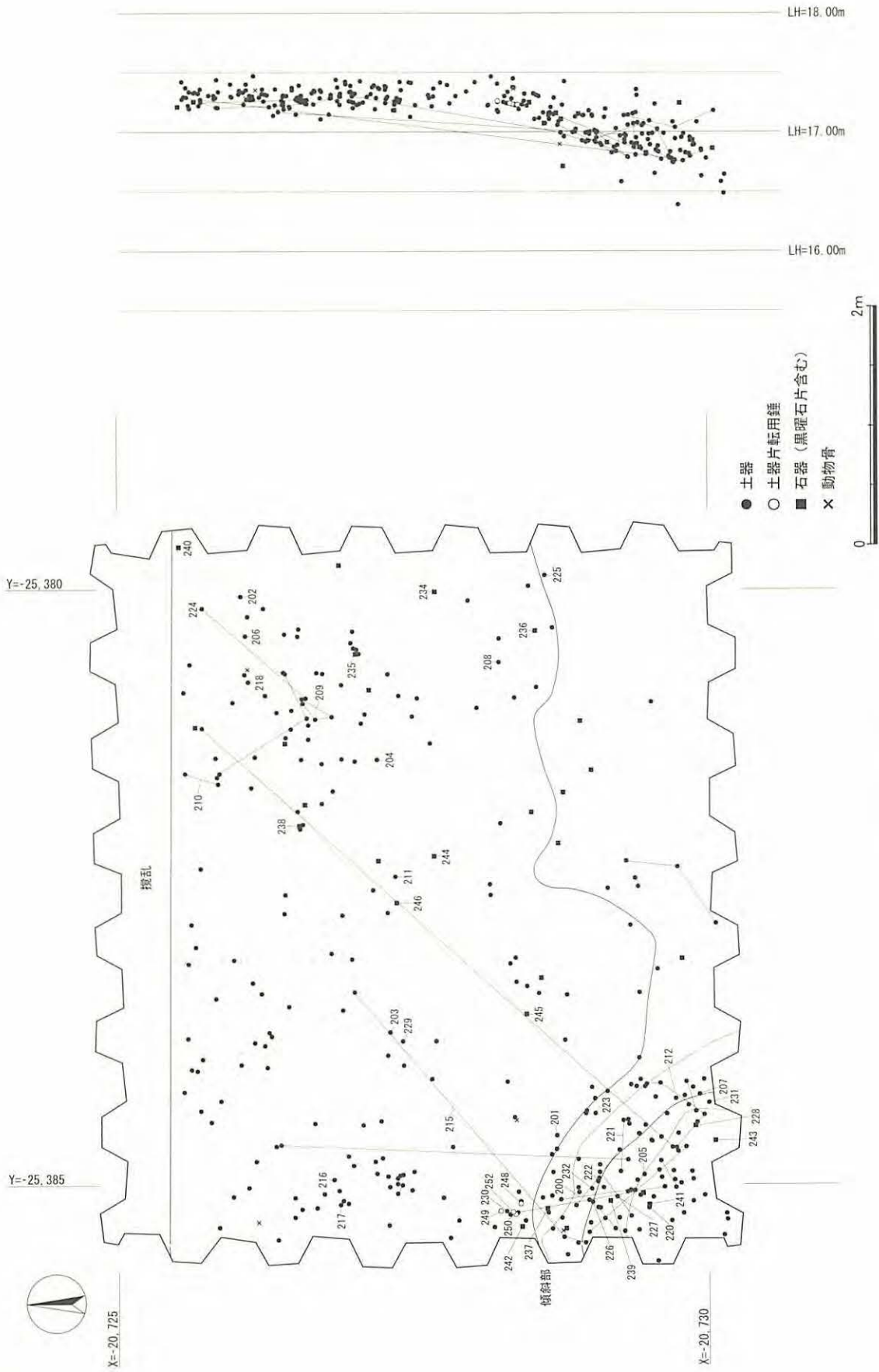


図36 IV14区7層遺物出土状況図 (S=1/50)

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

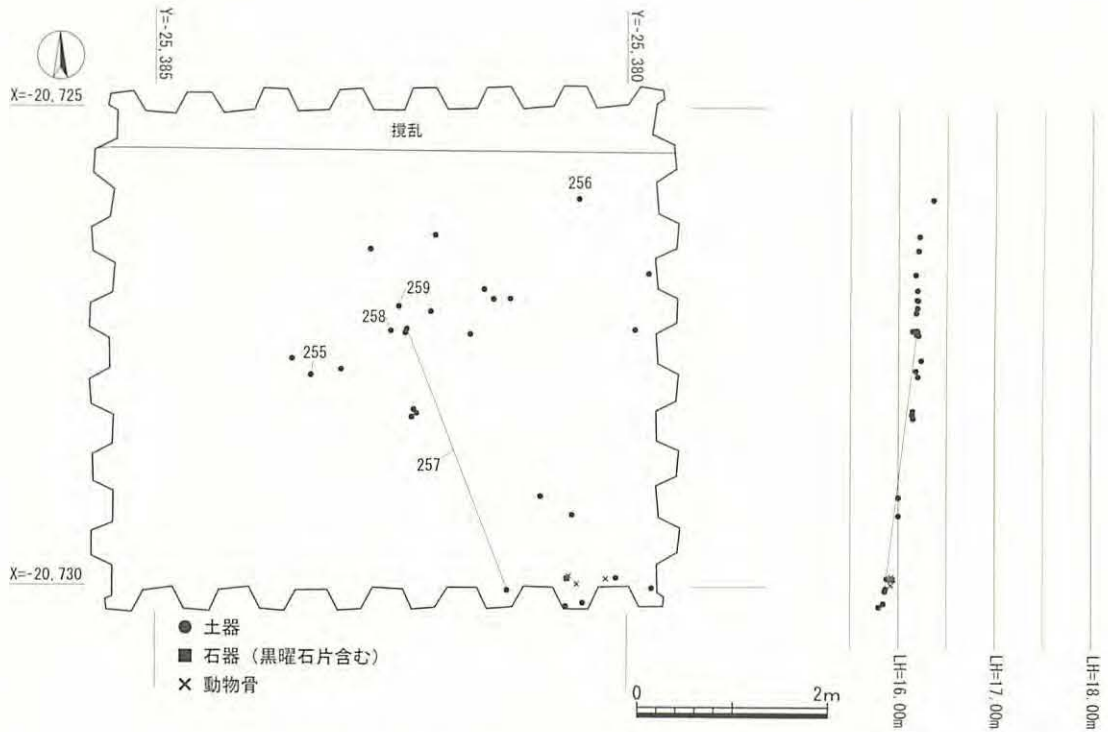


図37 IV14区10層遺物出土状況図 (S=1/80)

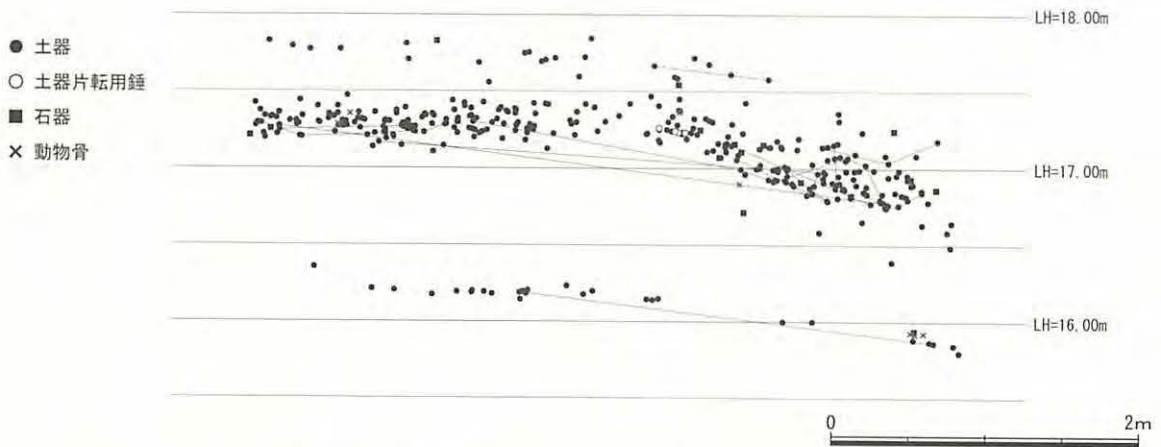


図38 IV14区5・7・10層出土遺物垂直分布図 (S=1/50)

7層は調査区の北半から南側には緩く、南西側に向けて強く傾斜していた。7層直下には8層(青灰色硬質砂層)が堆積しており、この層の上面が白川に向かって下がる傾斜部を形成していることが分かった(図36傾斜部)。この傾斜はV11区南西端でも確認されている。7層からは縄文時代後期前葉の土器、石器、土製品、動物骨が出土しており、特に調査区南西隅の傾斜部には遺物が密集している様子が見受けられた。調査区北側では川原石やその剥片なども多く出土しており、現地で石囲炉など遺構の有無も検証したが、明確な遺構は見受けられなかった。土器片の多くが完形に近い状態まで復元できないことから、その多くがすでに破損した状態で調査区周辺に廃棄されたものと考えられる。土器の接合状況をも、北から南あるいは南西側に接合する土器片が散見され、一部の土器片が廃棄後に傾斜部へ流れ込んだ、あるいは捨て場として傾斜部を利用したと推測できる。また、注目



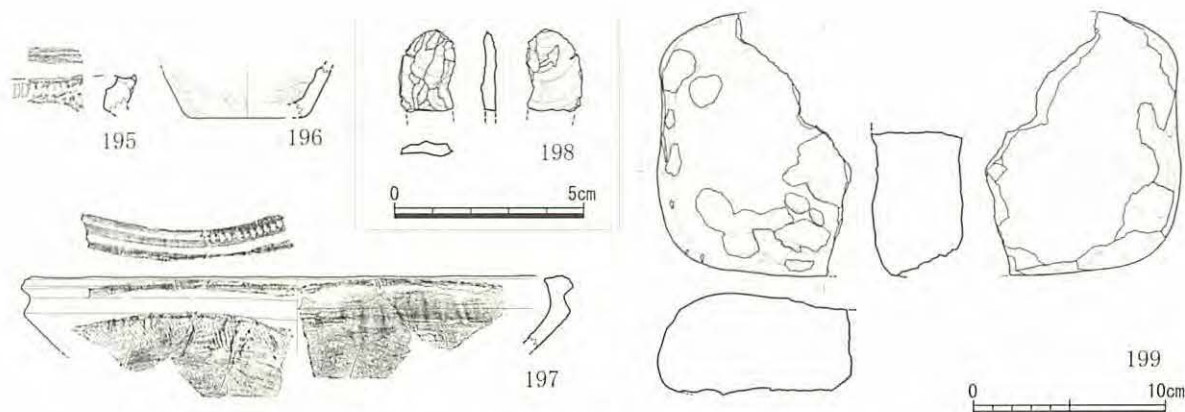


図39 IV14区5層出土遺物実測図 (S=1/2・S=1/4)

すべきは土器片転用錘の出土位置である。本調査区からは土器片転用錘が8点出土している。これらは各短辺に抉りが設けられており、紐などでお互いを緊縛して使用したと考えられる。8点中4点は現地で出土位置を記録できており、その全てが調査区西側、傾斜部のやや北側の20cm四方の範囲に集中して出土した(図36-248~250・252)。この出土状況は偶然とは言い難く、土器片転用錘が紐で緊縛されたか、あるいはまとめて廃棄された状況を示す。

7層の調査終了後、北側の攪乱掘方壁面において、さらに下層から土器片が出土したことを受け、調査区北東隅に1m×1mの先行トレンチを入れ、縄文土器の有無を改めて確認した。8層の下位には川底砂に似た9層(灰色砂礫層)が60cm程堆積しており、中央の東西ベルトを残しながら調査区全体を掘り下げたところ、さらにその下の10層(オリブ黒色粘質砂層)から少量ながらも土器や石器、動物骨などの遺物が出土した。これにより、本調査区では3つの縄文時代の遺物包含層の存在が明らかとなった。全土層の縄文時代遺物の垂直分布を図38に示した。5層、7層(漸移層含む)、10層の遺物の出土レベルには一定の空白があり、いずれも北から南へ傾斜する形で堆積する状況が確認できた。全土層間の土器片接合作業を実施したが、各土層内でのみ土器片が接合したことからも、本調査区の土層は上下への遺物の混ざり込みがほぼなく、安定した堆積状況を保っていたと推測される。10層の遺物取り上げ後、施工深度(標高15.8m)までさらに一部を掘り下げたが、9層に類似した砂礫層が堆積するのみで土器片などは出土しなかったため、調査を終了した。

本調査区では明確な遺構が検出されなかったものの、3つの遺物包含層が検出された。初期には川に向かってなだらかな勾配を持つ河岸段丘の平坦面が形成されており、その上に土器や動物骨を廃棄しており、当該調査区が生活圏に含まれていたと推測できる。10層の直上に堆積する川底の砂礫にも似た9層は、Ⅲ2区では基盤層の一つである11層を削るようにして堆積している。9層はⅢ2区、IV14区、V11区、V13区で確認されており、層位的にもレベル的にも対応していることが分かる(図4)。縄文時代後期のある時期に大雨の影響で白川が氾濫し、すでに形成されていた河岸段丘を削りつつ堆積し、一時期の間、Ⅲ2区からIV14区の付近まで、白川の本流の一部となったか、あるいは支流が形成され川底になっていたとみられる。その後、水が引いていく過程で急斜面(8層上面)が形成された。遺物の量からも7層の段階においては、居住空間は本調査区からそう遠くない位置にあったと推測できる。7層下面で検出した傾斜部から傾斜部手前にかけての遺物の集中部は、居住域の周縁であり傾斜部でもある本調査区周辺に日常の生活道具を廃棄したことで形成されたと考えられる。詳細な遺跡の形成過程については総括に譲りたい(pp.104~109)。

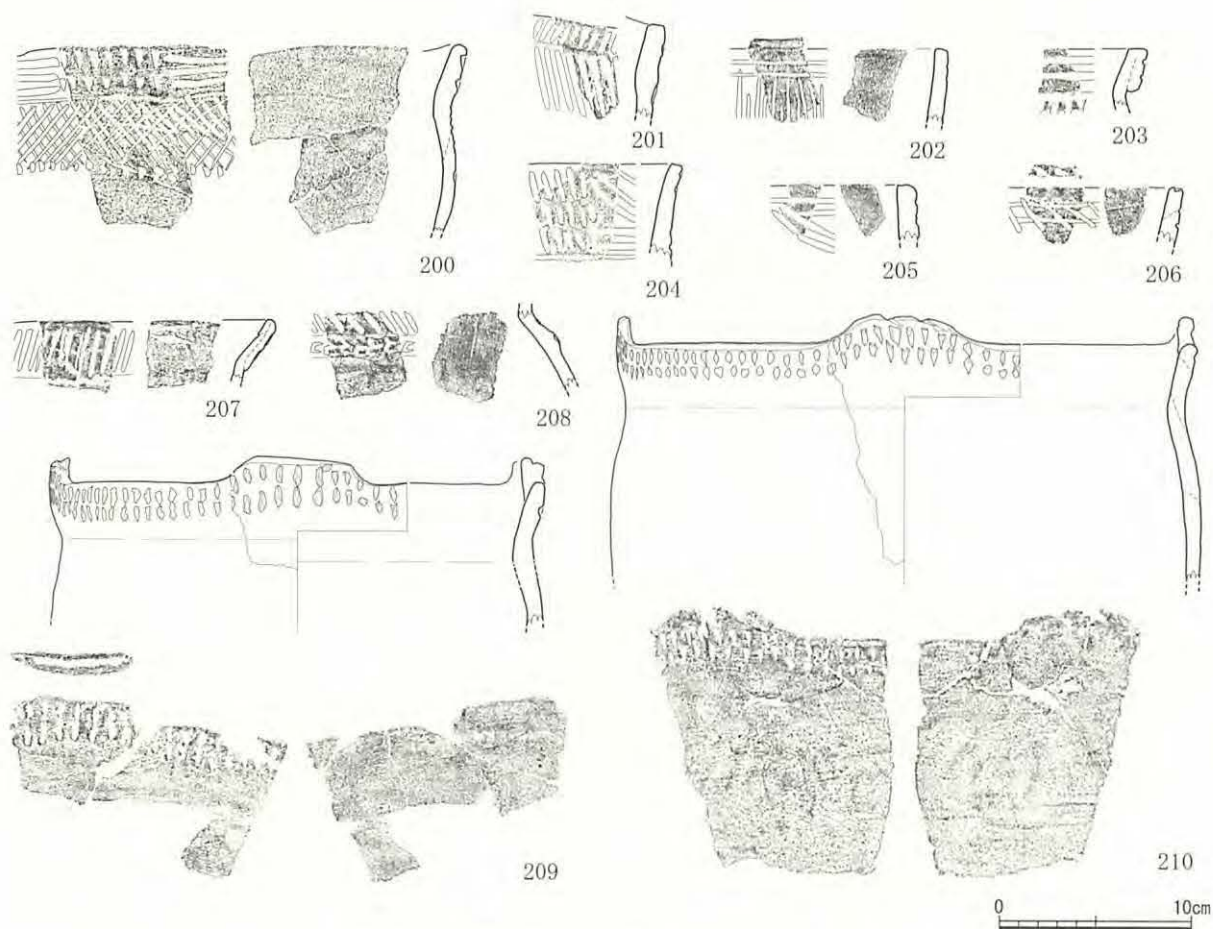


図40 IV14区7層出土土器実測図1 (S=1/4)

#### IV14区の出土遺物 (図39～45)

195～199は、IV14区5b層の出土遺物である(図39)。195、197はIV類の鉢あるいは浅鉢の破片である。195は口唇部に1条の沈線文が、口縁部には刺突文が施される。197は口縁部から胴部にかけての資料で、頸部と胴部の境に強い稜が走る。口唇部には刺突文の2条の沈線が、胴部外面上半には縄文が部分的に施されている。196は小型の鉢の底部片で、全体に磨きが入り、平底を呈する。199は安山岩製の石皿の半欠品である。製品中央には明瞭な敲打痕が残る。

200～233は、IV14区7層の出土土器である(図40・41)。200～207はIa類の口縁部片である。200は波頂部に向かって口縁部がやや膨らむ波状口縁で、頂部中央に刺突文が2段分、その端部から数条の沈線が横位に巡っている。さらに、くびれた頸部から胴部上半にかけては沈線による斜位の格子文が施されており、その下端に刺突文が横位に並ぶ。201は波状口縁の口縁部片である。やや厚みを持つ口縁部の上端に斜位の短沈線が連なり、その下に短沈線とは逆方向の斜位の沈線文が連続して施される。202は口縁部端部に細沈線が2条走り、その下に長さの異なる縦位の沈線が交互に施されている。他と比較してやや器壁が薄い特徴がある。203は粘土を張り付け厚みを持たせた口縁部に2条の沈線を走らせ、頸部から下には縦位の沈線が施される。204はゆるく外湾する口縁部に刺突文と斜位、横位の沈線による文様が施されている。205はやや内湾する口縁部に横位と斜位の沈線が施されている。207は朝顔状に開く口縁部に単沈線によって文様が施されている。208は頸部から胴部にかけての土器片で、口縁部が上端から広がるとみられる。頸部近くに斜位の短沈線が連続的に施され、その下

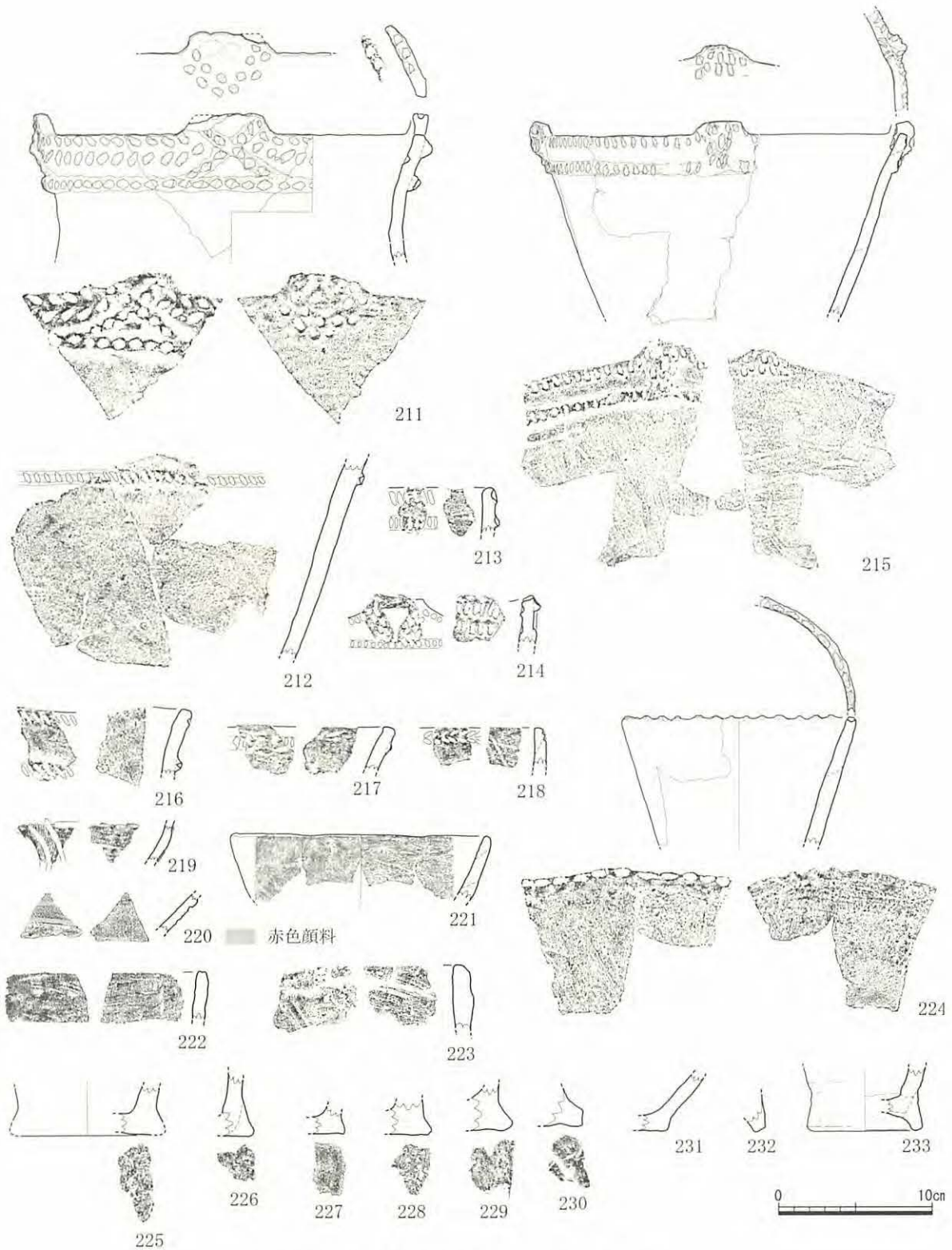


図41 N14区7層出土土器実測図2 (S=1/4)

に刻目突帯文が1条巡る。刻目は二枚貝の復縁部を使用している。209、210はI b類の深鉢の口縁部から胴部上半の破片である。頸部がややくびれており、内外面にゆるい稜線を持つ。口縁部は緩く広がり、波頂部ではやや内湾する特徴がある。口縁部上端に2列の刺突文が並び、口唇部には短い沈線が1ないし2条施されている。

211~216はⅡ類の口縁部あるいは胴部片である (図41)。211は波状口縁の深鉢である。頸部が緩くくびれ、口縁部がやや内湾しながら立ち上がる。波頂部内面の口唇部には刺突文が施され、口縁部には2列の凹点文とその下に刻目突帯文が施され、波頂部に向けて刻目突帯文が斜めに伸び交差する。212は深鉢の胴部下半である。胴部には刻目突帯文が横位に1条施されている。213・216は口縁部片で、上端に刺突文が施され、やや間をあけて刻目突帯文が横位に1条走る。214は波頂部片で、内面と口縁部上端に刺突文が施される。口縁部下位には刻目突帯文が1条施され、頂部ではこれが三角形に張り付けられている。215は口縁部から胴部の資料である。波頂部は小型の台形状を呈し、その口唇部と内面に刺突文が施される。口縁部上端には刺突文が並び、やや間をあけて刻目突帯文が1条並列する。波頂部では刻目突帯文が縦位に伸びるが、やや粗雑に張り付けられている。217はⅠb類の鉢と思われる。口縁部上端やや下に刻目突帯文が1条走る。218は口縁部片で、口縁部上端に2股に分かれた工具で刺突文が施されている。219、220はⅣ類の胴部片である。219は球形に近い胴部下半に縄文が施され、沈線文によって区画されている。220も胴部下半の一部と思われる。縄文が施され、沈線文によって区画されている。文様内側には赤色顔料が付着していた。221~223はⅩ類の口縁部である。いずれも条痕後ナデによって調整された粗製土器である。224は小型の深鉢の口縁部から胴部である。口縁部はバケツ状に広がっており、口唇部には刺突文がほどこされ、それにより口縁部上辺が波打つ。225~233は土器底部片である。225~230はくびれた平底の破片とみられ、このうち230は木葉痕が認められた。231は平底で胴部に向けて器壁が広く広がる。232・233は高台を持ち、底がやや立ち上がる。233は表面が部分的に剥離した粗製土器である。

234~246・263はⅣ14区の7層から出土した石器である (図42・43・46-263)。234~242は安山岩製の敲石である。238以外はいずれも手になじみやすい形状をした川原石を用いており、対象物の下に台石を置くなどし、敲くことでできた敲打痕が残っている。形態は長い棒状のものと、楕円形状に近いものがあり、多くの場合、小口に敲打痕が認められる。234は断面が隅丸方形形状を呈する長い棒状の安山岩を用いている。両端部と長辺の一部に明瞭な敲打痕が認められる。235は扁平の楕円形に近い安山岩を用いている。両端部の広い範囲と、端部から側面にかけて帯状に敲打痕が認められる。236は断面が隅丸方形を呈する長い棒状の安山岩を用いている。両端部に顕著な敲打痕が認められる。237は面長の自然石を用いており、片側端部に顕著な敲打痕が認められる。238は敲石、あるいは敲石を用いる際の台人石として用いた後、敲石として用いられた石器と考えられる。平面形態は扁平な楕円形を呈し、全体がやや風化した安山岩と思われる自然石を用いている。その片面中央には敲打痕が顕著に認められ、縁辺部にも帯状に敲打痕が残っている。239は小型の安山岩を用いており、両端部に細かい敲打痕が確認できる。240は平面形態が楕円形を呈する扁平な自然石を用いている。片側端部に敲打痕が残り、裏面は一部剥離している。241はやや扁平な球状の自然石を用いている。両端部に敲打痕が残っており、片側は敲打痕跡が著しい。242は240と近い扁平球形の安山岩を用いており、片側端部に明瞭な敲打痕跡が残っている。243、244は安山岩製の磨石である。243は片面端部に明瞭な研磨面があり、その裏側に不明瞭な磨痕が認められた。244は片側に1面、反対の面に2面の磨痕が確認できた。いずれも具体的な使用用途は不明である。245・246は砂岩製の砥石である。245は、片面に自然の剥離面が残っているが、もう片面は全面を研いだことによって平坦面を形成し、その面には幅約1cm程の溝状痕が2条並ぶ。また、残存している縁辺部も使用によって平坦面を形成している。246は片側がすぼまり、片側が広がった略三角形の砥石である。前者の頂部が敲打によってやや欠けている。全体に研磨の使用痕跡がある。263は玄武岩の剥片である。縁辺部を剥離することで全体を成形しているが、細かい剥離調整などは認められない。搔器の未製品の可能性がある。

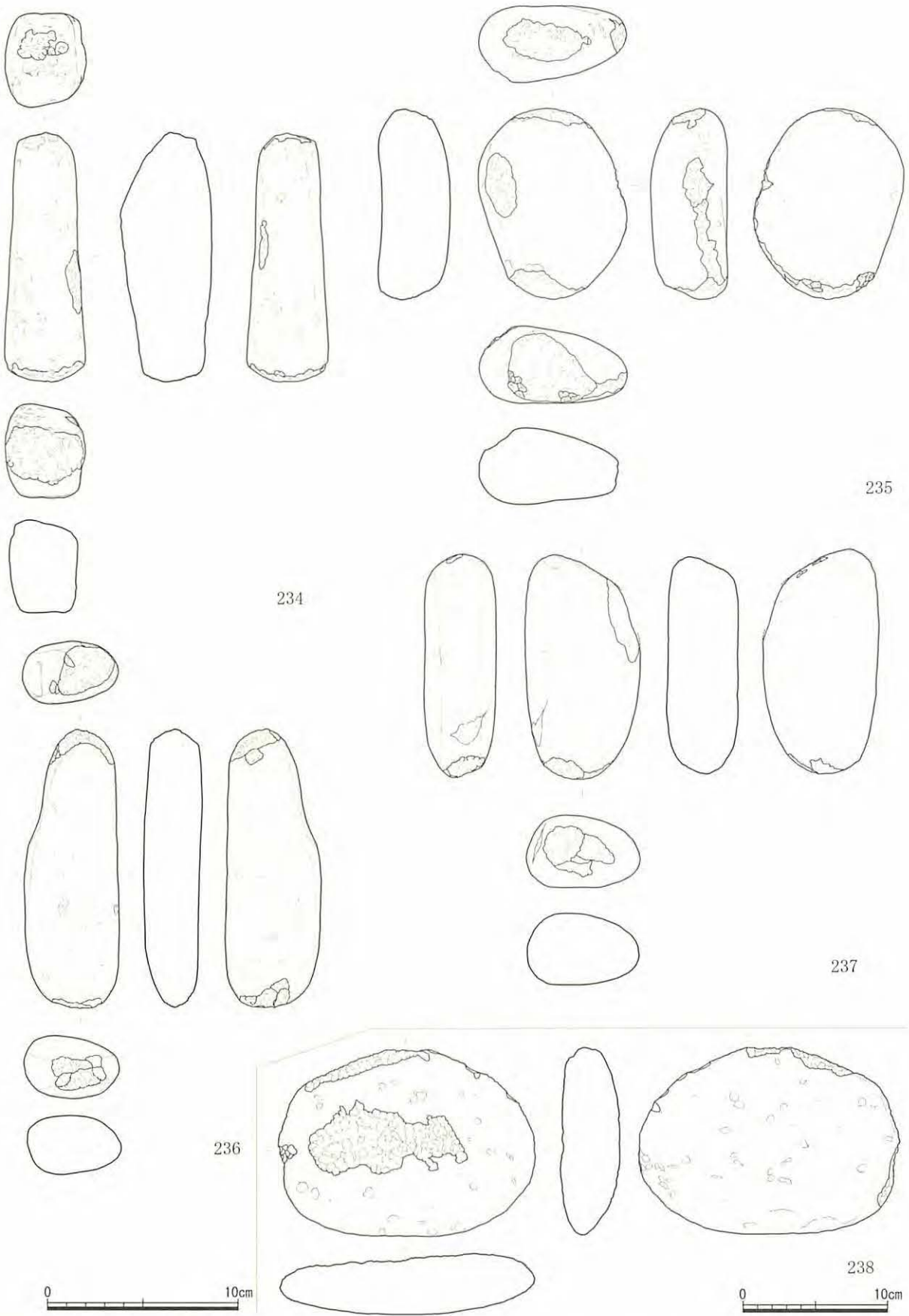


図42 IV14区7層出土石器実測図1 (S=1/3・S=1/4)

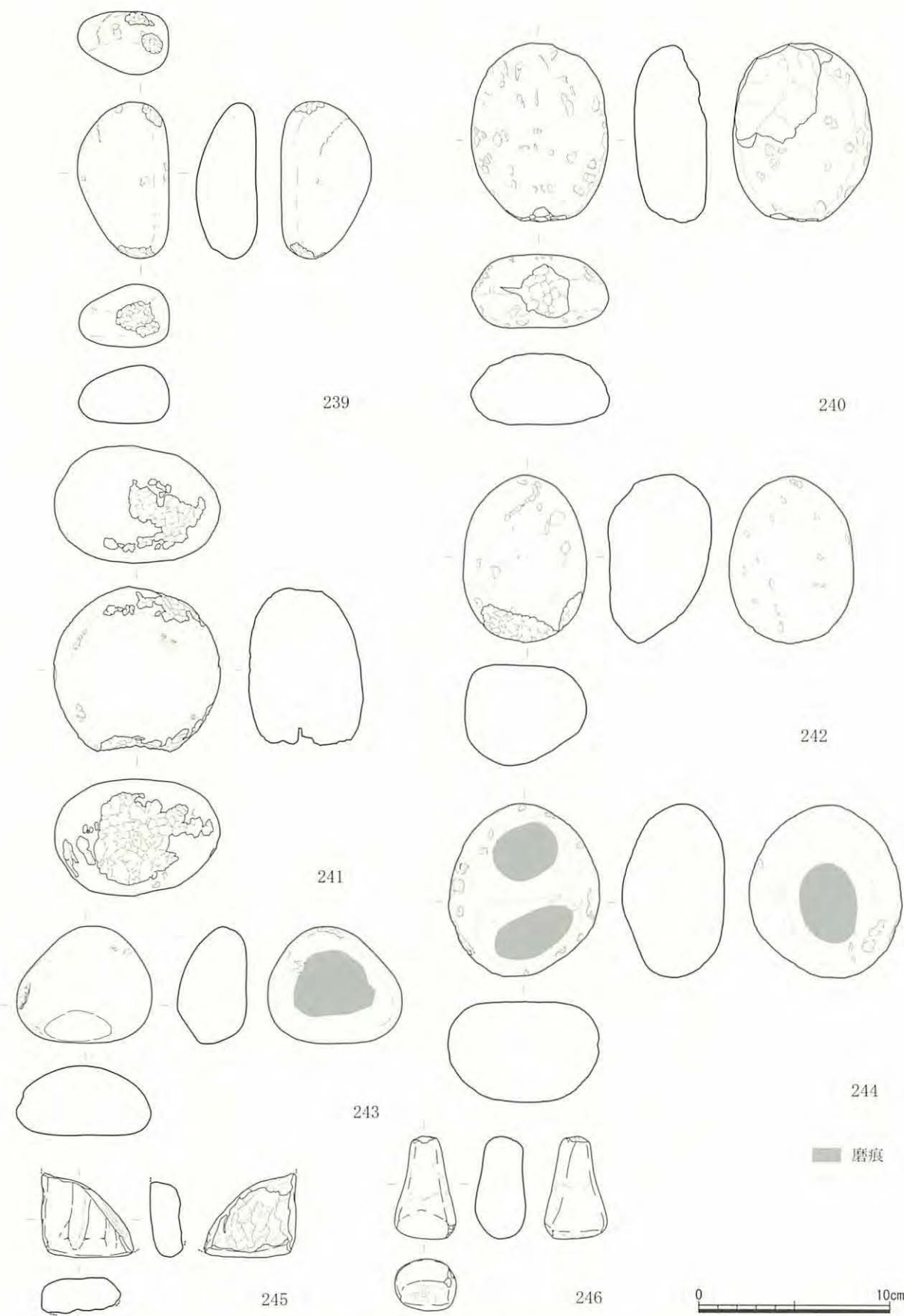


図43 IV14区7層出土石器実測図2 (S=1/3)

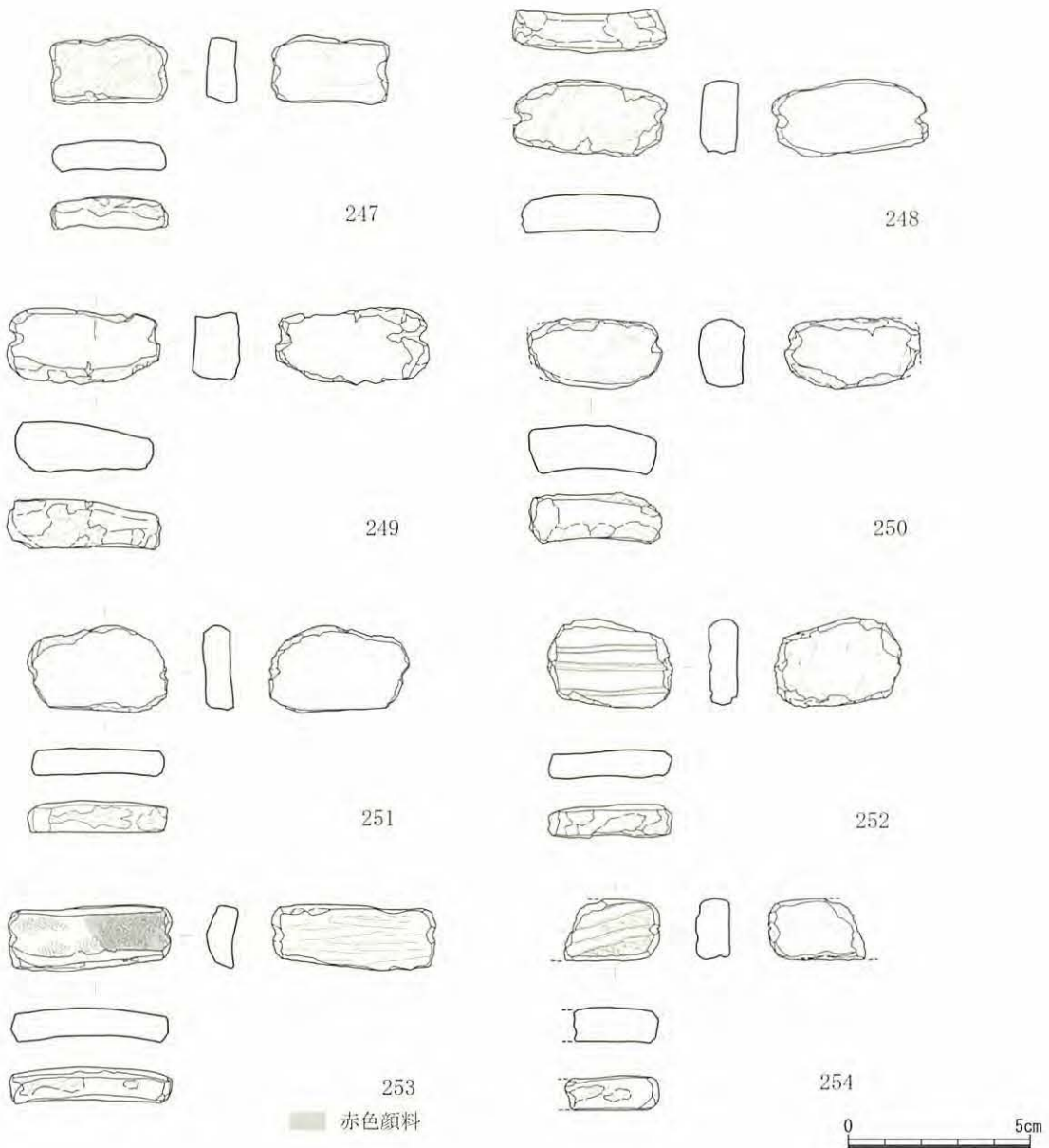


図44 IV14区7層出土土製品実測図 (S=1/2)

247～254はIV14区7層から出土した土器片転用錘である(図44)。小型の土器片を研磨し平面形態を略長方形に整えている。法量は長さ3.25～4.5cm、幅1.9～2.4cmにおさまり、その両短辺にV字状の抉りを各1つ設けている。この抉りに紐をかけ、緊縛するなどし、漁撈用の網の錘などに用いたと考えられる。247～249は長辺中心に欠けや傷が入るものもあり、あるいは十字状に紐を緊縛したと推定される。252～254は表面に沈線文や縄文が残っており、253には赤色顔料が付着していた。これらはI a類あるいはⅢ類の土器片を再利用したものと考えられる。IV14区で出土した土器片転用錘のうち、248～250、252の4点は現地で出土位置を記録できており、これらが調査区南西の傾斜部上端20cm四方の範囲から出土したことが確認できた。現地で埋納土坑など遺構は確認できなかったが、まとめて廃棄されたか、紐などで縛られた状態で廃棄されたことが推測できる。土器片転用錘は九州地域でも出土例が稀だが、大学構内遺跡では9911調査地点で発見されている。

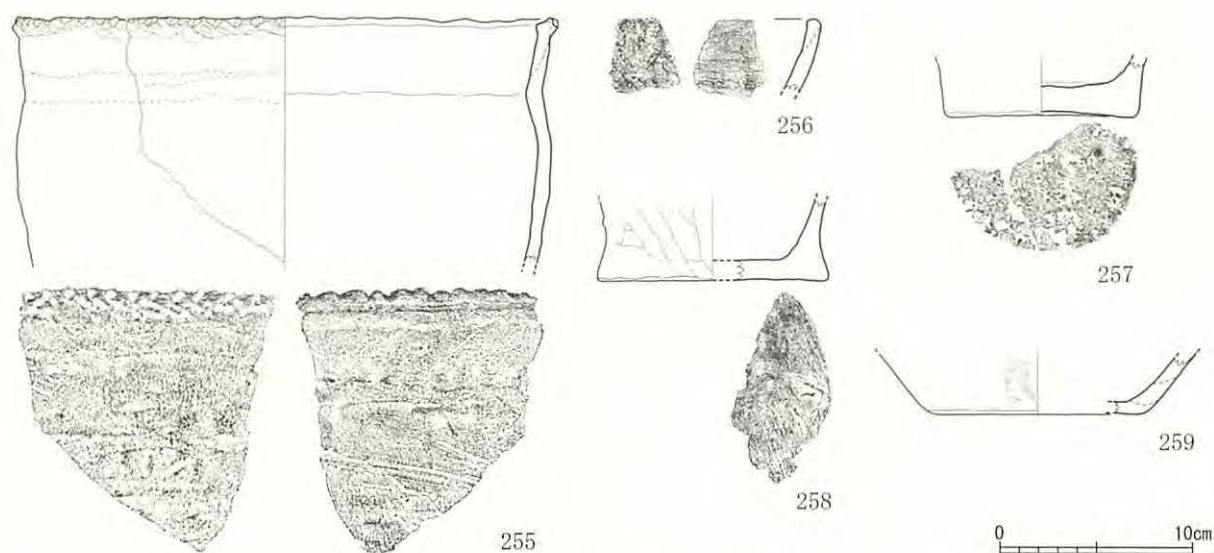


図45 IV14区10層出土土器実測図 (S=1/4)

255～259はIV14区10層から出土した土器片である (図45)。255はI b類と思われる深鉢土器の口縁部から胴部である。くびれた頸部を持ち、口縁部がやや内湾しながら外側に広がっている。口唇部には刺突文が打たれ、口縁上端部が鋸歯状に波打つ。また頸部付近には横位に帯状の凹みが認められ、刻目突帯などの粘土紐が付着していたものが焼成の段階ではがれた痕跡と考えられる。256はX類の口縁部である。257～260は土器底部片で、258はくびれた平底で、脚部外面に下から上方向への削りが認められる。257は底部外面の一部に細かい単位の凹みが認められる。259は平底で、胴部に向かって器壁が広がっている。

#### IV区の出土遺物 (図46)

260～262、264～281はIV14区以外の調査区から出土した縄文時代関連の遺物である (図46)。このうち273・274・276・281はIV30-2区の5 a層から出土した土器である。273はII類の波頂部片と思われ、刺突文が内外面に施される。274はVI類の口縁部片で、断面三角形の口縁端部外面に縄文と2条の沈線が施される。276は皿あるいは台付皿の破片で、口縁部内面に縄文が施される。281は台石の破片で、片側に凹部が、反対側は長期間の使用によるとみられる間接的な磨痕が認められた。275はIV29区5 a層より出土したIX類の口縁部片である。

上記4点以外はいずれもIV区の攪乱 (1層)、3層、4層、古代遺構埋土などから出土した遺物である。260～262はIV14区4層から出土した。260は口縁部片で、端部に3条の沈線が走る。261はIX類の口縁部から頸部にかけてで、表面全体が磨きによって調整されている。262はIX類の胴部下半で、表面全体が磨かれている。264はIV3区3層の出土で、山形押型文土器の胴部片である。265はIV11区3層の出土で、I a類の波頂部片である。頂部は2股に分かれ、口縁部に並行して沈線文が2条巡ると思われる。266・267はIV2区4層の出土で、IX類の口縁部である。口縁部が大きく外側に広がり、267は口縁部外面に2条の沈線が施されている。268はIV4区4層で出土したX類の口縁部片である。269はIV5区4層で出土したVII類の口縁部片である。「く」の字に立ち上がる口縁部外側に2条の沈線が施されている。270はIV3区4層で出土した胴部片である。胴部が膨らみ断面が三角形の高い刻目突帯文で、II類土器とはその様相が異なる。271はIV6区古代遺構埋土出土のX類土器胴部である。272はIV10-2区4層出土で、X類土器胴部である。



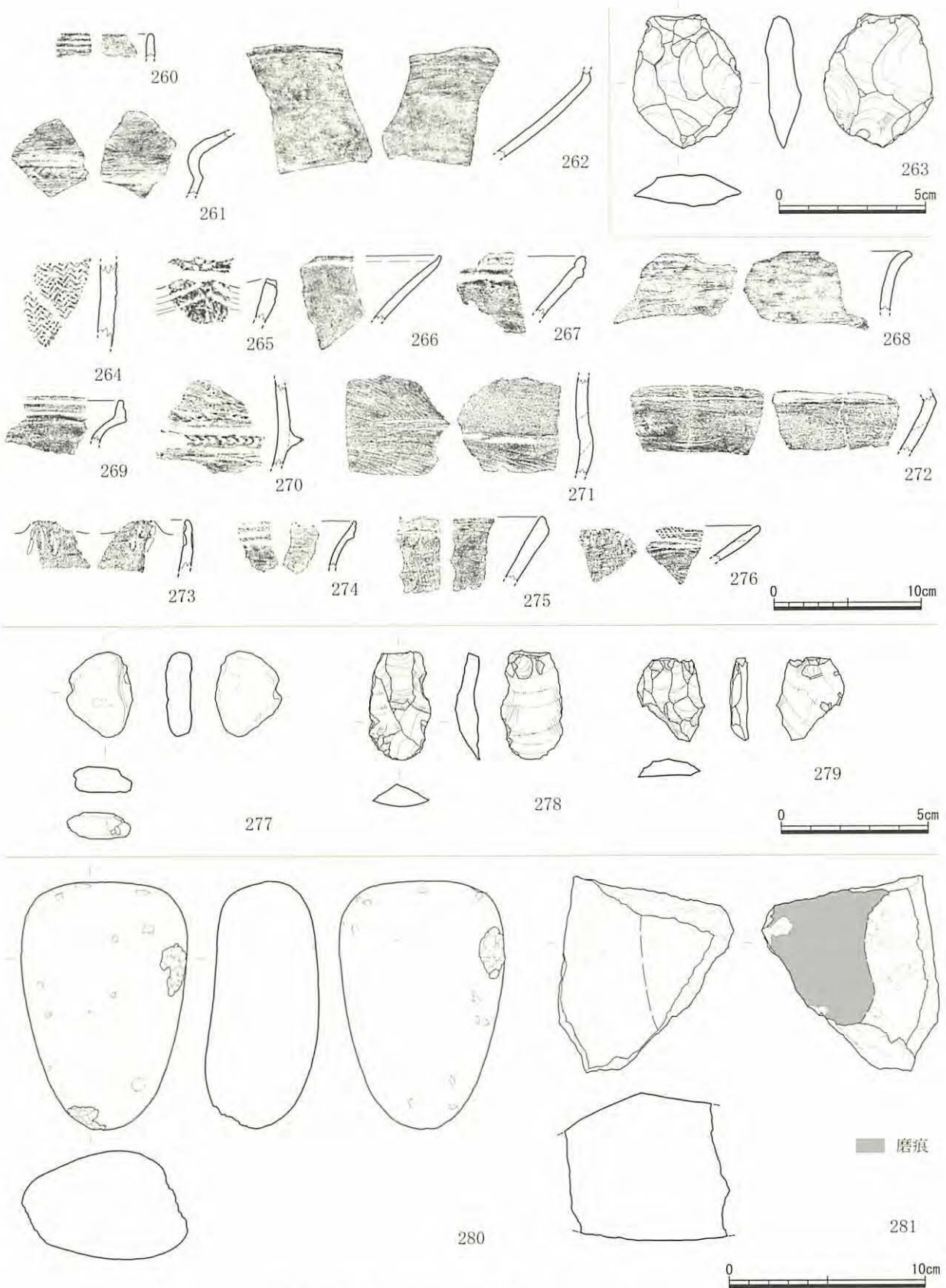


図46 IV区出土遺物実測図 (S=1/2・1/3・1/4)

IV14区7層: 263 IV29区5 a層: 275 IV30-2区5 a層: 273・274・276・281 IV14区4層: 260~262 IV1区4層: 279  
 IV2区4層: 266・267 IV3区3層: 264 IV3区4層: 270 IV3区古代遺構埋土: 280 IV5区4層: 269  
 IV6区古代遺構埋土: 271 IV7区3層: 278 IV7区4層: 268 IV11区撈乱: 277 IV11区3層: 265 IV10-2区4層: 272

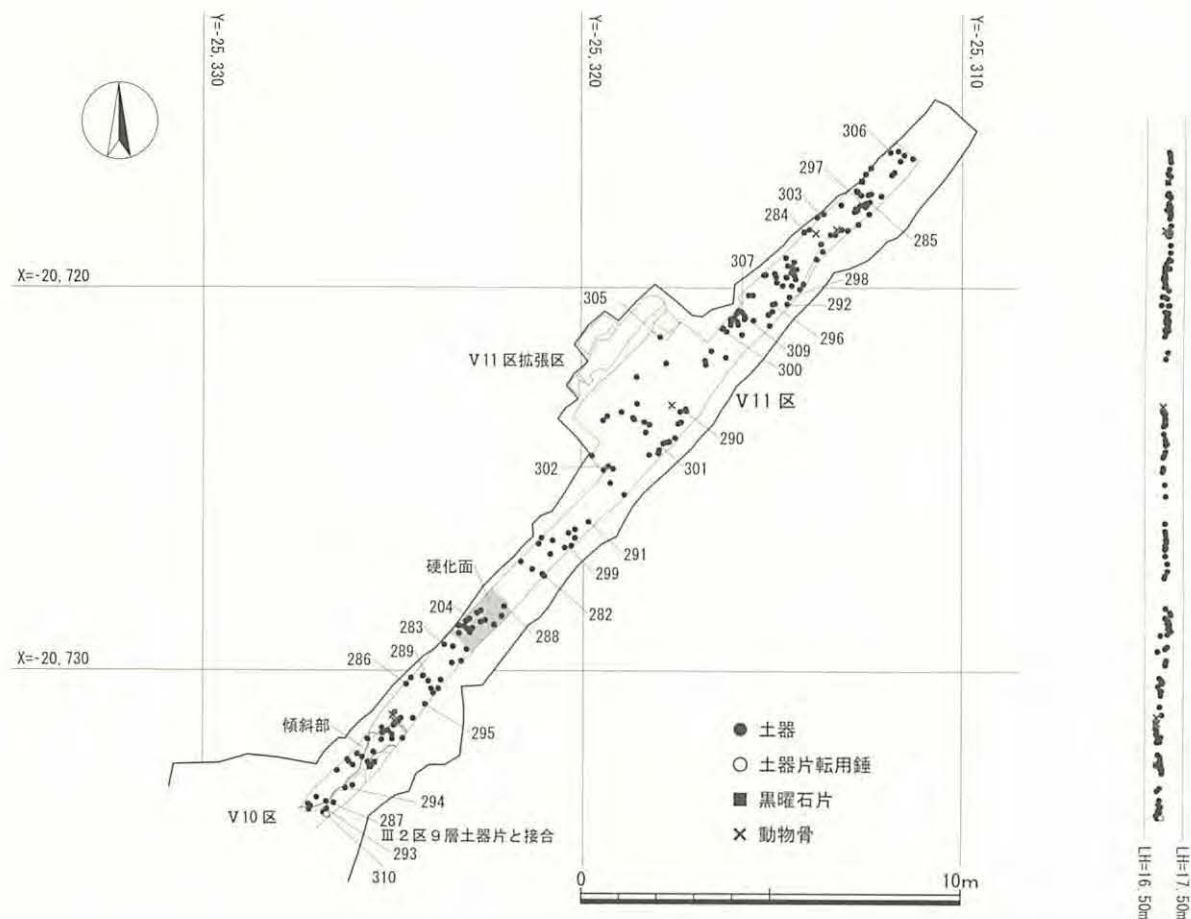


図47 V11区7層遺物出土状況図 (S=1/200)

⑤ V区

V区は、本調査地点南東にあたり、自然科学研究科研究棟・実験棟の東から南にかけての道路および緑地部分、南北87m、東西107mの範囲に相当する。調査区は幅1～1.5mの水道・ガス配管に関連する施工の他、U字側溝、浸透井戸、アスファルト舗装などの施工に関連するもので、計33の調査区に分かれる(図3)。このうち縄文の調査を実施したのはV11区とV13区の2カ所である。V1～10区の浸透井戸とこれを接合する排水管に係る調査区は施工深度が深く縄文時代の遺物包含層に達する可能性があった。しかし、これらの調査区はⅢ1区の縄文時代の遺物包含層発見以前に古代の遺構の調査を終了しており、すでに工事業者へ受け渡していた。V9区の南側から白川方面に向かっては現代埋土が厚く堆積していたため、V1～8については地表下1.5m程まで重機によって掘削し、その下に近世や古代の遺物包含層を確認している。他の調査区とは堆積状況が大きく異なるため縄文時代の包含層が存在しないか、あるいは到達しなかった可能性も捨てきれない。ただし、V10区については縄文時代の文化層の一部が破壊された可能性が高い。また、V11区では6層(灰色硬質砂層)の下から土坑墓と配石墓とこれに伴う縄文人骨が発見された。縄文人骨の発見は、本調査地点を内包する黒髪町遺跡群でも初めてのことで、最も重要な成果といえる。ここでは重要な成果があったV11区とV13区の遺構と遺物出土状況と遺物について記す。

V11区の調査経過と出土状況(図47～51)

V11区はⅢ5区とV10区の浸透井戸同士を接続する排水管の設置を目的としており、掘削範囲は幅

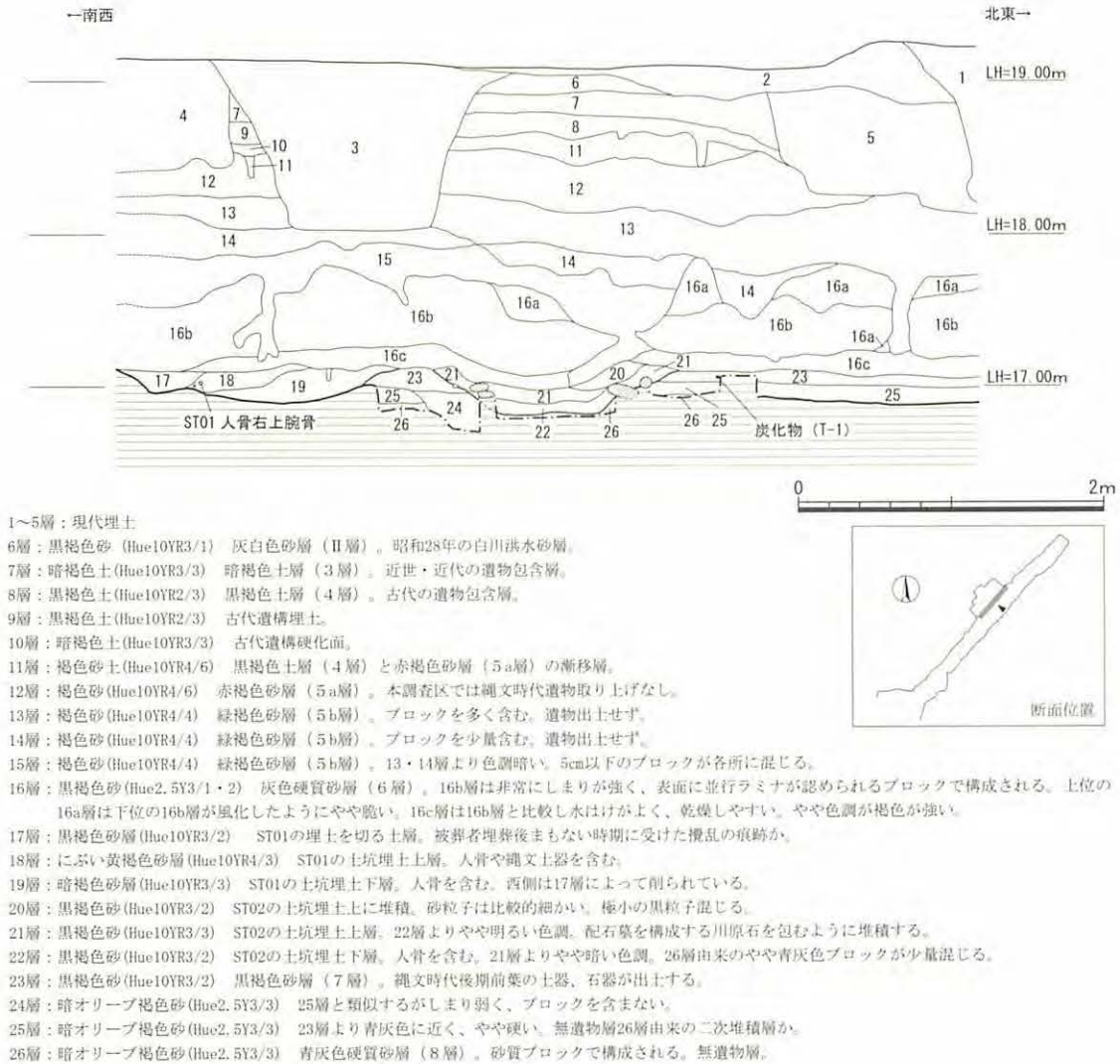


図48 V11区拡張区北西壁土層断面図 (S=1/50)

約1.5m、長さ約25mの北東・南西方向に長い調査区である (図47)。施工深度は2.2～2.4mと深かったが、当初は古代の遺構の掘削後に工事側へ受け渡す予定だった。しかし、Ⅲ1・2区の調査成果により、V11区でも少なくとも5層 (褐色砂層) と7層 (黒褐色砂層) の調査が必要と想定された。Ⅲ3・4区では調査面積に対して土器片が数点であったことから、白川に近い南側では5層の遺物包含層の遺物内蔵量が少ないと想定し、本調査区については5層を重機にて掘削しながら調査員が土器の有無を確認したが、遺物は得られなかった。また、5層の直下に堆積していた6層 (灰色硬質砂層) についても、Ⅲ2区の調査で無遺物層であることが確認できていたため、重機による掘削をおこなった。6層を除去すると、下位から7層 (黒褐色砂層) が検出されたため、調査区北東端を掘り下げたところ、標高約17.00mで縄文時代後期前葉の土器片や石器が出土した (図48-23)。

7層の掘削に入ると、調査区中央付近に10～30cm程の大きさの川原石が列状に並んだ状態で検出された。また、さらにその1m程南西側では哺乳類の四肢骨が検出され、他の調査区と様相が異なった。この四肢骨が人間の骨である可能性を考え、写真を撮影し、形質人類学者に確認したところ、人骨であるとの解答を頂いた。骨は非常にもろく、検出した時点からすでに風化し始めていたため早急に取

## 1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

り上げる必要があった。そこで、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏とNPO法人・人類学研究機構の松下真実氏に依頼し、他の調査と並行しながら人骨および墓の調査を実施した。ST01と名付けたこの墓の人骨は上半身が調査区外に広がるのが分かったため、人骨と墓全体を調査するために熊本市文化振興課に申請、許可を取り、2×2mの拡張区を調査区北西側に設けた。拡張区では古代の遺構調査後、5層から6層を人力で掘削し、7層上面で土坑墓の平面プランを確認した。人骨の出土状況と土坑墓の記録を実施した上で、人骨を取り上げた。一方、ST01人骨の調査中、その約1m北東側に検出された配石の内側にも人骨らしき四肢骨が検出され、こちらも墓であることが確認された。本墓をST02と名付け、その調査のために拡張区をさらに2.6m北東方向に広げた。こちらも5、6層を人力掘削し、7層上面で配石墓の平面プランを検出、人骨と配石墓を実測と三次元計測によって記録した上で人骨を取り上げている。また、ST02の西側には拡張区の壁にかかる形で半円形の平面プランと人骨の四肢骨の一部が検出された。この墓をST03と名付けたが、施工範囲外であったため調査は実施しなかった。墓は4×2.5mの狭い範囲に3基存在することから、墓は単体で営まれたのではなく、墓域という空間として利用されていたと考えられる。出土状況から墓は北東側や南西側には広がらないが、北西側あるいは南側に広がる可能性がある。

ここで墓の形成時期に関連して調査時の重要な見解を記しておきたい。各墓は縄文時代後期前葉の遺物包含層である7層を掘りこんでいることが平面や土層断面で確認できた。また、I類やII類の土器の一部が7層に食い込むことを土層断面上で確認している。そのため層位的には7層の形成以後に墓が形成されたと想定されるべきである。しかし、現地で確認した土器の出土状況からすると7層の土器の堆積時期と墓の形成時期に大きな差はないと判断できる。なぜなら7層として取り上げた遺物の多くは、7層(図48の23層)の中でも上位あるいは6層(灰色硬質砂層:図48の16層)と7層との層理面で検出されたためである。この土器の出土状況から7層は当時の地表面を形成していた土層と考えられ、その地表面には連続的に土器などが廃棄あるいは設置され、砂粒の移動などで薄く包まれていたと想定できる。そこに6層が短時間で堆積し、全体をパックしたために本調査区のような堆積状況を形成した。後述するが、6層はある時期に白川が氾濫して冠水し、水が引いた後に残った堆積砂である可能性が極めて高い(本書:pp.90~95)。現地における遺物の出土状況から、7層で取り上げた遺物の多くは墓の形成時期とあまり時期幅がない、または一部遺物についてはほぼ同時期であると判断した。また、墓の周囲にはIII類の土器がまとまって出土している(図49-301、302、305)。他の調査区と比べてもV11区の北半ではIII類が多く出土しており、墓域の周辺にこうした縄文の施される鉢がまとまって出土する傾向は偶然とは考えにくい。これらも7層の上面で検出され、6層にパックされていたことから、副葬品とは断定できないが墓と関連している可能性を考慮しておくべきである。

調査終了後、このST02の配石墓については大学の施設担当者と工事業者との協議をおこない、工事の設計変更によって現地で保存することができた。今回の調査で洞窟でも貝塚でもない平野部に人骨が残っていた理由として硬質砂層の影響が考えられた。人骨を取り上げた松下孝幸氏によると硬質砂層が厚く堆積していた箇所は人骨の残りが良い状況があったという。ST03人骨の他にも人骨が残存している可能性があり、すでに調査区内の硬質砂層を完掘していたため、人骨を保存する目的で調査区周辺に石灰を散布した上で埋め戻しをおこなった。

このほか、本調査区南西端から5m程の位置で、7層の掘削途中で幅約1.6mの硬化面を検出した(図47硬化面)。しかし、土層断面では明確に確認できず、8層(青灰色硬質砂層)上面が検出されていた可能性が否定できない。また、7層の掘削途中で調査区南西端において色調の異なる土層の堆積

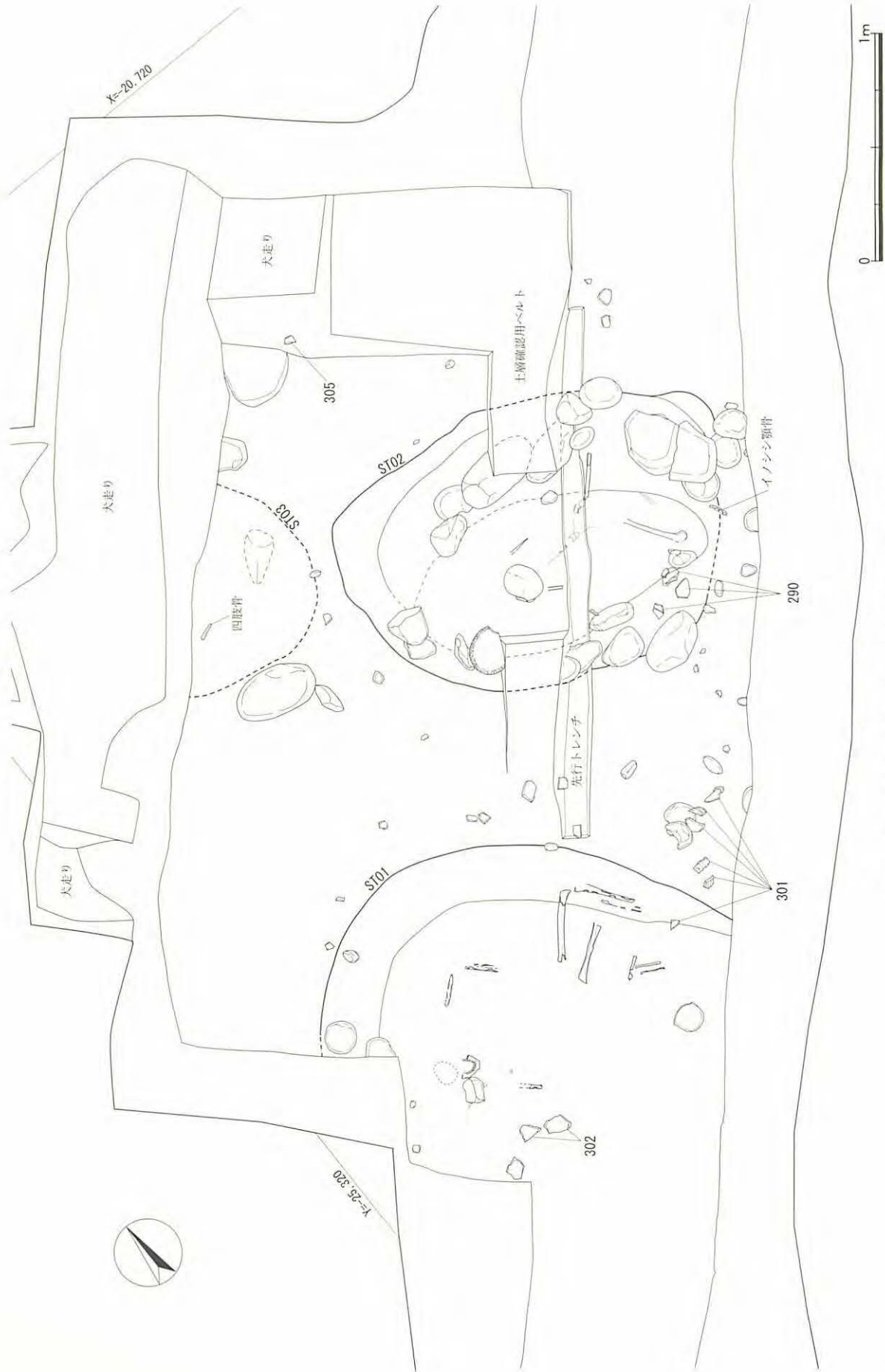


図49 V11区縄文人骨・墓検出状況図 (S=1/25)

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

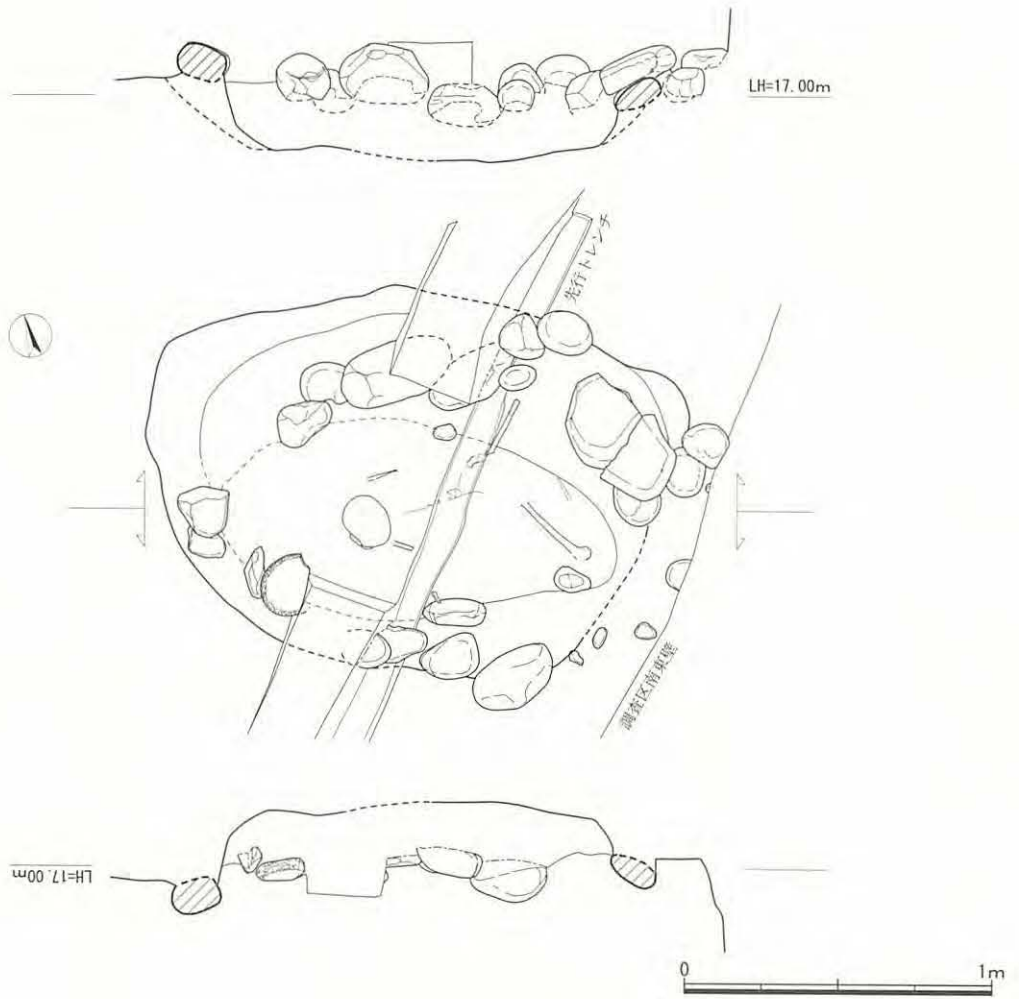


図50 V11区 ST02配石墓実測図 (S=1/25)

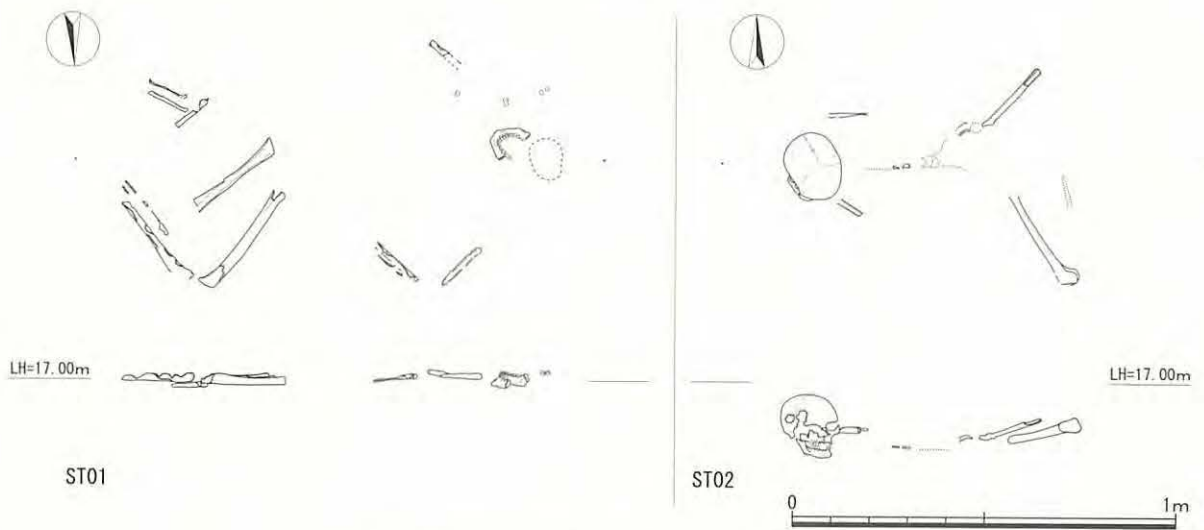


図51 ST01・ST02人骨実測図 (S=1/20)

を確認した。7層の下部にあたると思われ、やや色調が明るく、土壌を篩ったところ5mm以下の細かい動物骨片を抽出できた。本土層を掘削すると、下層にあたる8層上面が白川方向に向かって傾斜しており、その傾斜部に堆積した土であることが判明した(図47傾斜部)。この傾斜部はIV14区でも検出できており、河岸段丘の縁辺である可能性が高い。

#### ST01

ST01は検出面で縦188cm、幅110cm以上、深さが25cmの土坑墓である(図49・51左)。土坑墓は7層を切る形で掘りこまれており、拡張区において7層上面で平面プランを検出することができた。平面形態は楕円形で、浅いレンズ状の掘方を呈する。ただし、墓形成から6層の堆積までの間に攪乱を受けていることが土層によって確認でき、土坑墓の南側は平面プランを明確にすることができなかった。墓埋土中には扁平な円礫が数点出土しているが、墓との関係性は不明である。このうち人骨頭部に隣接して検出された角礫は人骨そのものが原位置から大きく動いていないことから、被葬者埋葬時点で遠くない位置に配置されていた可能性が高い。人骨の詳細については松下孝幸・真実両氏の報告があるので、ここでは概略のみ述べる。人骨の埋葬姿勢は仰臥屈肢葬で、頭位は西向きである。男性の壮年で、人骨の遺存状態は良好ではない。頭蓋の一部、下顎骨、両腕、両大腿骨と左側下腿が検出されたが、右側下腿が消失しており、右前腕が下半身に近い位置にあるなど埋葬時の状態を保っていない骨がある。この点は土坑墓の南側が攪乱されていることと整合性が取れる。土坑墓の埋土中からは数点の土器片が出土したが、墓に関連するものかは不明である(図49-301・302)。あるいは墓の掘削時や埋土の埋め戻し時に7層から混入した可能性もある。また、土坑埋土を現地で1mmメッシュの篩で振るったが、その他遺物は検出されず、副葬品は持っていなかった。

#### ST02

ST02は検出面で縦175cm、幅125cm、深さが28cmの土坑を持つ配石墓である(図49・50・51右)。土層断面で確認すると土坑幅160cmが見込まれた。土坑は7層を切る形で掘りこまれており、7層上面で平面プランを検出することができた。平面形態は東西に長軸を持つ楕円形で、土坑北西側でやや膨らみ、ST01土坑墓に比べて深いレンズ状の掘方を持つ。土坑周囲には安山岩を主体とした10cmから30cm程の川原石が21~23程度、土坑掘方縁辺へ楕円形に配置されている。石は整然と積まれた場所と隙間が空いているところがあるが、ほぼ同レベルに積まれており、原位置から大きくは動いていないことが分かる。土坑埋土は2層に分かれており、土坑を掘削してから被葬者を埋葬し、一度埋め戻し、被葬者を囲うように石を配置した後、さらに土を被せたか、徐々に凹みに砂が堆積したと推測される。人骨の詳細については松下孝幸・真実両氏の報告があるので、ここでは概略のみ述べる。人骨の埋葬姿勢は仰臥で、大腿骨が大きく開いた屈肢葬、頭位は西向きである。女性の壮年で、人骨の遺存状態は良好ではない。頭蓋、両側鎖骨、両上腕骨、両大腿骨などが検出されており、埋葬当時の状態をほぼ保っていると考えられる。埋土中からは数点の土器片が出土したが(図49-290)、墓に関連するものかは不明で、7層からの混ざり込みの可能性も捨てきれない。ただし、先述の通り、墓周囲から出土しているⅢ類土器は墓と関連する可能性がある。また、土坑埋土、人骨足元近くにイノシシの下顎部片が検出されたが、こちらも関連性は不明である。土坑埋土の土を1mmメッシュの篩で全て振るったが、その他遺物は検出されず、副葬品は持っていなかった。

#### V11区の出土遺物(図52・53)

282~309はV11区7層で出土した土器片である(図52・53)。282~285はI a類の口縁部あるいは胴部片である。282は胴部がやや膨らみ、頸部で強くくびれ、口縁部が外反する。口縁部には4条の沈線が横位に施されている。283は波状口縁の一部で、頸部はややくびれ、口縁部がゆるく立ち上が

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

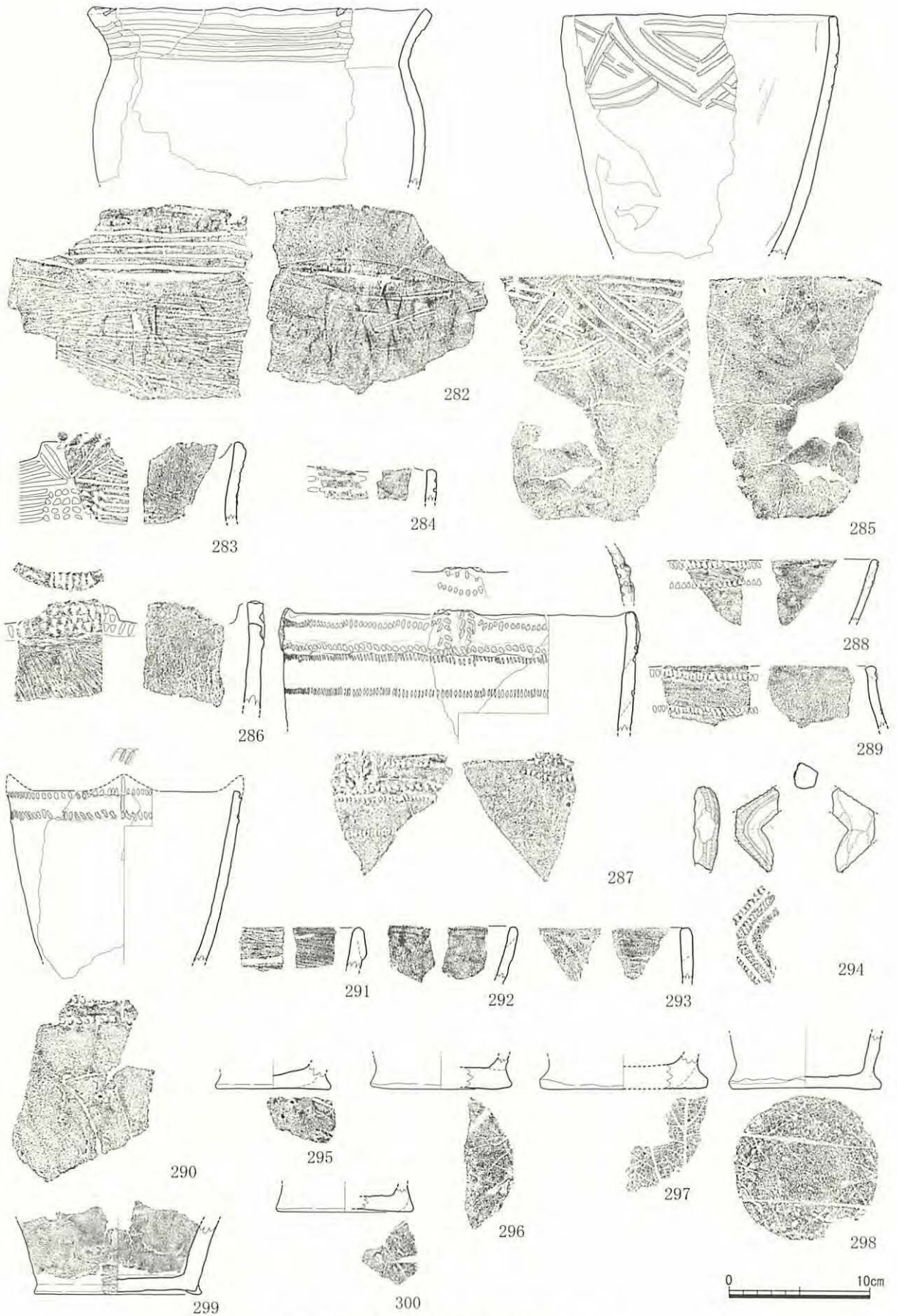


図52 V11区7層出土土器実測図 (S=1/4)



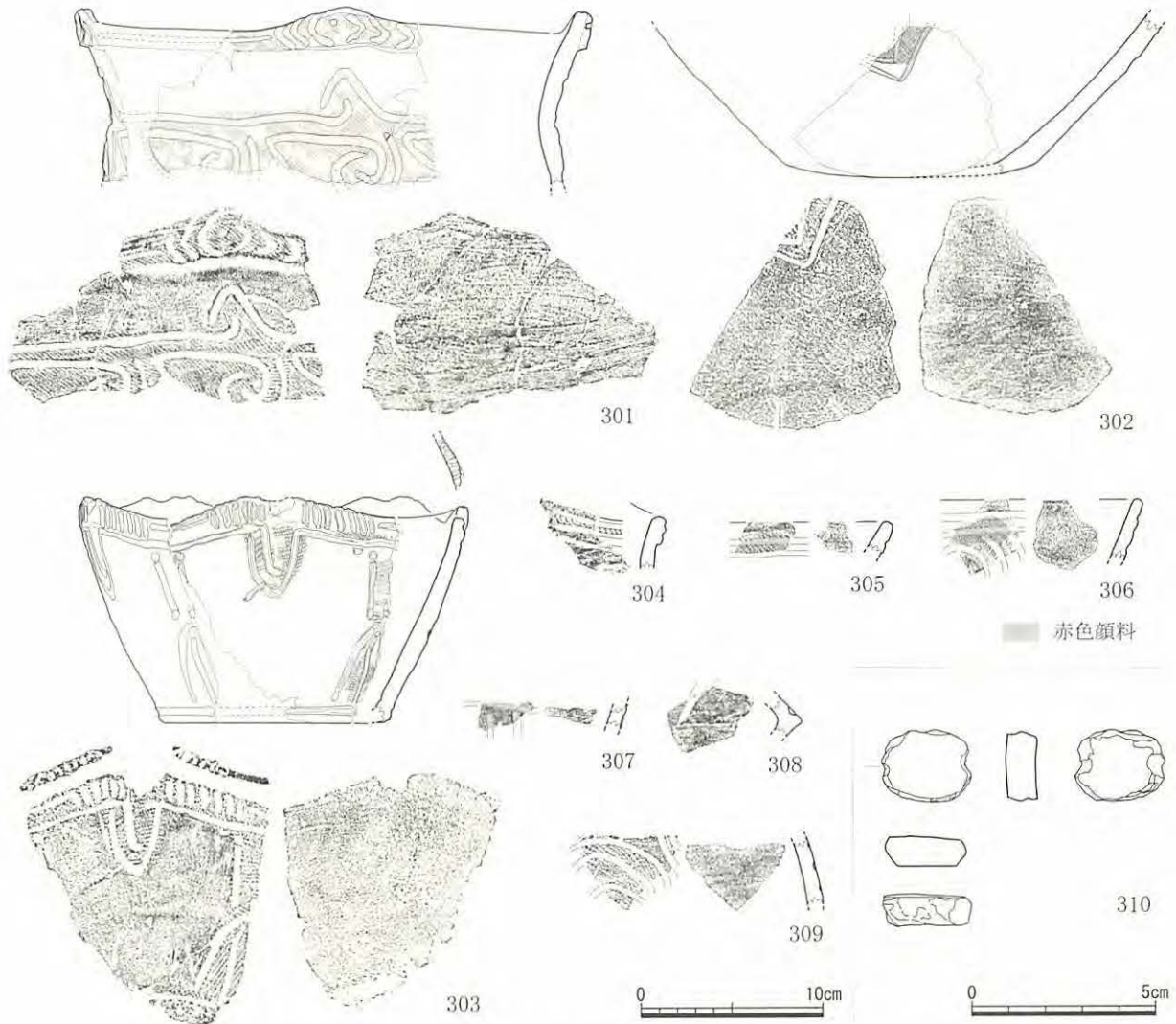


図53 V11区7層出土土器・土製品実測図 (S=1/2・1/4)

る。口縁部から頸部にかけて斜位と横位の沈線と刺突文によって文様が構成される。口唇部にも刻目文が認められる。284は短沈線が2列、連続して施されている。285は口縁部から胴部下半にかけての資料である。器壁が胴部からバケツ状に広がり、口縁部で直立ぎみに立ち上がる。口縁部から胴部上半にかけて、斜位と横位の沈線によって文様が施されている。286はI b類の波頂部である。口縁部はやや内湾しながら立ち上がり、上端に厚みを持つ。この部分と頭部に刺突文が施されている。287~290はII類の口縁部あるいは胴部片である。287は器壁が胴部から口縁部へわずかに広がりながら立ち上がる。台形状のわずかな膨らみを持つ波状口縁で、口唇部と波頂部内面に刺突文が施される。また、口縁部に並行して刺突文が横位に1条、やや間をあけて刻目突帯文が並列する。この刻目突帯文は波頂部で縦位2条に伸びており、横位の刻目突帯文と異なり、突帯の左右に刻目を入れている。さらに刻目突帯文の直下に1条、やや間をあけて1条の刺突文が施されている。本資料は、III 2区9層の土器片との接合資料である。288・289はいずれも口縁部片で、口縁部の上端に横位に1条の刺突文が施され、やや間をあけてもう1条刺突文が並列する。290は口縁部から胴部下半にかけての土器片である。胴部から口縁部がバケツ状に広がりながら立ち上がる。口縁部の上端には横位に1条の刺突文が施され、その下に刻目突帯文が施される。また本資料には縦位に1条の沈線が走っており、この

部分を波頂部として図面を復元した。291～293はX類の口縁部である。このうち291は口縁部がやや膨らむ。294は皿あるいは鉢などに付随する把手と思われる。形態はV字形を呈し、沈線文と刺突文によって装飾されている。295～300は土器底部である。295～298・300はくびれた平底で、底部外面には木葉痕が残る。299は断面の位置によりくびれた平底である。301～309はIV類である。このうち301と302は墓の周辺から出土している。301は胴部から頸部にかけて緩くくびれ、口縁部にむかってやや外湾する。文様帯が口縁部と胴部に分かれており、やや肥厚した口縁部全体に縄文が施され、口縁部に沿って横位1条の沈線文が走り、波頂部付近では対向弧文が並び、中央に孔を穿つような深い円文が施される。また、胴部には沈線によって鉤手文が施されており、その文様内側に縄文を施そうとしているが、部分的に外側にも飛び出している。沈線施文後に縄文を充填しており、はみ出した縄文を磨り消したような痕跡は認められない。302は胴部下半から底部にかけての資料である。底部はやや丸みを帯びた平底で、器壁が胴部上半に向かって大きく広がる。胴部下半に沈線による区画が設けられその内側に縄文が施されている。また、文様区画内には赤色顔料が付着している。303は口縁から底部までが残存する資料である。底部は平底で、口縁部にむけて胴部がバケツ状に広がり、上端でやや内湾ぎみに傾く。口縁部の文様構成は301と類似しており沈線で区画された口縁部上端に縄文が施され、口縁部に並行する横位1条の沈線文と対向弧文に近い短沈線が施される。文様を区画する横位の沈線は波頂部の位置で胴部に向けて鉤状に展開しており、その内側に縄文を施すが、文様区画外に縄文がはみ出しており、磨り消された痕跡がない。波頂部を中心に左右胴部には沈線文と凹点文によって縦方向に区画が設けられ、その内側にも縄文が施されている。また、底部付近にも沈線が横位に1条巡っているとみられる。文様区画外の胴部の空白は細かい磨きが施されている。304は口縁部にやや膨らみを持ち、沈線文と刻目によって装飾を施している。305～309はIV類口縁部あるいは胴部片である。沈線によって文様区画がなされ、その内面に縄文が施されるものと、これに加えて赤色顔料が付着するものがある。310は土器片転用錘である。本調査地点の資料の中では小型だが、縁辺全体を粗く研磨することで整形しており、短辺に抉りを設けている。

#### V13区の出土状況と出土遺物 (図54・55)

V13区はヘリウム棟の南西側、U字側溝の排水を浸透井戸の排水管につなげるための排水管の施工に係る工事で調査を実施した。幅1m、長さ8.3mの東西に延びる調査区で、施工深度が2.2mと深いため古代包含層である4層(黒褐色砂層)の掘削後、5層(褐色砂層)と7層(黒褐色砂層)の掘削をおこなった(図54・55)。5層では遺物が出土せず、7層では数点の土器片と石器が出土している。本調査区では基本土層は、1層(表土)の下に昭和28年の白川大水害による灰白色砂層(2層)、暗褐色土層(3層)、黒褐色土層(4層)、褐色砂層(5層)、灰色硬質砂層(6層)、7層(黒褐色砂層)、そして9層(灰色砂礫層)の順に堆積している。本調査区ではこのように基本土層が明確に堆積していたため、土壌サンプリングを実施しており、後の分析に活用した。

311はI b類の土器片である。連続刺突文が2列並んで施されている。312は安山岩製の磨石で敲石に二次利用したとみられる。扁平な円形で、縁辺に帯状に敲打痕が広がっている。

#### V31区の土層堆積状況 (図56)

V31区は南地区学生会館の南東端に位置しており、本調査地点で最も白川に近い場所に設けられた調査区である(図56)。調査で縄文時代の遺物包含層は確認できなかったが、層位に関して重要な情報が得られたため記載しておきたい。本調査区やV区1～8の土層は地表下約1.5～2mまで現代の盛土(1層)が堆積していた。盛土内からは近代瓦やガラス片など塵芥が多く認められることから、明治41年の熊本高等工業学校設立以降に、ゴミ捨て場として利用されたか、あるいは焼夷弾などが出

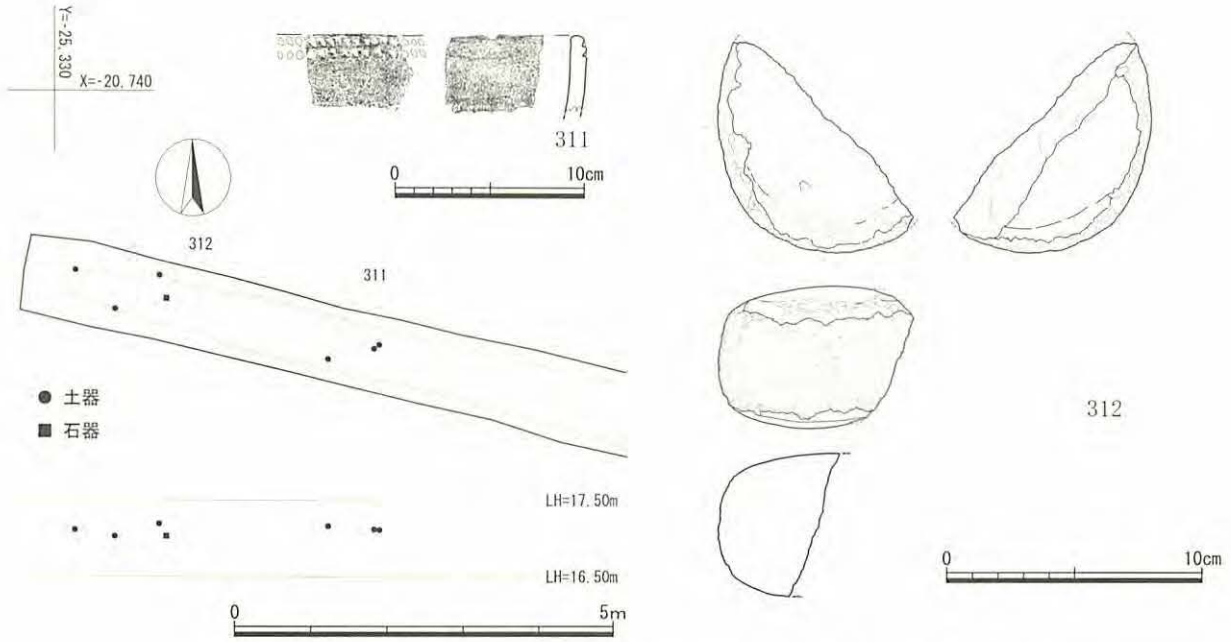


図54 V13区7層遺物出土状況図および出土遺物実測図 (S=1/3・1/4・1/100)

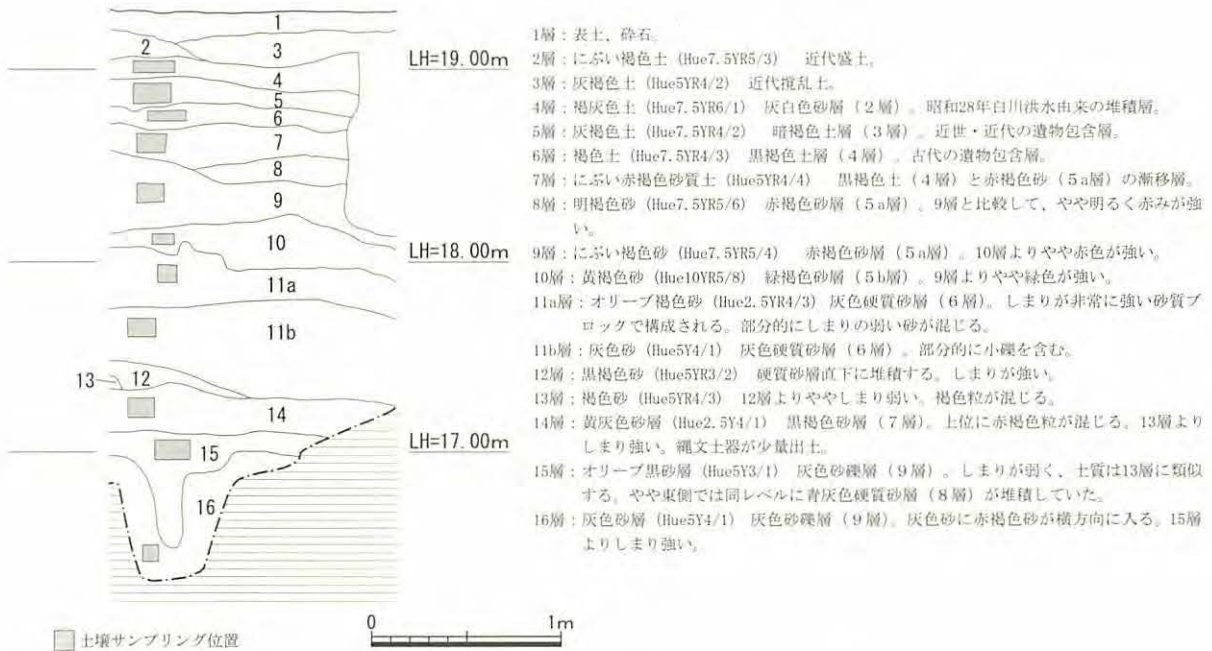


図55 V13区西側北壁土層断面図 (S=1/40)

土するため戦後になって整地されたとみられる。近代盛土の下位には、近世・近代の遺物包含層である3層(暗褐色土)と古代の遺物包含層である4層(黒褐色土)が堆積しており、I~IV区やV区の北側の調査区と比較しても川に向けて深く落ち込んでいることが分かる。その下には5b層(緑褐色砂層)、そして6層(灰色硬質砂層)が堆積しており、こちらも他調査区と比べて数十cm低いレベルで検出された。本調査区の5b層からは遺物は出土しなかったが、北側に隣接するV1区では5b層からIV類の土器口縁部片が1点出土している(図57-317)。IV14区でも5b層からIV類の土器片が

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

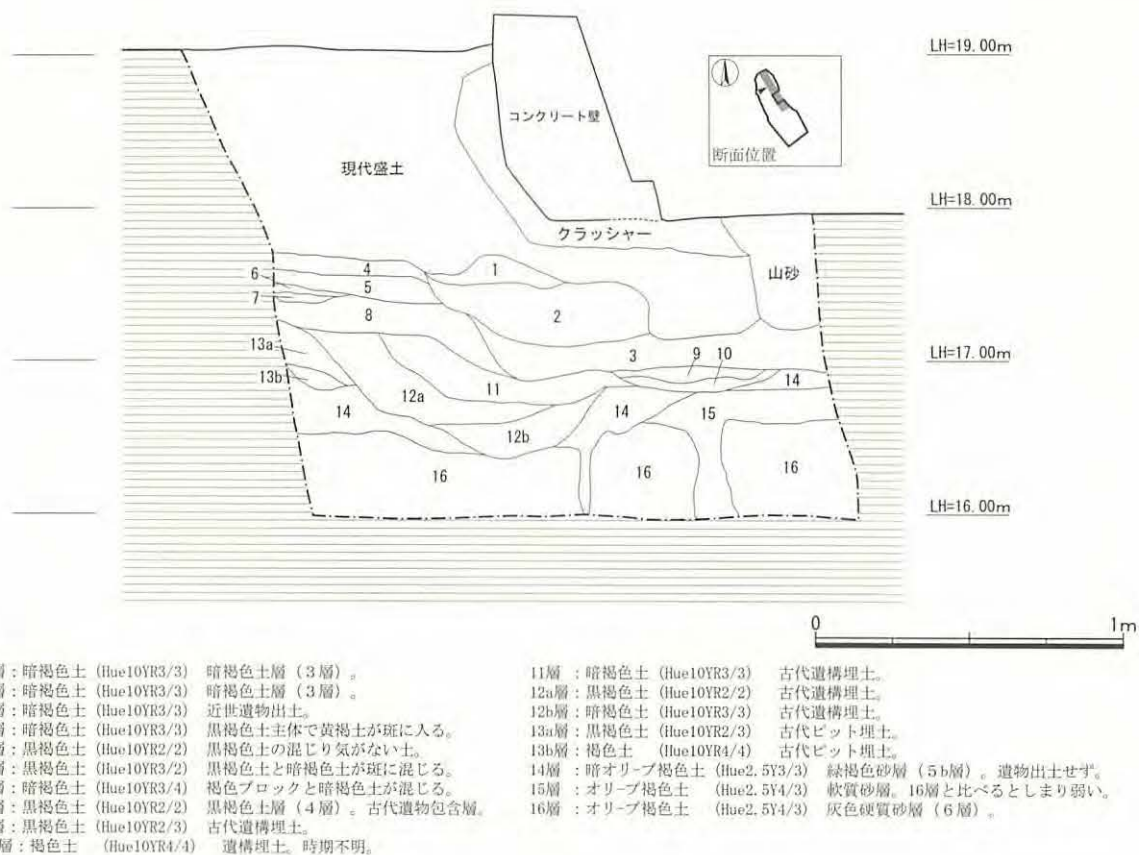


図56 V31区北側北東壁土層断面図 (S=1/40)

確認されており、明確ではないが両土層が対応していると考えられる。この調査区の成果によって、白川に近い位置では基本土層に大きな変化はないが、より低位の河岸段丘が存在しており、川に向けて地形が大きく下がっていたことが判明した。

V区の出土遺物 (図57)

313~324は、V11区とV13区以外のV区調査区から出土した遺物である。このうち317はV1区の5層で取り上げたIV類の口縁部から胴部である。口唇部には2条の沈線文が走り、胴部には沈線によって鉤手文が施されている。313はV20区4層の出土したI a類の口縁部である。口縁部に3条の沈線が施されている。314はV区の出土地不明品である。II類の波頂部で、口唇部、口縁部内外、に刺突文が、波頂部に向けて刻目突帯文が施されている。315はV9区4層で出土した口縁部片である。315はIV類の胴部片で球形を呈しており、数条の沈線文で区画された内側に縄文が施されている。316はV31区4層からの出土で、口縁部が緩やかに広がり、端部に厚みを持ち、口唇部上面に刺突文が施される。318はV21区4層からの出土で、IX類の口縁部である。強く湾曲した頸部から口縁部が大きく外反し、端部で「く」の字に立ち上がる。口縁部には横位1条の沈線文が入る。319はV9区古代遺構埋土、320はV9区4層からの出土品である。いずれもX類の口縁部片である。321はV20区4層から出土した粗製の土器底部片である。322~324はいずれも近代以降の埋土から出土した。322は黒曜石で縁辺に細かい剥離によって刃部を形成しており、搔器の可能性が考えられる。323はチャートで、一部の縁辺を剥離調整しており、搔器あるいは石鏃未製品と思われる。324は安山岩製の剥片で、縁辺を一部細かく剥離調整しているが、人為的なものかは定かではない。

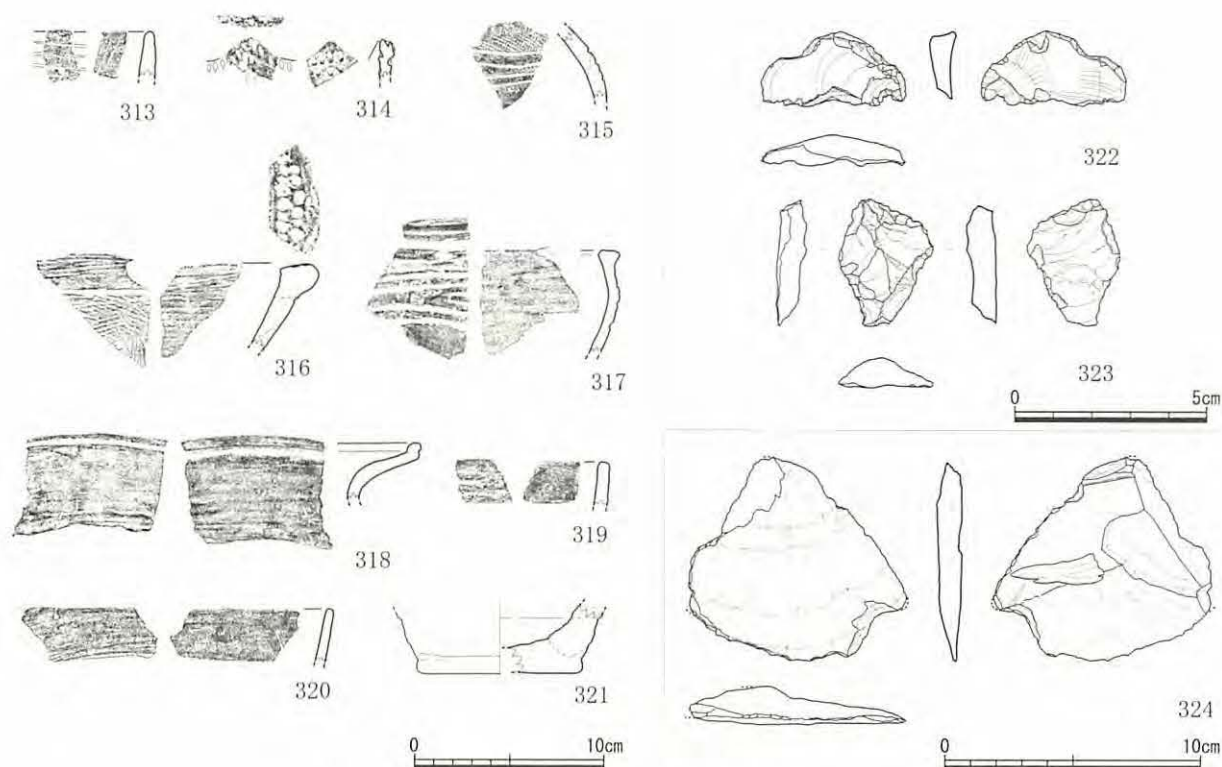


図57 V区出土遺物実測図 (S=1/2・1/3・1/4)

Ⅵ1区5層: 317 V3-2区攪乱: 322 V4区攪乱・近代遺構埋土: 323・324 V9区4層: 315・320  
 V9区古代遺構埋土: 319 V20区4層: 313・321 V21区4層: 318 V31区4層: 316 V出土地不明: 314

## 小結

以上、本調査地点のⅠ～Ⅴ区のうち縄文時代の遺物包含層および墓の調査成果について説明してきた。全体を概観すると、縄文時代の遺物包含層のうち5層（褐色砂層）では出水式、御手洗A式古段階、鐘崎式、太郎迫式など、縄文時代後期前葉から後期後葉までの土器を主体とした遺物が出土している。ただし、Ⅰ37・38区やⅢ1区の5b層では縄文時代後期前葉の土器が主体となって大量に出土するのに対して、各区の5a層やⅣ14区の5b層からは鐘崎式や太郎迫式が混じるなど、地区によって含まれる遺物に差が生じている。Ⅰ37・38区やⅢ1区に堆積した5b層は厚さ40cm程度の遺物包含層に後期前葉を主体としながら長い時間幅の土器が出土していることから、出水式の段階以降、長期にわたり、土器廃棄空間として利用されていたと推測される。本調査地点は白川の洪水に由来すると思われる6層（硬質砂層）がおよんでおらず、比較的上位の河岸段丘面に相当する。この段丘面上に居住域があったと推測でき、今回の調査では検出されなかったが、今後の調査でも竪穴住居の存在に注意する必要があるだろう。

一報、7層（黒褐色砂層）は、縄文時代後期前葉の出水式と御手洗A式古段階の土器にほぼ限られており、6層にバックされていることから、比較的短期間で形成された遺物包含層といえる。Ⅳ14区やⅤ11区ではこれらの遺物が河岸段丘の傾斜部に廃棄された状況を示しており、当該時期の日常生活の一端を垣間見ることができる。土器片転用錘などの特徴的遺物がこの時期に存在することは従前の調査にない新たな成果と言える。また先述のとおり、7層上面は当時の地表面に相当し、土器の出土状況からも墓との時期幅はほとんどないと考えられる。

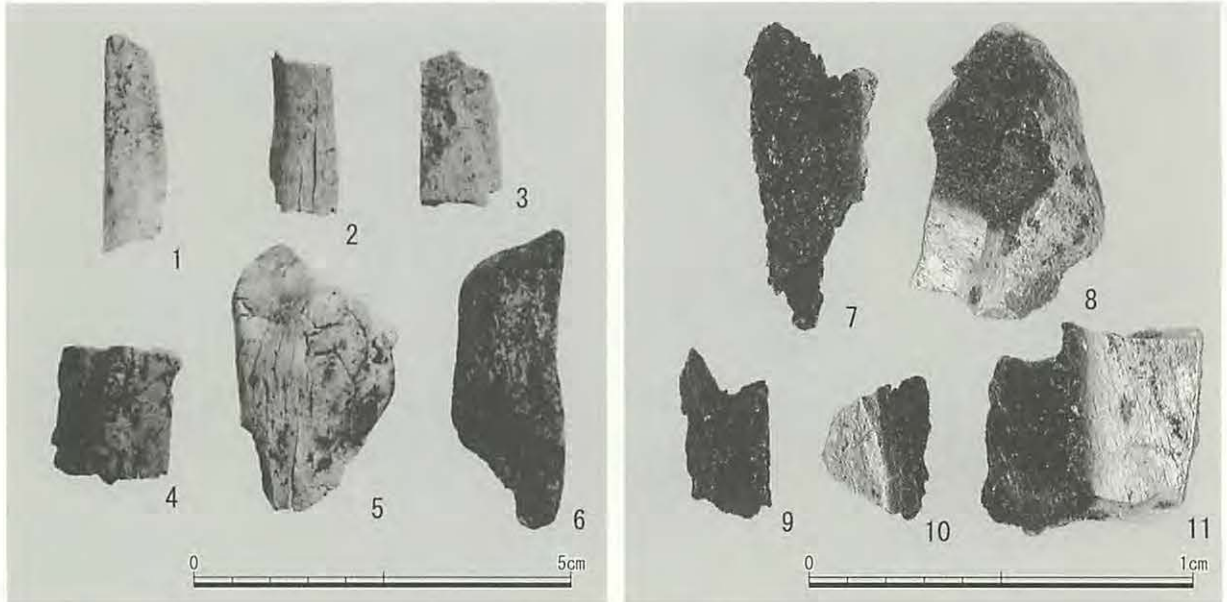


図58 1310調査地点出土動物骨

1・4：V11区7層 2・5：IV14区10層 3：IV14区7層 6：Ⅲ2区9層 7～11：V11区南西側7層傾斜部

#### (5) 動物遺体

本調査ではごく少量の動物遺体が検出されている。動物骨が出土したのはⅢ2区9層、IV14区7層・10層、V11区7層で、土を篩にかけて抽出した極小の資料と、現地で土器などと共に取り上げることができた小型の資料に限られる。小型の資料の内容はイノシシの下顎骨や牙、四肢骨の端部、小動物の骨などが出土している (図58-1～6)。篩から抽出した資料の中には被熱し、炭化したものや白色化したものが見受けられることから (図58-7～11)、食料として調理した後に廃棄されたものが含まれていると想定できる。その他、多くの獣骨については細片である上に保存状況がよくないため同定が困難であった。また、資料中に魚骨や貝類などは確認できなかった。

#### (6) 放射性炭素年代測定

縄文人骨や遺跡の年代の参考とするため、株式会社地球科学研究所に放射性炭素年代測定の分析を依頼した。当初、V11区で検出した縄文人骨の骨と歯を分析に出したが、残存状況が悪く、分析可能なコラーゲンを抽出することができなかった。本調査地点ではV11区7層で取り上げたT-1について年代測定を実施することができた (図48-23中の炭化物)。V11区7層 (黒褐色砂層) は縄文時代後期前葉の遺物包含層である。上位には6層 (灰色硬質砂層) が厚く堆積し、下位には8層 (青灰色硬質砂層) が認められる。本層からはI、II、Ⅲ類、X類の土器が出土しており、IV～IX類の土器が出土しておらず、後世に大きな攪乱を受けていない安定した層といえる。

報告内容を図59に提示した。加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を実施したところ、T-1は $3690 \pm 30\text{BP}$  ( $2\sigma$ の歴年代でBC2195～2175、BC2145～2015、BC1995～1980)の年代値を得ることができた。

#### (7) 本調査地点の土壌に関する分析と考察

現熊本平野一帯には、約9万年前の阿蘇火山の大噴火によって阿蘇-4火砕流堆積物が広く堆積し

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13C12 = -24.9 ‰ / ‰ lab. result = 1)

Laboratory number **Beta-400446**

Conventional radiocarbon age **3690 ± 30 BP**

2 Sigma calibrated result  
95% probability  
Cal BC 2195 to 2175 (Cal BP 4145 to 4125)  
Cal BC 2145 to 2015 (Cal BP 4095 to 3965)  
Cal BC 1995 to 1980 (Cal BP 3945 to 3930)

Intersect of radiocarbon age with calibration curve  
Cal BC 2120 (Cal BP 4070)  
Cal BC 2090 (Cal BP 4040)  
Cal BC 2040 (Cal BP 3990)

1 Sigma calibrated results  
68% probability  
Cal BC 2135 to 2030 (Cal BP 4085 to 3980)

Database used  
INTCAL13

References  
Mathematics used for calibration scenarios  
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates, Talmi A. S., Ingers J. C., 1998, Radiocarbon 50(2):317-322  
References to INTCAL13 database  
Reimer P.J. et al.: IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55.4 (2013): 2081-2101

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory  
4995 S.W. 7th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305) 667-5187 • Fax: (305) 663-0964 • Email: beta@radiocarbon.com

Conventional Radiocarbon Age(14C年代) :

半減期 リビエーの半減期(5568年)  
Modern Reference Standard SRM-4990C  
高品位分別の補正: δ 13C = -25‰に規格化することによって同位体分別の補正を行った  
基準年(0 BP) : A.D.1950  
放射性炭素濃度は一定であったと仮定する

参考: Stuiver M and Polach H.A.(1977) Discussion Reporting of 14C data. Radiocarbon 19

δ 13C (permil) : この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表される。

$$\delta 13C (‰) = \frac{(\frac{13C}{12C})_{[試料]} - (\frac{13C}{12C})_{[標準]}}{(\frac{13C}{12C})_{[標準]}} \times 1000$$

ここで、 $\frac{13C}{12C}$  [標準] = 0.0112372である。

暦年代  
過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の14Cの測定、サンゴのU-Th年代と14C年代の比較、湖の積状堆積物の年代測定により補正曲線を作成し、暦年代を算出する。  
使用したデータセット Intcal13もしくは Marine13  
Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk, Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hoggan, K.A., Kaiser, K.F., Krüger, B., Manning, S.W., Mus, M., Reimer, P.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Talamo, S.M., van der Plicht, J., Hoggan, A. 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon vol. 55, no. 4, pp. 1869-1887.  
校正曲線のスムーズ化に用いた理論  
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates  
Talmi, A.S., Vogel, J.C. 1993. Radiocarbon 35(2): 317-322

試料データ	Conventional Radiocarbon Age (BP) (14C年代)	δ 13C(‰)
1 Beta- 400446	3690 ± 30	-24.9

試料名 T-1  
測定方法、期間 AMS-Standard  
試料種、前処理など charred material acid/alkali/wash  
2sigma calender. Cal BC 2195 to 2175 (Cal BP 4145 to 4125) and Cal BC 2145 to 2015 (Cal BP 4095 to 3965) and Cal BC 1995 to 1980 (Cal BP 3945 to 3930)

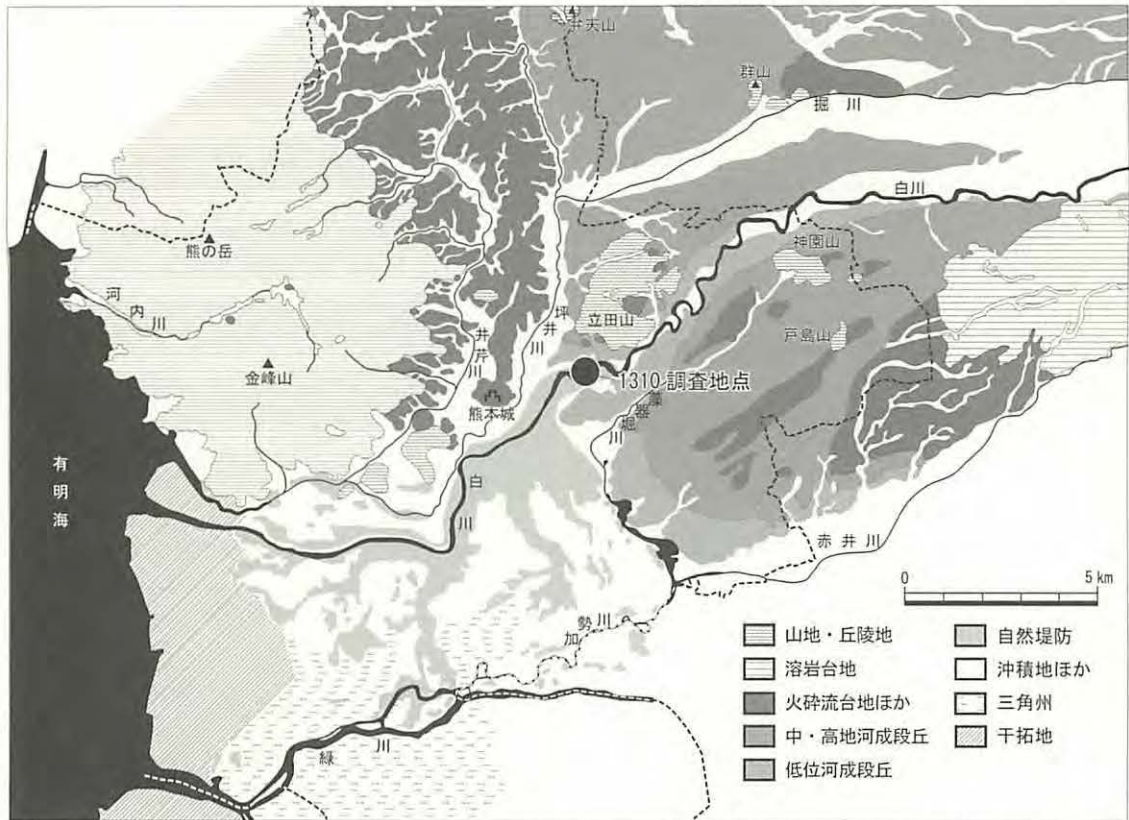
年代値はFIC YBP1950 A.D.を0年とするで表記。モダンリファレンス、スタンダードは国際的な標準としてNBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビエーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

図59 放射性炭素年代測定結果  
(報告書を縮小転載)

た。金峰山、立田山や託麻三山などの起伏の大きな山地、丘陵を除き、西側へ緩やかな傾斜を持つ広大かつ平坦な平原が広がっていたのである。後にこの火砕流堆積物は白川を主とし、坪井川や井芹川などの河川によって浸食を受け、熊本平野各地に河岸段丘が形成された。その後、完新世には白川、緑川などの河川により上流から運ばれてきた土砂が下流の沿岸部に堆積し、沖積平野を形成した。本調査地点も含めて、現在の熊本市の市街地の主要部は白川とその支流によって運ばれた土砂に由来する「自然堤防」上に立地している(図60、新熊本市史編纂委員会編1998より引用・改変)。

本調査地点は阿蘇山から有明海に向かって流れる白川下流域の右岸、微弱に起伏する自然堤防上に立地している。南に白川、北に立田山を望む本遺跡は、河川作用や風雨、降灰などの自然現象によって土砂の堆積と浸食が幾度も起きる中、この地を居住地とする縄文時代の人々によって形成された。1310調査地点の発掘調査では各土層において多くの優良な考古学的データを得た。また本調査では、従前の調査で先史時代の文化層が存在しないと考えられてきた土層(6層以下)からも縄文時代後期前葉の遺物や墓が検出されるなど、特筆すべき調査成果が得られている。本調査成果を鑑みるに、白川流域の自然堤防の土層の堆積状況と形成過程は複雑かつダイナミックであり、今後、熊本大学構内遺跡のみならず、熊本市内の埋蔵文化財調査を実施する上で、土層認識に関して十分な議論が必要となるだろう。そこで本項では、本調査地点の主要な土層の性格を明らかにするとともに、基本土層の理解の整合性について地質学的分析を取り入れることで補完することを目的とし、土層または土壌に関する調査や分析を実施した。①現代の白川洪水による堆積砂の調査と、②土壌のマイクロスコブ観察である。このうち②については熊本大学大学院先端科学研究部の宮縁育夫氏と同学教育学部3年生の遠入楓太氏に分析を実施して頂き、地質学的知見を仰いだ。

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)



渡邊一徳 1998「自然編第二章第一節 熊本市の地形」『新熊本市 通史編』・美濃口雅朗 2007「第2章 位置と環境」『大江遺跡群Ⅶ 一大江遺跡群第107次調査区発掘調査報告書』熊本市教育委員会・国土地理院 1978「1:25000 沿岸海域土地条件図 熊本」をもとに作成

図60 熊本平野地形分類図 (S=1/200,000)  
(『熊本市の文化財』より一部改変)

① 上河原緑地帯における白川洪水による堆積砂の調査

調査の経緯

熊本大学黒髪南キャンパスと白川の間広がる「上河原緑地帯」は、日常的には野球やサッカー、応援団の練習などがおこなわれる運動場、憩いの場として利用されている (図61左上)。本緑地帯は白川の中流域から下流域への移行地に位置しており、川筋が子飼橋付近で大きく蛇行することから、大雨により白川が氾濫した際には冠水することが多々あった。2016年6月19日から23日にかけて、阿蘇方面を中心として熊本県内に大雨が降り、白川が氾濫し、熊本市内や熊本大学埋蔵文化財調査センターでも床上浸水が発生するなどの被害が生じた。この際、上河原緑地帯の様子を確認したところ、普段運動場として利用されている緑地帯全体が洪水によって運ばれた土砂で覆われていたのである (図61-1)。調査担当者は1310調査地点において6層 (灰色硬質砂層) が白川により近い調査区にのみ厚く堆積することを確認しており、現代の白川洪水砂の堆積状況が遺跡の堆積状況と類似していることに着目した。遺跡で採取したサンプリング土壌との比較試料を入手することと、砂の堆積状況の把握を目的とし、6月23日に白川洪水による堆積砂について簡易的な地形測量と写真記録、土壌サンプリングを実施することとした。2019年3月現在、これら堆積砂は一部を残して撤去されている。

調査方法と調査結果

調査では上河原緑地帯へ降下する階段最下段隅に任意の測量点である「A」を設け、河川に直行する形でAから直線距離約33.4mの位置に測量点「B」を設けた (図61右上)。そして、AからBの直線上に幅50cmのトレンチを計6カ所に設定した上で、埋もれた現地表面までの掘削を実施し、堆積



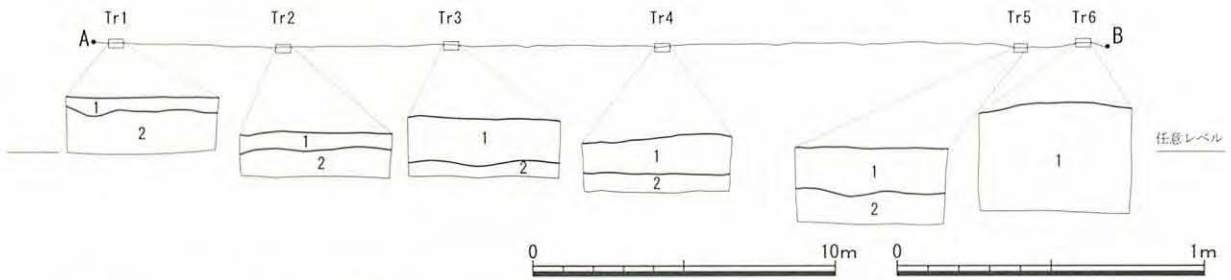


←大学側

調査地の位置

調査地略図

白川側→



- 1: 黒褐色砂 (10YR3/1) 灰色砂を主体とし、褐色砂が混じる。2層より褐色砂と灰色砂の互層堆積が明確に認められる。  
 2: 黒褐色砂 (10YR2/2) 直下が現地表面。しまりやや強く、粘質なし。1層と比較すると褐色砂と灰色砂の互層堆積が明瞭でない。  
 調査地の土層断面 (土層: S=1/25、地表面: S=1/250)



1: 調査地遠景 (北より) 2: 調査終了後 (南より) 3: Tr5・6 近影 (西より) 4~9: Tr1 ~ 6 土層断面 (西より)

図61 現代における白川洪水による堆積砂の調査

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)



1 調査区全面に厚く堆積する灰色硬質砂層 (V11区南東壁土層断面)



2 灰色硬質砂層に見られる互層 (III2区東壁6層近影)



3 白川洪水砂に見られる互層 (上河原緑地帯 Tr3 近影)



4 降雨で流れた排土に見られる互層 (V11区6・7層排土近影)



5 サラサラの灰色砂礫層 (III2区東壁9層近影)



6 サラサラの灰色砂礫層 (IV14区東西ベルト北壁9層近影)

図62 1310調査地点における白川洪水に係る堆積層とその関連写真

砂の断面を観察・記録した (図61中央)。河川に最も近い Tr5・6 付近は、川に向かって流路が幾筋も伸びていたため、前者は流路の凹部、後者は流路の凸部にトレンチを設定した (図61-3)。洪水前の地表面は、陸側から川に向かって緩やかに傾斜しており、AとBでは20cmの高低差があった。洪水による堆積砂もほぼこの地形に沿って堆積しており、最も薄い場所で14cm (Tr2)、最も厚い場所で36cm (Tr6) の砂が堆積していることを確認できた。また、土層は灰色を主体として褐色砂が混じる1層と、しまりが強く褐色砂と灰色砂が斑に混じり、地表面との漸移層に相当する2層に分けた。そして、陸側では2層がより厚く、川に近くなるにつれて1層が厚くなる傾向が認められた。

注目すべきは1層が褐色砂と灰色砂が互層となって堆積していることが確認できた点である。この褐色砂と灰色砂はそれぞれ現地でサンプリングを実施し、後の分析に使用した。

### 考察

本調査により、現代のように整備が施された河川でも土砂が一夜にして数十cmも堆積することが確認できた。昭和28年6月末に起きた白川大水害では、熊本市内の白川流域低地一帯が冠水し、阿蘇火山に由来する火山灰土を含む土砂が広く堆積した。熊本大学黒髪南地区では、工学部敷地が一次流路になり、広い範囲が冠水したという記録が残っている（熊本大学60年史編纂委員会：p178）。構内の考古学的調査では、黒髪南地区1309調査地点において昭和28年の堆積砂を土層中に確認することができ、細かい粒径の砂が最大で60cm以上の厚さを持って堆積していた（山野・柴田編2018）。白川は近世の文献上でも幾度も氾濫していたことが分かっており、古くから調査地一帯は白川の影響で頻繁に冠水していたことを示す。

さて、1310調査地点の6層（灰色硬質砂層）は縄文時代後期前葉の遺物包含層やV11区で出土した配石墓を覆っていた。本層は低位河岸段丘の一部である11層（灰オリーブ褐色層）が急激に落ち込むⅢ2区から白川により近い南側に向けて厚く堆積しており、V11区では最大で約70cmの厚みがあった（図62-1）。一方、白川から遠いⅠ・Ⅱ区に本土層が堆積していないことも、河川作用によって堆積したことを裏付ける。さらに6層の表面を詳細に観察すると、一部では黄色砂と灰色砂が細かい単位で互層になっていることが確認できた（図62-2）。この粒子の流れは単に水平に堆積しているだけではなく、緩やかに湾曲している。今回の上河原緑地帯における調査でも各トレンチの1層において、6層と酷似する堆積状況が確認できている（図62-3）。また、発掘調査現場でも興味深い現象を体験した。V11区で掘り上げた6・7層の排土が降雨で洗われた際、半日程で排土から砂が崩落し流れ落ちていた。この排土を縦に割り、断面を観察したところ、黄色砂と灰色砂の互層が認められたのである（図62-4）。このことから6層は水の流れる方向や強弱の影響を受け、粒径や重さの差によって砂粒が分級・沈降し、色調の異なる砂が交互に、しかも短時間で堆積したと推測できる。以上の見解により、本遺跡に堆積している6層は、降雨により白川で洪水が発生し、河岸段丘の低部を形成する凹部あるいは平坦面が冠水し、短期間で水が引いた後に残った堆積砂層であると結論づけた。本層が硬質化している理由については不明であるが、単純に土圧の影響のみとは考えにくい。6層の下位に堆積する遺物包含層の7層（黒褐色砂層）は硬質化していないからである。逆により上位に堆積する5層（褐色砂層）中にも砂が硬質化したブロックが帯状に確認できることがある。このため砂の硬質化は土圧に加え、乾燥などいくつかの条件が整った際に生じる現象と推測される。また、9層（灰色砂礫層、写真62-5・6）には、水性作用とみられる平行葉理は認められるが、こうした互層は確認できない。本土層はしまりがほぼなく、触るとサラサラと崩れる。灰色砂を主体とする比較的大きい砂粒や円礫も混じることからも、一定期間、調査地周辺が水路となっていた可能性が考えられる。Ⅲ2区において6層よりさらに白川に近い位置から堆積し始めることから、一時期の間、大雨により白川が増水・拡幅し本流に組み込まれたか、あるいは支流となったと推測できる。

## ② 1310調査地点の土壌分析

### 採集方法

1310調査地点において、Ⅱ32区、Ⅲ2区、Ⅳ14区、V11区、V13区の5カ所で各土層の土壌のサンプリングを実施した（図15・28・55）。遺跡現地でのサンプリングの際は、各土層の表面を移植ゴテで削った後、上下の層と混ざらぬよう注意し、奥行5～10cm程の土壌を採取し、新品のポリ袋にて

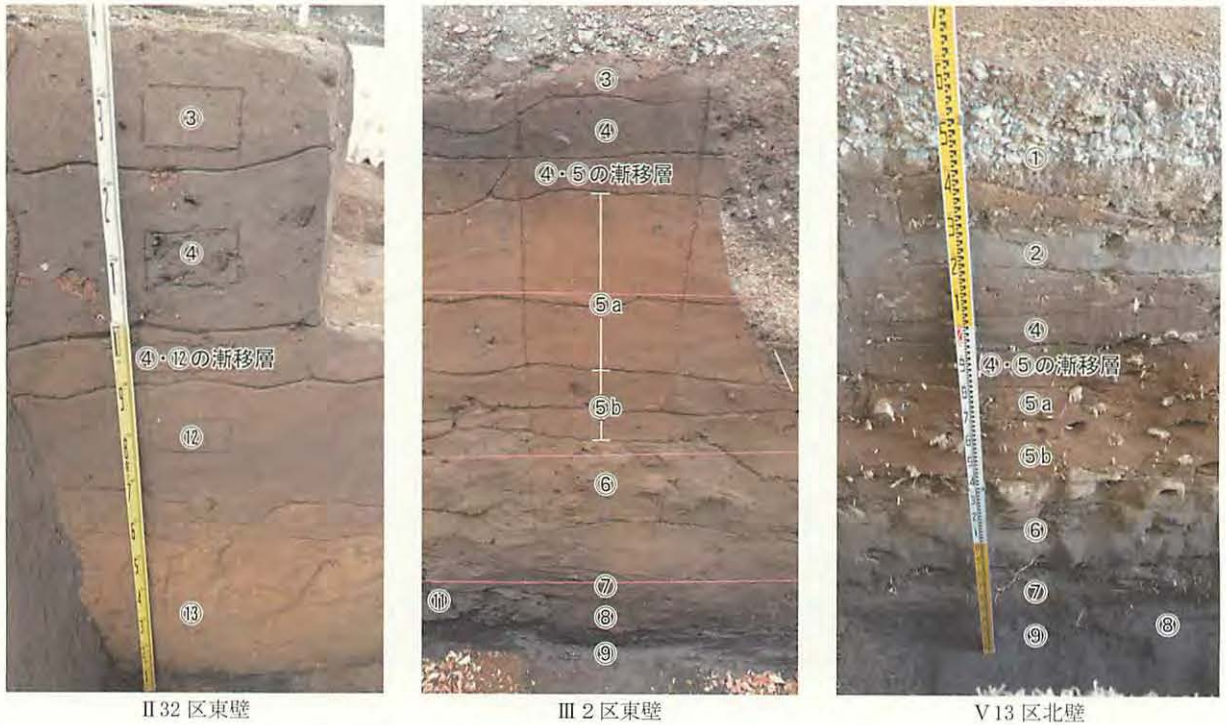


図63 1310調査地点各区の土層断面写真  
(数字は基本土層1～13に対応)

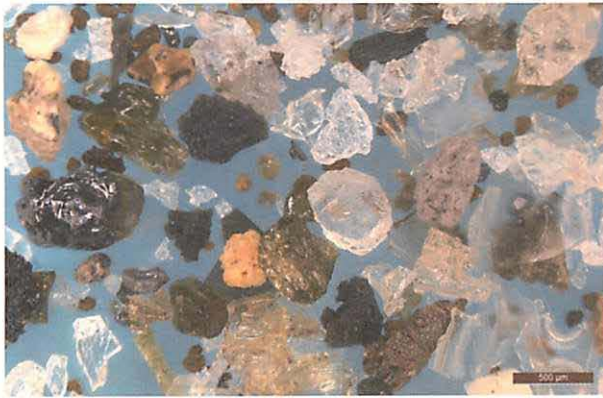
保管した。また、各サンプリングを採取する度に移植ゴテを水とキムワイプで拭き取り、コンタミネーションに配慮した。時間の都合から全ての土壌の分析を実施できなかったため、上記のうち、II 32区12層・13層、III 2区5 a層・6層・9層、V13区6層など本遺跡の土層とその堆積状況を理解する上で重要な試料に限り抽出・分析した(図63)。加えて、上述した2016年6月に上河原緑地帯に堆積した白川洪水砂のうち、1層の黄色砂および灰色砂も分析している。

**試料調製・観察方法**

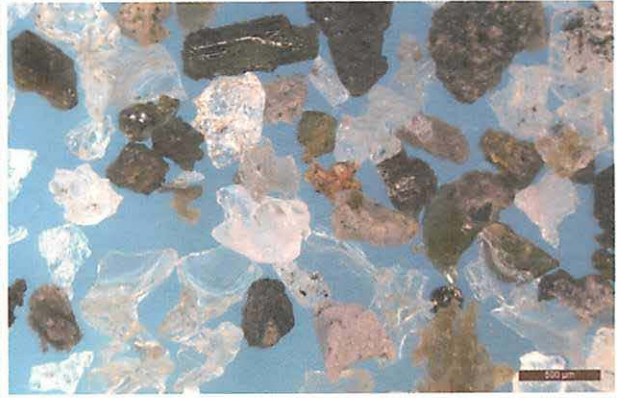
試料は、恒温器を使用して80℃で2～3日程度乾燥させた後、ふるいによって0.25～0.5mm 画分を抽出し、超音波洗浄機を用いて粒子表面に付着する細粒物質を除去した。この調整した試料をデジタルマイクロスコープ(ライカ DMS1000)で観察した。なお、白川右岸グランドで採取した灰色砂については0.25～0.5mm 画分の粒子が少なかったために、0.125～0.25mm 画分を観察している。

**観察結果**

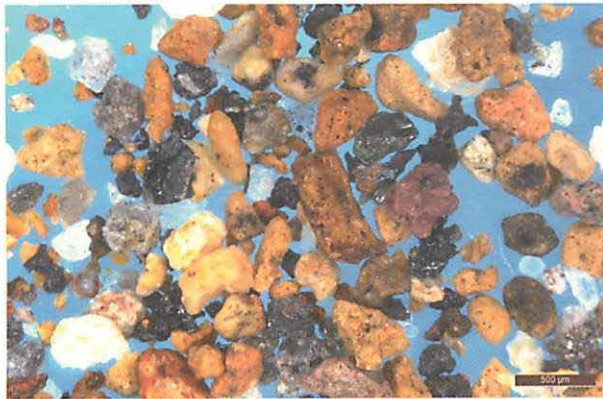
各試料の構成物は、岩片・鈹物片・ガラス片の3種類に大別できた(図64)。岩片とは、主に既存の岩石の石基部分の破片であり、黄色や赤色を呈するものに分けられ、様々な程度に風化・変質している。鈹物片は、斜長石や輝石、かんらん石などの遊離結晶粒子である。また、ガラスは火砕噴火によってマグマがほとんど結晶化せずに放出されたものであり、今回の試料中には透明なバブルウォール型火山ガラスと、暗褐色(あるいは黒色)を呈する多面体型の火山ガラスが含まれていた。前者は約29,000年前の始良 Tn 火山灰(AT)や約7,300年前の鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)に由来するガラスである(町田・新井2003)と考えられる。一方、後者は阿蘇火山中岳などの灰噴火でもたらされた玄武岩質安山岩質のガラス粒子(小野ほか1995)である可能性が高い。以下に各試料の構成物の相対量を提示した。



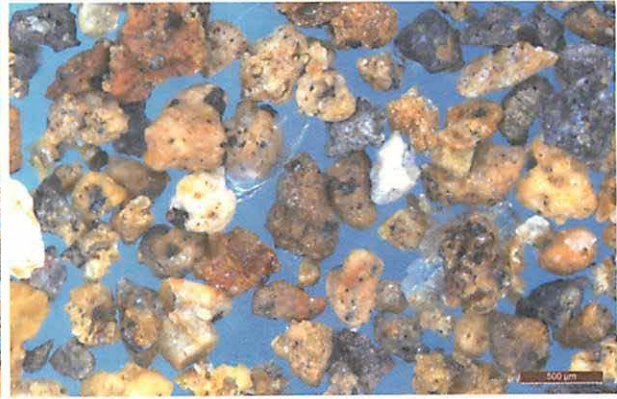
1 II32-5 12層 (暗褐色粘質土層) 0.25-0.50 mm



2 II32-8 13層 (褐色土層) 0.25-0.50 mm



3 III2-1 5a層 (赤褐色砂層) 0.25-0.50 mm



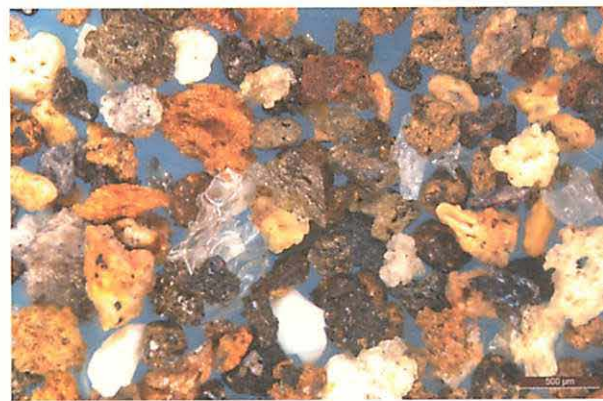
4 III2-5 6層 (灰色硬質砂層) 0.25-0.50 mm



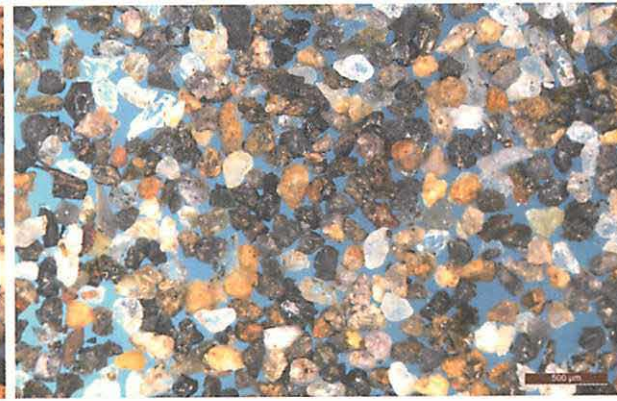
5 III2-9下 9層 (灰色砂礫層) 0.25-0.50 mm



6 V13-11a 6層 (灰色硬質砂層) 0.25-0.50 mm



7 白川右岸上河原緑地帯 (黄色砂) 0.25-0.50 mm



8 白川右岸上河原緑地帯 (灰色砂) 0.1-0.25 mm

図64 1310調査地点および現代の白川洪水砂層の構成物観察写真

試料1 II32-5 12層 (暗褐色粘質土層) 0.25-0.50 mm

斜長石 > ガラス (バブルウォール) > 単斜輝石 > ガラス (黒) > ガラス (灰) > 岩片 (黄) > 岩片 (赤)

試料2 II32-8 13層 (褐色土層) 0.25-0.50 mm

斜長石 > ガラス (バブルウォール) > 単斜輝石 > ガラス (黒) > ガラス (灰) > 岩片 (黄) > 岩片 (赤)

試料3 III2-1 5 a層 (赤褐色砂層) 0.25-0.50 mm

岩片 (黄) > ガラス (黒) > 斜長石 > 岩片 (赤) > 単斜輝石

試料4 III2-5- 6層 (灰色硬質砂層) 0.25-0.50 mm

岩片 (黄) > ガラス (黒) > ガラス (バブルウォール) > 岩片 (赤) > 斜長石

試料5 III2-9下 9層 (灰色砂礫層) 0.25-0.50 mm

ガラス (黒) > 斜長石 > 単斜輝石 > 岩片 (黄) > 岩片 (赤)

試料6 V13-11 a 6層 (灰色硬質砂層) 0.25-0.50 mm

岩片 (黄) > ガラス (灰) = 斜長石 > ガラス (黒) > 岩片 (赤)

※単斜輝石やガラス (バブルウォール) も含む

試料7 白川右岸上河原緑地帯1層 (黄色砂) 0.25-0.50 mm

岩片 (黄) > 岩片 (黒) > 斜長石 > ガラス (バブルウォール) > 岩片 (赤)

試料8 白川右岸上河原緑地帯1層 (灰色砂) 0.1-0.25 mm

ガラス (黒) > 斜長石 > 岩片 (黄) > 岩片 (赤) = かんらん石

※ガラス (バブルウォール) も含む

## 考察

試料の構成物と土層の色調を比較すると、基本的には5層 (褐色砂層) のように褐色あるいは黄色を呈する土層の主要な構成物は黄色の岩片であることが確認できる。また、9層 (灰色砂礫層) など灰色や黒褐色を呈する土色の主要な構成物は黒色あるいは灰色のガラスであることが確認できた。試料中で特異なのは試料1・2 (12・13層) で、斜長石やバブルウォール型火山ガラスの相対量が著しく多く、他の試料とは大きく異なる構成内容を示す。また、現在の白川洪水砂の試料7・8の構成物の内容については、粒径の差や構成物に若干の相違はあるものの、遺跡で検出された5層や6層とはほぼ変わらないことが分かる。

これまで大学構内遺跡の調査では、5 a層 (赤褐色砂層：図63-中央⑤ a、図64-3) と12層 (暗褐色粘質土層：図63-左⑫、図64-1) は明確に区別されておらず、当初はいずれも火山灰の二次堆積物とされ、地山として認識されていた。本発掘調査では5 a層から縄文時代後期の遺物が出土するが、12層からは遺物が全く出土しなかったためこれらが異なる土層である可能性が高まった。今回の砂粒観察からも、両者の構成物には斜長石やバブルウォール型火山ガラスの相対量に大きな相違が認められ、堆積した時期や構成物が異なることが明確となった。12・13層の堆積年代については、構成物から約29,000年前の始良 Tn 火山灰 (AT) や約7,300年前の鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah) に由来すると考えられるが、今後考古学的、地質学的検討を進めていく必要がある。

遺跡に堆積していた5層、6層、9層は、現在の白川の洪水堆積砂層の構造物の内容と大きな違いがなく、黄色の岩片あるいは黒色・灰色のガラス片、斜長石を主体としている。本分析に加え、遺跡における堆積状況や土層の表面観察からも当初想定していた通り、白川からの断続的な砂の供給によって堆積したと考えられる。遺跡に堆積した基本土層の中で少なくとも5～9層、あるいは10・11

層は、本調査地点周辺にみられる白川の「自然堤防」の上層部分に相当するとみてよい。黄色の岩片は白川流域に存在する岩壁が風化などの自然作用によって変質して形成されたものと思われるが、その詳細については今後の検討課題である。

## (8) 総括

### ① 調査の成果

1310調査地点の発掘調査を実施したところ、遺構として縄文時代後期前葉の3基の墓を発見した。また、複数枚の遺物包含層中から縄文時代後期前葉を主とする土器、石器、土製品などを発見した。以下にその概要をまとめ、先行研究や報告に触れながらその評価を述べる。

#### 墓と人骨

V11区では縄文時代後期前葉の墓と人骨3基が発見された。ST01は土坑墓で、壮年男性が埋葬されていた。ST02は川原石を用いた配石墓で、壮年女性が埋葬されていた。ST03は大腿骨のみが検出され工事範囲外のため調査を実施しなかった。これら3基の墓が2.5×4mの狭い範囲で検出されたことから、一帯は墓域として利用されていたと考えられる。人骨に副葬品や着用品はなかったが、周囲から出土した縄文を施した土器(Ⅲ類)が墓に関連する可能性がある。人骨の分析によると、縄文人骨のうちST02は上顎左側切歯に抜歯が認められ、熊本県内の一般的な縄文人に比べて低身長できゃしゃである特徴が見出せた(本書: pp.127~145)。

埋葬人骨は平野部の地表下約2mで発見された。通常、縄文人骨が出土する環境は貝塚や洞穴遺跡からが圧倒的に多く、平野部には人骨が残存しづらいため本例は極めて貴重である(坂本2002)<sup>1)</sup>。熊本県下では、縄文時代後期前葉に時期比定された墓は他に類例がなく、本遺跡のように明確な配石墓も確認されていない。縄文後期前半からは東日本からの影響で土器棺墓が増加していくことが知られるが、それ以前の墓制を知る上でも重要な成果となった。また、西日本の平野部では縄文時代の墓と思わしき土坑が検出されてきたが、埋葬人骨が伴わないため墓と認定できていない例が多い(山田2002)。今回、縄文時代後期の人骨が土坑に伴って発見されたため、洞穴・貝塚以外の平野部の確実な墓の存在が証明された。こうした意味でも今回の発見は九州の縄文時代の墓制や墓域の解明につながる重要な成果といえる。熊本市内の白川の河岸段丘の低位には、こうした遺構が現存している可能性があり、今後も慎重な調査が必要となるだろう。

#### 土器

本調査地点では、押型文、出水式、御手洗A式古段階、鐘崎式、北久根山第Ⅱ型式、辛川Ⅱ式、太郎迫式、古閑Ⅰ式など縄文時代早期から後期末葉の土器が出土した。このうち主体を占めるのは出水式、御手洗A式古段階の2型式で、縄文時代後期前葉の土器型式に相当する(水ノ江2012: p29)。本報告書では前者をⅠ類とし、後者の深鉢をⅡ類、鉢をⅢ類として報告した。このうち御手洗A式古段階の深鉢は、口縁部から底部付近まで接合するものなど優品があり、数量的にも今後の基準資料となりえる。各地区各土層から出土した土器を表3と図66・67にまとめた。遺跡の主体であるⅠ~Ⅲ類を中心に土器の概要を述べたい。

Ⅰ類に相当する出水式は、鹿児島県出水市に所在する出水貝塚を標識遺跡とする。いわゆる阿高系の流れを組む九州在地の土器で、九州西半部に広く分布している。中九州では南福寺式に後続し、福田K2式とほぼ並行関係にある土器型式とされる(水ノ江1993、水ノ江・前迫2010)。出水式は文様の多様さや資料の多さ、広域に分布する現状から時間的な細分が見込まれる(水ノ江2010: p32)。本遺跡からは南福寺式の大きな特徴の一つである口縁部への「く」字状の綾杉文や逆S字状の文様が

表3 1310調査地点の各層出土土器

調査区	層	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
I 37・38区	5a層	(1)	(1)		(1)						
	5b層	4 (7)	2 (5)								4
III 1区	5a層	3	1	1 (2)	1						
	5b層	17 (1)	12 (1)	2 (2)		1					6
III 2区	7層	1	2								6
	9層		1								
III 3・4区	5b層				1					1	
IV 14区	5b層		(1)		2						
	7層	11 (2)	7 (2)	2							3
	10層	1									1
IV 30-2区	5a層	(1)				(1)					
V 11区	7層	4 (1)	4 (1)	9							3
調査区		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
I区		2 (1)	3 (1)		2	3		2	4	1	4
II区							6	3	1	2	1
III区		4 (5)	(2)					3	1	1	3
IV区		1						1		4	3
V区		1	1	1	1				1	1	2

※報告書に掲載した資料のみを数えた。( )内は可能性があるもの。

※下表は古代遺構埋土、4層、3層、攪乱の資料である。

施される土器は認められず、三角形篋削文を有する鉢が出土しないなど、典型的な南福寺式が混在していないことが分かる。よって、出水式土器の定義を再度明確にする上でも重要な資料が得られたと考えられる。本報告では沈線文を主体とするI a類と、刺突文と刻目突帯文が施されるI b類とに分けている。これらは深鉢であり、鉢に対応する磨消縄文系統の土器が存在すると思われるが、本報告では胴部に沈線文で区画された縄文を持つ土器をまとめてIII類としており、層位的にも明確に抽出することはできなかった。本調査地点各区では御手洗A式古段階に相当するII類土器と同一層から出土しており、両者の並行関係や時期幅を考える上で示唆的である。II類は波頂部の内面に刺突文を施す点や、口縁部が厚みを持たず、バケツ状に広がりつつ立ち上がるという点でI類とは様相が異なる。一方で、口縁部付近に刻目突帯文を有する点や刺突文を文様の主体とする点ではI b類とより類似性が高いといえる。また、後述するII類中にはIV14区7層で出土した211のように御手洗A式古段階の深鉢の文様を呈しながら、胴部上半にくびれを持ち口縁部がやや外湾しながら立ち上がるという出水式の器形を呈する土器が存在しており、両者の繋がりをうかがわせる。

御手洗A式は、熊本県合志市に所在する御手洗遺跡を標識遺跡とする。中九州から西北九州を中心に広く分布し、東北九州にも散見される(山野2015)。御手洗A式の名称は当初、口縁部上端へ爪型文や刺突文が施される深鉢土器に対して設定されたが、現在では出水式に後続する深鉢と、縁帯文土器の流れを受けた縄文を有する鉢とのセットをなす「御手洗A式古段階」として認識されている。その系譜については先行研究の古くから阿高系の土器に求められる一方、福田K2式などに求める見解もある(西脇1990、水ノ江2008)。本調査地点では各調査区の5b層や7層においてI・III類と同一層から出土している。I37区5b層で出土した13の土器をはじめ、IV14区7層の215、V11区の287・290など良好な資料が得られている。先行する土器型式である出水式土器との関係性は先に述べた通りであるが、後続するとされる御手洗A式新段階に相当する爪形文の土器は、可能性のある小破片を除き本調査地点では出土していない。また、鐘崎式、中九州では御手洗B式に相当するIV類とは共伴



する状況が認められず、先行研究の通り確かな先後関係が見出せる。

Ⅲ類は御手洗A式古段階の鉢、あるいは小池原下層式の新相と呼ばれる土器の一群（水ノ江2010）に相当する。本遺跡で器形や文様構成がうかがえる資料はV11区7層から出土した301や303である。これらは器形に大きな差があるが、沈線で区画された施文部全体にL<sub>Ⅲ</sub>の縄文を施す点や、口縁部に波頂部あるいは円文を中心として対向弧文と沈線文が展開する点が共通している。また破片資料の中には縄文施文部に赤色顔料が付着するものが確認されている。本調査地点においては、これらの大型の土器片がV11区の北側の墓域周辺に集中していることから、埋葬儀礼に伴う「ハレ」の器であった可能性も考えられる。東北九州で出土する小池原下層Ⅱ式あるいは土佐井式と仮称される土器（水ノ江2008）や、四国に分布する平城式と文様構成などに類似性があり（山崎2003）、今後その系統や展開も含めて議論が深まると期待される。

本調査地点の土器はそのほとんどが包含層中で出土したため、一括性に乏しいという見方もあるだろう。たしかにI37区やⅢ1区出土土器については現地でも若干の混じり込みがあり、分層発掘が不十分といえる。しかし、Ⅲ2区、V11区、IV14区では、間層をはさみ土器群が出土することや、硬質ブロックの層でバックされていることなどから、遺構一括資料ほどではないもののその時期幅は短いと思われる。土器の割れ口がほぼ摩耗を受けておらず、10cmを超える大型土器片が近い位置で接合することからも本調査地点の遺物の出土状況は、居住域に近い捨て場、とくに川に近い傾斜地へ断続的に土器などの使用済みの道具を廃棄した状況であると想定できる。

## 石器

本調査地点では、石器として石鎌、石鋸、石匙、石錘、磨製石斧、打製石斧、敲石、砥石、磨石、凹石、石皿、台石、調整剥片など計58点を取り上げた。各石器には同一種類の石材が使用されることが多く、石鎌や敲石、石皿や台石は安山岩が用いられ、砥石は砂岩、磨製石斧は蛇紋岩が用いられている。発掘調査では遺物包含層から出土した石の多くを持ち帰り、洗浄した上で遺物の抽出をおこなった。しかし、多くは自然石であり、石器の量が少ない印象を受けた。縄文時代の遺物包含層から出土したのは31点で、最も多く出土したのは敲石である。敲石は手になじみやすいサイズの棒状あるいは円礫状の河原石が使用されており、両側端部を使用しているものや縁辺に帯状の敲打痕が残るのが認められた。石鎌は安山岩製の未製品がⅢ2区7層より出土するのみで、他は古代の包含層や攪乱中からの出土であった。縄文時代後期前葉に相当する遺物包含層からはイノシシなどの骨、歯、牙の破片が出土しており、被熱していることから狩猟をおこない食料としたことが推測される。この他、敲石や磨石、石皿、台石の出土は堅果類を採取し加工した可能性を示唆する。当該時期には九州において石斧が増加する傾向が指摘されているが（鳥津1976）、今回の調査では遺物包含層からは1点の磨製石斧の刃部片が出土したのみであった。

## 土製品

土製品として土器片転用錘が計15点出土している。内訳はI37区5b層で1点、Ⅲ1区5b層で5点、IV14区7層で8点、V11区7層で1点である。いずれも出水式と御手洗A式古段階が主体となる遺物包含層中からの出土で、縄文時代後期前葉の遺物として位置づけられる。このうちIV14区では調査区南西の傾斜部やや手前に数点がまとまって出土した。製品は土器片の側面が研磨されており、平面形態が隅丸方形ないし長方形になるように加工されている。各短辺にはV字状の挟りが1カ所ずつ施されており、この挟りに紐を緊縛したと考えられる。法量は長さ2.4～4.5cm、幅1.5～2.4cmにまとまっており、サイズに統一性がある。熊本県下で土器片転用錘の出土例はほとんどなく、管見の限り熊本市南区城南町黒橋貝塚で8点（高木・村崎編1998）、熊本大学構内遺跡黒髪南地区9911調査地点

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

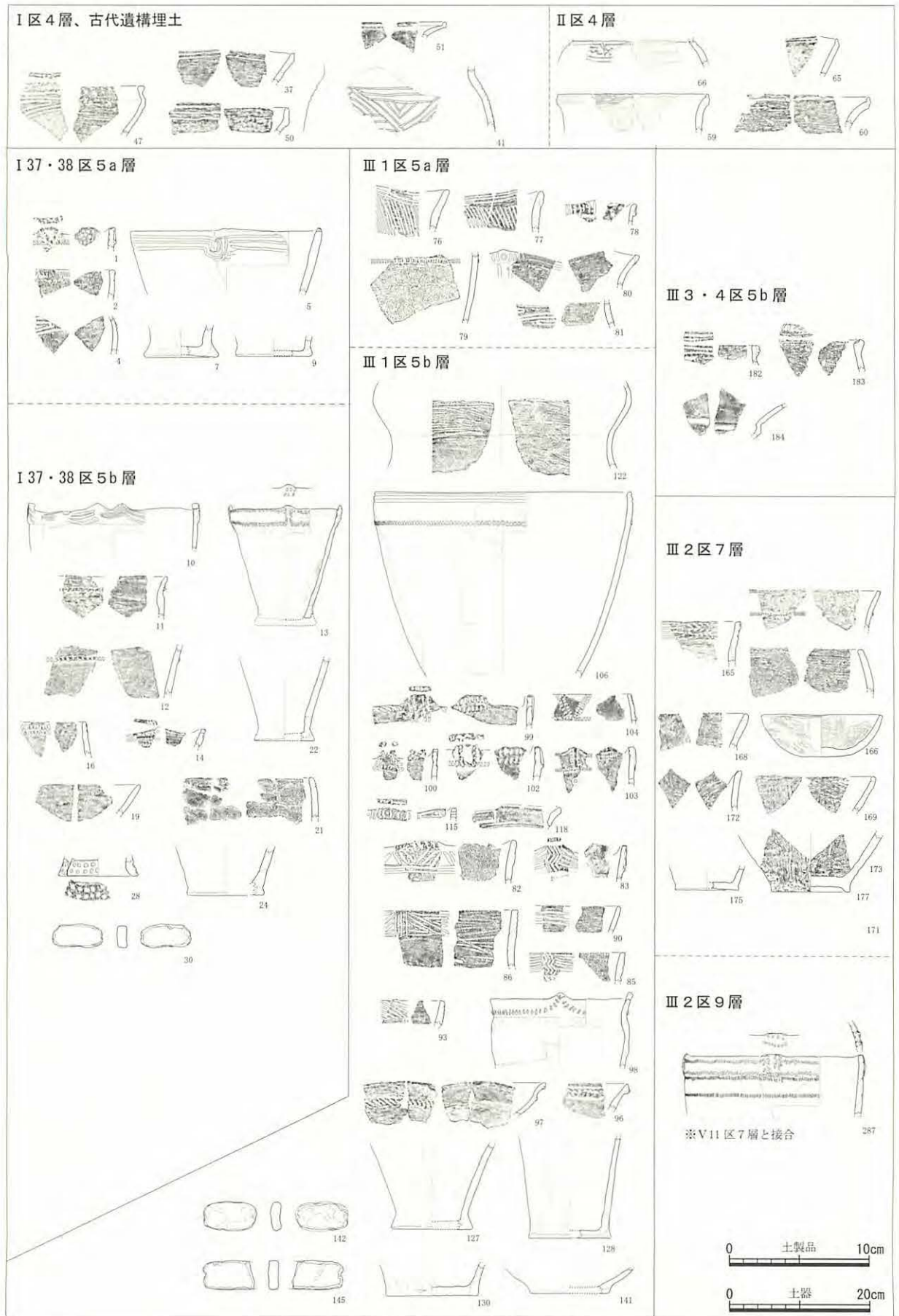


図65 1310調査地点の主な遺物と遺構 1

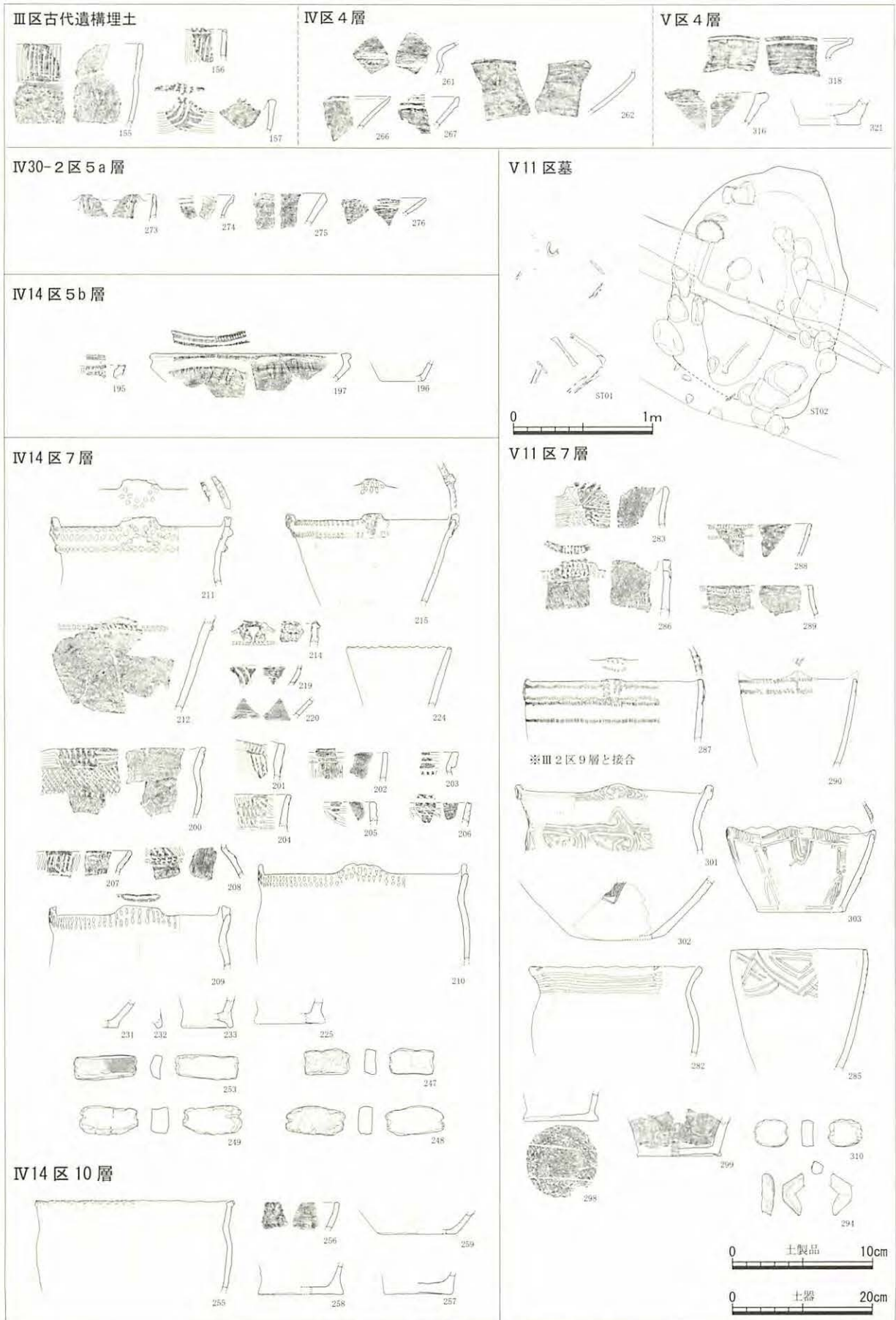


図66 1310調査地点の主な遺物と遺構2

で1点が確認できた(大坪編2014)。前者には阿高式土器の破片を転用したのもあり、層位的には南福寺式や出水式土器に伴うものが多い。後者は出水式や御手洗A式古段階を含む層(本調査地点5層)の直上から出土しており、年代的整合性が取れる。このほか九州内では大分県竹田市竜宮洞穴や国東市陽弓遺跡から出土例があるが、九州内では類例の少ない資料といえる(九州縄文研究会長崎大会事務局編2009)。土器片転用錘は縄文時代中期後半の千葉市加曾利貝塚で出土するなど東日本の要素を含むとされており(荒木2009)、その出現背景に縄文時代後期初頭の縁帯文土器の流入など東側との交流を連想させる。一方で縄文時代後期前葉の中九州における地域的特性の一面を示している可能性もあり、今後の資料の増加が待たれる。本製品の機能としてはまず漁撈用網の錘が考えられる。本遺跡は白川に近く、川魚を採集しやすい環境にある。ⅢⅠ区5b層からは安山岩製の打欠石錘も出土しており、これらを組み合わせて用いた可能性も考えられる。ただし、本遺跡からは魚骨など漁撈の痕跡を示す動物遺体は確認されなかった。調査で貝塚に相当する位置にトレンチが当たらなかったとも考えられるが、漁網錘以外の多様な使用方法も想定すべきだろう。

## ② 遺跡の範囲と形成過程

本調査地点では工事範囲の関係から面的な発掘調査を実施できなかった。一方で南北約270m、東西約180mの広範囲にわたり100を超えるトレンチを設ける調査となったため、白川右岸の河岸段丘の土層堆積状況について従来にない多くの知見を得ることができた。また、堅穴建物など明確な居住域の痕跡は確認できなかったものの、土器の集中部を検出し、河岸段丘傾斜地周縁が土器を主とする道具の廃棄場として利用された状況を確認した。そしてV11区では墓塚が確認されるなど、縄文時代後期前葉の集落の内容を考える上で重要な調査成果を得た。九州においては、縄文時代後期初頭から前葉は、貝塚や低地型貯蔵穴が確認されるものの、居住域の情報が少なく、集落の全体像が判然としない状況にある(水ノ江2012:p232)。そこで本調査地点で得られた情報を整理統合し、縄文時代後期における白川右岸黒髪地域の遺跡の範囲とその形成過程について示したい。

黒髪地区では本調査地点以外でも一定量の縄文時代の土器片や石器が得られている。本調査地点および過去に見つかった縄文時代の土器の分布を示したところ、大きく3つのエリアに分布を分けることができた(図67)。本調査地点から150m程西北側、やや白川から離れたエリアに相当する9802・0425・0302-I調査地点などでは、押型文土器や条痕文土器とこれに伴う石器が見つっている(図67-2・3・6)。これまでに明確な遺構が検出されていないものの、遺物包含層からの出土であり、縄文時代早期末頃の集落が存在した可能性が高い。次に白川右岸に近い本調査地点や9911・9907・0938調査地点では、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類土器の集中が見られ(図67-16~18・21~23)、他の調査地点で出土しないことから本エリアが縄文時代後期前葉の集落あるいは当該時期の行動範囲を示している可能性が高い。そして、このエリアよりもやや白川から離れた9412・9810調査地点や本調査地点の北西側では、縄文時代後期中葉から後葉の土器であるV~Ⅷ類が出土する(図67-14・15・19・20)。古代の遺構埋土中の出土例も含むが、その分布は集中的であり、将来、当該時期の遺構や遺物包含層が発見される可能性を示唆している。縄文時代後期前葉のうち御手洗A式古段階期に限定すると<sup>註2</sup>、河川に対して並行する約120×80mに廃棄場や墓が広がるため、約9,600㎡の範囲で当該時期の人々が積極的に活動していたと想定できる。

さて、本遺跡は白川右岸に形成された河岸段丘上に立地する遺跡である。浅い場所で地表下70cm(標高18.40m)、深い場所では地表下330cm(標高約15.80m)で縄文時代後期前葉から後期末の遺物が出土しており、縄文時代に生活圏として利用され始めて以来、現在までに大量の土砂が段丘上に堆



図67 黒髪地区における縄文時代遺物出土・採集地分布図 (S=1/4,000)

1 : 9407調査地点 (以下調査地点を略す) 2 : 9802 3 : 0425 4 : 0525 5 : 0425-B 6 : 0302-I 7 : 0120-21  
 8 : 0210-20 9 : 1121-IV 10 : 9603 11 : 0204 12 : 1121-II 13 : 0210-17 14 : 9412 15 : 9810 16 : 9911 17 : 9907  
 18 : 0938 19 : 1310 II区北 20 : 1310 I区中央区 21 : 1310 III区北・I区東 22 : 1310 IV区西 23 : 1310 V区南東

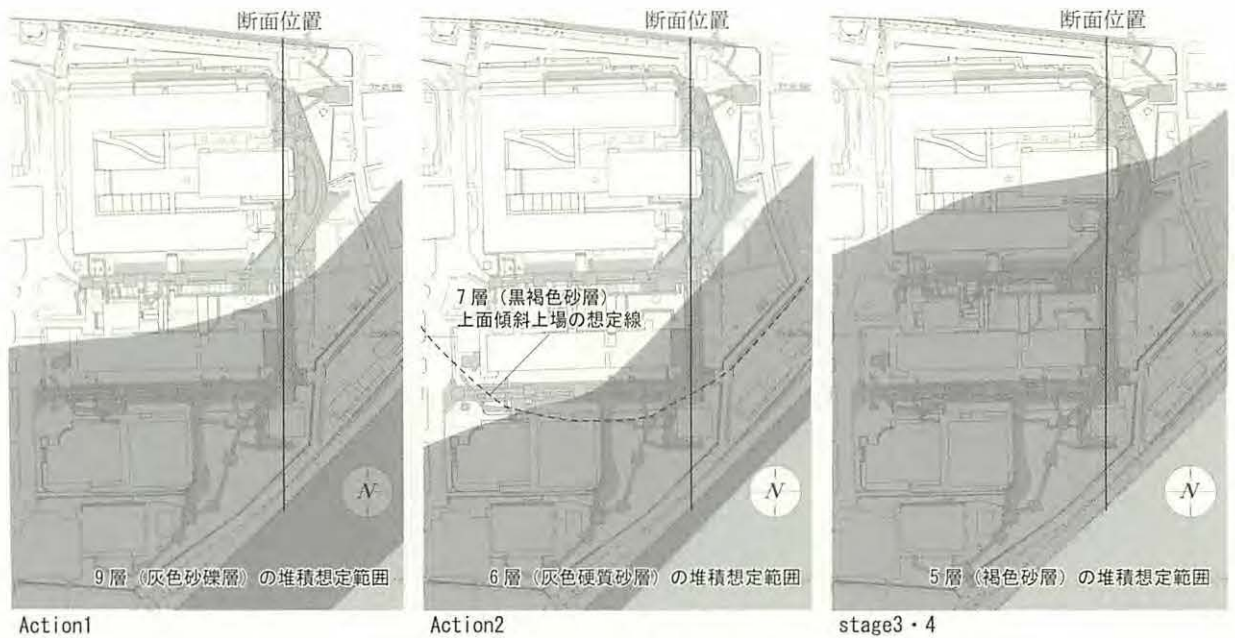


図68 1310調査地点遺跡形成過程概念図 1

積したことが分かる。本報告書ではこれらの土層を13の基本土層に分けて整理し、遺物や遺構などの考古学的データと共に、地質学的なデータを提示した。これにより復元した本遺跡の形成過程について図68・69に示した。遺跡の形成過程は4つの段階と2つの大きな河川活動によって説明できる。

本調査地点は立田山により近い北側と白川右岸にあたる南側で堆積状況が大きく異なる。立田山側では始良 Tn 火山灰または鬼界アカホヤ火山灰を由来とするバブルウォール型火山ガラスを大量に含む12・13層が堆積しており、白川側に向かうと縄文時代後期の遺跡立地以前に河岸段丘を形成した11層や砂礫層が堆積している (図68 - Stage 1)。調査では低位の河岸段丘面上から出水式土器が出土しており、少量ながらも道具が廃棄され、一定期間のうちに10層の遺物包含層が形成されたとみられる。本段階については調査でのデータが少なく、定住を開始していたかは不明である。さて、10層の直上にはサラサラの砂礫層である9層が厚く堆積しており、砂質や構成物からもこれらが白川の洪水に由来することはほぼ間違いない。この洪水により調査地点周辺は川幅が広がったことで一定期間川底にあったか、あるいは支流が形成され、その流路上にあったと推測される (図68左、図69 - Action 1)。この際に11層の露面は抉れ、顕著な中位河岸段丘面が作られた。その後水が引き、川幅が戻る頃に改めて出水式または御手洗A式古段階の土器を作る人々が白川右岸で活動を開始した (図69 - Stage 2 - 1)。一帯には黄色砂 (黄色岩片) を主とする11層からなる上位河岸段丘面と、黒色砂 (黒色ガラス片) を主とする8・9層からなる中位河岸段丘面、そして川により近い低位河岸段丘面が広がっていた。この時期にはⅢ1区の5b層やⅣ14区・Ⅴ11区8層の直上 (7層中) から遺物が出土することから、洪水を避けるため高位河岸段丘面上に設けられたと推測できる居住域の周辺や、中位河岸段丘の傾斜部周縁に土器などを廃棄し始めたことが分かる。この段階以降、一定の期間は大きな洪水がなく、出水式・御手洗A式古段階の土器を使用する人々の生活圏が営まれた (図69 - Stage 2 - 2)。上位河岸段丘面には11層の構成物である黄色砂を由来とする5b層が薄く堆積し、中位河岸段丘面には8あるいは9層の構成物である黒色砂を由来とする7層が薄く堆積していった。高低差があるⅢ1区の5b層 (緑褐色砂層) とⅣ14区やⅤ11区の7層 (黒褐色砂層) において、同じように入水

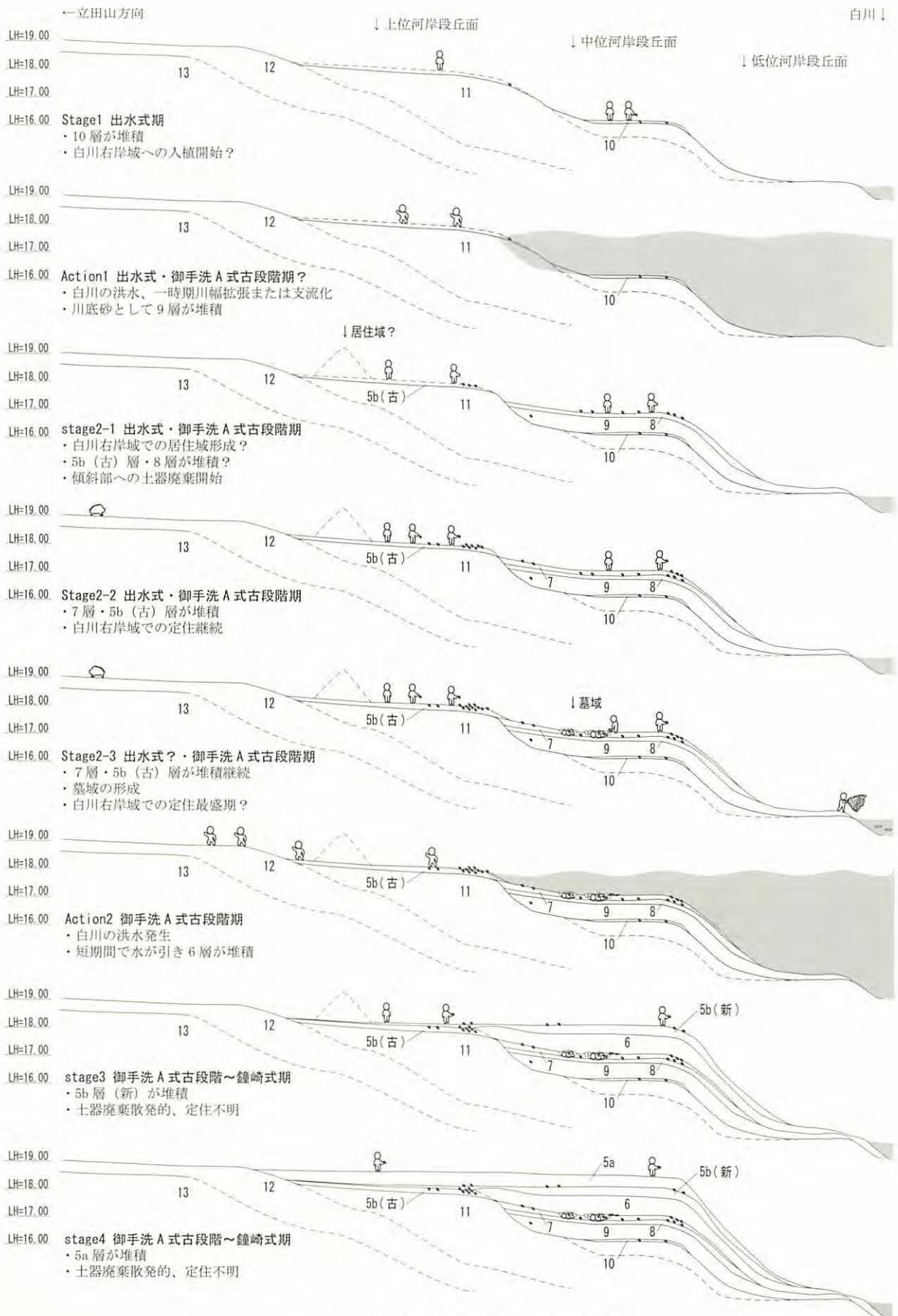


図69 1310調査地点遺跡形成過程概念図2



図70 縄文時代後期前葉の黒髪の地の想定図

※本調査地点における遺物や遺構の出土状況、土の堆積状況から、約4000～3500年前の黒髪の地を想像して描いた。土器を廃棄する人、土器を作る人、石器の材料の川原石を拾う人、白川で漁をする人、調理をする人などがある。中位の段丘面には墓が作られる。北には立田山が佇む。実際の河岸段丘面はもっと広く、その数も多いと思われる。

式や御手洗A式古段階の土器が含まれる理由はこうした地形と堆積上のメカニズムによると考えられる。注意すべきは11層を由来とする黄色砂の性格である。黄色砂は5b層を形成しながらその後も常に低い方に流れ、長い時間をかけて中位・低位段丘面を被覆していく。調査では明確に分層できていないが土器の出土状況からも5b古層と、後に述べる5b新層に分かれると判断できる。

5b古層や7層からは石鏃未製品、焼けた動物骨、漁網錘かと思われる石錘、土器片転用錘が出土しており、この段階では哺乳類や魚類などを狩猟していたと推測される。また、敲石や磨石などが出土することから堅果類を食していたと想定でき、立田山や白川の自然を基軸とした狩猟採集生活が営まれていたであろう(図70)。その過程で死者も現れ、中位河岸段丘面上に墓域を形成し、人を埋葬している(図69-Stage 2-3)。そんな中、降雨の影響で再度白川が氾濫し、中位河岸段丘まで川の水位が一気に上昇、墓や道具の廃棄場である傾斜地が川の水と土砂で埋もれた(図68中央、図69-Action 2)。この際堆積した6層(灰色硬質砂層)は黄色砂と灰色砂の細かい単位の互層を形成した。この縞状構造や砂粒構成物は現在の白川洪水砂の調査でも確認されており、洪水で中位河岸段丘面が冠水し、6層が堆積した後に短期間で水は引いたものとみられる。6層の堆積により中位河岸段丘面



はほぼ消失し、その上に5 b新層が新たに堆積していった(図69- Stage 3)。洪水後も御手洗A式古段階の土器を持つ人々が調査地周辺に集落を営んでいたか、今回の調査成果では不明瞭である。後続する鐘崎式など少量の土器が5 b新層から出土するため、縄文時代後期中葉頃までは人々の活動範囲内であったと推定されるが、地形が大きく変わったことにより生活圏が移った可能性もある。その後、縄文時代後期末までの長い期間に11層や5 b古層の風化、白川による冠水を繰り返しながら5 a層(赤褐色砂層)が白川右岸一帯を被覆し、黒髪の地に広い平坦面を形成したとみられる(図68右、図69- Stage 4)。調査地点には弥生時代から古墳時代の遺構は見つかっておらず、その内容は不明だが、続く奈良・平安時代になり5 a層の上面、あるいは4層(黒褐色土)中に竪穴建物や溝、掘立柱建物が検出され、律令社会の一端を垣間見ることができるようになる。黒髪の地の白川右岸域は縄文時代後期のダイナミックな河川作用による堆積物を文字通り「基盤」とし、新たな展開を見せるのである。

### ③ 本遺跡の位置づけ

本遺跡は熊本平野を東西に流れる白川中流域の西端、川筋が蛇行し強くカーブする河岸段丘上に立地する遺跡である。火山灰と白川由来の堆積層を基盤とした河岸段丘上には、縄文時代後期前葉から後期末までの複数の遺物包含層が形成されている。このうち主体となるのは出水式と御手洗A式古段階の土器であり、その量・質ともに優れることから、縄文時代後期前葉の土器編年を再考する上で今後の基準資料となりえる。これらに伴う特徴的遺物として土器片転用錘があり、当該時期の生業活動をうかがわせる。各層の遺物の出土状況からは河岸段丘傾斜部を利用した廃棄場の存在を想定できた。また、遺構として縄文時代後期前葉の土坑墓、配石墓とこれに伴う人骨が狭い範囲から3基検出されており、墓域を形成していたことが分かる。土層の堆積状況からは縄文時代後期前葉以降、少なくとも2度にわたって白川の洪水が発生したことが分かり、当該時期の生活環境に強い影響を与えたと推測される。これら遺構や遺物の出土状況からも、中九州における縄文時代後期前葉の集落の規模や特徴を理解する上で重要な遺跡といえる。今回の調査では面的な発掘調査を実施できていないため、部分的に遺跡が残存していると思われ、今後の調査次第では炉や住居、貝塚などの遺構が見つかる可能性を秘めている。

### ④ 遺跡の保存と活用

1310調査地点では、従来調査されてこなかった土層から縄文時代後期前葉の土器が豊富に出土したことや、平野部での縄文人骨の発見など、重要な成果が上がった。そのため2014年5月27日にはプレスリリースを実施、5月29日には熊本大学本部で記者会見をおこない、調査成果を公表した。調査成果は8つの新聞社に掲載され、全国放送を含む6社のテレビ局で報道されたことで広く周知されることとなった。5月31日に開催した現地説明会では300名を超える人々が大学内外から参加し、掘り出された縄文人骨や縄文土器を見学した。また、熊本大学埋蔵文化財調査センターの展示室において『地下の文化財速報展示』を開催し、保存処理を終えた一部の人骨を期間限定で陳列した。1月22・27日の二日間の展示説明会では52名の方に参加頂き、縄文人骨の身体的特徴など、調査担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。

V11区で検出された人骨と墓のうち、ST02の配石墓とST03人骨については、工事の設計変更によって現地に保存することができた。また、ST02の配石墓については凸版印刷株式会社に依頼して三次元計測を実施し、詳細な記録保存を実施した(図71)。そして2014年度には黒髪地区の縄文人骨調査地点も含めて主要な遺構・遺物が発見された調査地跡に遺跡サインが計10か所に立てられた。こ

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

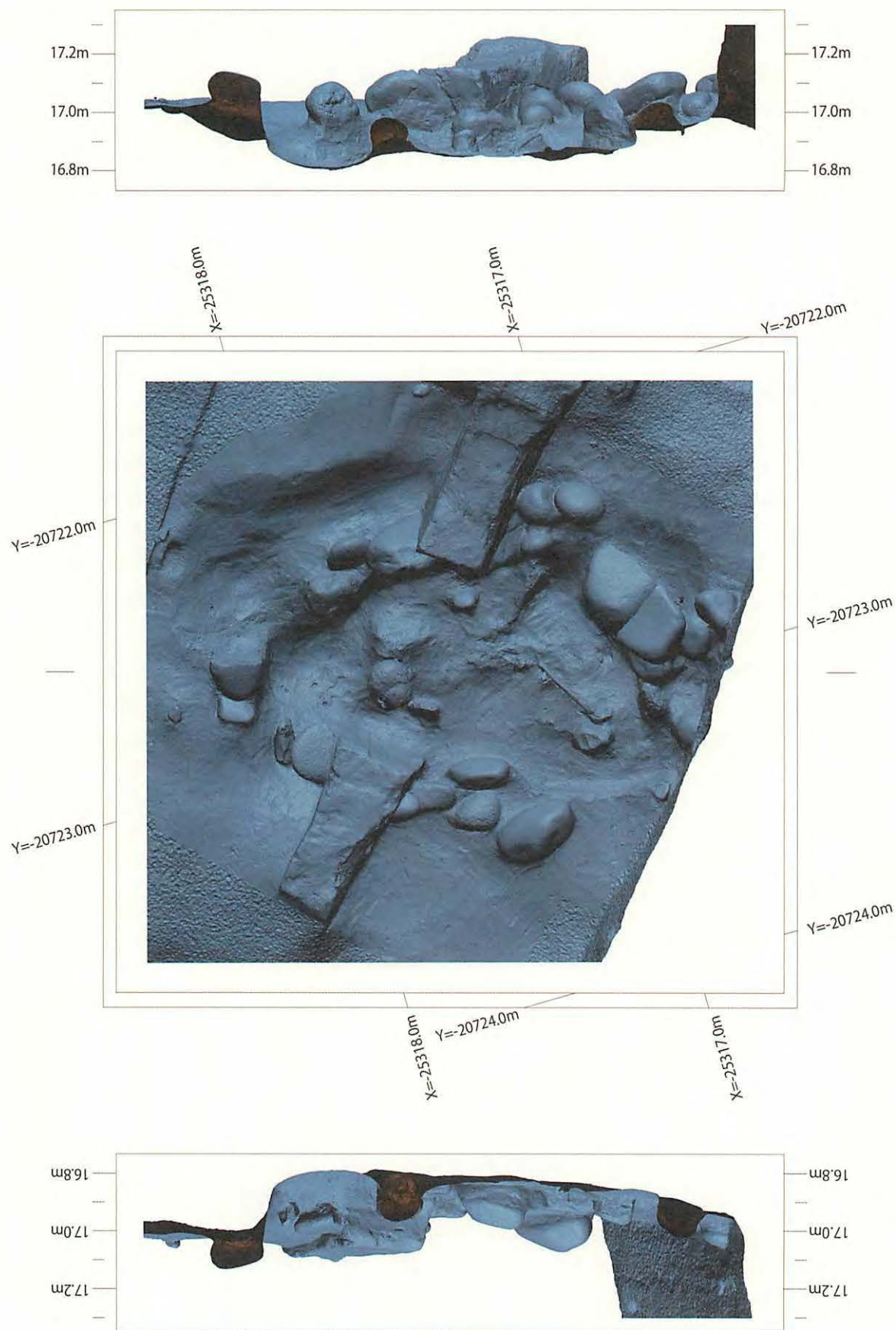


図71 ST02配石墓の三次元計測データ (S=1/20)  
(凸版印刷株式会社報告書より)

の年以降、定期的に開催される構内遺跡散策イベントである『地下と地上の文化財散歩』や学内の授業協力において遺跡サインは活躍しており、とくに縄文人骨出土地点は現地に保存されていることから学外の参加者や学生たちに遺跡が存在するという強い印象を与えることとなった。2017年度にはスマートフォン端末アプリを工学部技術部と共同で開発し、遺跡散策アプリ「クマダイ遺跡巡り」を一般に配信しており、人骨調査地点は遺跡の普及に役立っている。

末筆となるが、本報告書の発掘調査と整理作業に関係した多くの方々から心からの感謝を申し上げる。

## 注

1. 縄文人骨が残った点について、報告者は土壌の pH 測定を試みたが、理化学的分析方法に疑念があったため今回の報告には掲載しなかった。人骨が残存した理由について6層（灰色硬質砂層）が一要因と思われるので、土壌サンプリングを分析に出すなど今後の課題としたい。
2. 山野2014でも黒髪地区の縄文時代土器分布図を示したが、整理作業中であることと、編者の力不足で土器型式の同定について若干の問題があることが後に判明した（山野2014）。本図作成時に9810調査地点ではⅡ類は出土していないことを確認している。また、0938調査地点の出土土器は御手洗A式新段階であるため除外する。

## 引用・参考文献

- 荒木隆宏 2009「熊本県出土の漁撈具概要」『九州における縄文時代の漁撈具』第19回九州縄文研究会長崎大会 pp.170～215 九州縄文研究会
- 荒木隆宏 2012「熊本県における縄文時代後期前葉の土器の様相」『九州における縄文時代後期前葉の土器－中津式・福田KⅡ式並行期を中心として－』第21回九州縄文研究会宮崎大会 pp.293～352 九州縄文研究会
- 池田朋生 2002「熊本県内の縄文墓制について」『九州の縄文墓制』第12回九州縄文研究会長崎島原大会 pp.167～261 九州縄文研究会
- 大坪志子編 2003『熊本大学埋蔵文化財調査室年報』9 熊本大学埋蔵文化財調査室
- 大坪志子編 2010『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』Ⅵ 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第6集 熊本大学埋蔵文化財調査室
- 大坪志子編 2013『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』Ⅸ 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第9集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 大坪志子編 2014『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』Ⅹ 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第10集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 小野晃司・渡辺一徳・星住英夫・高田英樹・池辺伸一郎 1995「阿蘇火山中岳の灰噴火とその噴出物」『火山』第40巻第3号 pp.133～151 日本火山学会
- 小畑弘己編 2003『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』Ⅰ 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第1集 熊本大学埋蔵文化財調査室
- 小畑弘己編 2009『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』Ⅴ 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第5集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 小畑弘己・大坪志子編2011『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』Ⅷ 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第8集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 九州縄文研究会長崎大会事務局編 2009『九州における縄文時代の漁撈具』第19回九州縄文研究会長

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

崎大会 九州縄文研究会

熊本大学60年史編纂委員会編 2014「第2節「6・26水害」とその被害」『熊本大学60年史』通史編 p178 国立大学法人熊本大学

小林久雄編 2008『総覧 縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会

坂本嘉弘 1997「九州における縄文時代の葬制」『古文化談叢』第37集 pp.1~35 九州古文化研究会

坂本嘉弘 2002「九州の縄文墓制」『九州の縄文墓制』第12回九州縄文研究会長崎県島原大会 pp. 8~9 九州縄文研究会

島津義昭 1976「熊本の考古学-最近の発掘調査とその成果-」『九州考古学』52 pp.1~12 九州考古学会

新熊本市史編纂委員会編 1998「第2章 地形・地質 第1節 熊本市の地形」『新熊本市史 通史編』第1巻 自然・原始・古代 pp.47~129 熊本市

高木正文・村崎孝宏編 1998『黒橋貝塚』熊本県文化財調査報告第166集 熊本県教育委員会

千葉豊編 2010『西日本の縄文土器-後期-』真陽社

町田洋・新井房夫 2003『新編火山灰アトラス-日本列島とその周辺』p336 東京大学出版会

松田光太郎・大坪志子編 2017『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』? 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第12集 熊本大学埋蔵文化財調査センター

水ノ江和同 1992「小池原上層式・下層式土器に関する諸問題-福岡県築上郡大平村所在、土佐井遺跡出土土器の位置づけ」『古文化談叢』第27集 pp.77~95 九州古文化研究会

水ノ江和同 1993「九州の縁帯文土器-九州における縄文後期前・中葉土器研究の現状と課題-」『古文化談叢』第30集(上) pp.323~366 九州古文化研究会

水ノ江和同・前迫亮一 2010「1.九州」『西日本の縄文土器-後期-』pp.21~68 真陽社

水ノ江和同 2008「九州磨消縄文系土器」『総覧 縄文土器』pp.666~673『総覧 縄文土器』刊行委員会

水ノ江和同 2012『九州縄文文化の研究-九州からみた縄文文化の枠組み-』雄山閣

山野ケン陽次郎・大坪志子 2014「熊本大学構内における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」『平成26年度九州考古学会総会研究発表資料集』pp.47~56 九州考古学会

山野ケン陽次郎 2015「熊本大学構内遺跡の発掘調査-縄文時代後期を対象に-」『第11回 日韓新石器時代研究会発表資料』pp.106~119九州縄文研究会・韓国新石器学会

山野ケン陽次郎編 2016『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』21 熊本大学埋蔵文化財調査センター

山野ケン陽次郎・柴田亮編 2018『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』XIII 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第13集 熊本大学埋蔵文化財調査センター

山崎真治 2003「縁帯文土器の編年的研究」『東京大学考古学研究室研究紀要』第18号 pp.35~109 東京大学考古学研究室

山田康弘 2002「墓制研究における土坑墓の意義」『九州の縄文墓制』第12回九州縄文研究会長崎県島原大会 pp.10~13 九州縄文研究会

表4 1310調査地点出土遺物一覧表

回	番号	遺物	種類(器種)	法量(cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
10	1	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 7.5YR3/2 外:Hue 7.5YR3/1	137区5 a 層点 上げ	II類、波状口縁 口唇部と波頂部内面に刺突文 口縁部外面に刻目突帯文(横位1条 +斜位2条)
	2	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ(横位)、条痕 外:ナデ	内:Hue 7.5Y4/1 外:Hue 2.5Y5/3	137区5 a 層点 上げ	I b類またはII類 口縁部外面に刺突文(横位2条) 口縁部内面に斜縦位工具痕
	3	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ、条痕 外:ナデ、条痕	内:Hue 2.5Y4/1 外:Hue 2.5Y4/2	137区東側5 a 層一括	I b類またはII類 口唇部-口縁部外面に刺突文(横 位1条)
	4	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	胴部片	内:ナデ、磨き 外:ナデ、磨き(斜位)	内:Hue 10YR4/2 外:Hue 10YR5/4	138区5 a 層一 括	IV類 胴部外面に沈線文(狗手文?)
	5	縄文土器	鉢	口径27.8 底径 器高	口縁-胴部片	内:ナデ 外:ナデ、条痕	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 10YR4/3	137区5 a 層点 上げ	IV類、波状口縁 口唇部に刻目文、口縁部に沈線文 (渦巻+横位3条)
	6	縄文土器	深鉢	口径 底径12.2 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR6/3 外:Hue 10YR6/4	137区5 a 層点 上げ、3点接合	底部内外面一部にスス付着 底部外面に木葉痕か
	7	縄文土器	深鉢	口径 底径10.8 器高	底部片	内:ナデ、削り 外:ナデ、削り	内:Hue 7.5YR5/4 外:Hue 7.5YR5/1	137区5 a 層点 上げ	底部外面に細かい単位の凹み
	8	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ、削り 外:ナデ、削り	内:Hue 10YR4/2 外:Hue 10YR4/3	137区5 a 層点 上げ	底部外面に木葉痕 底部外面が一部黒色・白色化
	9	縄文土器	深鉢	口径 底径11.1 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR4/1	137区5 a 層点 上げ、2点接合	底部内外面が一部黒色・白色化
11	10	縄文土器	深鉢	口径24.7 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 7.5YR5/4 外:Hue 10YR5/3	137区5 b 層点 上げ、4点接合	I a類、波状口縁 口唇部に刻目文、口縁部外面に沈 線文(横位3条) 表面風化著しい
	11	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 7.5YR5/3 外:Hue 7.5YR3/2	137区5 b 層点 上げ	I b類、波状口縁(98と同一個体) 口縁部外面に刻目突帯文(横位1条)
	12	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR6/4 外:Hue 10YR5/4	138区5 b 層点 上げ	II類か 胴部外面に刻目突帯文(横位1条)
	13	縄文土器	深鉢	口径16.5 底径 器高	1/2	内:ナデ、条痕、工具痕か? 外:ナデ、条痕後ナデ、 指オサエ	内:Hue 2.5Y3/2 2.5Y5/3 外:Hue 7.5YR5/4	137区5 b 層、 落ち込み部点 上げ、8点接合	II類、波状口縁(4単位か) 波頂部内面に刺突文 口縁部外面に刺突文と刻目突帯文 (横位1条・縦位1条)
	14	縄文土器	浅鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 5YR4/1 外:Hue 5YR5/4	137区5 b 層一 括	I b類またはII類、波状口縁か 口唇部に刺突文、口縁部外面に刺 突文(横位2条)
	15	縄文土器	深鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 10YR3/1	138区5 b 層点 上げ	I b類かII類 口唇部と口縁部外面に刺突文(各1 条)
	16	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 2.5Y4/1 外:Hue 5Y3/1	137区5 b 層点 上げ	I b類かII類 口縁部外面に刺突文(2条)
	17	縄文土器	鉢	口径 底径 器高3.7	口縁部片	内:ナデ、条痕 外:ナデ	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 10YR5/4	137区5 b 層点 上げ	X類
	18	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:指ナデ 外:指ナデ、指オサエ	内:Hue 10YR3/1 外:Hue 2.5Y3/1	137区5 b 層点 上げ	X類
	19	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ、条痕	内:Hue 2.5Y4/2 外:Hue 2.5Y3/2	137区5 b 層点 上げ	X類
	20	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 7.5YR3/1 外:Hue 7.5YR4/4	137区5 b 層点 上げ	X類
	21	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁-胴部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR6/4 外:Hue 10YR3/1	138区5 b 層点 上げ	口縁部外面に一状の細沈線 風化著しい
	22	縄文土器	深鉢	口径 底径10.7 器高	胴部-底部片	内:ナデ、条痕 外:ナデ、条痕	内:Hue 7.5YR4/1 外:Hue 7.5YR5/4	138区5 b 層点 上げ	胴部と底部の一部が黒色化 底部外面に木葉痕
	23	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR7/3 外:Hue 10YR6/4	138区5 b 層点 上げ、III区5 b層点上げ、2 点接合	
	24	縄文土器	深鉢	口径 底径11.2 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ、指オサエ	内:Hue 10YR4/1 外:Hue 5Y4/1	138区5 b 層点 上げ	底部外面に木葉痕 細かい単位の凹み
	25	縄文土器	深鉢	口径 底径12.8 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ、指オサエ	内:Hue 7.5YR5/3 外:Hue 10YR4/1	137区5 b 層点 上げ	底部外面が白色化
	26	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ、削り 外:ナデ、削り	内:Hue 10YR5/2 外:Hue 10YR4/2	137区5 b 層点 上げ	
27	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ、指オサエ	内:Hue 5YR4/4 外:Hue 7.5YR5/6 10YR5/1	137区5 b 層点 上げ	底部外面に木葉痕か	

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

図	番号	遺物	種類 (器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
11	28	縄文土器	深鉢	口径 底径11.6 器高	底部片	内: ナデ, 指オサエ 外: ナデ	内: Hue 25Y6/2 外: Hue 10YR6/2	137区 5 b 層点 上げ	脚部外面に凹点文 (横位2条) 刺突文の凹みに白色泥が充填か 底部外面に鯨椎骨痕か
	29	縄文土器	深鉢	口径 底径10.8 器高	底部片	内: ナデ, 削り 外: ナデ	内: Hue 10YR6/6 外: Hue 10YR4/4	137区 5 b 層点 上げ	底面外面が黒・白色化
	30	土製品	土器片転用鉢	長さ3.1 幅1.65 厚さ0.7	完形	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR3/1 外: Hue 7.5YR4/1	137区 5 b 層一 括	重量6.9g 縁辺研磨, 両短辺に挟り
	31	石器	石匙	長さ1.3 幅2.0 厚さ0.35	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	137区 5 b 層一 括	重量0.8g 安山岩 表面縁辺に細かい刺突調整
	32	石器	石皿	長さ21.4 幅21.9 厚さ10.1	1/2	内: 外:	内: Hue 外: Hue	137区 5 b 層一 括	重量3495g 安山岩 表面中心部に窪み, 磨痕, 敲打痕 側面部に約3cm四方の顕著な磨痕
12	33	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 7.5YR5/4	138区攪乱	II類 胴部外面に刺突帯文 (横位1条)
	34	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR4/2	137区攪乱	II類 口縁部外面に刺突文 (横位1条), 刺突帯文 (横位1条)
	35	縄文土器	鉢	口径 底径 器高5.1	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR4/3 外: Hue 10YR3/1	137区古代遺構 埋土一括	I b 類またはII類 口縁部外面に刺突文 (横位1条)
	36	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 25Y3/3 外: Hue 25Y2/1	138区攪乱	IV類 口唇部に沈線文 (横位2条), 口縁 部に沈線文 (横位3条) と刻目 (縦位) 黒色磨研
	37	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/4	137区 4 層一括	V類, 波状口縁 口縁部外面に沈線文 (横位2条)
	38	縄文土器	鉢	口径 底径 器高4.5	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 25Y4/2 外: Hue 25Y4/4	137区古代遺構 埋土一括	X類
	39	石器	石匙	長さ2.1 幅1.35 厚さ0.45	一部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	137区古代遺構 埋土一括	重量1g 黒曜石 縁辺部を扇歯状に調整 基部破損部は再調整か
	40	石器	石鏃未製品	長さ3.1 幅1.8 厚さ0.5	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	138区攪乱	重量2g 黒曜石 縁辺部に粗めの調整, 石鏃未製品 か
13	41	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 25Y3/2 外: Hue 25Y3/2	123区西側 4 層 一括	V類, (42・43と同一個体か) 胴部外面に沈線文 (横位+斜位)
	42	縄文土器	深鉢	頸部径22.0 口径 底径 器高	胴部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 10YR4/2	123区西側 4 層 一括	V類, (41・43と同一個体) 胴部外面に沈線文 (横位+斜位)
	43	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 25Y3/2 外: Hue 25Y3/2	123区 4 層一括	V類, (41・42と同一個体) 胴部外面に沈線文 (横位+斜位)
	44	縄文土器	鉢	長さ 幅 厚さ	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 25Y4/2	122区古代遺構 埋土一括	I a 類 口縁部外面に沈線文 (横位6条)
	45	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部- 頸部片	内: ナデ 外: ナデ, 磨き	内: Hue 10YR7/3 外: Hue 7.5YR6/6	123区中央 4 層 一括	分類不明 口縁部に沈線文 (鈎手文か)
	46	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 7.5YR5/4	123区古代遺構 埋土一括	I a 類, 波状口縁 口唇部から口縁部にかけて沈線文 (曲線2~4条) 口縁部内面に工具痕
	47	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR5/4	136区攪乱	IV類 口唇部に沈線文 (横位1条), 口縁 部から胴部外面にかけて沈線文 (鈎 手文か) 口縁部内外面一部磨減
	48	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁-胴部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ, 条痕	内: Hue 25Y5/4 外: Hue 25Y4/3	13区 4 層点土 上げ	X類 口縁部内外面に粗い条痕
	49	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 5Y3/2	123区中央 4 層 一括	V類 口縁部外面に沈線文 (横位5条)
	50	縄文土器	浅鉢	口径42.8 口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 25Y5/4 外: Hue 7.5YR5/4	123区南西 4 層 一括	V類 口縁部外面に沈線文 (横位3条) 口縁部上部に強い磨き
	51	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 削り, 磨き	内: Hue 25Y7/3 外: Hue 25Y7/3	140区 3 層一括	IX類 口縁部外面に沈線文 (横位1条)
	52	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内: 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 7.5YR5/4	122区古代遺構 埋土一括	X類
	53	縄文土器	鉢	口径 底径 器高4.7	口縁部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ, 条痕	内: Hue 7.5YR4/6 外: Hue 7.5YR4/6	13区 4 層一括	X類

図	番号	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
13	54	石器	磨製石斧 (蛤刃形)	長さ2.5 幅3.1 厚さ0.8	刃部片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	I 26区4層一括	重量7.9g 安山岩? 残存部全面に顕著な研磨痕
	55	石器	掻器	長さ6.9 幅10.4 厚さ1.4	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	I 2区北4層一括	重量1.39g 安山岩 刃部剥離調整
	56	石器	敲石	長さ8.0 幅7.6 厚さ5.2	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	I 23区南西4層一括	重量4.58g 安山岩 散発的な敲打痕, 被熱
	57	石器	掻器	長さ3.5 幅2.6 厚さ0.7	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	I 23区南西4層一括	重量4.8g 黒曜石 刃部剥離調整
	58	石器	掻器?	長さ1.3 幅1.95 厚さ0.5	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	I 23区古代遺構 埋土一括	重量1g 黒曜石 明確でないが刃部剥離調整か
16	59	縄文土器	深鉢	口径21.5 底径 器高	口縁部片	内: 条痕後ナデ 外: 磨き	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR4/2	II 2区4層一括	VI類 口縁部外面に縄文(LII), 沈線文(横位2条) 内面に圧痕か
	60	縄文土器	深鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR4/3	II 2区4層一括	VI類 口縁部外面に縄文(LII), 沈線文(横位2条), 凹点文
	61	縄文土器	深鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 7.5YR4/2	II 11区4層一括	VI類 口縁部外面に縄文(LII), 沈線文(横位2条)
	62	縄文土器	深鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 5Y3/2 外: Hue 5Y3/1	II 11区4層一括	VI類 口縁部外面に縄文(LII), 沈線文(横位2条)
	63	縄文土器	深鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR5/4	II 37-2区4層一括	VI類 口縁部外面に縄文(LII), 沈線文(横位2条)
	64	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 2.5Y6/3 外: Hue 2.5Y5/2	II 4-2区 古代遺構 佛北東埋土一括	IX類 口縁部外面に沈線文(横位1条)
	65	縄文土器	浅鉢?	長さ 幅 厚さ	口縁部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR7/3	II 15区4層一括	VII類波状口縁 口縁部外面に沈線文(横位2条)
	66	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 10YR3/2	II 21区4層一括	VI類 胴部外面に沈線文, 刺突文(横位2条+2条)
	67	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: 条痕 外: ナデ	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 2.5Y3/1	II 2区4層一括	VI類 胴部外面に沈線文(横位2条)
	68	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ, 磨き 外: 磨き	内: Hue 10YR3/2 外: Hue 10YR3/1	II 11区4層一括	VI類か 胴部外面に縄文(LII), 沈線文(横位2条), 凹点文
	69	石器	磨製石斧	長さ5.3 幅4.2 厚さ1.0	基部	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II 11区4層一括	重量27.6g 安山岩 偏平磨製石斧 敲打後研磨整形
	70	石器	磨製石斧	長さ14.3 幅6.5 厚さ3.1	刃部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II 2区 古代遺構 埋土点上付	重量3.38g 蛇紋岩 敲打後研磨成形 背面は研磨充分でない
	71	石器	敲石	長さ13.1 幅7.3 厚さ4.4	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II 3区 古代点上付	重量5.62g 安山岩 2カ所に敲打痕
	72	石器	掻器	長さ7.1 幅8.8 厚さ2.2	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II 4-4区 古代遺構 埋土点上付	重量11.6g 安山岩 表面は自然面, 縁辺部は全面敲打調整 刃部を剥離調整
	73	石器	打製石斧	長さ7.2 幅9.1 厚さ1.8	半欠	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II 11区4層一括	重量1.75g 安山岩 剥離調整による抉り(着装用か)
74	石器	石鏃	長さ3.2 幅1.7 厚さ0.8	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II 11区南4層一括	重量3.7g 安山岩	
75	石器	石鏃	長さ2.05 幅1.75 厚さ0.45	先端部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II 11区南4層一括	重量1.1g 安山岩	
21	76	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR5/2 外: Hue 7.5YR5/3	III 1区5 a 層点 上げ	I a類, 波状口縁 口縁部外面に沈線文(横位3条・斜位)
	77	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 10YR4/2	III 1区5 a 層, I 38区5 b 層点 上げ, 2点接合	I a類, 波状口縁 口縁部外面に沈線文(横位3条・斜位)
	78	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5Y3/2 外: Hue 7.5Y3/2	III 1区5 a 層点 上げ	I a類(84と同一個体か), 波状口縁 口縁部外面に短沈線文(縦位)
	79	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ, 条痕	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 7.5YR5/4	III 1区5 a 層点 上げ	II類 胴部外面に刻目刺突文(横位1条)
	80	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: 磨き	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR5/3	III 1区5 a 層点 上げ	III類, 波状口縁 口縁部外面に縄文(LR不明瞭), 沈線文(対向弧文+横位1条) 胴部 にかけて沈線文(縦位) 口縁部外面施文部に赤色顔料

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

図	番号	遺物	種類 (器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
21	81	縄文土器	深鉢?	口径 底径 器高	頸部片	内: ナデ, 磨き 外: 指ナデ後指オサエ	内: Hue 25Y4/2 外: Hue 75Y4/1	Ⅲ1区 5 a 層点 上げ	IV類 頸部外面に沈線文 (鈎手文か)
22	82	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 75YR5/3 外: Hue 10YR4/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I a 類, 波状口縁 口唇部に刺突文, 口縁部外面に沈 線文 (斜位+横位2条)
	83	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 75YR4/2	Ⅲ1区 5 b 層一 括	I a 類, 波状口縁 口唇部に刺突文, 口縁部外面に沈 線文 (斜位+横位4条)
	84	縄文土器	鉢	口径 底径 器高2.4	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 25Y3/1 外: Hue 5Y3/1	Ⅲ1区 5 b 層一 括	I a 類 (78と同一個体), 波状口縁 口縁部外面に短沈線文 (縦位)
	85	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 75YR4/3 外: Hue 10YR4/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I a 類 口縁部外面に沈線文 (斜位+横位)
	86	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ	内: Hue 25Y5/4 外: Hue 25Y5/4	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I a 類 口縁部外面に沈線文 (縦位+横位 +斜位) 口縁部内面に明確な条痕
	87	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 75YR4/3 外: Hue 75YR3/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ・一括, 2 点接合	I a 類 口縁部外面に沈線文 (横位+斜位)
	88	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 削り 外: ナデ	内: Hue 5YR4/6 外: Hue 5YR4/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 2点接合	I a 類 口縁部外面に沈線文 (横位3条+縦 位)
	89	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 25Y4/3 外: Hue 25Y4/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I a 類 口縁部外面に沈線文 (横位数条)
	90	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ	内: Hue 25Y5/4 外: Hue 10YR6/4	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I a 類 口縁部外面に沈線文 (横位3条)
	91	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ	内: Hue 75YR5/3 外: Hue 75YR4/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I a 類 口縁部外面に沈線文 (横位数条)
	92	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ	内: Hue 75YR5/4 外: Hue 75YR4/1	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I a 類 口縁部外面に沈線文 (斜位)
	93	縄文土器	鉢	口径 底径 器高3.7	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 25Y5/2 外: Hue 25Y5/2	Ⅲ1区 5 b 層一 括	I a 類 口縁部外面に沈線文 (斜位)
	94	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 75YR5/3 外: Hue 75YR4/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I a 類 胴部外面に沈線文 (斜位)
	95	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 75YR5/4 外: Hue 5YR5/6	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	分類不明 口縁部外面に沈線文 (横位1条) 口縁部にスス付着
	96	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR4/3 外: Hue 10YR6/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I b 類 口縁部外面に刻目突帯文 (横位1条)
	97	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ	内: Hue 25Y4/3 外: Hue 25Y3/1	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 2点接合	I b 類 口縁部と胴部の境界に刻目突帯文 (横位1条) 口縁部の一部に注口か
	98	縄文土器	鉢	口径21.0 底径 器高	口縁~胴部片	内: ナデ, 指オサエ, 条 痕 外: ナデ, 指オサエ, 条 痕	内: Hue 75YR3/1 外: Hue 75YR5/4	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, Ⅰ区37V b下層層点上げ 2点接合	I b 類, 波状口縁 (2単位か) 口縁部外面に刻目突帯文 (斜位一 横位1条)
23	99	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR4/1	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	Ⅱ類, 波状口縁 口唇部と波頂部内面に刺突文 口縁部外縁に刺突文, 波頂部に刻 目突帯文 (縦位2条)
	100	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 25Y3/1 外: Hue 25Y3/1	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	Ⅱ類, 波状口縁 口唇部と波頂部内面に刺突文 口縁部外面に刺突文, 刻目突帯文 (斜位2条+縦位)
	101	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR3/1	Ⅲ1区 5 b 層一 括	Ⅱ類, 波状口縁 口唇部と波頂部内面に刺突文 口縁部外面に刺突文, 刻目突帯文 (縦位1条+斜位1条)
	102	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 75YR5/3 外: Hue 75YR4/1	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	Ⅱ類, 波状口縁 口唇部と波頂部内面に刺突文 口縁部外面に刺突文, 刻目突帯文 (縦位2条+横位1条)
	103	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 25Y4/2 外: Hue 25Y5/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	Ⅱ類, 波状口縁 口唇部と波頂部内面に刺突文 口縁部外面に刺突文, 刻目突帯文 (縦位1条+横位1条)
	104	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 5Y2/1 外: Hue 25Y5/2	Ⅲ1区 5 b 層一 括	Ⅱ類? 口縁部外面に刺突文 (斜位2条), 刻目突帯文 (横位1条)
	105	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ (横位), 条痕	内: Hue 5Y2/1 外: Hue 5Y4/1	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	Ⅱ類 口縁部外面に刺突文 (横位2条), 沈線文 (横位2条), 刻目突帯文 (横 位1条)



図	番号	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
23	106	縄文土器	深鉢	口径37.2 底径 器高	口縁~胴部片	内:ナテ, 条痕 外:ナテ	内: Hue 2.5Y4/3 外: Hue 2.5Y4/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 7点接合	Ⅱ類 口縁部外面に沈線文(横位2条), 刻目突帯文(横位1条)
	107	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ 外:ナテ	内: Hue 10YR3/1 外: Hue 10YR3/1	Ⅲ1区 5 b 層一 括	Ⅱ類 口縁部外面に刺突文(横位1条), 刻目突帯文(横位1条)
	108	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ 外:ナテ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR5/3	Ⅲ1区南 5 b 層 一括	Ⅱ類 口縁部外面に刺突文(横位1条), 刻目突帯文(横位1条)
	109	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ 外:ナテ	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR5/4	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	Ⅱ類, 波状口縁 口縁部外面に刺突文(横位~斜位1 条), 刻目突帯文(横位~斜位1条)
	110	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:条痕後ナテ 外:ナテ	内: Hue 5YR3/1 外: Hue 5YR4/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I b 類またはⅡ類 口縁部外面に刺突文(横位2条)
	111	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ(横位) 外:ナテ	内: Hue 10YR2/1 外: Hue 10YR3/1	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 一括, 2 点接合	I b 類またはⅡ類 口縁部外面に刺突文(横位1条), 沈線文(横位1条+縦位), 刻目突 帯文(横位1条) 内面にヘラ状工具痕
	112	縄文土器	深鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ(横位) 外:ナテ(横位)	内: Hue 10YR3/3 外: Hue 2.5Y3/2	Ⅲ1区 5 b 層一 括	I b 類またはⅡ類 口縁部外面に刺突文(横位1条)
	113	縄文土器	深鉢?	口径 底径 器高3.1	口縁部片	内:ナテ, 削り 外:ナテ, 削り	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 10YR4/1	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	I b 類またはⅡ類 口縁部外面に刺突文(横位1条)
	114	縄文土器	深鉢?	口径 底径 器高3.55	口縁部片	内:ナテ 外:ナテ	内: Hue 2.5Y4/4 外: Hue 5Y3/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 2点接合	I b 類 口縁部外面に刺突文(横位2条)
	115	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内:磨き 外:ナテ	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 10YR7/4	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	Ⅲ類, 波状口縁 I b 層部に縄文(RL不明瞭), 内文, 沈線文(対向弧文+横位1条) 口縁部外面に縄文(L形), 内文, 沈線文(対向弧文) 口縁部に焼成前穿孔
	116	縄文土器	深鉢?	口径 底径 器高	不明	内:磨き 外:縄文	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR7/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	胴部外面に縄文(L形), 沈線文(縦 位) 破片向き不明確
	117	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内:磨き 外:ナテ	内: Hue 2.5Y4/3 外: Hue 10YR3/1	Ⅲ1区 5 b 層一 括	口縁部外面に縄文(L形), 沈線文(渦 巻文)
	118	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:— 外:ナテ	内: Hue — 外: Hue 10YR5/6	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	Ⅲ類 口縁部外面に縄文(L形), 沈線文(横位+縦位) 内面は剥離
	119	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ 外:ナテ	内: Hue 2.5Y3/2 外: Hue 10YR4/2	Ⅲ1区北 5 b 層 一括	X類
	120	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ, 工具痕 外:ナテ	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 7.5YR5/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	X類 口縁部内面に工具痕
	121	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ, 削り 外:ナテ, 指オサエ	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR4/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	X類 口縁内面に横位の条痕 口縁部にスス付着
	122	縄文土器	深鉢	頸部径22.4 底径 器高	口縁部~ 胴部片	内:条痕 外:ナテ, 条痕	内: Hue 2.5Y6/4 外: Hue 2.5Y5/4	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	V類 胴部内外面一部にスス付着
	123	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ 外:ナテ	内: Hue 7.5YR3/1 外: Hue 7.5YR4/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	X類 口縁部に条痕
	124	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ 外:ナテ	内: Hue 2.5Y4/1 外: Hue 2.5Y4/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	X類 口縁部肥厚
	125	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ 外:ナテ	内: Hue 5YR4/1 外: Hue 5YR6/6	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	X類 口縁内面に条痕
126	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナテ, 条痕 外:ナテ	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 10YR4/2	Ⅲ1区北 5 b 層 一括	X類	
24	127	縄文土器	深鉢	口径 底径12.0 器高	底部片	内:ナテ, 条痕 外:ナテ, 条痕	内: Hue 7.5YR4/2 外: Hue 7.5YR5/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 4点接合	底部外面が黒色化
	128	縄文土器	深鉢	口径 底径11.8 器高	胴部~底部片	内:ナテ, 指ナテ 外:ナテ, 条痕	内: Hue 2.5Y4/1 外: Hue 10YR5/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 4点接合	脚部外面に下位から上位への削り 後ナテ 底部外面に木葉痕, 黒色化
	129	縄文土器	深鉢	口径 底径11.1 器高	底部片	内:条痕後ナテ, 指オサ エ 外:ナテ, 指オサエ	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR6/4	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	底部外面が黒色化
	130	縄文土器	鉢	口径 底径13.3 器高	底部片	内:ナテ 外:ナテ, 条痕	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 7.5YR5/4	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 4点接合	脚部外面に下位から上位への削り 底部外面に蜂椎骨痕か
	131	縄文土器	深鉢	口径 底径11.4 器高	底部片	内:ナテ, 指オサエ 外:ナテ, 削り	内: Hue 2.5Y5/2 外: Hue 2.5Y5/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	脚部外面に下位から上位への削り 後ナテ 底部外面に木葉痕, 黒色化

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

図	番号	遺物	種類 (器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
24	132	縄文土器	深鉢	口径 底径11.8 器高	底部片	内: ナデ 外: ナデ, 削り	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 10YR4/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	脚部外面に下位から上位への削り
	133	縄文土器	深鉢?	口径 底径11.4 器高	底部片	内: ナデ 外: 条痕後ナデ, ナデ (横 位)	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR5/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	脚部外面から底部外面にかけて黒 色化 底部外面に木葉痕
	134	縄文土器	深鉢	口径 底径12.0 器高	底部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR6/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 2点接合	底部外面に木葉痕 底部外面に黒色化
	135	縄文土器	鉢	口径 底径9.6 器高	底部片	内: ナデ 外: ナデ, 指オサエ	内: Hue 7.5YR4/6 外: Hue 10YR4/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	底部外面に白色化 底部外面未調整
	136	縄文土器	鉢	口径 底径10.9 器高	底部片	内: ナデ, 指オサエ 外: ナデ, 指オサエ	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 7.5YR5/4	Ⅲ1区 5 b 層一 括	脚部外面から底部外面にかけて黒・ 白色化 底部外面未調整
	137	縄文土器	深鉢	口径 底径12.2 器高	底部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR5/3 外: Hue 7.5YR5/4	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 古代遺構 埋土一括, 2点 接合	底部外面に黒・白色化
	138	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内: ナデ, 削り 外: ナデ, 削り	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 10YR4/1	Ⅲ1区 5 b 層一 括	底部外面に木葉痕
	139	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内: ナデ, 指オサエ 外: ナデ, 指オサエ	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 10YR4/2	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	底部外面未調整
	140	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 10YR5/3	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	底部外面に黒・白色化
	141	縄文土器	浅鉢	口径 底径11.4 器高	底部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 10YR4/3 外: Hue 7.5YR5/4	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ, 一括, 4 点接合	底部外面変化
25	142	土製品	土器片転用鉢	長さ3.8 幅2.1 厚さ0.7	完形	内: 指オサエ後ナデ 外: 指オサエ後ナデ	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 7.5YR4/3	Ⅲ1区 5 b 層一 括	重量8.1g 指頭庄痕 縁辺研磨, 両短辺に抉り
	143	土製品	土器片転用鉢	長さ2.75 幅1.5 厚さ0.7	半欠	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 2.5Y3/1 外: Hue 2.5Y3/1	Ⅲ1区 5 b 層一 括	重量2.4g 縁辺研磨, 両短辺に抉り
	144	土製品	土器片転用鉢	長さ2.6 幅2.0 厚さ0.8	半欠	内: ナデ? 外: ナデ?	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR5/3	Ⅲ1区 5 b 層一 括	重量5.6g
	145	土製品	土器片転用鉢	長さ3.7 幅2.1 厚さ0.7	一部欠損	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR3/1 外: Hue 10YR5/3	Ⅲ1区 5 b 層一 括	重量8.5g 内面から断面の一部にスス付着 縁辺研磨, 両短辺に抉り
	146	土製品	土器片転用鉢	長さ3.5 幅1.8 厚さ0.9	一部欠損	内: 条痕? 外: ナデ	内: Hue 10YR5/1 外: Hue 10YR5/2	Ⅲ1区 5 b 層一 括	重量7.8g 縁辺研磨, 両短辺に抉り
	147	石器	敲石	長さ10.6 幅6.8 厚さ3.7	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	重量369g 安山岩か 端部に敲打痕, 他は自然面
	148	石器	敲石	長さ11.0 幅6.8 厚さ6.1	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	重量510g 安山岩 両端部に敲打痕
	149	石器	敲石	長さ9.2 幅5.7 厚さ4.5	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	重量244g 安山岩 両端部に敲打痕
	150	石器	石錘	長さ6.9 幅8.7 厚さ1.8	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	重量168g 安山岩 両端部に敲打による抉り
	151	石器	砥石	長さ6.5 幅5.7 厚さ1.1	一部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	重量53g 砂岩 一部自然の凹凸面が残る
	152	石器?	剥片	長さ2.1 幅1.7 厚さ0.4	剥片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	重量1g 黒曜石
	153	石器	掻器	長さ1.4 幅2.6 厚さ4.5	破片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	重量12g 黒曜石 刃部を剥離調整
	154	石器	掻器	長さ2.8 幅2.1 厚さ0.35	半欠	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	重量23g 黒曜石 全体が扁平, 下部欠損 刃部を剥離調整
	26	155	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁~胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR5/2	Ⅲ1区 古代遺構 埋土点上げ, 2 点接合
156		縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR4/3 外: Hue 10YR4/3	Ⅲ1区 古代遺構 埋土一括	Ⅰ a 類 口唇部に刻目文 口縁部外面に沈線文 (横位1条+縦 位)
157		縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 磨き? 外: ナデ	内: Hue 2.5Y5/2 外: Hue 10YR4/1	Ⅲ1区 古代遺構 埋土一括	Ⅰ a 類?, 波状口縁 口唇部に刻目文 口縁部外面に縄文 (RL 不明), 沈 線文 (斜位から横位4条)
158		縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR6/4 外: Hue 7.5YR5/4	Ⅲ1区 攪乱	Ⅰ 類またはⅡ 類 口縁部外面に沈線文 (横位), 刻目 突帯文 (縦位1条)

図	番号	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
26	159	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y3/2 外: Hue 5Y3/1	Ⅲ1区古代遺構 埋土点上げ。表 採。2点接合	X類 口縁内面に幅0.8cm程の工具痕
	160	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ(強い), 削り, 指オサエ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YRT 4/2	Ⅲ1区古代遺構 埋土一括	X類 口縁部が肥厚
	161	縄文土器	深鉢	口径 底径6.4 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 10YR5/4	Ⅲ1区先行ト レンチ一括	
	162	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ, 削り 外:ナデ, 削り	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 10YR5/3	Ⅲ1区古代遺構 埋土一括	
	163	石器	石鏃	長さ20 幅1.6 厚さ0.3	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ1区擾乱	重量0.9g 安山岩 側辺部に細かく敲打調整 基部は挟り弱くやや平基
	164	石器	磨製石斧	長さ2.6 幅2.8 厚さ0.6	刃部片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ1区 5 b 層点 上げ	重量3.9g 蛇紋岩 刃部に線状痕残る
29	165	縄文土器	鉢	口径 底径 器高5.8	口縁部片	内:ナデ, 条痕 外:ナデ, 条痕	内: Hue 25Y3/2 外: Hue 25Y3/3	Ⅲ2区 7 層点上 げ	I a類 口縁部外面に短沈線(綾杉文), 沈 線文(横位4条)
	166	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 7.5YR5/4	Ⅲ2区 7 層点上 げ	II類, 波状口縁 口縁部外面に刺突文(横位1条), 刺目突帯文(横位1条)
	167	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y4/1 外: Hue 25Y3/1	Ⅲ2区 7 層一括	II類 口唇部に刺突文(横位) 口縁部外面に刺突文(縦位)
	168	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ, 条痕 外:ナデ	内: Hue 25Y4/1 外: Hue 25Y5/1	Ⅲ2区 7 層点上 げ	X類
	169	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁-胴部片	内:ナデ, 条痕 外:ナデ, 条痕	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 10YR3/2	Ⅲ2区 7 層点上 げ	X類
	170	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 7.5Y4/1 外: Hue 10Y3/1	Ⅲ2区 7 層点上 げ	X類
	171	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ, 条痕 外:ナデ, 条痕	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 10YR4/2	Ⅲ2区 7 層点上 げ	X類 口縁部内外面に条痕
	172	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:磨き 外:ナデ	内: Hue N3/0 外: Hue 2.5Y5/2	Ⅲ2区南 7 層一 括	X類, 波状口縁 口縁内面黒色
	173	縄文土器	浅鉢	口径17.5 底径 器高5.7~6.1	5/8	内:条痕後ナデ, 指オサエ, 磨き 外:条痕後ナデ, 指オサエ, 磨き	内: Hue 25Y5/2 外: Hue 10YR6/2	Ⅲ2区 7 層点上 げ	X類 内外面に横方向の条痕 内面に条痕に直行する磨き 外面に斜め横方向の磨き
	174	縄文土器	鉢	口径 底径15.8 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR5/3	Ⅲ2区 7 層点上 げ	底部外面に木葉痕
	175	縄文土器	鉢	口径 底径9.1 器高	底部片	内:ナデ, 指オサエ 外:ナデ, 指オサエ	内: Hue 25Y5/3 外: Hue 5Y3/1	Ⅲ2区近世遺構 埋土点上げ	底部外面に木葉痕, 細かい単位の 凹み 痕(約1cm×0.6cm)
	176	縄文土器	深鉢	口径 底径9.0 器高	底部片	内:ナデ, 削り 外:ナデ, 削り	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR6/3	Ⅲ2区 7 層点上 げ	底部外面に鯨椎骨痕か
	177	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高11.2	底部片	内:ナデ, 磨き 外:ナデ, 磨き	内: Hue 2.5Y5/1 外: Hue 2.5Y5/3	Ⅲ2区 7 層点上 げ, 2点接合	粗製土器 内外面とも脚部から底部にかけて ナデ後粗い磨き
	178	石器	調整剥片	長さ9.9 幅3.9 厚さ2.0	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ2区 7 層点上 げ	重量89g 玄武岩 表面に剥離面, 自然面 裏面は縁辺を剥離調整
	179	石器	石鏃未製品	長さ1.8 幅1.65 厚さ0.35	破片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ2区 7 層点上 げ	重量1.3g 安山岩
180	石器	凹石	長さ13.0 幅10.5 厚さ6.6	1/2	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ2区 7 層点上 げ	重量1220g 火成岩 表裏外面に凹凸の有る自然面 中心部に敲打磨られた顕著な凹部	
181	石器	磨石	長さ17.5 幅9.1 厚さ6.9	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ2区 7 層点上 げ	重量1293g 石材不明 一部に磨痕, 他は自然面	
33	182	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高2.6	口縁部片	内:磨き 外:ナデ, 磨き	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 2.5Y4/2	Ⅲ4区 5 b 層点 上げ	IV類 口唇部に沈線文(横位2条) 口縁部外面に沈線文(横位2条)
	183	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:条痕 外:ナデ	内: Hue 10YR3/1 外: Hue 10YR5/3	Ⅲ4区 5 b 層点 上げ	口唇部に押しき文
	184	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	胴部片	内:ナデ, 磨き 外:ナデ, 磨き	内: Hue 10YR5/8 外: Hue 10YR5/4	Ⅲ3区 5 b 層一 括	IX類
	185	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ, 磨き 外:ナデ, 磨き	内: Hue 10YR4/1 外: Hue 10YR4/6	Ⅲ6区古代遺構 埋土点上げ	V類 口縁部外面に沈線文(横位)
	186	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁-頸部片	内:ナデ, 磨き 外:磨き	内: Hue 5Y4/1 外: Hue 2.5Y3/2	Ⅲ8区 4 層点上 げ	VII類 口縁から頸部外面にかけて沈線文 (横位+曲線)

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

図	番号	遺物	種類 (器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
33	187	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	頸部片	内: ナデ, 磨き 外: 磨き	内: Hue 5Y5/2 外: Hue 2.5Y6/2	Ⅲ8区 4 層点上げ	Ⅷ類 頸部外面に沈線文 (横位)
	188	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ, 条痕	内: Hue 2.5Y5/4 外: Hue 2.5Y4/4	Ⅲ1区近世遺構埋土一括	X類 口縁部が肥厚
	189	縄文土器	深鉢	口径 底径13.0 器高	胴部~底部片	内: ナデ 外: ナデ, 条痕	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR5/4	Ⅲ13区古代遺構埋土一括	底部外面に木葉痕
	190	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内: ナデ, 削り 外: ナデ, 削り	内: Hue 10YR4/6 外: Hue 10YR4/1	Ⅲ13区古代遺構埋土一括	底部外面に木葉痕
	191	縄文土器	鉢	口径 底径4.2 器高	底部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/3	Ⅲ25区古代遺構埋土一括	
	192	石器	石鏃	長さ2.3 幅1.6 厚さ0.4	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ23区3層一括	重量0.9g 安山岩
	193	石器	凹石	長さ4.2 幅5.9 厚さ2.8	破片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ25区4層一括	重量115g 安山岩 中央と側面敲打痕
	194	石器	敲石	長さ9.4 幅4.8 厚さ3.9	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅲ9区古代遺構埋土下層点上げ	重量236g 安山岩 全面に敲打痕
39	195	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 不明 外: 指ナデ	内: Hue 2.5Y3/1 外: Hue 2.5Y3/1	Ⅳ14区 5 b 層点上げ	Ⅳ類, 弱い波状口縁か 口縁部に刺突文 (横位1条)
	196	縄文土器	鉢?	口径 底径6.0 器高	底部片	内: 磨き 外: 削り, 磨き	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR6/4	Ⅳ14区 5 b 層点上げ	底部外面未調整
	197	縄文土器	浅鉢	口径28.6 底径 器高3.8	口縁~肩部片	内: 削り, 磨き 外: ナデ, 削り, 磨き, 縄文	内: Hue 7.5Y2/1 外: Hue 7.5Y2/1	Ⅳ14区 5 b 層点上げ	Ⅳ類, 黒色磨研 口唇部に刺突文 (1条), 沈線文 (横位2条) 胴部外面に縄文 (L形横位)
	198	石器	剥片	長さ2.15 幅1.45 厚さ0.4	半欠	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅳ14区 5 層点上げ	重量1.4g 黒曜石 稜状剥片の連続的剥離 先端部に細かい剥離調整
	199	石器	石皿	長さ13.7 幅10.2 厚さ5.3	半欠	内: 外:	内: Hue 外: Hue	Ⅳ14区 5 層点上げ	重量1080g 安山岩 中央に敲打痕 裏面の剥離欠損は主面として使用か
40	200	縄文土器	深鉢	口径31.8 底径 器高	口縁~胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR4/3 外: Hue 5YR4/4 10YR3/2	Ⅳ14区 7 層点上げ, 2点接合	I a 類, 波状口縁か 口縁部外面に刺突文 (横位2条), 沈線文 (横位3条, 交差文), 刺突文 (横位1条) 口唇部に棒状圧痕
	201	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 7.5YR5/4	Ⅳ14区 7 層点上げ	I a 類, 波状口縁 口縁部外面に短沈線文 (斜位), 沈線文 (斜位)
	202	縄文土器	鉢	口径 底径 器高4.0	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 7.5YR7/4	Ⅳ14区 7 層点上げ	I a 類 口縁部外面に沈線文 (横位2条 + 縦位)
	203	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ (横位) 外: ナデ	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 7.5YR5/6	Ⅳ14区 7 層点上げ	I a 類 口縁部外面に沈線文 (横位2条 + 縦位) 口縁内面に工具痕
	204	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR6/4 外: Hue 7.5YR5/3	Ⅳ14区 7 層点上げ	I a 類 口縁部外面に短沈線文 (縦位), 沈線文 (斜位 + 横位)
	205	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 2.5Y3/3	Ⅳ14区 7 層点上げ	I a 類 口縁部外面に沈線文 (横位 + 斜位)
	206	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 5YR5/1 外: Hue 5YR6/4	Ⅳ14区 7 層点上げ	I a 類 口唇部に刺突文 口縁部外面に沈線文 (横位 + 斜位)
	207	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 指オサエ 外: ナデ, 施文後指ナデ	内: Hue 10YR3/2 外: Hue 5YR4/3	Ⅳ14区 7 層点上げ	I a 類 口縁部に短沈線文 (斜位), 後指ナデ
	208	縄文土器	不明	口径 底径 器高	頸~肩部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR4/2	Ⅳ14区 7 層点上げ	頸部外面に短沈線文 (斜位) 肩部外面に刻目突帯文 (横位1条, 貝殻腹縁部による)
	209	縄文土器	深鉢	口径26.4 底径 器高	口縁~胴部片	内: ナデ, 削り 外: ナデ, 削り	内: Hue 7.5YR6/3 外: Hue 7.5YR6/4	Ⅳ14区 7 層一括・点上げ, 5点接合	I b 類, 波状口縁 口唇部に沈線文 (横位1条) 口縁部外面に刺突文 (横位2条)
	210	縄文土器	深鉢	口径30.0 底径 器高	口縁~胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 7.5YR5/6	Ⅳ14区 7 層点上げ, 2点接合	I b 類, 波状口縁 口唇部に短沈線 (斜位2条) 口縁部外面に刺突文 (横位2条)
	41	211	縄文土器	鉢	口径26.0 底径 器高9.6	口縁~胴部片	内: ナデ, 指オサエ 外: ナデ	内: Hue 5Y3/2 外: Hue 5Y3/2	Ⅳ14区 7 層点上げ
212		縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ, 条痕	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 10YR5/3	Ⅳ14区 7 層点上げ, 6点接合	Ⅱ類 胴部外面に刻目突帯文 (横位1条)

回	番号	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考	
41	213	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 5YR3/1 外: Hue 5YR4/2	IV14区7層点一括	II類 口縁部外面に刺突文(横位1条)と 刻目突帯文(横位1条)	
	214	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 5YR5/2 外: Hue 5YR5/3	IV14区7層点一括	II類、波状口縁 口唇部、波頂部内面に刺突文 口縁部外面に刺突文(横位1条)、 刻目突帯文(三角形1条+横位1条)	
	215	縄文土器	深鉢	口径25.2 底径 器高	口縁+胴部片	内:ナデ、条痕 外:ナデ、条痕	内: Hue 5YR4/2 外: Hue 5YR5/4	IV14区7層点上げ・一括、4点 接合	II類、波状口縁 口唇部、波頂部内面に刺突文 口縁部外面に刺突文(横位1条)、 刻目突帯文(横位1条+横位1条)	
	216	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y5/2 外: Hue 25YR6/3	IV14区7層点上げ	II類、波状口縁か 口縁部外面に刺突文(横位1条)と 刻目突帯文(横位1条)	
	217	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR8/3 外: Hue 10YR7/3	IV14区7層点上げ	I b類か 口縁部外面に刻目突帯文(横位1条、 貝殻膜縁部による刻目)	
	218	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ、削り 外:ナデ(横位)	内: Hue 75Y4/1 外: Hue 75Y4/2	IV14区7層点上げ	口縁部外面に刺突文(横位1条、尖 羽状)	
	219	縄文土器	浅鉢?	口径 底径 器高	胴部片	内:縄文 外:磨き	内: Hue 25Y3/1 外: Hue 25Y4/1	IV14区7層点上げ	III類 胴部外面に縄文(L部)、沈線文(渦 巻文)	
	220	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	胴部片	内:磨き 外:ナデ、磨き	内: Hue 25Y3/2 外: Hue 25Y3/2	IV14区7層点上げ	III類 胴部外面に縄文(L部)、沈線文(横 位)	
	221	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y3-2 外: Hue 25Y3/2	IV14区7層点上げ、2点接合	X類	
	222	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ、条痕 外:ナデ、条痕	内: Hue 25Y4/4 外: Hue 25Y4/4	IV14区7層点上げ	X類	
	223	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:条痕 外:ナデ	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 25Y3/2	IV14区7層点上げ	X類	
	224	縄文土器	鉢	口径15.2 底径 器高	口縁+胴部片	内:ナデ、条痕 外:ナデ、条痕	内: Hue 5Y3/1 外: Hue 10YR5/3	IV14区7層点上げ、2点接合	分類不明 口唇部に刺突文(横位1条)	
	225	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ、指オサエ	内: Hue 10YR6-4 外: Hue 10YR5/1	IV14区7層点上げ	脚部外面から底部外面にかけて黒 色化 底部外面未調整	
	226	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75YR4/1 外: Hue 75YR5/3	IV14区7層点上げ		
	227	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 10YR4/1	IV14区7層点上げ		
	228	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75YR5/3 外: Hue 75YR5/3	IV14区7層点上げ	底部外面に黒色化	
	229	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75YR4/1 外: Hue 75YR6/4	IV14区7層点上げ		
	230	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:— 外:ナデ、削り	内: Hue — 外: Hue 10YR7/3	IV14区7層点上げ	底部外面に木葉痕か	
	231	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ、指オサエ 外:ナデ、指オサエ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 75YR5/4	IV14区7層点上げ	底部外面未調整	
	232	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内:ナデ、削り 外:ナデ、削り	内: Hue 75YR4/1 外: Hue 75YR5/2	IV14区7層点上げ		
	233	縄文土器	深鉢?	口径 底径7.5 器高	底部片	内:ナデ 外:ナデ、指オサエ	内: Hue 25Y4/1 外: Hue 75YR6/4	IV14区(南西端)7 層一括	粗製(部分的に表面剥離)	
	42	234	石器	敲石	長さ12.9 幅4.25 厚さ4.9	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV14区7層点上げ	重量429g 安山岩 小口両側、長手両側に敲打痕
		235	石器	敲石	長さ9.9 幅7.8 厚さ4.0	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV14区7層点上げ	重量442g 安山岩 上下、側面両側に敲打痕 側面右側から下部にかけて弱い敲 打痕
236		石器	敲石	長さ14.5 幅5.0 厚さ3.4	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV14区7層点上げ	重量372g 安山岩 両端部に敲打痕	
237		石器	敲石	長さ11.7 幅6.0 厚さ3.8	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV14区7層点上げ	重量413g 安山岩 端部に敲打痕 部分的に被熱	
238		石器	敲石	長さ13.0 幅18.1 厚さ4.0	一部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV14区7層点上げ	重量1072g 安山岩か 片面中央と側面の一部に敲打痕	
43	239	石器	敲石	長さ8.2 幅4.3 厚さ3.2	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV14区7層点上げ	重量176g 安山岩 両端部に敲打痕	

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

図	番号	遺物	種類 (器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
43	240	石器	敲石	長さ9.3 幅7.2 厚さ3.75	一部欠損	内： 外：	内：Hue 外：Hue	IV14区7層点上げ	重量347g 安山岩 端部に敲打痕
	241	石器	敲石	長さ8.7 幅8.7 厚さ6.1	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	IV14区7層点上げ	重量375g 石材不明 両端部に敲打痕
	242	石器	敲石	長さ8.8 幅6.5 厚さ5.25	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	IV14区7層点上げ	重量398g 安山岩 端部に敲打痕
	243	石器	磨石	長さ6.1 幅7.2 厚さ3.65	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	IV14区7層点上げ	重量230g 安山岩 端部に研磨による平坦面 裏面に不明確な磨痕
	244	石器	磨石	長さ9.0 幅8.0 厚さ5.3	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	IV14区7層点上げ	重量557g 安山岩 両側面に磨痕
	245	石器	砥石	長さ4.4 幅4.9 厚さ1.8	破片	内： 外：	内：Hue 外：Hue	IV14区7層点上げ	重量49g 砂岩
	246	石器	砥石	長さ5.4 幅3.3 厚さ2.75	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	IV14区7層点上げ	重量55g 砂岩 端部に敲打痕、他は全面に研磨痕
44	247	土製品	土器片転用鉢	長さ3.25 幅1.9 厚さ0.8	完形	内：指オサエ 外：磨き	内：Hue 7.5YR3/2 外：Hue 5YR4/4	IV14区7層一括	重量7.5g 縁辺研磨、両短辺に抉り
	248	土製品	土器片転用鉢	長さ4.3 幅2.1 厚さ1.0	完形	内：ナデ 外：条痕	内：Hue 10YR4/1 外：Hue 7.5YR6/4	IV14区7層点上げ	重量12.6g 長辺量測面に研磨 縁辺研磨、両短辺に抉り
	249	土製品	土器片転用鉢	長さ4.2 幅2.1 厚さ1.3	完形	内：ナデ、条痕？ 外：ナデ	内：Hue 7.5YR5/4 外：Hue 7.5YR5/4	IV14区7層点上げ	重量14.8g 縁辺研磨、両短辺に抉り 内面に貝殻条痕か
	250	土製品	土器片転用鉢	長さ3.7 幅1.9 厚さ1.2	完形	内：ナデ 外：？	内：Hue 10YR5/4 外：Hue 7.5YR5/4	IV14区7層点上げ	重量12g 縁辺研磨、両短辺に抉り
	251	土製品	土器片転用鉢	長さ3.8 幅2.35 厚さ0.7	完形	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR4/1 外：Hue 10YR5/2	IV14区7層点一括	重量9.9g 縁辺研磨、両短辺に抉り
	252	土製品	土器片転用鉢	長さ3.5 幅2.4 厚さ0.7	完形	内：削り 外：ナデ	内：Hue 7.5YR6/4 外：Hue 5YR5/4	IV14区7層点上げ	重量9g 表面に沈線文 縁辺研磨、両短辺に抉り
	253	土製品	土器片転用鉢	長さ4.5 幅1.8 厚さ0.8	完形	内：磨き 外：縄文	内：Hue 10YR5/3 外：Hue 2.5Y5/2	IV14区7層確認 トレンチャー一括	重量8.7g 縁辺研磨、両短辺に抉り 磨消縄文 (L形) 赤色顔料付着
	254	土製品	土器片転用鉢	長さ2.65 幅1.7 厚さ0.9	半欠	内：ナデ 外：縄文	内：Hue 7.5YR5/3 外：Hue 10YR4/3	IV14区7層一括	重量6.2g 外面に磨消縄文 (L形)、沈線文 縁辺研磨、両短辺に抉り
45	255	縄文土器	鉢	口径28.8 底径 器高12.8	口縁～胴部片	内：ナデ、削り、指オサエ 外：ナデ、削り、指オサエ	内：Hue 10YR4/3 外：Hue 10YR3/3	IV14区10層点上げ	I b 類か 口唇部に刻目突帯文 (横1条) 口縁部外側に突帯付着痕
	256	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、指オサエ	内：Hue 5Y4/2 外：Hue 5Y3/2	IV14区10層点上げ	X 類
	257	縄文土器	鉢	口径 底径8.8 器高2.4	底部片	内：ナデ、指オサエ 外：ナデ、指オサエ	内：Hue 5Y3/1 外：Hue 10YR4/3	IV14区10層点上げ、2点接合	底部外面の一部に細かい単位の凹 みが目立つ
	258	縄文土器	深鉢	口径 底径10.2 器高	底部片	内：ナデ、条痕 外：ナデ、削り、条痕	内：Hue 10YR6/3 外：Hue 10YR5/8	IV14区10層点上げ	脚部内面から底部内面にかけて条 痕後ナデ 脚部外面に下位から上位への削り 底部外面に条痕後ナデ
	259	縄文土器	鉢	口径 底径11.5 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR7/3 外：Hue 10YR6/4	IV14区10層点上げ	底部外面に線状の痕跡
46	260	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 2.5Y6/3 外：Hue 2.5Y4/1	IV14区4層一括	口縁部に沈線文 (横位)
	261	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁～頸部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 2.5Y6/3 外：Hue 2.5Y6/3	IV14区4層一括	X 類
	262	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	胴部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 7.5Y5/6 外：Hue 7.5Y5/6	IV14区4層一括	X 類
	263	石器	剥片	長さ4.45 幅3.55 厚さ1.6	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	IV14区7層点上げ	重量18.8g 玄武岩 割れ口劣化
	264	縄文土器	深鉢？	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：山形押型文	内：Hue 7.5YR7/4 外：Hue 7.5YR4/1	IV3区3層一括	胴部外面に山形押型文
	265	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR7/3 外：Hue 10YR7/4	IV11区3層一括	I a 類、波状口縁 口唇部に刺突文 口縁部外面に沈線文 (横位2条)
	266	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue 5YR3/1 外：Hue 5YR4/1	IV2区4層一括	X 類 口縁部にスス付着

図	番号	遺物	種類 (器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
46	267	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 磨き 外: ナデ, 磨き	内: Hue 10YR4/3 外: Hue 10YR4/4	IV2区 4層一括	IX類 口縁部外面に沈線文(横位2条)
	268	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 10YR3/1 外: Hue 10YR3/1	IV7区 4層点上げ	X類
	269	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 10YR6/4	IV5区 4層一括	VII類 口縁部に沈線文(横位2条) 口縁部一部にスス付着
	270	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR6/6 外: Hue 7.5YR6/4	IV3区 4層一括	胴部外面に刻目突帯文(横位1条, 1: II類と異なり断面突出) 胴部外面一部にスス付着
	271	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 10YR 外: Hue 10YR	IV6区 古代塚穴 建物南西掘方埋 土一括	X類 胴部内面一部風化 胴部外面一部黒色化
	272	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ, 磨き 外: 磨き	内: Hue 2.5Y6/3 外: Hue 2.5Y5/3	IV10-2区 古代遺 構埋土一括, IV 20区 4層点上げ 2点接合	X類
	273	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR5/3	IV30-2区 5 a層 点上げ	II類か, 波状口縁 口縁内面に刺突文 口縁部外面に刺突文
	274	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 7.5YR4/2 外: Hue 7.5YR4/4	IV30-2区 5 a層 点上げ	VI類か, 口縁部外面に縄文(LR不 明), 沈線文(横位2条)
	275	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR3/1 10YR6/4	IV29層 5 a層一 括	IX類 口縁部一部未調整
	276	縄文土器	皿	口径 底径 器高	口縁部片	内: 磨き 外: ナデ	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 7.5YR5/6	IV30-2区 5 a層 一括	皿か 口縁部内面に縄文(RII)
	277	石器	石錘?	長さ29 幅23 厚さ0.8	一部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV11区 規乱	重量6g 石材不明 側面に抉り?自然の可能性あり
	278	石器	搔器?	長さ37 幅21 厚さ7.5	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV7区 3層一括	重量5.1g 黒曜石 一部を剥離調整 上端部は自然面(稜面)
	279	石器	未成品?	長さ28 幅23 厚さ0.6	破片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV1区 4層一括	重量3.7g チャート
	280	石器	敲石	長さ127 幅86 厚さ5.4	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV3区 古代遺構 埋土点上げ	重量971g 安山岩か 端部と側面に敲打痕
	281	石器	台石	長さ100 幅87 厚さ7.5	破片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	IV30-2区 5 a層 点上げ	重量780g 安山岩か 表面に磨痕, 裏面に間接的な磨痕
	52	282	縄文土器	鉢	口径24.8 底径 器高12.6	口縁~胴部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ, 条痕	内: Hue 10YR4/3 外: Hue 10YR4/3	V11区 7層点上 げ, 2点取り上 げ
283		縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR4/2 外: Hue 10YR4/1	V11区 7層点上 げ	I a類, 波状口縁 口唇部に短沈線文(斜位) 口縁部外面に沈線文(斜位+横位), 刺突文
284		縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR3/1 外: Hue 7.5YR2/1	V11区 7層点上 げ	分類不明, 波状口縁 口縁部外面に刺突文(横位2条)
285		縄文土器	深鉢	口径19.4 底径 器高	1/5	内: ナデ, 工具痕 外: ナデ	内: Hue 2.5YR5/3 外: Hue 7.5YR5/3	V11区 7層点上 げ	I a類 口縁部外面に沈線文(横位+斜位) 内面に板状の工具痕
286		縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁~胴部片	内: ナデ 外: ナデ, 条痕	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR5/4	V11区 7層一括	I b類, 波状口縁 口唇部に刻目(縦位) 口縁部外面に刺突文(横位1~3条)
287		縄文土器	深鉢	口径25.6 底径 器高	口縁部 ~胴部片	内: ナデ, 指オサエ 外: ナデ	内: Hue 10YR4/1 外: Hue 10YR5/3	V11区 7層点上 げ, III区 9層, 2点接合	II類, 波状口縁 波頂部内面に刺突文 口縁部外面に刺突文(横位3条), 刻目突帯文(縦位2条+横位1条)
288		縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ後粗い磨き(横位) 外: ナデ後粗い磨き(縦位)	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 2.5Y4/1	V11区 7層点上 げ	II類か 口縁部外面に刺突文(横位2条)
289		縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ	内: Hue - 外: Hue 7.5Y4/1	V11区 7層点上 げ	II類か 口縁部外面に刺突文(横位2条) 口縁内面に指頭圧痕
290		縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁~胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 5Y5/1 外: Hue 10YR6/2	V11区 7層点上 げ, 3点接合	II類, 波状口縁 波頂部内面に刺突文 口縁部外面に刺突文(横位1条), 刻目突帯文(横位1条), 沈線文(縦 位)
291		縄文土器	鉢	口径 底径 器高29	口縁部片	内: ナデ, 条痕 外: ナデ	内: Hue 7.5YR4/2 外: Hue 2.5Y3/3	V11区 7層点上 げ	X類 口縁内面に条痕
292		縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ, 指オサエ 外: ナデ, 指オサエ	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 10YR3/2	V11区 7層点上 げ	X類
293		縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 5Y4/2 外: Hue 2.5Y5/1	V11区 7層点上 げ	X類

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

図	番号	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
52	294	縄文土器	把手	長さ6.0 幅1.9 厚さ1.9	破片	内：一 外：ナデ	内：Hue - 外：Hue 10YR6/3	V11区7層点上げ	皿あるいは鉢の把手部か 刻目文と沈線文
	295	縄文土器	深鉢	口径 底径8.4 器高	底部片	内：ナデ, 指オサエ 外：ナデ, 削り	内：Hue 10YR4/1 外：Hue 10YR5/1	V11区北東7層点上げ	底部外面に木葉痕, 黒・白色化
	296	縄文土器	深鉢	口径 底径10.3 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ 底：ナデ, 指オサエ	内：Hue 25Y5/2 外：Hue 25Y5/2	V11区7層点上げ	底部外面に木葉痕か
	297	縄文土器	深鉢	口径 底径12.0 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 5YR4/1 外：Hue 5YR5/3	V11区7層点上げ, V11区北東点上げ, 2点接合	脚部内外面, 底部内外面一部にスス附着 底部外面に木葉痕
	298	縄文土器	深鉢	口径 底径10.9 器高3.9	底部	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 25Y6/3 外：Hue 25Y5/2	V11区7層点上げ	脚部外面に下から上方向の削り痕 底部内面に指の爪痕 底部外面に鮮明な木葉痕
	299	縄文土器	深鉢	口径 最大径12.1 器高	底部片	内：ナデ, 削り 外：ナデ, 削り, 指オサエ	内：Hue 7.5YR4/2 外：Hue 7.5YR4/3	V11区7層点上げ, 2点接合	底部断面形状が位置により異なる
	300	縄文土器	鉢	口径 底径10.0 器高	底部片	内：ナデ 外：指オサエ後ナデ	内：Hue 25Y5/2 外：Hue 25Y4/1	V11区7層点上げ	底部外面に木葉痕
53	301	縄文土器	鉢	口径28.5 底径 器高	口縁部片	内：ナデ?, 条痕 外：ナデ	内：Hue 25Y5/2 外：Hue 25Y6/3	V11区7層点上げ, 6点接合	Ⅲ類, 波状口縁 口縁部外面に内文, 沈線文(対向弧文+横位1条), 縄文(L形), 沈線文(鈎手文) 縄文施文後に沈線文を施している
	302	縄文土器	鉢	口径 底径13.8 器高	底部~胴部片	内：磨き 外：ナデ, 磨き	内：Hue 10YR3/1 外：Hue 10YR4/2	V11区7層点上げ, 2点接合	Ⅲ類 胴部外面に縄文(L形), 沈線文 赤色顔料付着, 図面は磨きを省略
	303	縄文土器	鉢	最大径21.3 底径11.9 器高12.3	1/6	内：磨き 外：磨き	内：Hue 7.5YR5/3 外：Hue 10YR5/3	V11区7層点上げ, 2点接合	Ⅲ類, 波状口縁(5単位分) 口唇部に刻目文 口縁部外面から底部にかけて縄文(L形), 沈線文(横位+曲線) 図面は磨きを省略
	304	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue N2/0 外：Hue 10YR6/4	V11区7層点上げ	Ⅲ類か, 波状口縁 口縁部に沈線文(横位2条), 刻目文
	305	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 5Y3/1 外：Hue 5Y3/1	V11区7層点上げ	Ⅲ類 口縁部外面に縄文(L形), 沈線文(横位2条) 赤色顔料付着
	306	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 7.5YR6/6 外：Hue 7.5YR5/4	V11区北東7層点上げ	Ⅲ類 口縁部外面に縄文(L形) 赤色顔料付着
	307	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	胴部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 25Y5/2 外：Hue 25Y4/6	V11区7層点上げ	Ⅲ類か 胴部外面に縄文(L形)と沈線文 赤色顔料付着
	308	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	胴部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 25Y4/2 外：Hue 10YR4/3	V11区北東7層一括	Ⅲ類か 胴部外面に縄文(L形), 沈線文 赤色顔料付着
	309	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	胴部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 25Y5/2 外：Hue 25Y5/2	V11区7層点上げ	Ⅲ類 胴部外面に縄文(L形), 沈線文(渦巻文か)
	310	土製品	土器片転用錘	長さ2.4 幅2.0 厚さ0.8	完形	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR5/2 外：Hue 10YR5/3	V11区7層点上げ	重量5.3g 縁辺研磨, 両短辺に挟り
54	311	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ヨコナデ, 指オサエ 外：ヨコナデ	内：Hue 10YR6/4 外：Hue 10YR6/4	V13区7層点上げ	Ⅰb類 口縁部外面に刺突文(横位2条)
	312	石器	磨石	長さ8.2 幅7.7 厚さ5.6	1/2	内： 外：	内：Hue 外：Hue	V13区7層点上げ	重量232g 砂岩 表裏全面に磨痕? 縁辺部全面に敲打痕が著しい
57	313	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：ナデ	内：Hue 25Y5/2 外：Hue 10YR6/3	V20区4層一括	Ⅰa類 口縁部外面に細沈線文(横位)
	314	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 25Y4/1 外：Hue 10YR6/3	出土地不明(V区か?)	Ⅲ類, 波状口縁 口唇部, 口縁部内面に刺突文 口縁部外面に刺突文(横位1条), 刻目変帯文(縦位1条)
	315	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ, 磨き 外：ナデ	内：Hue 25Y4/1 外：Hue 10YR6/3	V9区4層一括	Ⅲ類か 胴部外面に縄文(L形), 沈線文(横位) 胴部内面に黒彩
	316	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ, 磨き, 条痕 外：ナデ, 条痕	内：Hue 10YR5/3 外：Hue 10YR5/4	V31区4層一括	分類不明 口唇部に刺突文
	317	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高5.4	口縁部片	内：ナデ, 磨き 外：ナデ, 磨き	内：Hue 10YR5/4 外：Hue 10YR4/6	V1区5層点上げ	Ⅳ類 口唇部に沈線文(横位2条) 口縁部外面に沈線文(鈎手文か) 口縁内面劣化
	318	縄文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：ナデ, 磨き	内：Hue 25Y7/3 外：Hue 25Y6/2	V21区4層一括	Ⅳ類 口縁部外面に沈線文(横位1条)



図	番号	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
57	319	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き、条痕	内：Hue 10YR5/3 外：Hue 10YR5/4	V9区古代遺構 埋土一括	X類
	320	縄文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 25Y5/2 外：Hue 25Y3/1	V9区4層一括	X類
	321	縄文土器	深鉢	口径 底径8.8 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 25Y6/3 外：Hue 10YR7/3	V20区4層一括	脚部内面に貝か工具による粗いナデ 底部外面未調整
	322	石器	搔器?	長さ1.95 幅3.8 厚さ0.6	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	V3-2区攪乱	重量4.2g 黒曜石 表面刃部に細かい剥離調整 裏面に敲打調整後磨り加工痕
	323	石器	搔器?	長さ3.3 幅2.5 厚さ0.8	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	V4-1区近代遺 構埋土一括	重量5.4g チャート 全体の調整が粗い
	324	石器	搔器?	長さ8.0 幅8.5 厚さ1.5	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	V4-1区攪乱	重量61g 安山岩 縁辺を細かい剥離調整
	325	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き、ナデ	内：Hue 10YR7/3 外：Hue 10YR7/3	II 4区3層一括	Ⅷ類 口縁部外面に沈線文(横位4条)
	326	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ? 外：磨き	内：Hue 10YR7/2 外：Hue 10YR7/2	V12区4層一括	Ⅷ類 口縁部外面に沈線文(横位2条)
	327	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 10YR6/2 外：Hue 10YR6/2	I 23区4層一括	Ⅷ類 口縁部外面に沈線文(横位2条)
	328	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：磨き	内：Hue 25Y6/3 外：Hue 25Y6/2	III 4区3層一括	Ⅷ類 口縁部外面に沈線文(横位2条)
	329	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 10YR7/3 外：Hue 10YR7/3	I 26区4層一括	Ⅷ類 口縁部外面に沈線文(横位2条)
	330	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue 10YR7/3 外：Hue 10YR7/3	I 18区4層一括	Ⅷ類 口縁部外面に沈線文か(横位)
	331	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 10YR7/3 外：Hue 10YR7/3	II 19区4層一括	IX類 口縁部外面に沈線文(横位1条)
	332	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内：丁寧なナデ 外：磨き	内：Hue 25Y4/1 外：Hue 25Y3/1	III 8区3層一括	分類不明 胴部外面に沈線文(横位) 黒色磨研
	333	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR5/2 外：Hue 7.5YR6/3	IV 14区7層点上 げ	南福寺式か? 胴部外面に沈線による縁移文
	334	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 7.5YR6/3 外：Hue 10YR6/3	III 3区古代遺構 埋土一括	IX類 口縁部外面に沈線文(横位1条)
	335	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 10YR5/2 外：Hue 4/0	V3-2区IV層一 括	分類不明 胴部外面に沈線文(横位) 黒色磨研
	336	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ? 外：磨き?	内：Hue 7.5YR3/2 外：Hue 10YR5/3	I 38区5 b 層点 上げ	分類不明 胴部外面に沈線門(横位)、表面摩 耗
	337	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 10YR3/1 外：Hue 10YR3/2	I 3区4層点上 げ	分類不明 胴部外面に沈線文(横位2条)、文 様区画内に縄文(LII)
	338	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 3/0 外：Hue 2.5Y4/1	IV 14区7層点上 げ	分類不明 燒成後穿孔1
	339	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 7.5YR4/2 外：Hue 10YR4/2	I 37区5 b 層点 上げ、一括、2 点接合	分類不明 燒成後穿孔1
	340	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 7.5YR5/3 外：Hue 7.5YR4/2	I 37区5 a 層点 上げ	分類不明 燒成後穿孔1
	341	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR6/3 外：Hue 7.5YR6/4	I 37区5 b 層点 上げ	I a 類か 口縁部外面付近に沈線文(横位・ 斜位)
	342	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：ナデ?	内：Hue 10YR4/1 外：Hue 10YR4/2	V 11区7層点上 げ	分類不明 口縁部外面に沈線文(横位)
	343	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR4/2 外：Hue 10YR5/2	IV 14区7層一括	分類不明 口縁部外面に刻沈線(横位)
	344	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁～頸部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 2.5Y4/1 外：Hue 7.5YR5/3	IV 14区7層一括	I a 類 口縁部外面付近に沈線文(斜位)
	345	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁～頸部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 7.5YR5/3 外：Hue 7.5YR4/3	III 2区7層	I a 類 口縁部外面付近に沈線文(斜位) とその下に刺突文
	346	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁～頸部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 7.5YR5/3 外：Hue 7.5YR5/3	III 1区古代遺構 埋土点上げ	I a 類 口縁部外面に沈線文(斜位)

1. (黒髪南) ライフライン再生 (給水設備等) 工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

図	番号	遺物	種類 (器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
	347	縄文土器	鉢?	口径 底径 器高	胴部片	内:磨き 外:磨き	内:Hue 10YR3/2 外:Hue 10YR3/10	Ⅱ35区V a層	分類不明 胴部に沈線文と縄文
	348	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 10YR5/3	Ⅲ1区古代遺構 埋土一括	分類不明 口縁部付近に沈線文 (横位) と刺突文
	349	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	不明	内:磨き 外:磨き	内:Hue 7.5YR6/2 外:Hue 7.5YR6/3	V11区7層点 上げ	分類不明 曲線的沈線文とその凸部への刻目文
	350	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	不明	内:磨き 外:磨き	内:Hue 7.5YR6/2 外:Hue 7.5YR6/3	V11区7層点 上げ	分類不明 曲線的沈線文とその凸部への刻目文
	351	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR6/2 外:Hue 10YR6/3	V11区7層点 上げ	Ⅱ類、波状口縁 口唇部、波頂部内面に刺突文 口縁外面に刻目突帯文 (横位1条)
	352	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR3/1 外:Hue 10YR3/1	Ⅲ1区5 b層点 上げ	Ⅱ類 口縁部外面に刺突文、刻目突帯文 (横位1条)
	353	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 2.5Y3/1 外:Hue 5YR5/3	IV14区7層点 上げ	Ⅱ類 外面に刻目突帯文 (横位1条)
	354	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 7.5YR5/3	Ⅲ1区5 b層点 上げ	Ⅱ類 外面に沈線文 (横位1条) と刻目突 帯文 (横位1条)
	355	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR5/2	Ⅲ1区5 b層点 上げ	Ⅱ類 外面に刻目突帯文 (横位1条)
	356	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 7.5YR6/4 外:Hue 7.5YR6/3	I 37区古代遺構 埋土一括	Ⅱ類 口縁部外面に刺突文、刻目突帯文 (横位1条)
	357	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 7.5YR6/4 外:Hue 7.5YR5/3	IV14区7層点 上げ	I b類またはⅡ類 口縁部外面に刺突文 (横位2条)
	358	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR4/1 外:Hue 10YR5/3	Ⅲ1区5 b層 一括	I b類またはⅡ類 口唇部と口縁部外面に刺突文
	359	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR4/1 外:Hue 2.5Y3/1	V11区7層点 上げ	I b類またはⅡ類 口縁部外面に刺突文 (横位2条)
	360	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 2.5Y4/1 外:Hue 2.5Y4/1	Ⅲ1区古代遺構 埋土一括	I b類またはⅡ類 口縁部外面に刺突文 (横位1条)
	361	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR4/2	IV14区7層点 上げ	I b類またはⅡ類 口縁部外面に刺突文 (横位2条)
	362	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 2.5Y4/3 外:Hue 10YR4/1	IV14区5 b層点 上げ	Ⅱ類か 口唇部内面に刺突文、口縁部外面 に刺突文
	363	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内:磨き 外:縄文	内:Hue 7.5YR7/2 外:Hue 10YR7/2	Ⅲ1区5 b層点 上げ	Ⅲ類か 外面に縄文 (L形)
	364	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内:磨き 外:縄文	内:Hue 10YR6/2 外:Hue 10YR5/2	Ⅲ1区5 a層点 上げ	Ⅲ類か 外面に縄文 (L形)
	365	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内:ナデ 外:磨き、縄文	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR5/3	Ⅲ1区5 b層点 上げ	Ⅲ類か 外面に沈線文と縄文 (L形)
	366	縄文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内:ナデ 外:縄文	内:Hue 10YR4/1 外:Hue 10YR4/1	I 37区5 a層点 上げ	Ⅲ類か 外面に曲線的沈線文と縄文 (L形)
	367	石器	剥片	長さ 厚さ 幅	破片	内: 外:	内:Hue 外:Hue	Ⅲ1区5 b層点 上げ	重量0.7g 黒曜石 自然面あり
	368	石器	剥片	長さ 厚さ 幅	破片	内: 外:	内:Hue 外:Hue	IV14区7層点 上げ	重量2.5g 黒曜石 自然面あり
	369	石器	剥片	長さ 厚さ 幅	破片	内: 外:	内:Hue 外:Hue	Ⅲ1区5 b層点 上げ	重量1.5g 黒曜石
	370	石器	剥片	長さ 厚さ 幅	破片	内: 外:	内:Hue 外:Hue	I 37区5 b層点 上げ	重量0.6g 黒曜石 自然面あり
	371	石器	石核?	長さ 厚さ 幅	破片	内: 外:	内:Hue 外:Hue	IV14区7層点 上げ	重量6.1g 黒曜石 自然面あり
	372	石器	剥片	長さ 厚さ 幅	破片	内: 外:	内:Hue 外:Hue	Ⅲ1区5 b層点 上げ	重量8.8g 黒曜石 自然面あり

## 熊本市黒髪町遺跡群1310調査地点出土の縄文人骨

松下真実\*・松下孝幸\*\*

【キーワード】：熊本県、縄文後期人骨、土坑墓、配石墓、抜歯、きゃしゃ、保存不良

### はじめに

熊本県熊本市中央区黒髪二丁目に所在する黒髪町遺跡群1310調査地点の発掘調査が黒髪南地区ライフライン再生工事に伴って2014（平成26）年に実施され、V-11区から縄文時代後期の人骨が2体出土した。

熊本県内の縄文人骨の出土例としては、轟貝塚（鈴木、1918）をはじめとして、阿高貝塚（岡本、1929、田幡、1930、大森・他、1957、大森、1960）、御領貝塚（金関・他、1955）、かきわら貝塚（松野・他、1967）、沖の原遺跡（内藤、1973）、天岩戸岩陰遺跡（内藤・他、1978）、七ツ江カキワラ貝塚（松下・他、1986）、高橋貝塚の例などがあるが、熊本市内からの縄文人骨の出土はきわめて珍しく、本例の他には託麻弓削遺跡（松下・他、2018）から出土した縄文人骨があるぐらいである。

今回の発掘調査で検出された縄文人骨は2体のみで、遺存状態はあまりよくないが、現地で人骨の検出をおこない、出土状態や埋葬姿勢などを観察することができた。また計測ができた骨については周辺の縄文人骨との比較検討をおこなったので、その結果を報告したい。



図72 調査区遠景（南西より）

### 資 料

今回の発掘調査で土坑墓と配石墓がそれぞれ1基ずつ検出され、それぞれの遺構からほぼ埋葬状態を保った人骨が出土した。2体のうち1体は男性骨、残りの1体は女性骨でともに成人骨である（表1.2）。2体とも歯の咬耗が弱い。歯の咬耗程度は、食糧資源の種類やその加工方法によって大きな影響を受けるので、咬耗状態から年齢を推測することはかなり危険であるが、縄文人の場合は壮年であっても歯の咬耗がかなり強いということから推測すれば、この2体の年齢はともに壮年の可能性が強い。年齢区分を表3に示した。

この2体の人骨は、考古学的所見より、縄文時代後期前葉（出水式～御手洗A式古段階）に属する人骨である。ちなみに炭化物の炭素年代としては $3690 \pm 30BP$ の値が得られている。

計測方法は、Martin-Saller（1957）によった。

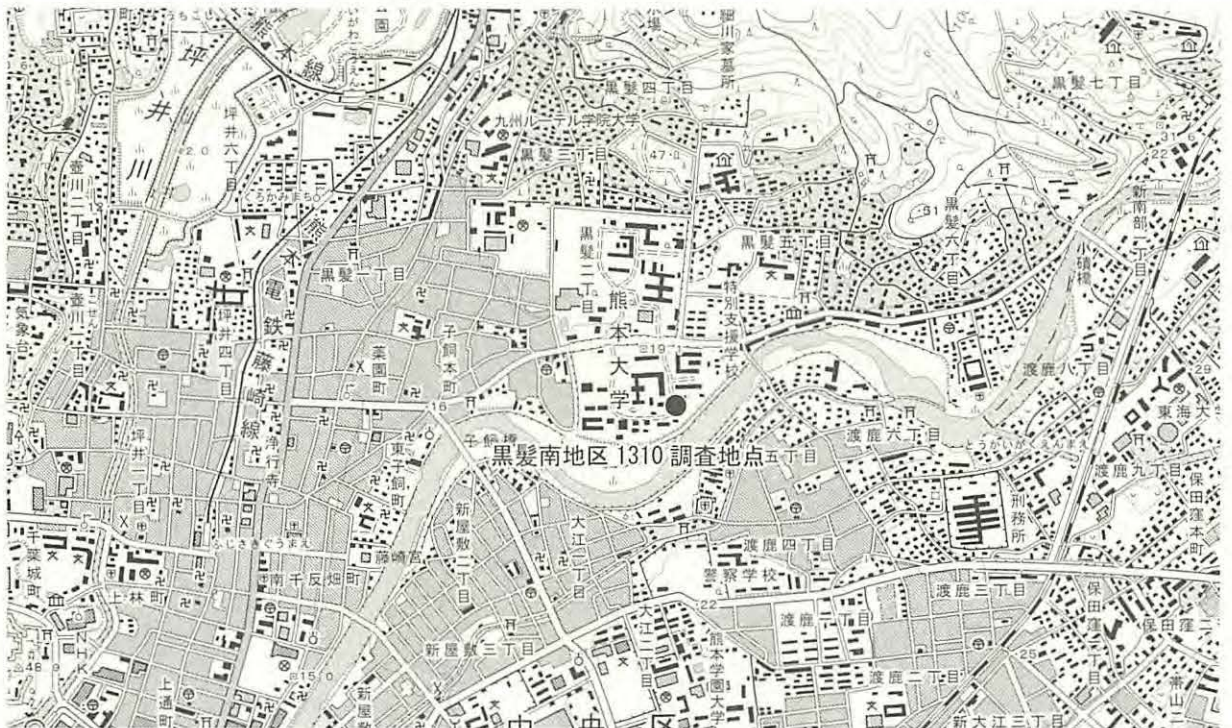


図73 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig. 73 Location of the Kurokami sites, Kumamoto City, Kumamoto Prefecture)

表5 資料数 (Table 5. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
1	1	0	0	2

表6 出土人骨一覧 (Table 6. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考 (頭位、埋葬姿勢)
ST01	男性	壮年	西頭位、仰臥
ST02	女性	壮年	西頭位、仰臥、配石墓

表7 年齢区分 (Table 7. Division of age)

	年齢区分	年齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

## 所 見

### I 人骨の検出状況と埋葬姿勢

#### ST01 (男性・壮年)

埋葬遺構は土坑墓。頭部付近から複数の円礫が検出されていることや、本遺構の北側から配石墓が出土していることから (ST02)、本埋葬遺構も配石を伴っていた可能性もある。墓坑の平面プランは楕円形。埋葬姿勢は仰臥で、頭位はほぼ西である。左側の肘関節と膝関節は約90度に曲げられており、屈肢状態である。



図74 ST01人骨出土状況写真 (南より)

人骨の遺存状態はあまりよくない。残存していたのは脳頭蓋の一部、下顎骨、両側の上腕骨と前腕の骨、両側の大腿骨、左側の下腿の骨および第二頸椎の歯突起と頸椎の椎体のごく一部のみである。

頭蓋と左側の上肢骨および左側の下肢骨は埋葬状態を保った状態で検出された。右側の前腕の骨は右側大腿骨の外側から検出されたが、この位置は解剖学的にみて正常な位置ではない。右側大腿骨の位置も埋葬状態を保っておらず、右側の下腿の骨 (脛骨、腓骨、足の骨) は残存していない。このような人骨の出土状況から、右側の前腕部と右側の下肢は攪乱を受けたと思われる。また、頭蓋も下顎骨と後頭部を残し、それ以外は飛ばされてしまったようである。

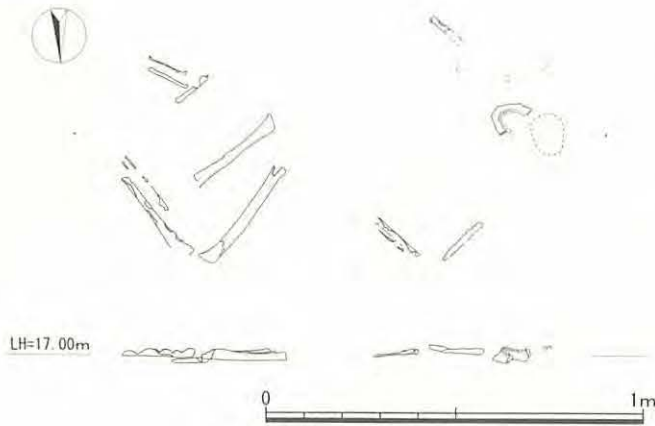


図75 ST01人骨実測図 (S=1/20)

されたようである。

頭蓋は頭蓋底と後頭骨の一部および下顎骨が残存していた。頭蓋底の遺存状態はかなり悪く、骨粉状態であるが、後頭骨の一部と下顎骨の保存状態はきわめて良好である。頭蓋底の下から第二頸椎の歯突起が検出され、また下顎骨の下層には頸椎体の一部が痕跡的に残存していた。

上腕骨は両側の骨体が残存していたが、保存状態はきわめて悪い。大腿骨も両側の骨体が残存していた。前面はかなり傷んでいたが、後面の保存状態は良好である。左側の脛骨と腓骨の保存状態はきわめて悪く、両者とも骨体の一部が残存していたにすぎない。

下顎骨は硬くしまった厚い砂層直下から検出されており、保存状態はきわめて良好で、下顎骨には歯も釘植していたが、左側下顎底には破損跡が認められ、頭蓋は頭蓋底と後頭骨の一部を残して飛ばされており、上顎の歯は散乱状態で検出された。下顎骨と残存している頭蓋の一部の検出状態から、頭蓋は原位置を保っていると思われる。

人骨の検出状態から推測すれば、本人骨は縄文時代後期のある時期に、頭蓋の大部分と右側上肢の一部および右側下肢を攪乱

### ST02 (女性・壮年)



図76 ST02人骨出土状況写真 (南東より)

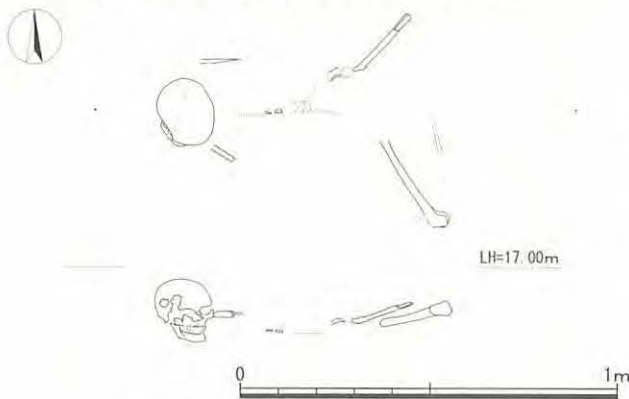


図77 ST02人骨実測図 (S=1/20)

埋葬遺構は土坑墓（配石墓）。墓坑の平面プランは楕円形で、土坑のへりに多数の礫を配置している。

埋葬姿勢は仰臥で、頭位はほぼ西である。右側の膝関節は強く曲げられ屈肢状態で、大腿部は開脚状態（股を広げた状態）である。左側の膝関節の様態は、脛骨と腓骨が残存していないので、不明である。前腕の骨は両側とも残存していないので、肘関節の様態は不明である。

人骨の遺存状態はあまりよくない。残存していたのは頭蓋（下顎骨を含む）、両側の鎖骨、両側の上腕骨、両側の大腿骨と右側の脛骨、両側の寛骨、腰椎体である。寛骨と腰椎体はほとんど痕跡的で、現場で存在を確認できたにすぎない。両側の前腕の骨と左側の下腿の骨は残存していなかった。

人骨はほぼ埋葬状態を保った状態で検出された。頭蓋も本来の位置に存在する。左側の上腕骨は近位部が高く遠位部が低く、

骨体が傾斜した状態で検出されている。頭蓋は顔を右側へ捻って、顔は右（東）方向を向いており、しかも頭蓋底は上腕骨の位置よりもかなり下位に位置している。頭蓋底が上腕骨の高さよりもかなり下位に存在すること、顔を右側へ大きく捻っていることは、本来の埋葬状態を示していないように思えるが、顎関節は正常に関節した状態で、上下の歯がかみ合っており、頭蓋はあたかも据えられたような状態を示している。おそらく埋葬時に、頭の下を深く掘って、その穴に草を詰めて枕とし、顔を立てた状態にして、埋葬したと思われる。埋葬後、植物質の枕は腐朽し、頭蓋が沈下したものと考えられる。

## II 人骨の形質

各人骨の残存部は図2に示すとおりである（ただし、取り上げが可能だった骨のみ）。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

### ST01（男性・壮年）

#### 1. 頭蓋

攪乱を受けた影響で、頭蓋の遺存状態はきわめて悪い。後頭骨の外後頭隆起部周辺の他に脳頭蓋の一部が残存しているにすぎない。外後頭隆起の発達はきわめて良好で、著しく突出している。頭蓋壁はかなり薄い。

下顎骨は、左側の下顎枝を、右側は下顎枝の一部を欠損しているが、保存状態は比較的良好で、やや頑丈である。下顎体はやや高く、オトガイ隆起およびオトガイ結節の発達はきわめて良好である。右側下顎枝の下顎底に近い部分は窪んでおり、咬筋の発達がうかがえる。

#### 2. 歯

下顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

/ 7 6 5 / / / 1	/ / 3 4 5 6 7 /
8 7 6 5 4 3 2 1	1 2 3 4 5 6 7 ⑧ [ / : 不明 (破損) ]

(1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの1度（咬耗がエナメル質のみ）～2度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）で、縄文人としては咬耗が弱い。下顎には風習の抜歯は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

#### 3. 四肢骨

##### (1) 上肢骨

上腕骨、前腕の骨が残存していた。

##### ①上腕骨

右側上腕骨は遺存状態が悪く、残存していたのは骨片のみである。左側の保存状態も悪く、骨体の遠位半分が残存していたにすぎない。三角筋粗面の様態は不明であるが、骨体遠位部は丸く、骨体は細い。

##### ②前腕の骨

両側の橈骨と尺骨が残存していたが、遺存状態はともに著しく悪く、ほとんど取り上げることができず、取り上げることができたのは骨体の一部にすぎない。

##### (2) 下肢骨

大腿骨、脛骨、腓骨が残存していた。

##### ①大腿骨

両側の骨体が残存していたが、右側骨体は前面のみが残存しており、遺存状態は悪い。左側骨体は

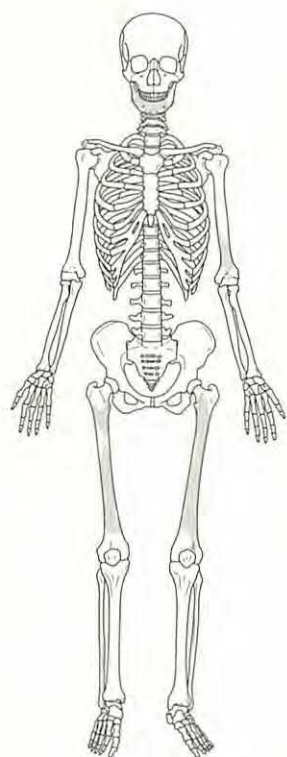


図78 ST01人骨残存部

髓腔内に土が充填していたので形状が保たれており、保存状態は比較的良好である。緻密質は薄い。長さは短く、骨体はやや大きい。粗線は不明瞭で発達も弱い、骨体両側面の後方への発達は比較的良好で、骨体上部の扁平性は弱い。

計測値は、骨体中央周が87mm（左）で、径はやや大きい。骨体中央矢状径は28mm（左）、中央横径が25mm、（左）で、骨体中央断面示数は112.00（左）となり、示数値は大きく、粗線は不明瞭でその発達は弱い、骨体両側面の後方への発達は良好である。また、上骨体断面示数は83.87（左）となり、骨体上部の扁平性は弱い。

### ②脛骨

左側骨体が残存していたが、遺存状態は悪い。骨間縁の一部が観察できたが、その発達は弱い。

### ③腓骨

左側骨体の遠位部が残存していた。稜線は鋭いが、径は小さい。

## 4. 性別・年齢

性別は、外後頭隆起の発達が良好で、大腿骨体の径も大きいことから男性と推定した。縄文人は壮年であっても咬耗が強いのが普通であることから推測すれば、本例は咬耗が弱いので、壮年と考えても大過ないものと思われる。

## ST02（女性・壮年）

### 1. 頭蓋

#### (1) 脳頭蓋

保存状態は悪い。頭蓋腔に充填している土によって、かろうじて形状が保たれている。頭蓋の径は小さく、前頭鱗は膨隆しており、乳様突起はやや大きい。外耳道は両側とも観察できなかった。縫合は、矢状縫合とラムダ縫合の外板のみが観察できた。外板は矢状縫合、ラムダ縫合とも開離している。多少脳頭蓋は変形しているが、頭型を知るために頭蓋最大長と頭蓋最大幅を計測してみた。頭蓋最大長は（171）mm、頭蓋最大幅は（142）mmで、頭蓋長幅示数は（83.04）となり、頭型は短頭型である。

#### (2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋も土の充填により辛うじて形をとどめているが、土圧により上下方向に変形している（潰れている）。眉上弓の隆起はほとんどみられない。鼻骨は小さい。頬骨も小さく、顔面はかなり小さい。また、上顎骨もそれほど頑丈ではない。

下顎骨の保存状態は比較的良好である。下顎切痕は浅く、下顎枝はやや広い。下顎体は低く、咬筋粗面の発達は悪い。

### 2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8 7 6 5 4 ③ ② ①	① ② ③ 4 5 6 7 ⑧
8 ⑦ 6 5 4 3 ② ①	① 2 3 4 5 6 7 / [○：歯槽開存 ●：歯槽閉鎖 /：不明]

(1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大白歯、7：第二大白歯、8：第三大白歯)



咬耗度は Broca の 1 度（咬耗がエナメル質のみ）で、咬耗は弱い。上顎の左側側切歯の歯槽は閉鎖しており、風習的抜歯の可能性が強い。歯の咬合形式は不明である。

### 3. 四肢骨

鎖骨、上腕骨、大腿骨が残存していた。

#### (1) 上肢骨

##### ①鎖骨

両側が残存していたが、遺存状態はきわめて悪い。左側の観察ができたが、鎖骨は細くて、小さい。

##### ②上腕骨

左側骨体の中央部付近が残存していたが、保存状態は著しく悪い。骨体は著しく細い。三角筋粗面の様態は観察できない。

計測値は、中央周が55mm（左）で、骨体は著しく細い。中央最大径は18mm（左）、中央最小径が15mm（左）で、骨体断面示数は83.33（左）となり、骨体中央部には扁平性は認められないが、遠位部は扁平である。

#### (2) 下肢骨

##### ①大腿骨

両側の骨体が残存していた。長さは短く、骨体は著しく細い。粗線は中央部ではやや明瞭であるが、両端は不明瞭である。骨体両側面の後方への発達はやや良好である。右側骨体上部は扁平で、骨体近位部が外側へ大きく捻転している。

計測値は、骨体中央周は67mm（右）、68mm（左）で、骨体は著しく細い。骨体中央矢状径は22mm（右）、21mm（左）、中央横径は19mm（右）、21mm（左）、骨体中央断面示数は115.79（右）、100.00（左）となり、粗線の発達は強くはないが、右側は骨体両側面の後方への発達がやや良好である。また、上骨体断面示数は78.26（右）、83.33（左）となり、右側の骨体上部には扁平性がみられる。

### 4. 性別・年齢

性別は、前頭鱗が膨隆し、眉上弓の隆起もみられないことや、四肢骨が著しく小さいことから女性と推定した。観察できた矢状縫合とラムダ縫合の外板が開離していることや、ST01の場合と同じように咬耗がかなり弱いことから、年齢を壮年としても差し支えないと思われる。

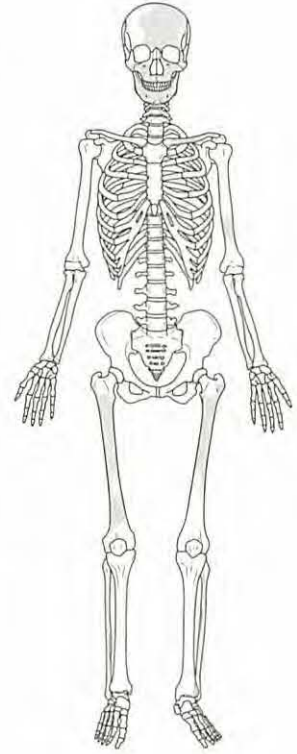


図79 ST02人骨残存部

## 考 察

計測ができた上腕骨と大腿骨について、熊本県内および周辺地域の縄文人骨の資料と比較してみた。

### 1. 上腕骨

表4は女性上腕骨の比較表である。ST02の中央周は55mm（左）で、表4では最小値となり、出水の56mm、天岩戸の57mmに最も近く、骨体は極めて細い。骨体断面示数は83.33（左）で、表4では最大値となり、骨体には扁平性は認められない。

### 2. 大腿骨

表5は男性大腿骨の比較表である。ST01の骨体中央周は87mm（左）で、脇岬の90.50mm、宮の本の90mm、吉胡の89.8mmよりは小さいが、出水の79mmや白浜の80mmよりは大きく、津雲の86.8mmと大差なく、男性の大腿骨体の径はやや大きい。中央断面示数は112.00（左）で、堂崎と同

値で、阿高の117.58、吉胡の116.7、脇岬の115.17、津雲の114.6に次いで大きく、粗線の発達こそ悪いが、骨体両側面の後方への発達は良好である。

表6は女性大腿骨の比較表である。ST02の骨体中央周は67mm（右）で、表6では最小値となり、女性の大腿骨は極めて小さい。中央断面示数は115.79（右）で、天岩戸の119.05、出水の116.67に次いで大きく、男性同様、粗線の発達が悪いが、骨体両側面の後方への発達は良好である。

### 3. 黒髪縄文人骨の評価

縄文人には弥生人とは違って、形質的な地域差が存在しない。北海道の縄文人も本州・四国・九州や沖縄の縄文人もまったく同じ形質を示している。骨質の堅牢さは共通しており、一様に鼻骨が隆起し鼻根部には陥凹がみられ、ホリの深い容貌を呈している。しかし、質的には同じ特徴をもってはいいるが、サイズには違いが見られる。大柄な縄文人もいれば小柄な縄文人も存在する。黒髪縄文人の四肢骨は、男性はそれほど細くはないが、女性の上腕骨と大腿骨はきわめて細く、きゃしゃである。すなわち男性の大腿骨の大きさは岡山県の津雲と大差なく、また同じ熊本県の御領や阿高と同じ程度と考えて大過ないものと思われる。一方、女性の上腕骨と大腿骨は著しく細い。九州内でみると、上腕骨は出水や天岩戸と同じように細く、大腿骨も天岩戸と同じように細く、きゃしゃである。大腿骨の柱状性については、男女とも粗線の発達は弱いものの、骨体両側面は後方へ延伸しており、大腿部の筋の発達がかなり良好だったことがうかがえる。食料資源確保のための運動形態は男女ともに変わらなかったようであるが、骨の大きさには大きな違いが見られる。2体とも歯の咬耗が弱いことから、食料資源の質に違いはなかったと考えられる。女性の方がきゃしゃなのは健康状態の違いが原因なのか、それとも遺伝的な要因によるものかはわからない。男女間の差が大きい現象は、縄文人の場合はよくみられることではあるが、本例はその程度が顕著である。

## 要 約

熊本市中央区黒髪二丁目に所在する黒髪遺跡群1310地点の発掘調査が2014（平成26）年におこなわれ、2基の埋葬遺構から縄文時代後期の人骨が2体出土した。保存状態はあまりよくなかったが、人類学的観察や計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 土坑墓（ST01）からは男性骨が、配石墓（ST02）からは女性骨が検出された。埋葬姿勢は2体とも仰臥で、頭位はともにほぼ西であった。年齢はともに壮年と考えられる。
2. この2体の人骨は、考古学的所見から、縄文時代後期前葉に属する人骨である。
3. 男性頭蓋の遺存状態は悪く、頭型も顔面の特徴も不明である。女性頭蓋の保存状態も悪く、顔面の形態は不明であるが、頭型は短頭型である。
4. 女性には上顎左側切歯の風習的抜歯が認められる。
5. 男性大腿骨の骨体中央周は87mmで、大腿骨は比較的大きい。
6. 女性上腕骨の中央周は55mm、大腿骨の骨体中央周は67mmで、女性四肢骨は極めて小さく、きゃしゃである。
7. 大腿骨の中央断面示数は、男性は112.00、女性は115.79で、男女ともに粗線の発達はやや弱いだが、骨体両側面の後方への発達は良好で、柱状性がみられる。
8. 男性の大腿骨の大きさは熊本県内の一般的な縄文人なみであるが、女性は著しく小さく、きわめてきゃしゃである。大腿骨には男女ともに柱状性がみられることから、ともに大腿部の筋を酷使用する生業形態がうかがえる。男女ともに歯の咬耗が弱いことから食糧資源が十分ではなかったことが予想される。女性の四肢骨は著しくきゃしゃであるが、この特徴は熊本市内の縄文人に共通

した特徴なのかは、例数が少なく、考察できない。またその要因を明らかにするためには彼らの生活空間の解明も必要である。

#### 謝辞

＜擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本大学埋蔵文化財センターの皆様方に感謝致します。＞

#### ＜参考文献＞

1. 金関丈夫・他、1952：熊本県下益城郡豊田村御領貝塚発掘人骨について（会）。福岡医学会雑誌、43：1032-1033.
2. 金関丈夫・他、1955：熊本県下益城郡豊田村御領貝塚発掘の人骨について。人類学研究、2：93-163.
3. 北条暉幸・他、1971：熊本県天草郡沖の原貝塚人骨とその遺物。人類学雑誌、79：70.
4. 松野 茂・他、1967：肥後国上益城郡嘉島村六嘉かきわら貝塚出土人骨について。熊本医学会雑誌、41：41-52.
5. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag, Stuttgart：429-597.
6. 松下真実、2009：沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀 要第4号（沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡発掘調査報告（1））：42-57.
7. 松下真実・他、2010：沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨（2）土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 研究紀要第6号：28-49.
8. 松下真実・松下孝幸、2018：熊本市託麻弓削群第5区出土の縄文人骨。託麻弓削遺跡群2（熊本県文化財調査報告第331集）：195-204.
9. 松下孝幸・他、1983a：佐賀県唐津市菜畑遺跡出土の人骨。菜畑遺跡（唐津市文化財調査報告5）：388-398.
10. 松下孝幸・他、1986：熊本県小川町七ツ江カキワラ貝塚出土の縄文時代人骨。七ツ江カキワラ貝塚・竹の下貝塚（熊本県文化財調査報告第79集）：39-70.
11. 松下孝幸・他、2009：佐賀市東名遺跡出土の縄文早期人骨。東名遺跡群Ⅰ第4分冊（佐賀導水事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5）（佐賀市文化財調査報告書第150集）：16-23.
12. 松下孝幸・他、2016：東名遺跡出土の縄文早期人骨の特徴とその意義。東名遺跡群Ⅳ（東名遺跡群総括報告書）（佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集、東名遺跡再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2）第1分冊【堆積層・遺構編】：101-114.
13. 松下孝幸、2016：東名遺跡出土人骨の特徴。東名遺跡群Ⅳ（東名遺跡群総括報告書）（佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集、東名遺跡再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2）第4分冊【総括編】：63-65.
14. 松下孝幸、2017：骨からわかる東名縄文人の特徴。佐賀市教育委員会編『東名遺跡』：164-171. 雄山閣
15. 内藤芳篤、1973：沖の原遺跡の人骨。長崎大学解剖学第二教室。
16. 内藤芳篤、1974：天草・沖の原遺跡出土の人骨について（会）。解剖学雑誌、49：207.
17. 内藤芳篤・他、1978：天岩戸岩陰遺跡出土の人骨について。菊池川流域文化財調査報告書（熊本

- 県文化財調査報告31)：117-121.
18. 小方保、1981：縄文時代人骨。人類学講座5 日本人Ⅰ：27-55. 雄山閣
  19. 岡本辰之輔、1929：肥後国下益城郡阿高貝塚人人骨の人類学的研究（頭蓋骨に就いて）第一報。人類学雑誌、44（第一附録）：1-26.
  20. 岡本辰之輔、1929：肥後国下益城郡阿高村西阿高貝塚人人骨の人類学的研究（其の二、四肢骨について）。人類学雑誌、44（第三附録）：77-105.
  21. 大森浅吉・他、1957：阿高貝塚人の下顎骨について。鹿児島医学会雑誌、30：408-421.
  22. 大森浅吉、1960：故南山大学教授中山英司博士により測定された阿高貝塚人骨の測定値。人類学研究、7（附録）：211-223.
  23. 大森浅吉・他、1960：薩摩国出水貝塚出土（昭和29年）の人骨について。鹿児島医学会雑誌、33：269-283.
  24. 鈴木文太郎、1918：肥後藩貝塚河内道明寺にて発掘せる人骨に就いて。人類学雑誌。33：59-66.
  25. 田幡丈夫、1930：肥後国下益城郡阿高村西阿高貝塚人人骨の人類学的研究（其の三、骨盤骨に就いて）。人類学雑誌、45：425-433.

---

\*Masami MATSUSHITA、\*\*Takayuki MATSUSHITA

The Organization of Anthropological Research [特定非営利活動法人・人類学研究機構]

表8 上腕骨計測値(女性、右、mm) (Table. 8 Comparison of measurements and indices of female right humeri)

黒髪1310	御領		阿高		カキワラ		天岩戸		出水		津雲		吉胡	
	縄文晩期人 熊本市 熊本市 (松下)	縄文晩期人 熊本市 熊本市 (金関・他)	縄文中期人 熊本市 熊本市 (大森)	縄文中期人 熊本市 熊本市 (大森)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 山鹿市 (内藤)	縄文中期人 熊本市 出水市 (大森・他)	縄文中期人 熊本市 出水市 (大森・他)	縄文後期人 岡山県 笠岡市 (清野・他)	縄文後期人 岡山県 笠岡市 (清野・他)	縄文後期人 岡山県 笠岡市 (清野・他)	縄文後期人 岡山県 笠岡市 (清野・他)	縄文後期人 岡山県 笠岡市 (清野・他)	縄文後期人 岡山県 笠岡市 (清野・他)
ST02	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 上腕骨最大長	-	-	2	267.5	-	-	283	-	1	237	13	266.2	20	272.3
5. 中央最大径	18	-	7	21.29	22	(左)	20	-	2	20.00	25	20.4	35	21.6
6. 中央最小径	15	-	7	16.43	17	(左)	14	-	2	14.00	25	14.0	35	16.2
7. 骨体最小周	-	-	7	59.43	58	(左)	54	-	1	54	23	55.3	40	60.5
7(a). 中央周	55	-	-	-	64	(左)	57	-	1	56	25	58.6	22	62.6
6/5 骨体断面示数	83.33	-	7	77.43	77.27	(左)	70.00	-	2	70.71	26	69.0	36	71.2
7/1 長厚示数	-	-	2	20.40	-	-	-	-	1	22.78	13	20.5	17	22.5

表9 大腿骨計測値(男性、右、mm) (Table. 9 Comparison of measurements and indices of male right femora)

黒髪1310	御領		阿高		カキワラ		鷹岬		堂崎		白浜		宮の本		出水		津雲		吉胡	
	縄文晩期人 熊本市 熊本市 (松下)	縄文晩期人 熊本市 熊本市 (金関・他)	縄文中期人 熊本市 熊本市 (大森)	縄文中期人 熊本市 熊本市 (大森)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)
ST01	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 最大長	1	433.0	3	417.33	2	434.50 (左)	2	406	1	362	13	418.2	22	412.9						
4. 自然位脛子長	1	394.0	-	-	3	399.33 (左)	3	380	-	-	13	394.7	20	390.0						
6. 骨体中央矢状径	28	(左)	2	27.50	15	30.07 (左)	2	27.00 (左)	1	28	1	29	19	29.3						
7. 骨体中央横径	25	(左)	2	27.25	15	25.60 (左)	2	25.50 (左)	1	25	1	28	19	25.5						
8. 骨体中央周	87	(左)	2	86.00	15	88.73 (左)	2	85.00 (左)	1	85	1	90	19	86.8						
9. 骨体上横径	31	(左)	2	41.25	15	30.53 (左)	2	30.00 (左)	1	29	1	30	19	30.1						
10. 骨体上矢状径	26	(左)	2	30.00	15	25.53 (左)	2	23.50 (左)	1	22	1	25	21	24.2						
8/2. 長厚示数	1	20.5	3	25.97	2	21.18 (左)	2	19.80	-	-	1	22.01	13	22.0						
6/7. 骨体中央断面示数	112.00	-	2	100.9	15	117.58 (左)	2	105.93 (左)	1	103.57	1	104.17	19	114.6						
10/9. 上骨体断面示数	83.87	-	2	72.7	15	83.79 (左)	2	78.59 (左)	1	83.33	1	128.57	21	79.5						

表10 大腿骨計測値 (女性、右、mm) (Table. 10 Comparison of measurements and indices of female right femora)

	黒髪1310		御領		阿高		曾畑		カキワラ		天岩戸		出水		山鹿		津雲		吉胡			
	縄文人 熊本市 (松下)	ST02	縄文晩期人 熊本市 (金岡・他)	n	M	縄文中期人 熊本市 (大森)	n	M	縄文人 熊本市 宇土市 (松下・他)	2号	縄文後期人 熊本市 宇城市 (松下・他)	n	M	縄文晩期人 熊本市 山鹿市 (内藤)	n	M	縄文後期人 熊本市 笠岡市 (清野・他)	n	M	縄文人 愛知県 田原市 (金高)	n	M
1. 最大長	-	-	-	-	5	391.8	-	-	-	-	-	-	-	-	3	394.7	16	382.9	18	384.8	18	384.8
4. 自然位転子長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	260	12	363.3	18	364.3	18	364.3
6. 骨体中央矢状径	22	22	1	26.5	18	27.17	25	22.33	3	22.33	25	25	2	28.00	6	24.2	26	25.0	66	26.2	66	26.2
7. 骨体中央横径	19	19	1	24.5	18	25.44	24	23.00	3	23.00	21	21	2	24.00	6	24.2	26	24.0	67	24.4	67	24.4
8. 骨体中央周	67	67	1	80.0	19	82.74	79	73.00	3	73.00	72	72	1	81	6	79.0	26	77.4	66	80.7	66	80.7
9. 骨体上横径	23	23	1	30.5	17	29.76	-	28.00	3	28.00	25	25	2	25.50	6	28.5	25	28.3	59	28.9	59	28.9
10. 骨体上矢状径	18	18	1	21.0	17	23.71	-	19.67	3	19.67	23	23	2	22.50	6	23.0	25	21.6	59	22.8	59	22.8
8/2 長厚示数	-	-	-	-	4	21.22	-	-	-	-	-	-	-	-	3	19.8	16	20.5	18	20.7	18	20.7
6/7 骨体中央断面示数	115.79	115.79	1	108.2	18	107.33	104.17	97.09	3	97.09	119.05	119.05	2	116.67	6	107.6	26	103.9	66	107.7	66	107.7
10/9 上骨体断面示数	78.26	78.26	1	68.9	16	79.24	-	70.37	3	70.37	92.00	92.00	2	89.11	6	80.9	25	76.6	59	78.7	59	78.7

表11 下顎骨 (男性、mm、度)  
(Mandibula)

黒髮1310		黒髮1310	
ST01	男性	ST02	女性
65	下顎関節突起幅	-	-
65(1)	下顎筋突起幅	-	-
66	下顎角幅	-	-
67	前下顎幅	46	-
68	下顎長	-	-
68(1)	下顎長	-	-
69	オトガイ高	(32)	-
69(1)	下顎体高(右)	(34)	7
69(2)	下顎体高(左)	(25)	12
70	枝高(右)	-	-
70(1)	前枝高(右)	-	31
70(2)	最小枝高(右)	-	-
70(3)	下顎切痕高(右)	-	58.33
71(1)	下顎切痕幅(右)	-	-
71	枝幅(右)	-	-
71a	最小枝幅(右)	-	-
79	下顎枝角(右)	-	-
66/65	下顎幅示数	-	-
68/65	幅長示数	-	-
68(1)/65	幅長示数(右)	-	-
69(2)/69	下顎高示数(右)	78.13	-
71/70	下顎枝示数(右)	-	-
71a/70(2)	下顎枝示数(右)	-	-
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)	-	-

表13 上腕骨 (mm) (Humerus)

黒髮1310		黒髮1310	
ST01	男性	ST02	女性
1.	上腕骨最大長(右)	-	-
	(左)	-	-
2.	上腕骨全長(右)	-	-
	(左)	-	-
3.	上端幅(右)	-	-
	(左)	-	-
3(1)	横上径(右)	-	-
	(左)	-	-
4.	下端幅(右)	-	-
	(左)	-	-
5.	中央最大径(右)	-	18
	(左)	-	-
6.	中央最小径(右)	-	15
	(左)	-	-
7.	骨体最小周(右)	-	-
	(左)	-	-
7(a)	中央周(右)	-	-
	(左)	55	-
8.	頭周(右)	-	-
	(左)	-	-
9.	頭最大横径(右)	-	-
	(左)	-	-
10.	頭最大矢状径(右)	-	-
	(左)	-	-
11.	滑車幅(右)	-	-
	(左)	-	-
12.	小頭幅(右)	-	-
	(左)	-	-
12(a)	滑車幅および小頭幅(右)	-	-
	(左)	-	-
13.	滑車深(右)	-	-
	(左)	-	-
14.	肘頭高幅(右)	-	-
	(左)	-	-
15.	肘頭高深(右)	-	-
	(左)	-	-
6/5	骨体断面示数(右)	-	83.33
	(左)	-	-
7/1	長厚示数(右)	-	-
	(左)	-	-

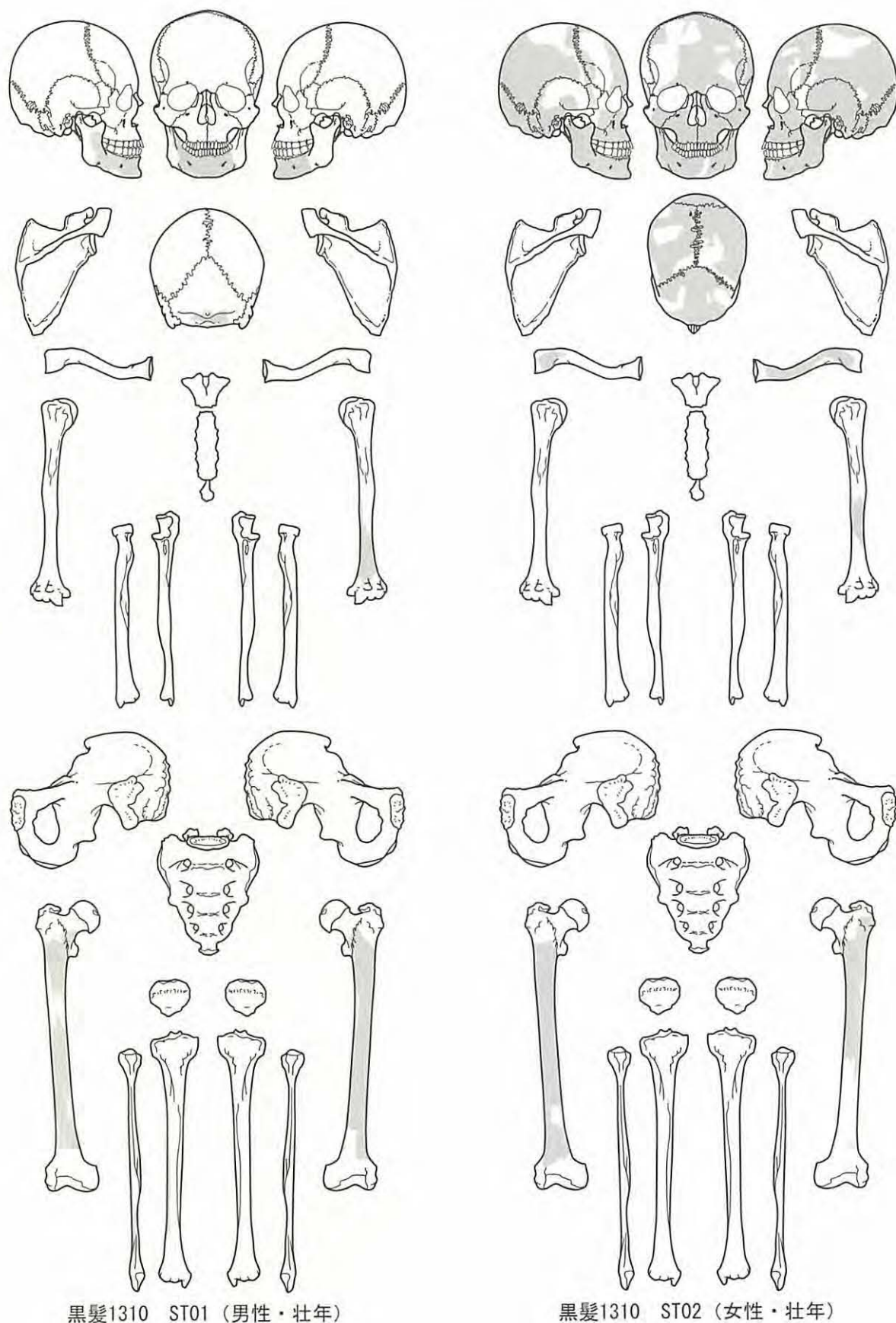
表14 大腿骨 (男性、mm) (Femur)

黒髮1310		黒髮1310	
ST01	男性	ST02	女性
1.	最大長(右)	-	-
	(左)	-	-
2.	自然位全長(右)	-	-
	(左)	-	-
3.	最大転子長(右)	-	-
	(左)	-	-
4.	自然位転子長(右)	-	-
	(左)	-	-
6.	骨体中央矢状径(右)	-	22
	(左)	(21)	-
7.	骨体中央横径(右)	-	19
	(左)	(21)	-
8.	骨体中央周(右)	-	67
	(左)	87	68
9.	骨体上横径(右)	-	23
	(左)	31	24
10.	骨体上矢状径(右)	-	18
	(左)	26	20
15.	頸垂直径(右)	-	-
	(左)	-	-
16.	頸矢状径(右)	-	-
	(左)	-	-
17.	頸周(右)	-	-
	(左)	-	-
18.	頭垂直径(右)	-	-
	(左)	-	-
19.	頭横径(右)	-	-
	(左)	-	-
20.	頭周(右)	-	-
	(左)	-	-
21.	上顆幅(右)	-	-
	(左)	-	-
8/2	長厚示数(右)	-	115.79
	(左)	-	100.00
6/7	骨体中央断面示数(右)	-	112.00
	(左)	-	78.26
10/9	上骨体断面示数(右)	-	83.87
	(左)	-	83.33

表15 形態小変異

	黒髪1310 ST01		黒髪1310 ST02	
	男性		女性	
	右	左	右	左
1. Medial palatine canal	/	/	/	/
2. Pterygospinous foramen	/	/	/	/
3. Hypoglossal canal bridging	/	/	/	/
4. Clinoid bridging	/	/	/	/
5. Condylar canal absent	/	/	/	/
6. Tympanic dehiscence, Foramen of Huschke(>1mm)	/	/	/	/
7. Jugular foramen bridging	/	/	/	/
8. Precondylar tubercle	/	/	/	/
9. Supra-orbital foramen(incl.frontal foramen)	/	/	/	/
10. Accesory infraorbital foramen	/	/	/	-
11. Zygo-facial foramen absent	/	/	/	/
12. Aural exostosis	/	/	/	/
13. Metopism	/		-	
14. Os incae	/		-	
15. Ossicle at the lambda	/		-	
16. Parietal notch bone	/	/	/	/
17. Transverse zygomatic suture(>5mm)	/	/	/	/
18. Asterionic ossicle	/	/	/	/
19. Occipitomastoid ossicle	/	/	/	/
20. Epipteric ossicle	/	/	/	/
21. Frontotemporal articulation	/	/	/	/
22. Biasterionic suture(>10mm)	/	/	/	/
23. Mylohyoid bridging	-	/	/	/
24. Accessory mental foramen	-	-	-	-
25. Mandibular torus	-	-	/	/
26. 滑車上孔	/	/	/	/



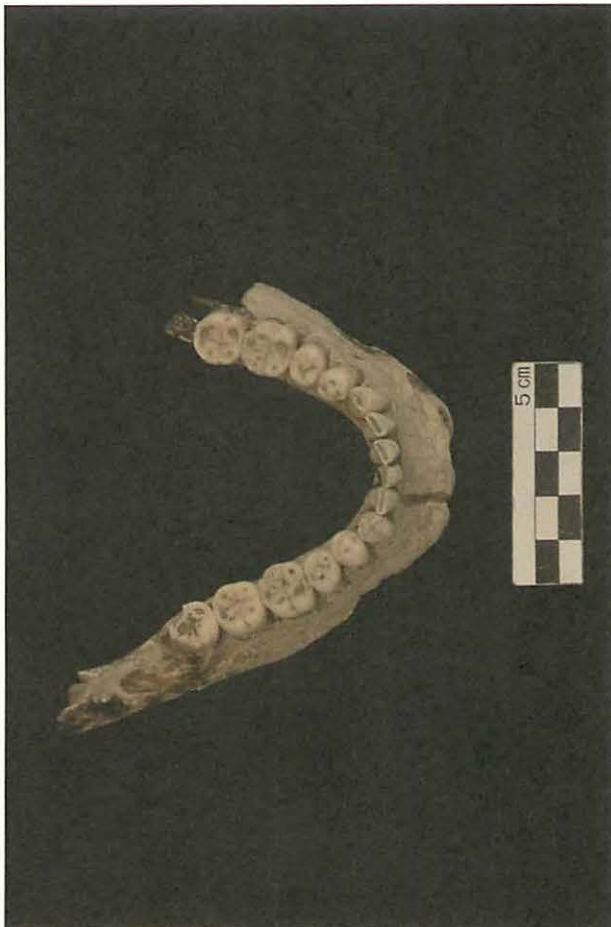


黒髪1310 ST01 (男性・壮年)

黒髪1310 ST02 (女性・壮年)

図80 人骨の残存部 (アミかけ部分)

(Fig. 80 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



下顎骨 (The mandible)

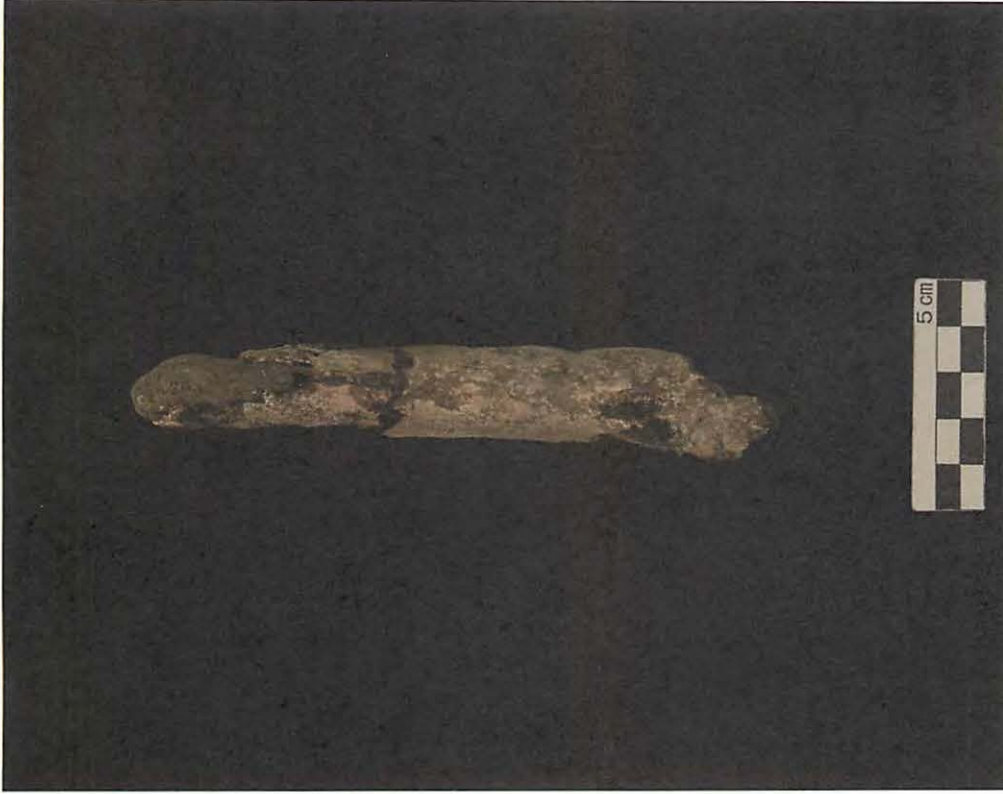


頭蓋 (The skull)

図81 黒髪1310 ST01人骨 (男性・壮年)  
(The skeleton ST01 from Kurokami 1310 site. young adult male)

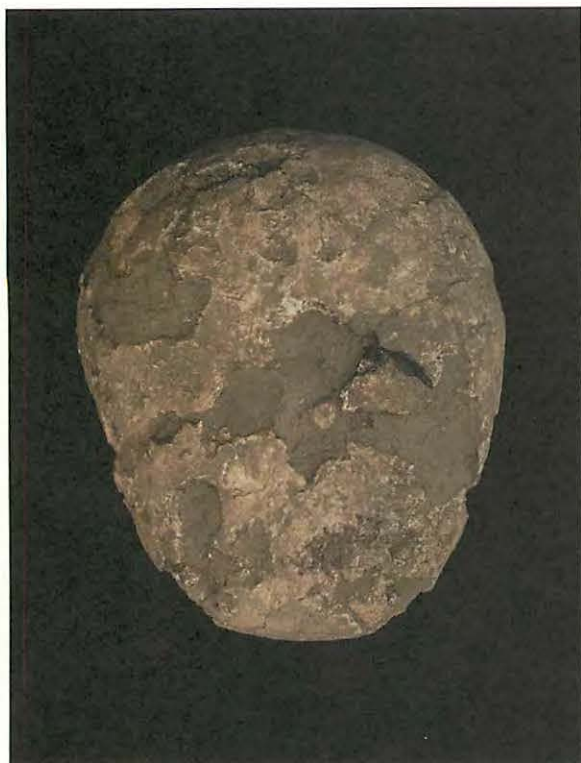


下肢骨 (Bones of the lower limb)

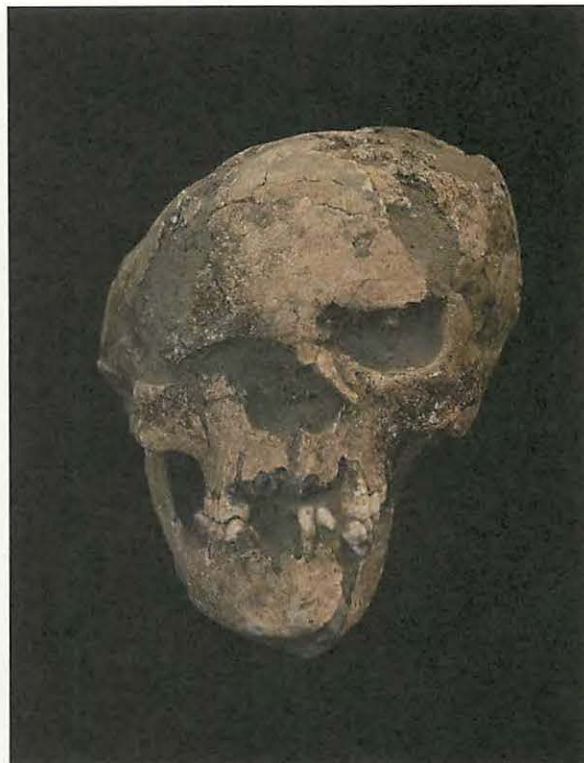


左上腕骨 (The left humerus)

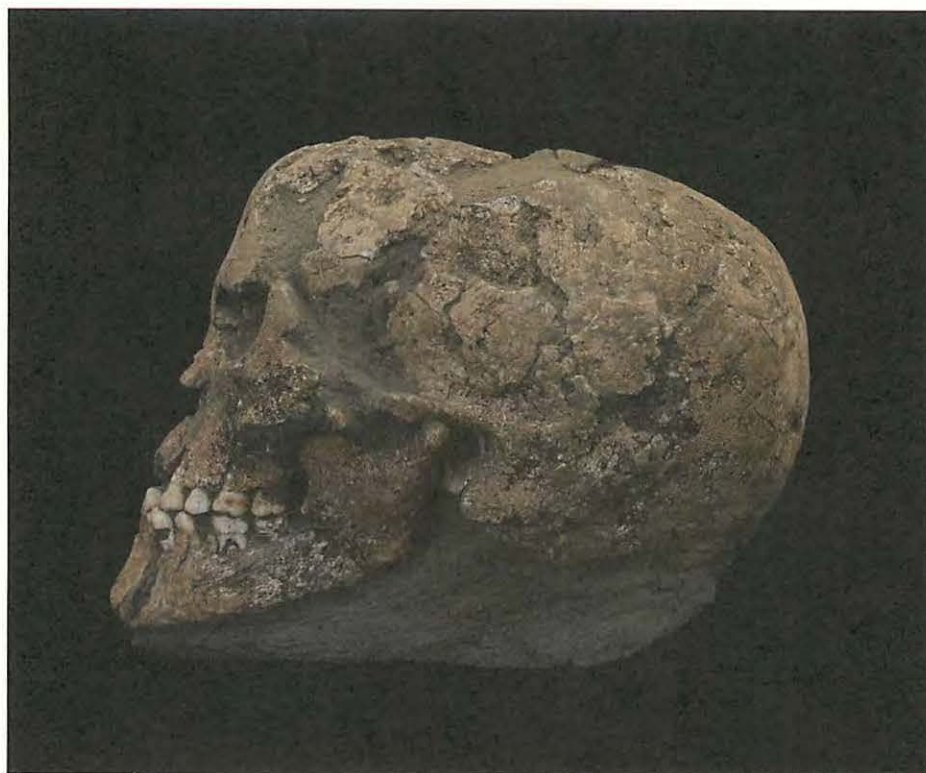
図82 黒髪1310 ST01人骨 (男性・壮年)  
(The skeleton ST01 from Kurokami 1310 site, young adult male)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)

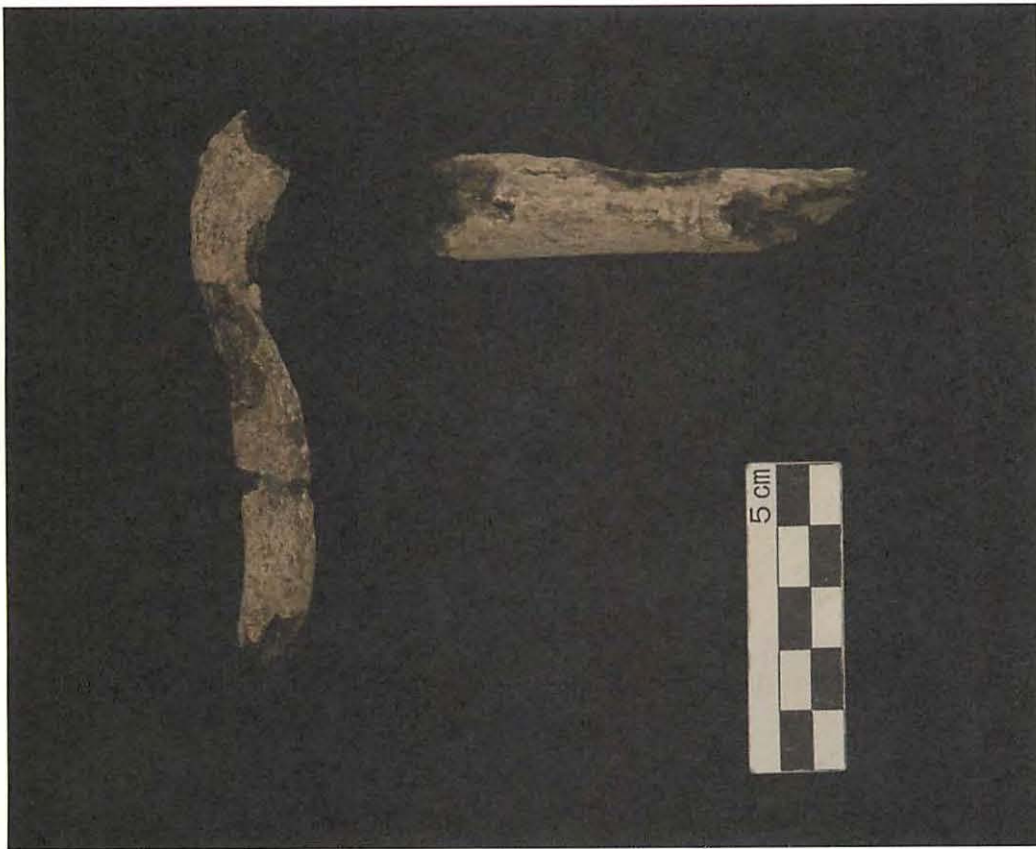


頭蓋正面 (Frontal view of the skull)

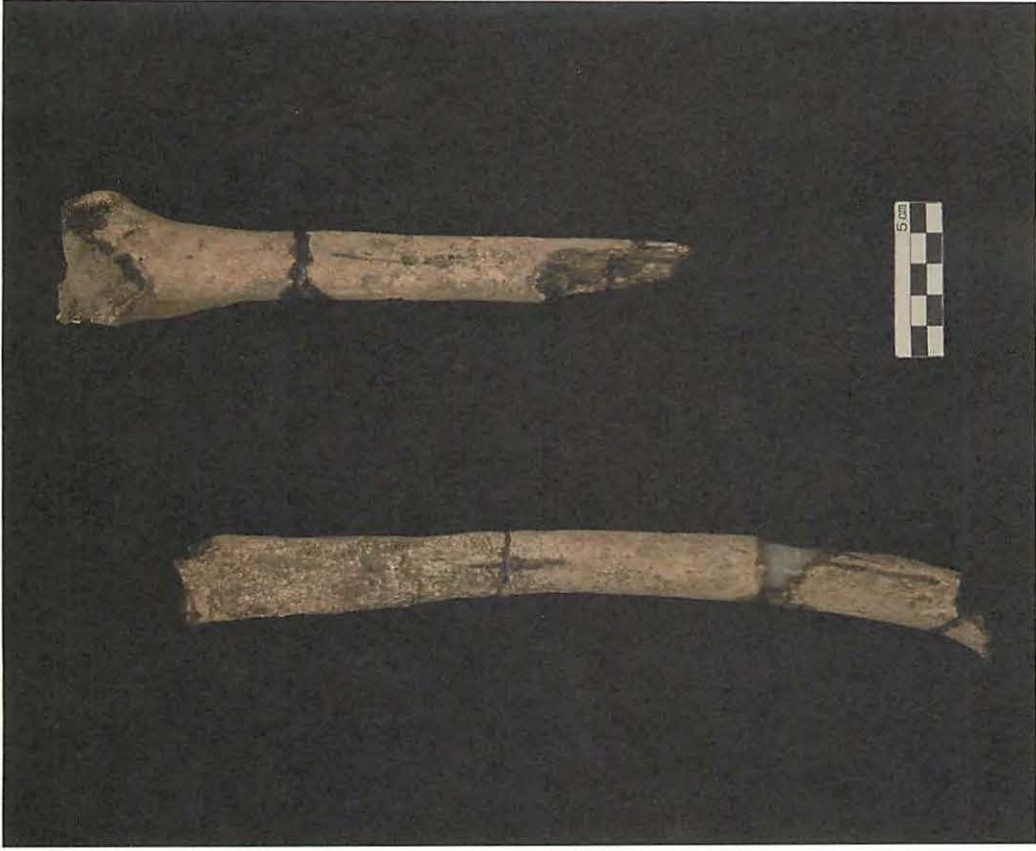


頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

図83 黒髪1310 ST02人骨 (女性・壮年)  
(The skeleton ST02 from Kurokami 1310 site. young adult female)



左側鎖骨、左側上腕骨 (The left clavícula, humerus)



大腿骨 (The femur)

図84 黒髪1310ST02人骨 (女性・壮年)  
(The skeleton ST02 from Kurokami 1310 site, young adult female)

## Summary

In 1985, Kumamoto University planned a reconstruction of campus. But it was known that some of campus is designated as buried cultural assets zone. In the fiscal year 1994, Kumamoto University formed the Archaeological investigation committee and the Research Center for buried Cultural Properties in haste, and has been excavating the campus sites when the superannuated school buildings were rebuilt.

We have two main campus sites at other areas. The one is the Kurokami area where is constituted of faculty of Science and faculty of Engineering (south area), faculty of Education, faculty of Law, and faculty of Letters (north area), and locates in Kurokamimachi site. The site is located at the foot of Mt. Tatuta on a low terrace formed by the Shirakawa River. The site is regarded as an ancient posting-station "Kokai". The other one is the Honjo area where is constituted of School of Medicine, Kumamoto University hospital and institutes (north and middle area), school of Health Science (south area), and belong to Honjo site. The site located on a low terrace formed by Shirakawa River, similar to Kurokamimachi site. It is 2km from Kurokamimachi site to Honjo site in a straight line. In the circumstance of Honjo site, there are large ancient settlement sites like Oe site and Shinyashiki site. School of Pharmacy and Oe athletic field (Toroku area) belong to Oe site. Kyomachi area where is constituted Elementary School and Junior High School Attached to faculty of Education is belong to Kyomachidai site. The site is located on the Kyomachi plateau, and is famous for as the site of Yayoi period.

The result of the No.1310 in Kurokami South area where was investigated in the fiscal years 2013 to 2014 are published in this report. No.1310 is located west in Kurokami South area. The investigated area is surrounded by the building of department of Science. In a previous survey, we discovered the pit dwellings and ditch in Nara and Heian period. So we expected that there will be remains what is good condition in this investigation too. In this survey, in addition to discovering many features in Nara and Heian period, we have gained important research results such as finding the cultural layer of the late Jomon period from the layer which was conventionally thought not to have human ruins.

The result of investigation, we found the cultural layer what contained many artifacts such as pottery in Late Jomon period. From this site, Izumi type and Mitarai A type old stage pottery in the late Jomon period first stage and stone tools and baked clay objects were excavated. According to the accumulation situation of the artifacts, we thought that the village was built on the river terraces of Shirakawa river from a certain period in the late Jomon period. Many of the artifacts found in this survey were thought to have been disposed of around the village or inclined area close to the river. In the southeast of the investigation area, the burial which is outlined by stone alignments and a pit burial of the late Jomon period were discovered from about 2m below the surface of the earth. Human bones were one man and one woman, and were buried with their arms and legs bent. Since at least three human bones are found in a narrow range, there is a strong possibility that this surrounding was a graveyard. The results of this survey can be an indicator of excavation survey in Kurokami south area in the future.

## 概 要

1985年，熊本大学曾计划过现在校园的重建开发项目。然而得知校园内几个地区是被指定的地下文物的埋藏地。1994年，熊本大学作为考古研究机构迅速成立了文物保护研究所，在重建老朽化建筑物时，对校园地下进行挖掘调查。

大学有两个主要的校区。第一个是属于黑发町遗迹群的黑发校区。黑发校区由教育学部，法学部，文学部（北地区），工学部和理学部（南地区）组成。遗迹位于立田山的山脚下，在白川形成的低阶地位置，推断古代的车站「蚕养」站就是在这。

另一个是属于本庄遗迹群的本庄校区。本庄校区由熊本大学附属病院（北地区），熊本大学医学部（中地区），保健学科（南地区）组成。遗迹位于白川的低位阶地上，与黑发町遗迹群类似。黑发町遗迹群和本庄遗迹直线距离相隔2公里。本庄遗迹的周围有大江遗迹群和新屋敷遗迹，都是巨大的古代村落遗迹。熊本大学的药学部和运动场（渡鹿地区）都属于大江遗迹群。教育学部附属小学校和中学校所在地京町地区属于京町台遗迹群。遗迹是位于京町台地上，作为弥生时代的遗迹非常有名。

本报告书记载了从2013年度到2014年度被调查的1310调查地的挖掘调查成果。1310调查地点位于黑发南地区的东侧，夹在立田山和白川的低位河岸的中间。调查地点被理工学部教学楼设施所包围着。在以往的调查中，从周边发现了古代的竖穴建筑物和沟渠等，预测遗迹也会很好的保存下来。在本次的调查中，不仅确认发现了古代的遗迹，从至今以来认为不存在的土层里发现了绳文时代后期的文化层等，取得了重要的调查成果。本报告书将对关于绳文时代的遗址，遗物进行报告。

调查结果发现了多个包含了绳文时代后期的陶器等出土品的文化层。陶器以绳文时代后期前叶的出水式和御手洗A式古阶段为主，此外还出土了石器和土制品。从遗迹的堆积状况可以推测，从绳文时代后期的某个时期开始在白川的河岸梯田上有个村落。这次发现的出土品有很多都被认为是被遗弃在村落周围和倾斜部等处的物品。此外，在调查区东南方向的地表下约2米处发现了绳文时代后期的配石墓和土坑墓。男女各1具，手臂和脚都是呈弯曲状态被埋葬的。在狭窄的范围内至少检测出3具人骨，由此表明周围是墓地的可能性很大。本调查的成果将成为今后黑发南地区的挖掘调查的指标。





写 真 图 版





写真1 I37区東側古代遺構完掘状況(西より)



写真2 I37区東側5a層遺物出土状況(東より)



写真3 I37区東側5a層遺物出土状況近影(西より)



写真4 I37区5b層遺物出土状況(東より)



写真5 I37区5b層遺物出土状況(西より)



写真6 I37区落ち込み内出遺物出土状況(南より)



写真7 I37区調査終了状況(西より)



写真8 I37区西側深堀後状況(西より)

図版2 1310調査地点



写真9 I 37区北壁土層断面 (南より)



写真10 I 38区古代遺構完掘状況 (南より)



写真11 I 38区5 b層遺物出土状況 (南より)



写真12 I 38区5 b層遺物出土状況近影 (北より)



写真13 I 38区完掘状況 (南より)



写真14 I 38区東壁土層断面 (西より)



写真15 II 32区西側東壁土層断面 (西より)



写真16 III 1区近世・古代溝土層断面北壁 (北西から)



写真17 Ⅲ1区古代遺構完掘状況(南より)



写真18 Ⅲ1区5b層縄文土器出土状況近影(西より)



写真19 Ⅲ1区5a層遺物出土状況(西より)



写真20 Ⅲ1区5b層遺物出土状況(南より)



写真21 Ⅲ1区完掘状況(西より)



写真22 Ⅲ1区北側完掘状況(北より)



写真23 Ⅲ1区東側北壁土層断面(南より)



写真24 Ⅲ2区北側古代遺構完掘状況(南より)

図版4 1310調査地点



写真25 Ⅲ2区南側古代遺構完掘状況（北より）



写真26 Ⅲ2区中央部7層遺物出土状況（南より）



写真27 Ⅲ2区南側7層遺物出土状況近影（南より）



写真28 Ⅲ2区9層動物骨検出状況近影（北より）



写真29 Ⅲ2区南側完掘状況（北より）



写真30 Ⅲ2区南側東壁土層断面（北西より）



写真31 Ⅲ2区南側東壁土層断面（西より）



写真32 Ⅲ3区5b層遺物出土状況（南より）



写真33 Ⅲ3区東壁土層断面（西より）



写真34 Ⅲ4区5b層遺物出土状況俯瞰（南より）



写真35 Ⅲ4区5b層遺物出土状況（南より）



写真36 Ⅲ4区東壁土層断面（西より）



写真37 IV14区北側5b層遺物出土状況（北より）



写真38 IV14区東西ベルト北壁5b層検出時土層断面（北より）



写真39 IV14区南側5b層遺物出土状況（北より）



写真40 IV14区北側7層上部遺物出土状況（東より）



写真41 IV14区北側7層遺物出土状況（東より）



写真42 IV14区7層縄文土器出土状況近影（西より）



写真43 IV14区東西ベルト北壁7層検出時土層断面（北より）



写真44 IV14区南側傾斜部7層遺物出土状況（東より）



写真45 IV14区南西隅傾斜部7層遺物出土状況近影（南より）



写真46 IV14区南側傾斜部7層完掘状況（北東より）



写真47 IV14区先行トレンチ東西ベルト北壁東端10層検出時土層断面（北より）



写真48 IV14区東西ベルト北壁10層検出時土層断面（北西より）





写真49 IV14区10層遺物出土状況（北東より）



写真50 IV14区南側10層縄文土器出土状況近影（北より）



写真51 IV14区完掘状況（東より）



写真52 IV30-2区古代遺構完掘状況（南東より）



写真53 IV30-2区5a層遺物出土状況（西より）



写真54 IV30-2区完掘状況（南東より）



写真55 IV30-2区南西壁土層断面（南東より）



写真56 V1区完掘状況（西より）

図版8 1310調査地点



写真57 V1区5b層出土縄文土器近影(北より)



写真58 V11区古代遺構完掘状況(西より)



写真59 V11区東側先行トレンチ7層遺物出土状況(西より)



写真60 V11区東側先行トレンチ7層縄文土器出土状況近影(北より)



写真61 V11区7層ST01周辺遺物出土状況(北東より)



写真62 V11区ST02配石検出状況(南西より)



写真63 V11区南西側拡張区古代遺構完掘状況(南東より)



写真64 V11区拡張区VI層上面検出状況(北西より)



写真65 V11区ST01土坑掘方確認用ベルト南東壁土層断面（東より）



写真66 V11区ST01人骨検出状況（東より）



写真67 V11区ST01人骨下顎検出状況近影（南より）



写真68 V11区ST02直上北西壁土層断面（南東より）



写真69 V11区ST01人骨およびST02配石墓（南西より）



写真70 V11区北東側拡張区6層上面検出状況（北西より）



写真71 V11区ST02・ST03土坑プラン検出状況（南東より）



写真72 V11区ST02土層確認用ベルト除去前検出状況（東より）



写真73 V11区ST02人骨頭蓋骨検出状況近影（南より）



写真74 V11区ST02検出状況（東より）



写真75 V11区ST02掘方確認用ベルト南東壁南側土層断面 (南東より)



写真76 V11区ST02掘方確認用ベルト南東壁北側土層断面 (南東より)



写真77 V11区ST02人骨取り上げ後状況 (東より)



写真78 V11区拡張部調査終了時状況 (南東より)



写真79 V11区拡張区ST03土坑プラン検出状況 (南東より)



写真80 V11区拡張区ブルーシート養生状況 (南東より)



写真81 V11区南西側7層上面硬化面検出状況 (北西より)



写真82 V11区南西側7層遺物出土状況 (南西より)

図版12 1310調査地点



写真83 V11区南東壁土層断面 (北西より)



写真84 V11区南西端傾斜部検出状況近影 (北東より)



写真85 V11区南西端傾斜部掘削状況 (北東より)



写真86 V11区南西端傾斜部直上南東壁土層断面 (西より)



写真87 V13区古代遺構完掘状況 (東より)



写真88 V13区7層遺物出土状況 (東より)

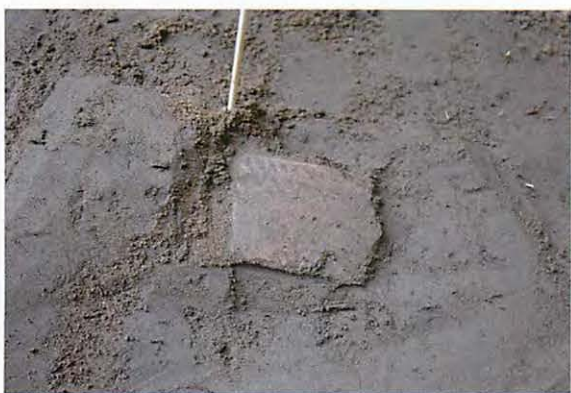


写真89 V13区7層縄文土器出土状況近影 (北より)



写真90 V13区北壁土層断面 (南より)



写真91 V31区北側完掘状況と北東壁土層断面 (南西より)



写真92 V11区ST02三次元計測作業風景 (西より)



写真93 V11区ST02人骨取り上げ作業風景 (北より)



写真94 水ノ江和同先生縄文土器指導風景

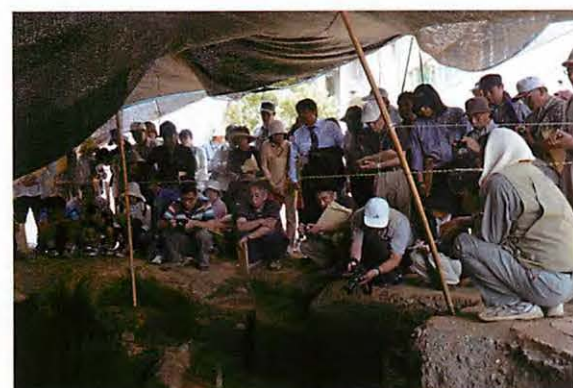


写真95 現地説明会で縄文人骨を見つめる参加者 (東より)



写真96 発掘調査メンバー集合写真1 (東より)



写真97 発掘調査メンバー集合写真2 (東より)



写真98 発掘調査メンバー集合写真3 (東より)

図版14 1310調査地点出土遺物 1

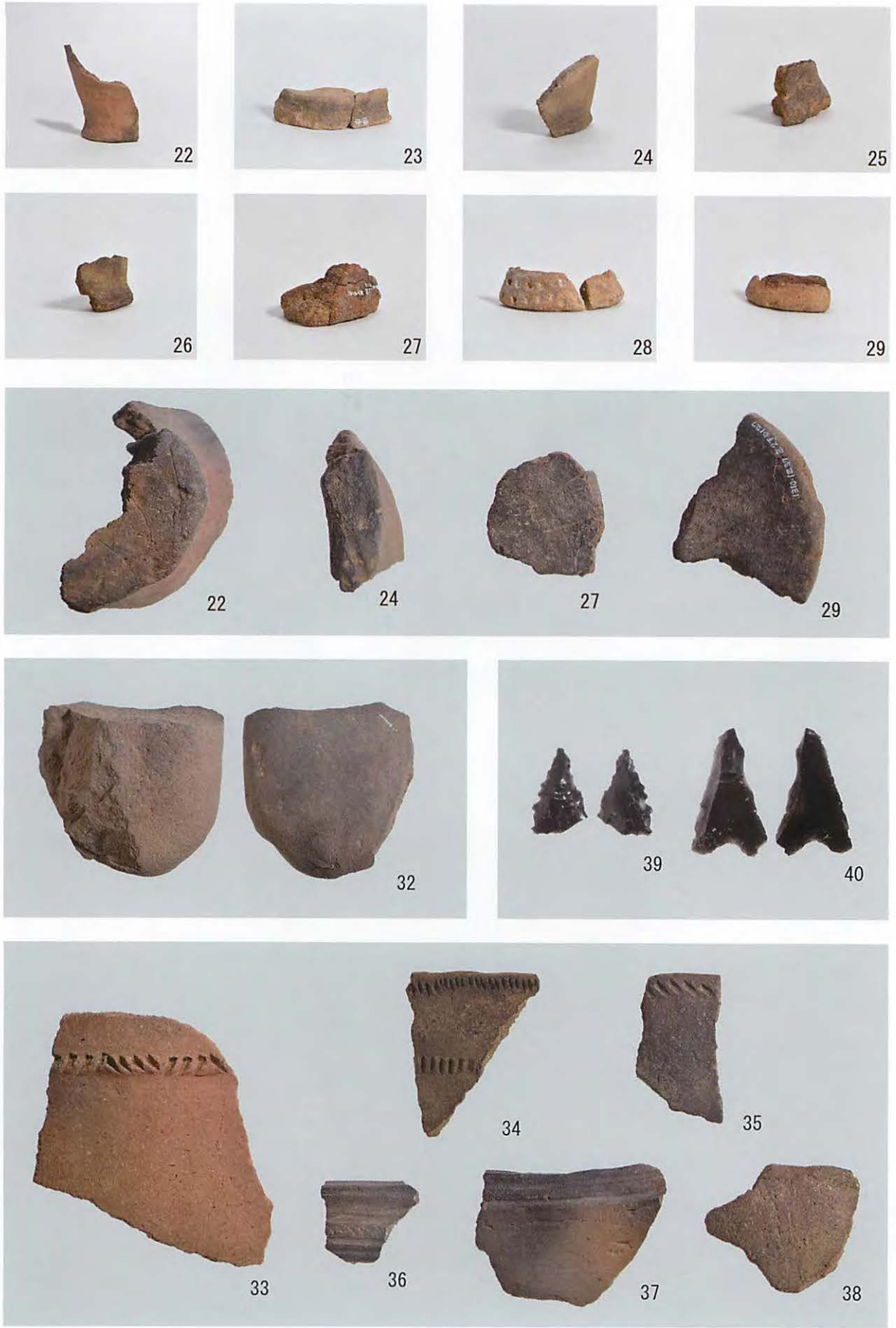


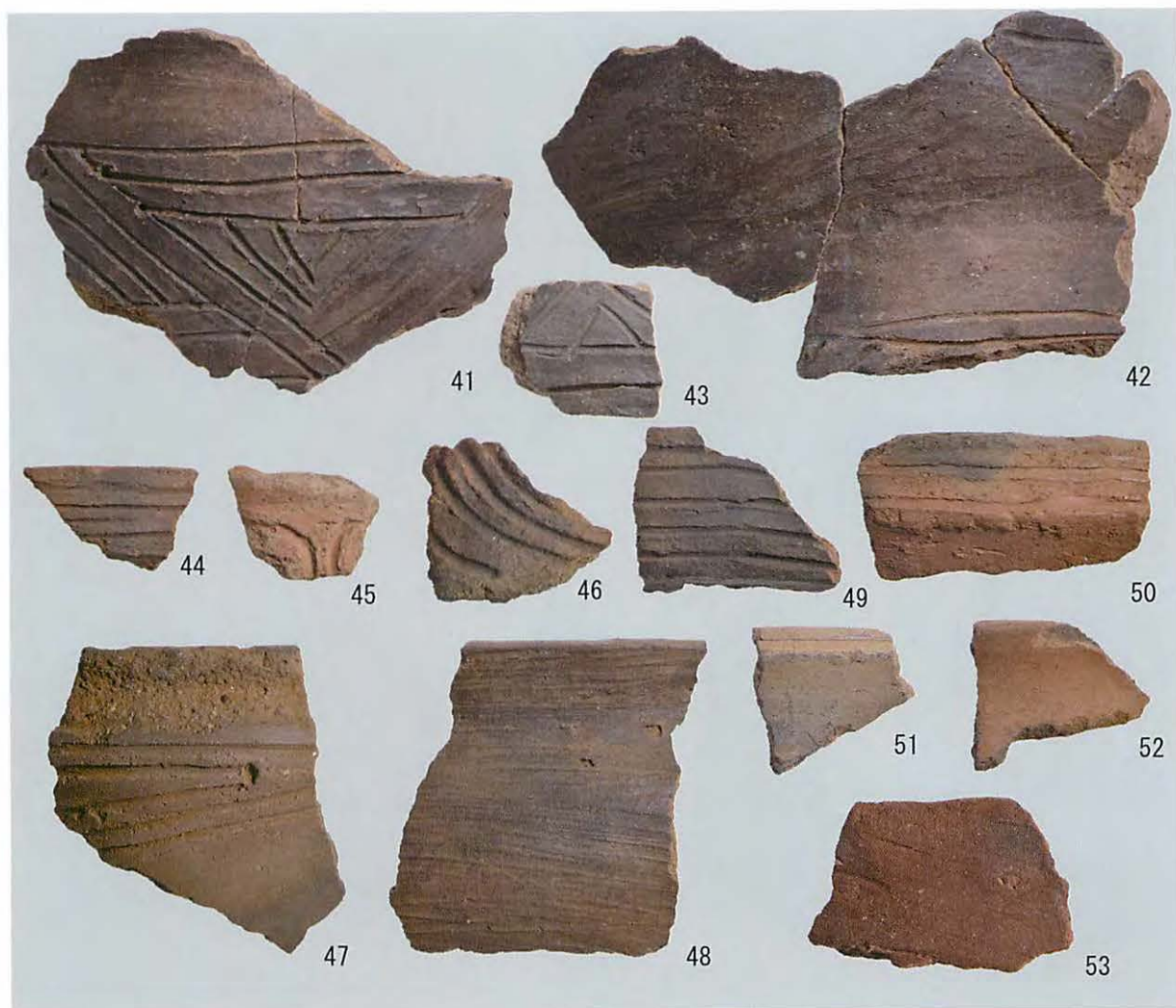




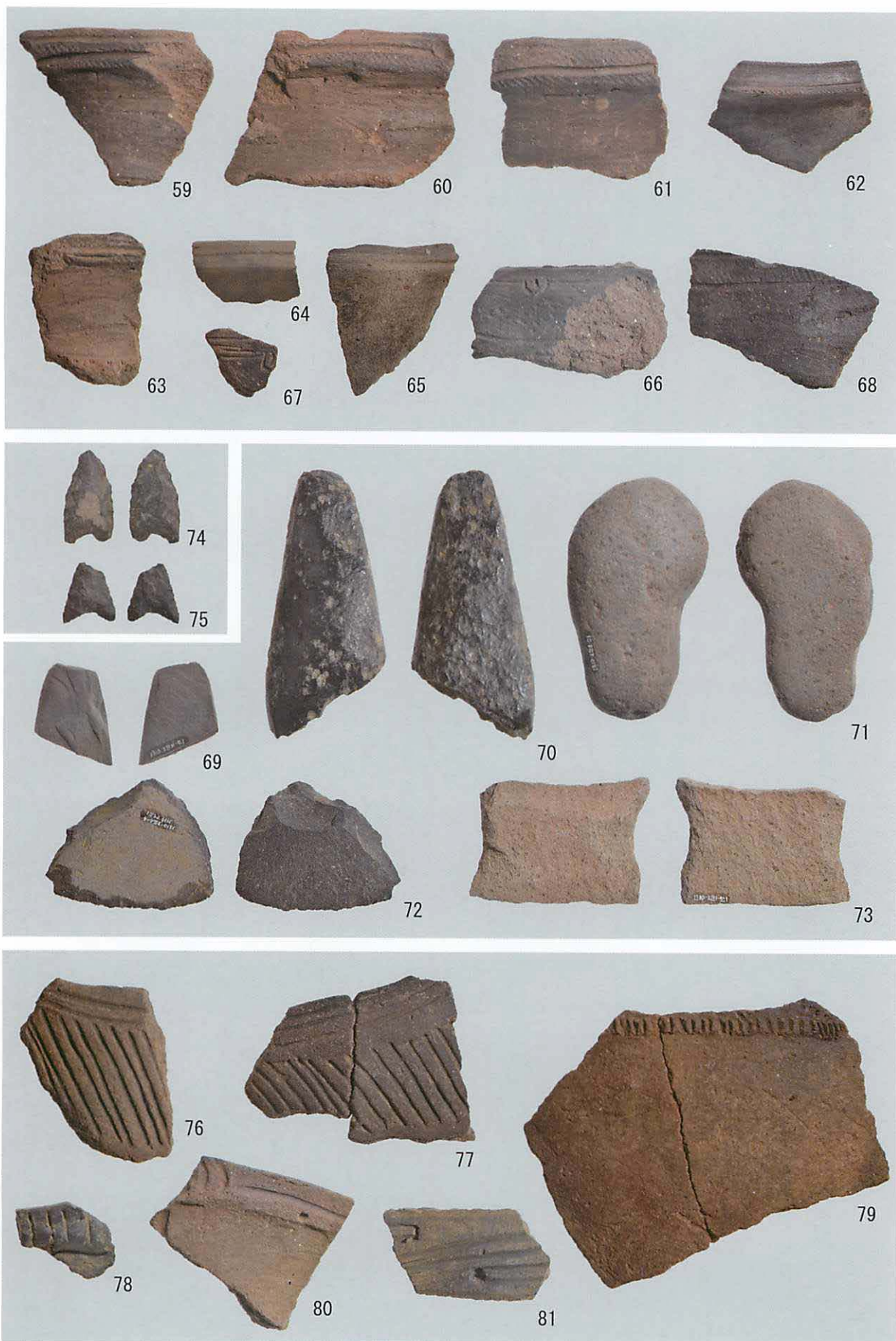
13

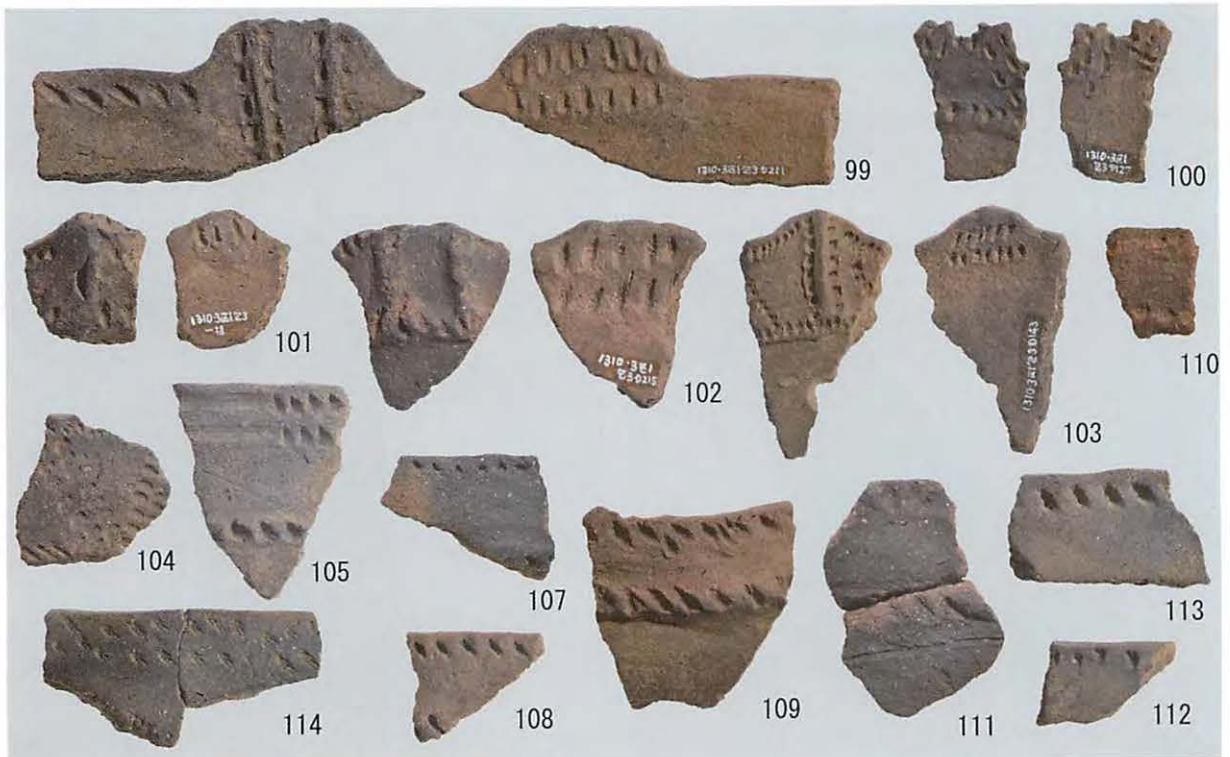
図版16 1310調査地点出土遺物3





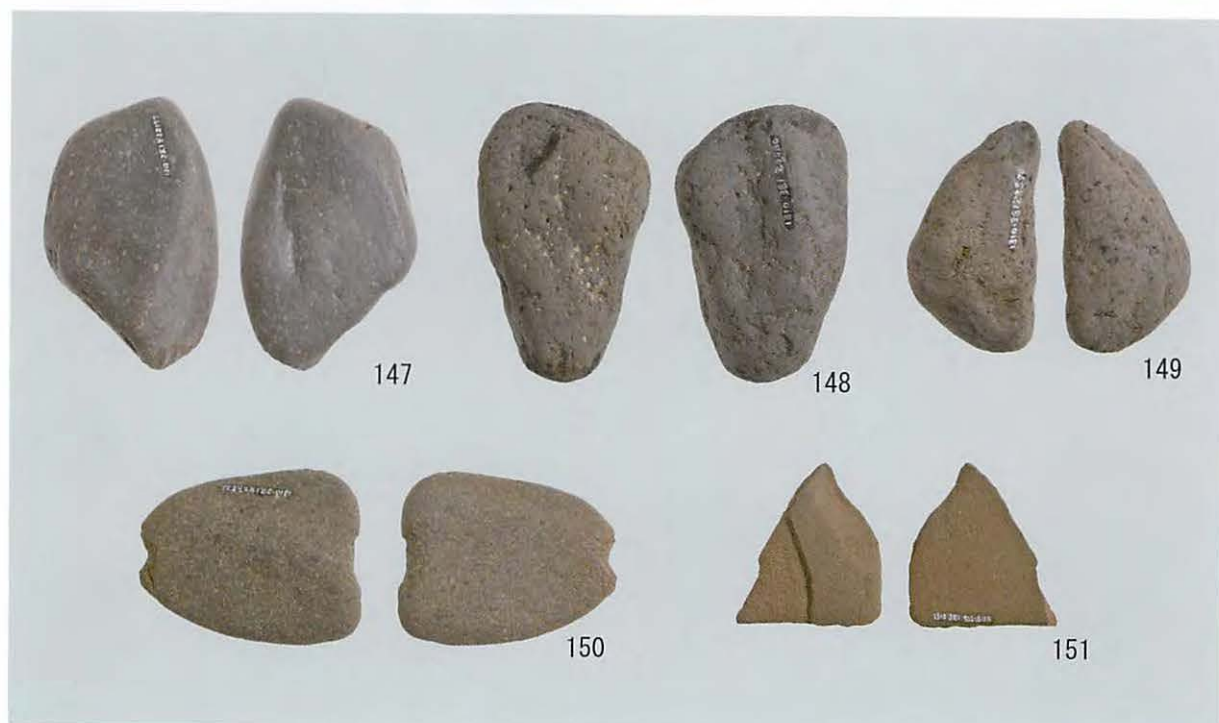
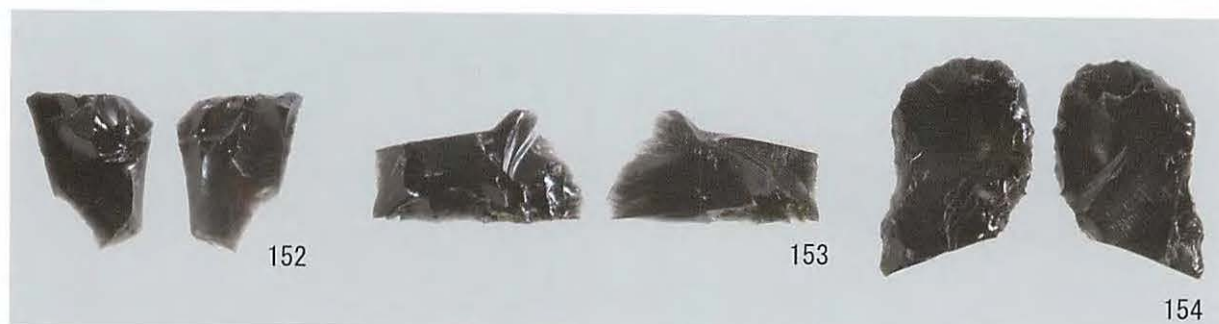
図版18 1310調査地点出土遺物5









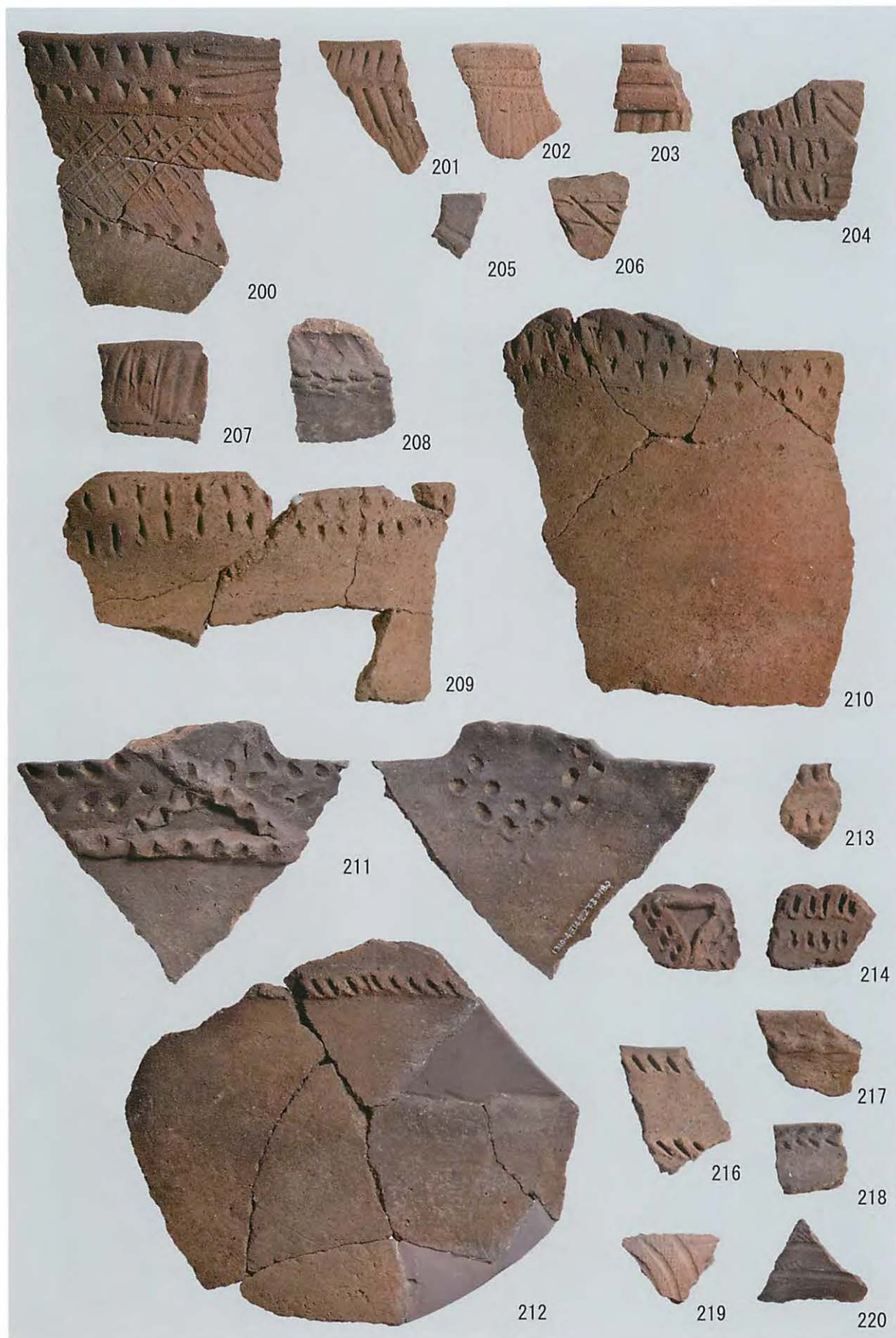






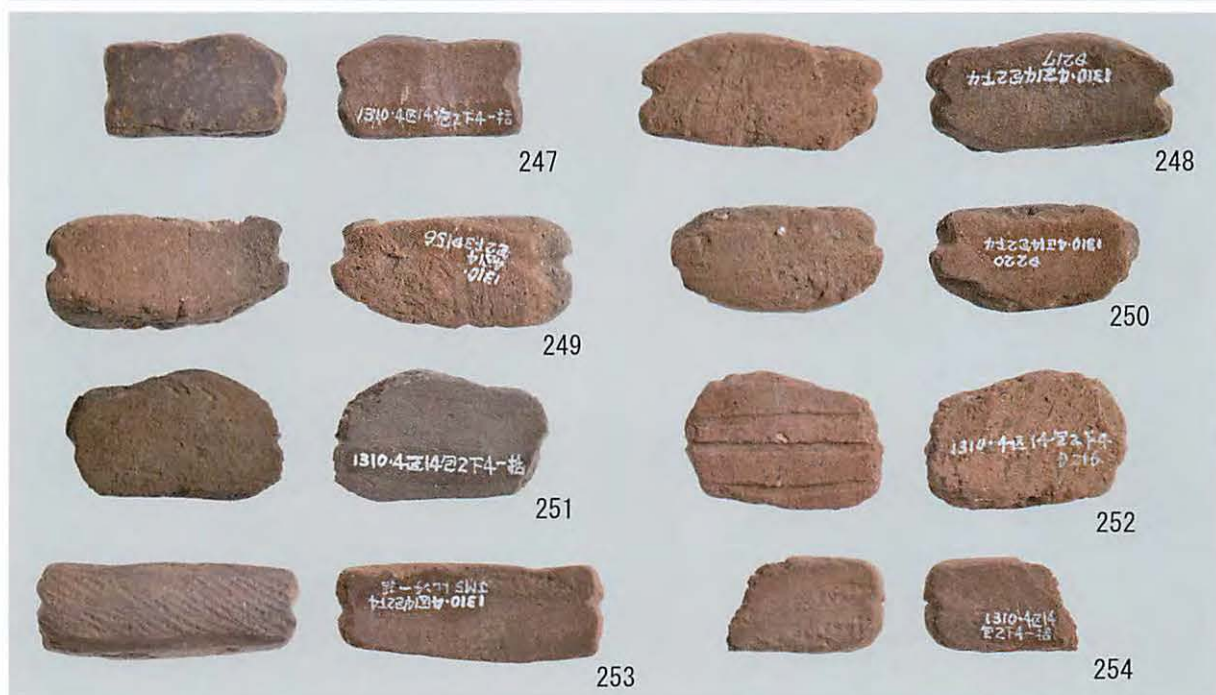
図版24 1310調査地点出土遺物11





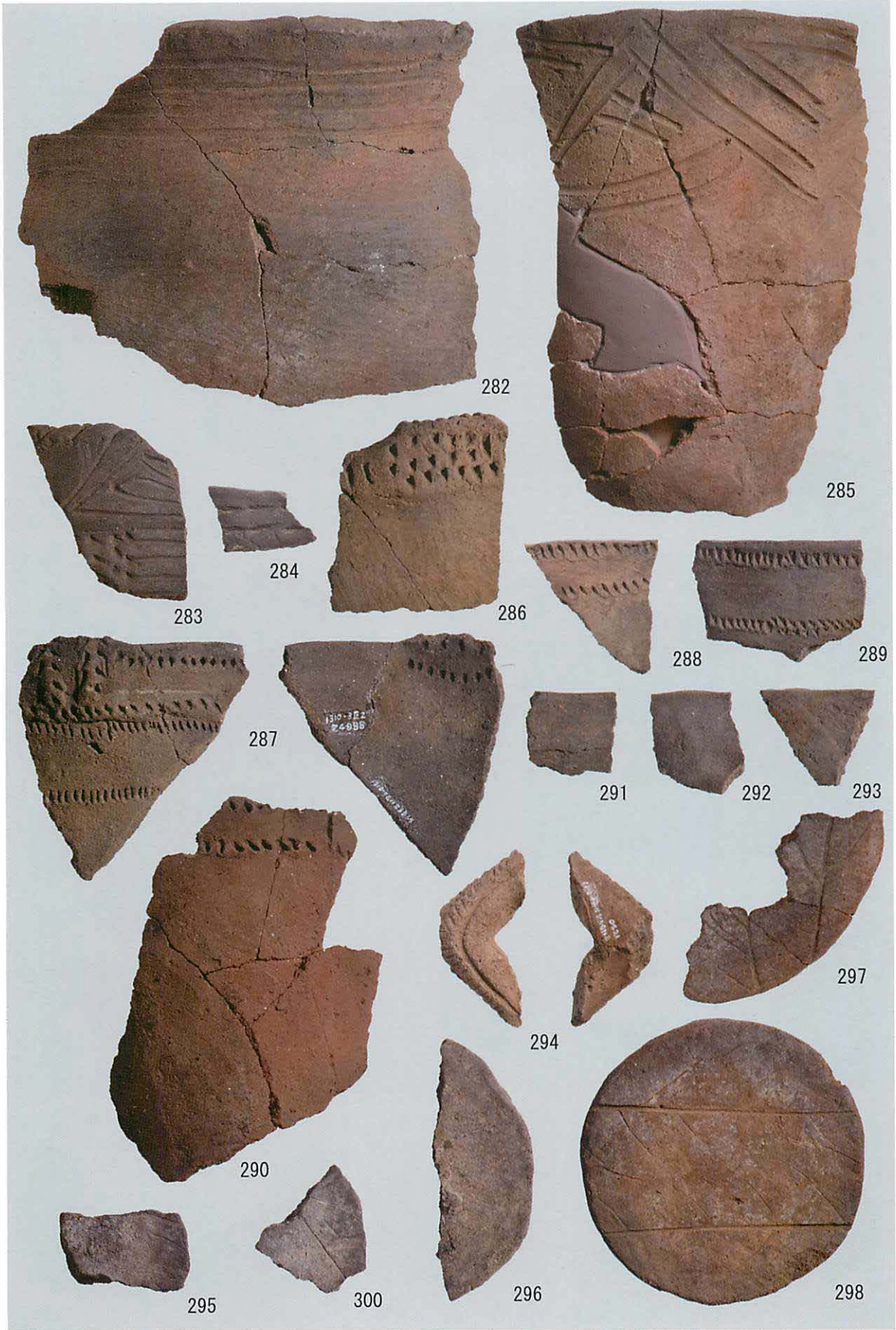
図版26 1310調査地点出土遺物13





図版28 1310調査地点出土遺物15

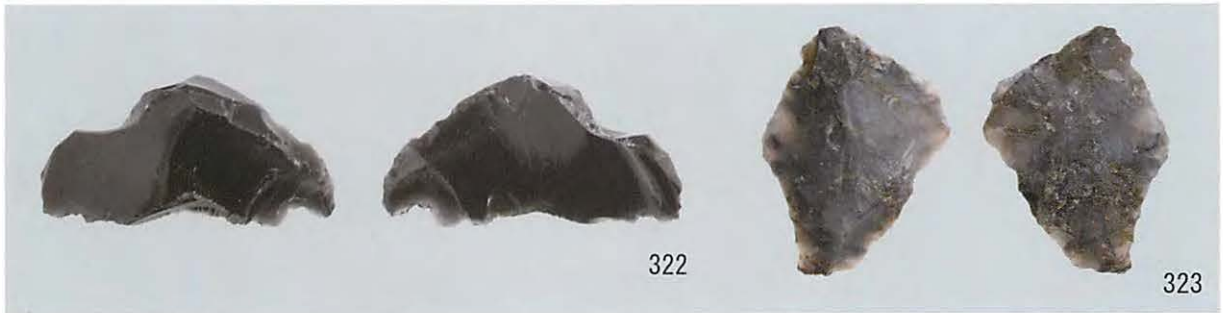


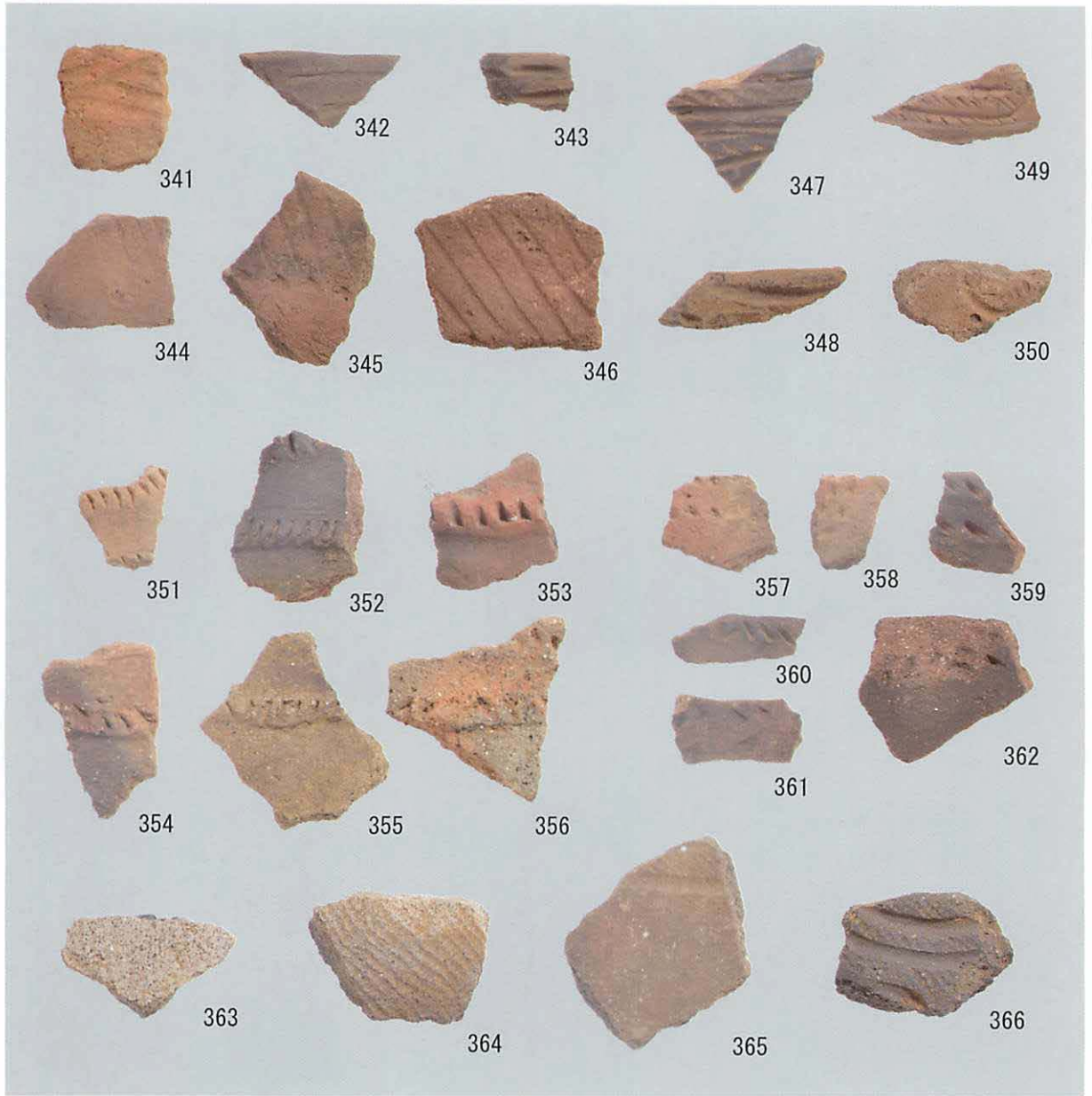


図版30 1310調査地点出土遺物17









報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくこうないいせきはくつちょうさほうこく14							
書名	熊本大学構内遺跡発掘調査報告14							
副書名								
巻次								
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ号	14							
編者名	山野ケン陽次郎							
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 TEL. 096-342-3832 FAX. 096-342-3832							
発行年月日	2019年3月29日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
黒髪町遺跡群 (1310地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43 201	278	32° 48' 43"	130° 43' 36"	20130805 ～ 20150320	5251.7㎡	学校敷地内の開発事業に伴う所収遺跡
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
黒髪町遺跡群 (1310地点)	集落址	縄文	墓・人骨	縄文土器（出水式・御手洗A式古段階ほか）、石鏃、石斧、敲石、台石、凹石、砥石、磨石、土器片、転用錘			縄文時代後期前葉の墓・人骨	

---

---

熊本大学埋蔵文化財調査報告書 第14集  
熊本大学構内遺跡発掘調査報告14  
(2013・2014年度：黒髪南地区1310調査地点)

平成31年3月29日 印刷

平成31年3月29日 発行

編集・発行 熊本大学埋蔵文化財調査センター

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39-1

TEL 096(342)3832 FAX 096(342)3832

印刷 シモダ印刷株式会社

---

---







